

SigmaSystemCenter 3.5

コマンドリファレンス

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- SigmaSystemCenter、 WebSAM、 Netvisor、 InterSecVM、 iStorage、 ESMPRO、 EXPRESSBUILDER、 EXPRESSSCOPE、 CLUSTERPRO、 CLUSTERPRO X、 SIGMABLADE、 および ProgrammableFlow は日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、 Windows、 Windows Server、 Windows Vista、 Internet Explorer、 SQL Server および Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、 Itanium は、Intel 社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apache、 Apache Tomcat、 Tomcat は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
- NetApp, Data ONTAP, FilerView, MultiStore, vFiler, Snapshot および FlexVol は、米国およびその他の国における NetApp, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。
なお、® マーク、TM マークは本書に明記しておりません。

目次

第 1 章 ssc コマンドについて	1
1.1 ssc コマンド	2
1.1.1 ssc コマンドの使用条件と補足	9
1.1.2 ssc コマンドの表記	10
1.1.3 共通オプション	10
1.1.4 ssc コマンドの戻り値	11
1.1.5 Path、および GroupPath 指定について	11
1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン	13
1.1.7 性能情報と Metric ID	17
1.1.8 各仮想基盤のコントローラと位置情報	18
1.1.9 ssc コマンドの注意事項	19
第 2 章 構築用コマンド	20
2.1 ライセンス	21
2.1.1 ライセンスの追加	21
2.1.2 ライセンスの削除	21
2.1.3 ライセンスの表示	22
2.2 ユーザ	22
2.2.1 ユーザアカウントの作成	22
2.2.2 ユーザアカウントの削除	23
2.2.3 ユーザアカウント情報の表示	23
2.2.4 ユーザアカウントのパスワード変更	24
2.2.5 ユーザアカウント/グループの取得	25
2.3 環境設定	26
2.3.1 環境設定の更新	26
2.3.2 起動時収集の設定	28
2.4 サブシステム	29
2.4.1 サブシステムの追加	29
2.5 収集	30
2.5.1 収集	30
2.6 マシン	31
2.6.1 マシンの登録	31
2.6.2 マシン対象外	33
2.6.3 マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加	33
2.6.4 割り当て解除、プールから削除	35

2.6.5	マシンの表示.....	38
2.6.6	マシン情報の更新.....	42
2.6.7	マシンの電源操作.....	44
2.6.8	バックアップ.....	46
2.6.9	リストア.....	46
2.6.10	ハードウェアの登録.....	47
2.6.11	マシンの保守操作.....	48
2.6.12	マシンの構成変更.....	49
2.6.13	マシンの検索.....	50
2.7	マシンアカウント.....	51
2.7.1	アカウントの作成.....	51
2.7.2	アカウントの更新.....	52
2.7.3	アカウントの削除.....	53
2.7.4	アカウントの表示.....	53
2.8	グループ.....	55
2.8.1	グループの作成.....	55
2.8.2	グループ設定情報の編集.....	58
2.8.3	グループの削除.....	63
2.8.4	グループ設定の表示.....	64
2.8.5	マシンプロファイルの設定.....	64
2.8.6	ホストプロファイルの設定.....	70
2.8.7	マシン置換.....	74
2.8.8	スケールイン.....	75
2.8.9	スケールアウト.....	75
2.8.10	指定したグループの階層を DPM に反映.....	76
2.9	ホスト.....	76
2.9.1	ホストの作成.....	76
2.9.2	ホストの編集.....	78
2.9.3	ホストの削除.....	79
2.9.4	ホスト定義の表示.....	80
2.9.5	ホストの依存関係設定の作成.....	81
2.9.6	ホストの依存関係設定の削除.....	81
2.9.7	ホストの依存関係設定の変更.....	81
2.9.8	ホストの依存関係設定の表示.....	82
2.9.9	ホストの依存関係の追加.....	83
2.9.10	ホストの依存関係の削除.....	83
2.9.11	ホストの依存関係の表示.....	83
2.10	IP アドレス.....	84

2.10.1 IP アドレス情報の追加.....	84
2.10.2 IP アドレス情報の削除.....	85
2.11 ソフトウェア.....	86
2.11.1 ソフトウェアの追加	86
2.11.2 ソフトウェアの配信	87
2.11.3 ソフトウェアの削除	90
2.11.4 ソフトウェア情報の表示	91
2.12 ストレージ.....	91
2.12.1 ストレージの追加.....	91
2.12.2 ストレージの削除.....	93
2.12.3 ディスクアレイの編集	94
2.12.4 ディスクアレイのパスを表示	94
2.12.5 ディスクアレイの一覧表示	98
2.12.6 HBA の設定.....	99
2.12.7 HBA の解除.....	99
2.12.8 ディスクボリュームの作成	100
2.12.9 ディスクボリュームの編集	104
2.12.10 ディスクボリュームの削除	106
2.12.11 ディスクボリュームの割当	107
2.12.12 ディスクボリュームの割当解除.....	109
2.12.13 ディスクボリューム情報の表示.....	110
2.12.14 ストレージプールの編集	113
2.12.15 ストレージプール情報の表示	114
2.12.16 RDM 用 Disk の用途、あるいは状態の更新.....	118
2.12.17 RDM 用 Disk の一覧表示.....	120
2.12.18 ストレージトポロジ情報の表示.....	120
2.13 ネットワーク	122
2.13.1 VLAN の新規作成.....	122
2.13.2 VLAN の削除	123
2.13.3 VLAN 情報の表示.....	123
2.13.4 ポートグループの作成	123
2.13.5 ポートグループの編集	125
2.13.6 ポートグループの削除	126
2.13.7 ポートグループ一覧の表示	127
2.13.8 プライベート VLAN の作成	129
2.13.9 プライベート VLAN の編集	129
2.13.10 プライベート VLAN の削除	130
2.13.11 VXLAN 一覧の表示	130

2.13.12 VTN 一覧の表示.....	131
2.13.13 ファイアウォールプロファイルの作成	131
2.13.14 ファイアウォールプロファイルの削除	132
2.13.15 ファイアウォールプロファイルの表示	132
2.13.16 フィルタリングルールの追加	132
2.13.17 ネットワーク定義の作成	133
2.13.18 ネットワーク定義の適用	134
2.13.19 ネットワーク定義の削除	134
2.13.20 ネットワーク定義の表示	135
2.13.21 VLAN (ポートグループ) 定義の追加.....	135
2.13.22 VLAN (ポートグループ) 定義の削除.....	136
2.13.23 アドレスプールの追加	136
2.13.24 アドレスプールの削除	137
2.13.25 ファイアウォール設定の追加	138
2.13.26 ファイアウォール設定の削除	139
2.13.27 仮想ブリッジの追加	139
2.13.28 仮想ブリッジの削除	140
2.13.29 仮想ルータの追加	140
2.13.30 仮想ルータの削除	141
2.13.31 仮想ルータインターフェースの追加	141
2.13.32 仮想ルータインターフェースの削除	142
2.13.33 静的ルーティングの追加	142
2.13.34 静的ルーティングの削除	143
2.13.35 ネットワーク設定の追加	143
2.13.36 ネットワーク設定の削除	144
2.13.37 仮想ネットワークリソースの削除.....	144
2.14 ロードバランサ.....	145
2.14.1 ロードバランサの追加	145
2.14.2 ロードバランサの削除	145
2.14.3 ロードバランサ情報の表示	146
2.14.4 ロードバランサグループの追加.....	146
2.14.5 ロードバランサグループの削除.....	148
2.15 論理マシン	149
2.15.1 指定マシンの論理化	149
2.15.2 論理マシンの解体・削除	149
2.15.3 論理マシンの表示	150
2.15.4 論理マシンアカウント作成	153
2.15.5 論理マシンアカウント更新	153

2.15.6	論理マシンアカウント削除	154
2.15.7	論理マシンアカウント情報表示.....	155
2.15.8	論理マシンプロファイル作成	156
2.15.9	論理マシンプロファイル更新	156
2.15.10	論理マシンプロファイル削除	157
2.16	スマートグループ	158
2.16.1	スマートグループの作成	158
2.16.2	スマートグループの削除	165
2.16.3	スマートグループ設定情報の表示.....	165
2.16.4	スマートグループのエクスポート	166
2.16.5	スマートグループのインポート	167
2.17	プロファイル	168
2.17.1	性能監視プロファイルの作成	168
2.17.2	性能監視プロファイルの更新	169
2.17.3	性能監視プロファイルの削除	171
2.17.4	性能監視プロファイルの表示	171
2.17.5	性能監視プロファイルのグループへの設定	174
2.17.6	名前付きホストプロファイルの作成	175
2.17.7	名前付きマシンプロファイルの作成	179
2.17.8	マシンプロファイルの内容表示.....	184
2.17.9	性能監視プロファイルのエクスポート	189
2.17.10	性能監視プロファイルのインポート	189
2.18	API キー	190
2.18.1	API キーの作成	190
2.18.2	API キーの更新	191
2.18.3	API キーの削除	191
2.18.4	API キーの表示	191
2.19	カスタム設定	192
2.19.1	カスタム設定の作成	192
2.19.2	カスタム設定の削除	193
2.19.3	カスタム設定の表示	195
2.20	CIM Indication 設定	196
2.20.1	CIM Indication 受信設定の登録.....	196
2.20.2	CIM Indication 受信設定の解除.....	196
2.21	カスタムオブジェクト	197
2.21.1	カスタムオブジェクトの追加	197
2.21.2	カスタムオブジェクトの編集	197

2.21.3 カスタムオブジェクトの削除	198
2.21.4 カスタムオブジェクト情報の表示	198
2.21.5 関連の追加	199
2.21.6 関連の削除	200
第3章 仮想環境の構成制御コマンド	202
3.1 データセンターの操作	203
3.1.1 データセンターの追加	203
3.2 仮想マシンサーバの操作	203
3.2.1 仮想マシンサーバの追加	203
3.2.2 仮想マシンサーバの編集	204
3.2.3 仮想マシンサーバの削除	204
3.2.4 仮想マシンサーバのパスワード変更	205
3.2.5 仮想マシンサーバの復旧の後処理	206
3.2.6 マシン退避	206
3.3 仮想マシンの操作	208
3.3.1 仮想マシンの作成	208
3.3.2 仮想マシン(OS なし)の作成	210
3.3.3 仮想マシンの構成変更	215
3.3.4 仮想マシンの削除	221
3.3.5 仮想マシンのクローン	223
3.3.6 仮想マシンの移動 (Migrate)	224
3.3.7 仮想マシンの移動 (Move)	225
3.3.8 マシン退避 (ホスト指定)	225
3.3.9 仮想マシンのエクスポート	227
3.3.10 仮想マシンのインポート	227
3.3.11 テンプレートの作成	228
3.3.12 テンプレートの更新	231
3.3.13 テンプレートの削除	233
3.3.14 テンプレートのエクスポート	234
3.3.15 テンプレートのインポート	234
3.3.16 イメージの作成	235
3.3.17 イメージの更新	236
3.3.18 イメージの削除	236
3.3.19 イメージの表示	237
3.3.20 スナップショットの作成	237
3.3.21 スナップショットの編集	238
3.3.22 スナップショットの削除	239

3.3.23	スナップショットの復元	239
3.3.24	スナップショットの表示	240
3.3.25	再構成	240
3.3.26	CD/DVD ドライブとマウント可能な ISO イメージ一覧表示	241
3.3.27	ISO イメージのマウント	241
3.3.28	ISO イメージのアンマウント	242
3.4	配置制約	242
3.4.1	配置制約の設定	242
3.4.2	配置制約の削除	244
3.4.3	配置制約の有効化	245
3.4.4	配置制約の無効化	245
3.4.5	配置制約に従った配置	246
3.4.6	配置制約の表示	246
3.4.7	配置制約設定の妥当性確認	248
3.4.8	制約グループの作成	248
3.4.9	制約グループの削除	249
3.4.10	制約グループへのメンバ追加	249
3.4.11	制約グループからのメンバ削除	250
3.4.12	制約グループ設定の表示	250
3.5	データストア	251
3.5.1	データストアの表示	251
3.5.2	データストアの作成	255
3.5.3	データストアの削除	256
3.5.4	仮想マシンサーバ接続データストア情報の更新	257
3.5.5	データストア設定情報を更新	257
3.5.6	仮想マシン作成先データストアの設定	258
3.5.7	データストア配下のファイル/サブフォルダの表示	259
3.5.8	データストアのマウント	259
3.5.9	データストアのアンマウント	259
3.6	リソースプール	260
3.6.1	リソースプールの作成/切り出し	260
3.6.2	リソースプールの表示	261
3.6.3	リソースプールの削除	263
3.6.4	リソースプール監視設定の設定	263
3.6.5	リソースプール監視設定の表示	265
3.7	配置情報	266
3.7.1	配置情報の設定	266
3.7.2	配置情報の削除	267

3.7.3 配置情報の表示	267
3.7.4 配置情報の適用	268
3.8 サービス	269
3.8.1 サービス設定の表示	269
3.8.2 サービス設定の更新	270
第4章 保守コマンド	271
4.1 運用ログ	272
4.1.1 運用ログの表示	272
4.2 ポリシー	273
4.2.1 ポリシーをエクスポートする	273
4.2.2 ポリシーをインポートする	274
4.3 メンテナンス	274
4.3.1 構成情報のメンテナンス	274
4.3.2 配布履歴の削除	279
4.3.3 マシンステータスの更新	279
4.3.4 デバイスステータスの更新	281
4.3.5 DPM 上の情報を削除	281
4.3.6 データの符号化	282
4.4 マシン操作履歴	283
4.4.1 マシン操作履歴の詳細情報出力	283
4.4.2 マシン操作履歴の削除	284
4.4.3 マシン操作履歴の運用設定を設定	284
4.5 SSC 設定情報バックアップ/リストア	285
4.5.1 SSC 設定情報バックアップ	285
4.5.2 SSC 設定情報リストア	286
4.6 レポート出力	288
4.6.1 レポートファイルを生成	288
索引	289

第 1 章

ssc コマンドについて

本章では、ssc コマンドの概要について説明します。

目次

1.1 ssc コマンド	2
--------------------	---

1.1 ssc コマンド

ssc コマンドラインツールを使用すると、従来、Web コンソールから個々に行う必要があった、グループ・ホストの作成や各種設定を BAT ファイルからコマンドを実行することにより、一括で行うことができます。これにより、大規模環境における構成時の作業負担を軽減することができます。

また、仮想環境での構成制御の設定など、ssc コマンドラインでのみサポートしている機能もあります。

旧コマンドラインツールである pvmutil コマンドは、今後の機能強化は予定されておりません。ssc コマンドをご使用いただく様をお願いします。

ssc コマンドでは、以下の機能が実行できます。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
create (作成)	user	ユーザアカウントを作成します。
	group	グループを作成します。
	host	グループにホストを作成します。
	machine	仮想マシンを作成します。
	template	テンプレートを作成します。
	diskvolume	ディスクボリュームを作成します。
	datastore※	データストアを作成します。
	smartgroup	スマートグループを作成します。
	object	カスタムオブジェクトを作成します。
	report	レポートファイルを生成します。
add (追加)	license	ライセンスを追加します。
	manager	サブシステムを追加します。
	ipaddress	グループのホストに IP アドレス (ネットワーク) を追加します。
	software	グループ (グループ / モデル)、またはホストのソフトウェア配布ポイントにソフトウェアを追加します。
	storage	グループのホストにディスクアレイのディスクボリュームを追加します。
	lb	グループにロードバランサを追加します。
	vmserver	データセンターに仮想マシンサーバを追加します。
update (更新)	environment	環境設定を行います。
	group	グループの設定内容を編集、または更新します。
	host	ホストの設定内容を編集、または更新します。
	vmproperty	仮想マシンの CPU 数、メモリサイズなど構成変更を行います。
	machine	指定したマシンの情報を更新します。
	datastore	データストア設定情報を更新します。
	diskvolume	ディスクボリュームを編集します。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
	storagepool	ストレージプールを編集します。
	vmserver	仮想マシンサーバのキャパシティ値を編集します。
	osservice	サービスの情報を編集します。
	diskarray	ディスクアレイを編集します。
	object※	カスタムオブジェクトを編集します。
delete (削除)	license	ライセンスを削除します。
	user	ユーザアカウントを削除します。
	vmserver	Datacenter から仮想マシンサーバを削除します。
	history	ソフトウェアの配布履歴を削除します。
	diskvolume	ディスクボリュームを削除します。
	template	テンプレートを削除します。
	machine	仮想マシンを削除します。
	datastore	データストアを削除します。
	smartgroup	スマートグループを削除します。
	group	テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを削除します。
	host	グループのホスト定義を削除します。
	storage	グループ、モデル、ホストのストレージ設定を削除します。
	ipaddress	ホストの IP アドレス設定を削除します。
	lb	グループのロードバランサ設定を削除します。
	software	グループ、モデル、ホストのソフトウェア設定を削除します。
	object	カスタムオブジェクトを削除します。
collect (収集)	—	指定した対象の情報を収集します。
register (登録)	machine	リソースグループ、もしくはラックにマシンを登録します。
	hardware	ハードウェアを管理対象にします。
unregister (対象外)	machine	リソースグループ、もしくはラックからマシンを対象外にします。
assign (マシンの割り当て)	machine	リソース割り当て、マスタマシン登録、もしくはプールに追加を行います。
	diskvolume	マシンにディスクボリュームを割り当てます。
set (関連付け)	hba	HBA をディスクアレイに関連付けます。
	profile	マシンプロファイルを設定します。
	hostprofile	ホストプロファイルを設定します。
	datastore-setting	仮想マシン作成先データストアの設定をします。
release (割り当て解除、プールから解除、関連解除)	machine	マシンの割り当て解除、プールから削除を行います。
	hba	HBA をディスクアレイから関連解除します。
	diskvolume	マシンからディスクボリュームを割当解除します。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
change-passwd (パスワード変更)	—	ユーザアカウントのパスワード、または仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更します。
migrate (仮想マシンの移動)	machine	仮想マシンを移動 (migrate) します。
move (仮想マシンの移動)	machine	仮想マシンを移動 (move) します。
vmop (配置制約)	set-rule	仮想マシンの配置制約を設定します。
	delete-rule	仮想マシンの配置制約を削除します。
	enable-rule	仮想マシンの配置制約設定を有効にします。
	disable-rule	仮想マシンの配置制約設定を無効にします。
	apply-rule	仮想マシンを配置制約に従って配置します。
	show-rule	仮想マシンの配置制約設定を表示します。
	verify-rule	仮想マシンの配置制約設定が正しいか確認します。
	create-group	制約グループを作成します。
	delete-group	制約グループを削除します。
	add-member	制約グループにメンバを追加します。
	remove-member	制約グループからメンバを削除します。
	show-group	制約グループの設定を表示します。
	set-position	仮想マシンの配置情報を設定します。
	delete-position	仮想マシンの配置情報設定を削除します。
	show-position	仮想マシンの配置情報設定を表示します。
	apply-position	仮想マシンを配置情報に従って配置します。
recover (復旧)	machine	仮想マシンサーバ復旧処理 (Failover) 実行後の後処理を行います。
evacuate (退避)	machine	仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバへ退避させます。
	host	仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバへ退避させます。(ホスト指定)
machine-account (作成、更新、削除、表示)	create	マシンアカウントを作成します。
	update※	マシンアカウントを更新します。
	delete	マシンアカウントを削除します。
	show	マシンアカウント情報を表示します。
export (エクスポート)	policy	ポリシー情報を XML ファイルに出力します。
	smartgroup	スマートグループを XML ファイルへエクスポートします。
	template	テンプレートをエクスポートします。
	vm	仮想マシンをエクスポートします。
import (インポート)	policy	XML ファイルからポリシー情報を取り込みます。
	smartgroup	スマートグループを XML ファイルからインポートします。
	template	テンプレートをインポートします。
	vm	仮想マシンをインポートします。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
maintenance (保守)	cmdb	構成情報データベースのメンテナンスを行います。
	machine	マシンに対して保守操作を行います。
startup-collect-mode (システム設定)	—	PVM サービス起動時の収集のオン / オフを指定します。
show (表示)	license	ライセンスを表示します。
	user	ユーザアカウント情報を表示します。
	group	グループの設定内容を表示します。
	host	ホストの設定内容を表示します。
	machine※	システムリソースのマシンを一覧表示します。
	log	運用ログを表示します。
	diskarraypath	ディスクアレイのパスを表示します。
	datastore	データストア一覧を表示します。
	diskvolume	ディスクボリューム情報を表示します。
	storagepool	ストレージプール情報を表示します。
	smartgroup	スマートグループ設定情報を表示します。
	storagetopology	ストレージトポロジ情報を表示します。
	diskarray※	ディスクアレイを一覧表示します。
	software	ソフトウェア情報を表示します。
	lb	ロードバランサ情報を表示します。
	vlan	物理スイッチに作成されている VLAN の情報を表示します。
	osservice	サービスの情報を表示します。
	object	カスタムオブジェクトを表示します。
reconfigure (再構成)	machine	仮想マシンの再構成を行います。
set-machine-status (マシンステータス更新)	—	指定したマシンのステータスを更新します。
deploy (配信)	software	指定マシンに対してソフトウェア配信を行います。
replace (置換)	machine	指定したマシンを置換します。
power-control (電源操作系)	machine	グループで稼働中のホスト、あるいは管理中マシンに対して、電源操作を行います。
clone (クローン)	machine	仮想マシンのクローンを行います。
scan (スキャン)	datastore	仮想マシンサーバに接続されているデータストア情報を更新します。
resourcepool (作成、表示、削除)	create	リソースプールを作成します。
	show	リソースプール情報を表示します。
	delete	リソースプールを削除します。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
	set-monitor-setting※	リソースプール監視設定を設定します。
	show-monitor-setting※	リソースプール監視設定を表示します。
network (作成、追加)	create	ネットワークの作成をします。
	add-vlan	ネットワークに VLAN (ポートグループ) 定義を追加します。
	add-addresspool	ネットワークにアドレスプールを追加します。
	add-virtualbridge	ネットワークに仮想ブリッジを追加します。
	apply	ネットワークの設定を適用します。
	delete	ネットワークを削除します。
	delete-addresspool	ネットワークからアドレスプールを削除します。
	delete-virtualbridge	ネットワークから仮想ブリッジを削除します。
	delete-vlan	ネットワークから VLAN (ポートグループ) 定義を削除します。
	show	ネットワークの情報を表示します。
	add-firewallsetting	ネットワークにファイアウォール設定を追加します。
	delete-firewallsetting	ネットワークからファイアウォール設定を削除します。
	add-router	ネットワークにルーター定義を追加します。
	delete-router	ネットワークのルーター定義を削除します。
	add-router-if	ネットワークのルーター定義にインターフェースを追加します。
	delete-router-if	ネットワークのルーター定義からインターフェースを削除します。
	add-router-rt	ネットワークのルーター定義に静的ルーティングを追加します。
	delete-router-rt	ネットワークのルーター定義から静的ルーティングを削除します。
changehistory (表示、削除、設定)	show	マシン操作履歴の詳細情報を出力します。
	delete	マシン操作履歴を削除します。
	set	マシン操作履歴の運用設定を設定します。
scalein (スケールイン)	—	スケールインを行います。
scaleout (スケールアウト)	—	スケールアウトを行います。
group (ネットワーク設定)	set-network	ネットワーク設定を追加します。(旧 add vlan)
	delete-network	ネットワーク設定を削除します。
logicalmachine (論理化、解除、表示等)	assign	指定マシンを論理化します。
	release	指定マシンの論理化を解除します。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
	show	論理マシン情報を表示します。
	create-account	ホストに論理マシンアカウントを作成します。
	update-account	ホストの論理マシンアカウントを更新します。
	delete-account	ホストの論理マシンアカウントを削除します。
	show-account	ホストの論理マシンアカウント情報を表示します。
	create-profile	ホストに論理マシンプロファイルを作成します。
	update-profile	論理マシンプロファイルを更新します。
	delete-profile	論理マシンプロファイルを削除します。
machine	backup	バックアップを実行します。
	restore	リストアを実行します。
	chcfg	構成変更を実行します。
dpminformation	delete	DPM 上の情報を削除します。
dpm-location	notify	指定したグループの階層を DPM に反映します。
hostprofile	create	名前付きホストプロファイルを作成します。
profile	create	名前付きマシンプロファイルを作成します。
	show	マシンプロファイルの内容を表示します。
rdmstorage	show	RDM 用 Disk の一覧表示します。
	update	RDM 用 Disk の用途、あるいは状態を更新します。
portgroup	create	指定スイッチ (NetworkDevice) 上にポートグループを作成します。
	delete	指定スイッチ (NetworkDevice) 上のポートグループを削除します。
	show	ポートグループ一覧を表示します。
	update	指定スイッチ (NetworkDevice) 上のポートグループを編集します。
privatevlan	create	対象分散スイッチにプライベート VLAN を作成します。
	delete	対象分散スイッチのプライベート VLAN を削除します。
	update	対象分散スイッチのプライベート VLAN を編集します。
vlan	create	物理スイッチに VLAN を新規作成します。
	delete	物理スイッチの VLAN を削除します。
image	add	イメージを作成します。(旧 add image)
	delete	イメージを削除します。
	update	イメージを更新します。
	show	イメージ情報を表示します。(旧 show image)
snapshot	create	スナップショットを作成します。(旧 create snapshot)
	update	スナップショットを編集します。
	delete	スナップショットを削除します。
	revert	スナップショットを復元します。
	show	スナップショットを表示します。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
monitoringprofile	create※	性能監視プロファイルを作成します。
	update	性能監視プロファイルの設定内容を更新します。
	delete	性能監視プロファイルを削除します。
	set	性能監視プロファイルをグループ (グループ / モデル) に関連付けます。
	show	性能監視プロファイルの設定内容を表示します。
	export※	性能監視プロファイルのエクスポートを行います。
	import※	性能監視プロファイルのインポートを行います。
template	update	テンプレートの更新を行います。
apikey	create	API key を作成します。
	update	API key を更新します。
	delete	API key を削除します。
	show	API key を表示します。
dependency	add	ホストの依存関係を追加します。(旧 dependency set)
	delete	ホストの依存関係を削除します。
	show	ホストの依存関係を表示します。
	create-setting	ホストの依存関係設定を作成します。
	delete-setting	ホストの依存関係設定を削除します。
	update-setting	ホストの依存関係設定を変更します。
	show-setting	ホストの依存関係設定を表示します。
datastorefile	show	指定フォルダ配下のファイル / サブフォルダを表示します。
vm	create	仮想マシン (OS なし) の作成を行います。
iso	mount	仮想マシンに ISO イメージをマウントします。
	unmount	仮想マシンから ISO イメージをアンマウントします。
	show	仮想マシンにある CD/DVD ドライブとマウント可能な ISO イメージ一覧を表示します。
config-export	—	SSC 設定ファイルをエクスポート (バックアップ) します。
config-import	—	SSC 設定ファイルをインポート (リストア) します。
firewallprofile	create	ファイアウォールプロファイルを作成します。
	delete	ファイアウォールプロファイルを削除します。
	add	ファイアウォールプロファイルにフィルタリングルールを追加します。
	show	ファイアウォールプロファイルの一覧、または内容を表示します。
sync	ldapuser	LDAP サーバ上のユーザアカウント/グループを取得します。
customproperty	show	カスタム設定情報を表示します。
	add	カスタム設定情報を作成します。
	delete	カスタム設定情報を削除します。
mount	datastore	データストアをマウントします。
unmount	datastore	データストアをアンマウントします。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
vxlan	show	VXLAN の一覧を表示します。
vtn	show	VTN 情報を表示します。
indication	register	CIM Indication を受信するための設定を行います。
	unregister	CIM Indication の受信設定を解除します。
encrypt-string	—	指定データを符号化します。
search	machine	マシンの検索を行います。
datacenter	add	仮想マネージャにデータセンターを追加します。
set-object-status※	—	カスタムオブジェクト、ネットワークデバイス（物理スイッチ、ロードバランサ）、ストレージデバイス（ディスクアレイ、ディスクボリューム）のステータスを変更します。
add-relate	object	カスタムオブジェクトと対象のリソースの間に関連を追加します。
delete-relate	object	カスタムオブジェクトと対象のリソースの間に関連を削除します。
lbgroup	create	ロードバランサ、ソフトウェア・ロードバランサにロードバランサグループを新規作成します。
	delete	ロードバランサ、ソフトウェア・ロードバランサのロードバランサグループを削除します。
virtualnetwork	delete※	仮想ネットワークリソースを削除します。

※は SSC3.5 update1 で新規コマンドの追加、既存コマンドの機能強化を行いました。

1.1.1 ssc コマンドの使用条件と補足

ssc コマンドを使用するには、以下の条件を満たしている必要があります。

- ssc コマンドは、管理サーバ上で実行してください。

Administrator 権限を持つユーザで実行できます。

注: ユーザーアカウント制御 (UAC: User Account Control) が有効な場合、管理者モードにて実行する必要があります(例えば、コマンドプロンプトを [コマンドプロンプトのショートカット] を右クリックし、"管理者として実行" にて開き、ssc コマンドを起動するなど)。

- データベースのバックアップについて

ssc コマンドでは、ホストの一括設定などを行うことができますが、例えば、事前検証なしで BAT コマンドにより自動実行された場合など、コマンド指定が間違っていた場合、意図していない設定が行われる可能性があります。

コマンド実行前の状態に復旧できるよう、事前にデータベースのバックアップを採取してください。

関連情報: バックアップ方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「10. バックアップ・リストア」を参照してください。

1.1.2 ssc コマンドの表記

以降の ssc コマンドの機能説明では、以下の表記を使用します。

- `[]` はオプションを示します。
- `|` はどちらか選択することを示します。
- `<>` は、指定必須のオプションです。
- `()` は、省略形を示します。

例) `"-error (-e)"` の場合、`-e` は `-error` の省略形

1.1.3 共通オプション

各 ssc コマンドに共通して使用できるオプションです。

コマンドラインから ssc を起動する際、引数を省略すると全コマンドリストを表示します。

[構文]

`ssc [option1] [option2] command [subcommand...]`

`[parameter...] [cmd option [option parameter]...]`

[引数 / オプション]

`[option1]` には、以下が使用できます。

<code>-v</code>	コマンド実行状況などを出力しながら動作させるモード
<code>--verbose</code>	//
<code>-q</code>	メッセージを何も出力しないで動作させるモード (バッチ実行に適しています)
<code>--quiet</code>	//
<code>-d</code>	デバッグ用メッセージを出力しながら動作させるモード
<code>--debug</code>	//

`[option2]` には、以下が使用できます。

<code>-h</code>	コマンド Usage を出力します。
<code>--help</code>	//
<code>help</code>	//
<code>--ver</code>	バージョン情報を出力します。
<code>--version</code>	//

`command [subcommand...]` について

該当する `command` (`subcommand`) がない場合、それをキーに絞り込んだコマンドリストを出力します。

(対象コマンドがない場合、Usage を出力します。)

[cmd option] には、以下が使用できます。

-h	コマンドごとのパラメータ説明 (ヘルプ) を出力します。
-help	"

1.1.4 ssc コマンドの戻り値

ssc コマンドの実行結果は、コマンドの戻り値により判断できます。

ssc コマンドの戻り値は以下のとおりです。

値	成功/失敗	原因
0	成功	
1	失敗	コマンドフォーマットが異常です (パラメータ不足など)。
2	失敗	Administrators 権限がないユーザで実行しています。
3	失敗	パラメータチェックエラー (指定リソースが存在しないなど)
4	失敗	SigmaSystemCenter 構成情報更新不可
5	失敗	起動したアクションシーケンスのジョブ履歴取得不可
6	失敗	SigmaSystemCenter 接続エラー
7	失敗	アクションシーケンスの実行に失敗しました (アクションシーケンス内でエラーが発生)。
10	失敗	上記以外のエラー (システムエラーなど)

1.1.5 Path、および GroupPath 指定について

操作の対象リソースに対する、[運用]、[リソース]、あるいは [仮想] ビューにおける階層指定をパスとして指定します。

(Web コンソールでパスを確認することができます)

例) 対象はすべて同じマシン (VM1)

[運用] ビューの場合 operations:/category1/group1/vmmodel/VM1

[リソース] ビューの場合 resource:/vmgroup/VM1

[仮想] ビューの場合 virtual:/VC1/DataCenter1/VMS1/VM1

グループ階層の区切り文字として、"/" (スラッシュ) または、"¥" (バックスラッシュ、円マーク) が使用できます。

- 運用グループのホストを指定することで、稼動中のマシンを対象にすることができます。

例) operations:/category1/group1/host1

- マシン名だけでマシンを特定することができます。

ただし、同じマシン名を持つマシンが複数登録されている場合、どのマシンが対象になるかは予測できません。

対象が一意に特定できるようパスを指定してください。

- [リソース] ビューのパスを指定する場合、root 直下のマシンは指定できません。
マシン登録コマンド (register machine) などを利用して、グループ配下に登録してください。

例) ssc register machine /NewGroup /-e -n

- collect group などの一部のコマンドでのみ、スマートグループが指定可能です。
- SigmaSystemCenter 3.5 Update1 から、すべてのコマンドで統一したパスの指定方法ができるようになりました。

ただし、ビューの指定(operations:/ など)を省略した場合、各コマンドによって検索対象のビューが異なります。

省略時のビューについては、下記表を参照してください。

コマンド名	引数/オプション	省略時のビュー
ssc collect	-path Path	resource
ssc power-control machine	-path Path	resource
ssc maintenance machine	-fullpath FullPath	resource
ssc add software	Path	operations
ssc deploy software	-path path	resource
ssc rdmstorage show	-vms VmsName	virtual
ssc rdmstorage update	-vms VmsName	virtual
ssc portgroup create	Path	virtual
ssc portgroup delete	Path	virtual
ssc portgroup show	Path	virtual
ssc portgroup update	Path	virtual
ssc privatevlan create	Path	virtual
ssc privatevlan delete	Path	virtual
ssc privatevlan update	Path	virtual
ssc customproperty add	Target	resource
	-vmserver VMServerPath	virtual
ssc customproperty delete	Target	resource
	-vmserver VMServerPath	virtual
ssc customproperty show	Target	resource
	-vmserver VMServerPath	virtual
ssc recover machine	SourceName	virtual
ssc evacuate machine	SourceName	virtual
	DestinationName	virtual
ssc update vmproperty	Path	virtual
ssc migrate machine	SourceName	virtual

コマンド名	引数/オプション	省略時のビュー
	DestinationName	virtual
ssc move machine	SourceName	virtual
	DestinationName	virtual
ssc create template	Path	virtual
ssc snapshot create	Path	virtual
ssc snapshot delete	Path	virtual
ssc snapshot revert	Path	virtual
ssc snapshot show	Path	virtual
ssc delete machine	-path Path	virtual
ssc clone machine	SourceName	virtual
	VmsName	virtual
ssc vm create	-vms VmsName	virtual
ssc export vm	VmName	virtual
ssc iso mount	VMName	operation
ssc iso show	VMName	operation
ssc iso unmount	VMName	operation
ssc set-machine-status	-path Path	resource
ssc dpminformation delete	Path	resource
ssc update vmserver	VMServer	virtual
ssc snapshot update	VM	virtual

1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン

- OS 一覧

ssc コマンドで指定する OS のコード、OS 名を示します。

Windows Server	
OsNameCode	OsName
10	Windows Server 2003 Standard (x86)
11	Windows Server 2003 Enterprise (x86)
13	Windows Server 2003 Standard (x64)
14	Windows Server 2003 Enterprise (x64)
15	Windows Server 2003 Datacenter (x86)
16	Windows Server 2003 Datacenter (x64)
20	Windows Server 2008 Standard (x86)
21	Windows Server 2008 Enterprise (x86)
22	Windows Server 2008 Datacenter (x86)
23	Windows Server 2008 Standard (x64)
24	Windows Server 2008 Enterprise (x64)

Windows Server	
OsNameCode	OsName
25	Windows Server 2008 Datacenter (x64)
27	Windows Server 2008 R2 Standard (x64)
28	Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64)
29	Windows Server 2008 R2 Datacenter (x64)
20101	Windows Server 2012 Standard
20102	Windows Server 2012 Datacenter
20201	Windows Server 2012 R2 Standard
20202	Windows Server 2012 R2 Datacenter
20301	Windows Server 2016

Windows Client	
OsNameCode	OsName
30	Windows Vista Business (x86)
31	Windows Vista Enterprise (x86)
32	Windows Vista Ultimate (x86)
33	Windows Vista Business (x64)
34	Windows Vista Enterprise (x64)
35	Windows Vista Ultimate (x64)
40	Windows 7 Professional (x86)
41	Windows 7 Ultimate (x86)
42	Windows 7 Enterprise (x86)
43	Windows 7 Professional (x64)
44	Windows 7 Enterprise (x64)
45	Windows 7 Ultimate (x64)
10103	Windows 8 Pro (x86)
10104	Windows 8 Pro (x64)
10105	Windows 8 Enterprise (x86)
10106	Windows 8 Enterprise (x64)
10203	Windows 8.1 Pro (x86)
10204	Windows 8.1 Enterprise (x86)
10205	Windows 8.1 Pro (x64)
10206	Windows 8.1 Enterprise (x64)
10303	Windows 10 Pro (x86)
10304	Windows 10 Pro (x64)
10305	Windows 10 Enterprise (x86)
10306	Windows 10 Enterprise (x64)

Linux	
OsNameCode	OsName
165	Red Hat Enterprise Linux AS 5
30503	Red Hat Enterprise Linux AS 5 (64bit)
166	Red Hat Enterprise Linux 5 AP
30504	Red Hat Enterprise Linux 5 AP (64bit)
169	Red Hat Enterprise Linux 6
30602	Red Hat Enterprise Linux 6 (64bit)
30702	Red Hat Enterprise Linux 7 (64bit)
168	SUSE Linux Enterprise Server 10
41002	SUSE Linux Enterprise Server 10 (64bit)

- タイムゾーン

ssc コマンドで指定するタイムゾーンのコードを示します。

Index	Name of Time Zone	Time
0	Dateline Standard Time	(GMT-12:00) International Date Line West
1	Samoa Standard Time	(GMT-11:00) Midway Island, Samoa
2	Hawaiian Standard Time	(GMT-10:00) Hawaii
3	Alaskan Standard Time	(GMT-09:00) Alaska
4	Pacific Standard Time	(GMT-08:00) Pacific Time (US and Canada); Tijuana
10	Mountain Standard Time	(GMT-07:00) Mountain Time (US and Canada)
13	Mexico Standard Time 2	(GMT-07:00) Chihuahua, La Paz, Mazatlan
15	U.S. Mountain Standard Time	(GMT-07:00) Arizona
20	Central Standard Time	(GMT-06:00) Central Time (US and Canada)
25	Canada Central Standard Time	(GMT-06:00) Saskatchewan
30	Mexico Standard Time	(GMT-06:00) Guadalajara, Mexico City, Monterrey
33	Central America Standard Time	(GMT-06:00) Central America
35	Eastern Standard Time	(GMT-05:00) Eastern Time (US and Canada)
40	U.S. Eastern Standard Time	(GMT-05:00) Indiana (East)
45	S.A. Pacific Standard Time	(GMT-05:00) Bogota, Lima, Quito
50	Atlantic Standard Time	(GMT-04:00) Atlantic Time (Canada)
55	S.A. Western Standard Time	(GMT-04:00) Caracas, La Paz
56	Pacific S.A. Standard Time	(GMT-04:00) Santiago
60	Newfoundland and Labrador Standard Time	(GMT-03:30) Newfoundland and Labrador
65	E. South America Standard Time	(GMT-03:00) Brasilia
70	S.A. Eastern Standard Time	(GMT-03:00) Buenos Aires, Georgetown
73	Greenland Standard Time	(GMT-03:00) Greenland
75	Mid-Atlantic Standard Time	(GMT-02:00) Mid-Atlantic
80	Azores Standard Time	(GMT-01:00) Azores

Index	Name of Time Zone	Time
83	Cape Verde Standard Time	(GMT-01:00) Cape Verde Islands
85	GMT Standard Time	(GMT) Greenwich Mean Time: Dublin, Edinburgh, Lisbon, London
90	Greenwich Standard Time	(GMT) Casablanca, Monrovia
95	Central Europe Standard Time	(GMT+01:00) Belgrade, Bratislava, Budapest, Ljubljana, Prague
100	Central European Standard Time	(GMT+01:00) Sarajevo, Skopje, Warsaw, Zagreb
105	Romance Standard Time	(GMT+01:00) Brussels, Copenhagen, Madrid, Paris
110	W. Europe Standard Time	(GMT+01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna
113	W. Central Africa Standard Time	(GMT+01:00) West Central Africa
115	E. Europe Standard Time	(GMT+02:00) Bucharest
120	Egypt Standard Time	(GMT+02:00) Cairo
125	FLE Standard Time	(GMT+02:00) Helsinki, Kiev, Riga, Sofia, Tallinn, Vilnius
130	GTB Standard Time	(GMT+02:00) Athens, Istanbul, Minsk
135	Israel Standard Time	(GMT+02:00) Jerusalem
140	South Africa Standard Time	(GMT+02:00) Harare, Pretoria
145	Russian Standard Time	(GMT+03:00) Moscow, St. Petersburg, Volgograd
150	Arab Standard Time	(GMT+03:00) Kuwait, Riyadh
155	E. Africa Standard Time	(GMT+03:00) Nairobi
158	Arabic Standard Time	(GMT+03:00) Baghdad
160	Iran Standard Time	(GMT+03:30) Tehran
165	Arabian Standard Time	(GMT+04:00) Abu Dhabi, Muscat
170	Caucasus Standard Time	(GMT+04:00) Baku, Tbilisi, Yerevan
175	Transitional Islamic State of Afghanistan Standard Time	(GMT+04:30) Kabul
180	Ekaterinburg Standard Time	(GMT+05:00) Ekaterinburg
185	West Asia Standard Time	(GMT+05:00) Islamabad, Karachi, Tashkent
190	India Standard Time	(GMT+05:30) Chennai, Kolkata, Mumbai, New Delhi
193	Nepal Standard Time	(GMT+05:45) Kathmandu
195	Central Asia Standard Time	(GMT+06:00) Astana, Dhaka
200	Sri Lanka Standard Time	(GMT+06:00) Sri Jayawardenepura
201	N. Central Asia Standard Time	(GMT+06:00) Almaty, Novosibirsk
203	Myanmar Standard Time	(GMT+06:30) Yangon Rangoon
205	S.E. Asia Standard Time	(GMT+07:00) Bangkok, Hanoi, Jakarta
207	North Asia Standard Time	(GMT+07:00) Krasnoyarsk
210	China Standard Time	(GMT+08:00) Beijing, Chongqing, Hong Kong SAR, Urumqi
215	Singapore Standard Time	(GMT+08:00) Kuala Lumpur, Singapore

Index	Name of Time Zone	Time
220	Taipei Standard Time	(GMT+08:00) Taipei
225	W. Australia Standard Time	(GMT+08:00) Perth
227	North Asia East Standard Time	(GMT+08:00) Irkutsk, Ulaanbaatar
230	Korea Standard Time	(GMT+09:00) Seoul
235	Tokyo Standard Time	(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo
240	Yakutsk Standard Time	(GMT+09:00) Yakutsk
245	A.U.S. Central Standard Time	(GMT+09:30) Darwin
250	Cen. Australia Standard Time	(GMT+09:30) Adelaide
255	A.U.S. Eastern Standard Time	(GMT+10:00) Canberra, Melbourne, Sydney
260	E. Australia Standard Time	(GMT+10:00) Brisbane
265	Tasmania Standard Time	(GMT+10:00) Hobart
270	Vladivostok Standard Time	(GMT+10:00) Vladivostok
275	West Pacific Standard Time	(GMT+10:00) Guam, Port Moresby
280	Central Pacific Standard Time	(GMT+11:00) Magadan, Solomon Islands, New Caledonia
285	Fiji Islands Standard Time	(GMT+12:00) Fiji Islands, Kamchatka, Marshall Islands
290	New Zealand Standard Time	(GMT+12:00) Auckland, Wellington
300	Tonga Standard Time	(GMT+13:00) Nuku'alofa

1.1.7 性能情報と Metric ID

ssc コマンドで指定する性能情報の名前と Metric ID を示します。

性能情報の名前	Metric ID
CPU Usage (%)	1
CPU System Usage (%)	2
CPU User Usage (%)	3
CPU Usage (MHz)	4
Guest CPU Usage (%)	11
Guest CPU Usage (MHz)	12
Host CPU Usage (%)	13
Host CPU Usage (MHz)	14
Disk Transfer Rate (Bytes/sec)	21
Disk IO Count (IO/sec)	22
Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec)	23
Disk Read Count (IO/sec)	24
Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec)	25
Disk Write Count (IO/sec)	26
Disk Space (MB)	27
Disk Space Ratio (%)	28

性能情報の名前	Metric ID
Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec)	31
Guest Disk Usage (MB)	37
Guest Disk Usage (%)	38
Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec)	41
Network Packet Reception Rate (Bytes/sec)	42
Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec)	43
Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec)	51
Physical Memory Space (MB)	61
Physical Memory Space Ratio (%)	62
Guest Memory Usage (%)	71
Guest Memory Usage (MB)	72
Host Memory Usage (%)	73
Host Memory Usage (MB)	74
Current Power (W)	101

1.1.8 各仮想基盤のコントローラと位置情報

ssc コマンドで指定するコントローラと位置情報を示します。

仮想基盤	コントローラ	位置 (ディスク番号)	備考
VMware	IDE0, IDE1	0,1	0 にディスクが存在しない場合、1 は使用できません。
VMware	IDE0, IDE1	0,1	0 にディスクが存在しない場合、1 は使用できません。
	SCSI0, SCSI1, SCSI2, SCSI3	0 ~ 15 (7 以外)	7 は DiskController が使用するため使用できません。
	SATA0, SATA1, SATA2, SATA3	0 ~ 29	
Xen	SCSI0	0 ~ 7	
Hyper-V	IDE0, IDE1	0,1	
	SCSI0, SCSI1, SCSI2, SCSI3	0 ~ 63	
KVM	IDE0, IDE1	0,1	
	PCI0	0 ~ 31	

- 各位置は他のデバイス (NIC、CD-ROM) も使用するため、すべての位置を仮想ディスクで使用することはできません。
- システムディスクで使用する位置に拡張ディスクは追加できません。

VMware の場合は、IDE0:0 / SCSI0:0 / SATA0:0

Xen の場合は、SCSI0:0

Hyper-V では、IDE0:0

KVM の PCI0 は、PCI デバイスの virtio ディスクに使用。0-2 は使用不可。

1.1.9 ssc コマンドの注意事項

- リソース名 (マシン名、ホスト名、グループ名など) が、 "-" (ハイフン) から始まる場合、各コマンドのリソース名を指定する箇所にて、 "-" (ハイフン) から始まる名前が存在した場合、リソース名、もしくはコマンドのオプション指定が、正しく判断されない場合があります。 "-" (ハイフン) から始まるリソースが存在した場合、リソース名を変更してコマンドを実行するか、Web コンソールから操作を行うようにしてください。
- メッセージ内のリソース名について
ホスト名を指定して実行したコマンドでも、ジョブ進捗状況やメッセージ内ではそのホストのリソース名 (マシン名) に変更されて、表示される場合があります。
- 同期実行のアクションシーケンスを起動したときなど、ジョブが正常終了しても、コマンドが接続エラー (戻り値=6) で終了する場合があります。
※この場合は、いずれの原因か、ログを確認する必要があります。
- **create machine** など、スマートグループが指定可能なコマンドでは、スマートグループで抽出された対象データが複数の運用グループに分散している場合、複数のジョブに分けてシーケンシャルに処理します。
このときエラーが発生すると以降のジョブは実行されません。
エラーの原因を取り除いて再度実行してください。
- Web コンソールの [リソース] ビューでマシンプロパティ設定にて [ユニット名] を設定している場合、各コマンドでマシンの指定を [リソース] ビューのパスにて指定する場合には、マシン名ではなく [ユニット名] で指定してください。
※その他のビュー、または、パスでなくマシン名にて指定する場合は、[ユニット名]ではなくマシン名を指定してください。
- "=" の前後に空白は指定できません。

第2章 構築用コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の構築に関するコマンドについて記載します。

目次

2.1 ライセンス	21
2.2 ユーザ	22
2.3 環境設定	26
2.4 サブシステム	29
2.5 収集	30
2.6 マシン	31
2.7 マシンアカウント	51
2.8 グループ	55
2.9 ホスト	76
2.10 IP アドレス	84
2.11 ソフトウェア	86
2.12 ストレージ	91
2.13 ネットワーク	122
2.14 ロードバランサ	145
2.15 論理マシン	149
2.16 スマートグループ	158
2.17 プロファイル	168
2.18 API キー	190
2.19 カスタム設定	192
2.20 CIM Indication 設定	196
2.21 カスタムオブジェクト	197

2.1 ライセンス

2.1.1 ライセンスの追加

ライセンスを追加します。

最初にエディションライセンスを登録してください。

設定を有効にするには、SystemProvisioning を再起動する必要があります。

ただし、ターゲットライセンスの追加のみの場合には、再起動は必要ありません。

[構文]

```
ssc add license <LicenseKey | -filepath FilePath>
```

[引数 / オプション]

<LicenseKey -filepath FilePath> (必須)	対象となるライセンスキー、またはテキストファイルのパスを指定します。
--	------------------------------------

[注]

- ファイルサイズが 512KB より大きい、または拡張子が「.txt」以外のファイルは指定できません。

[構文例]

```
>ssc add license XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
>ssc add license -filepath "C:¥temp¥license.txt"
```

2.1.2 ライセンスの削除

ライセンスを削除します。

ターゲットライセンスから削除し、

最後にエディションライセンスを削除して下さい。

[構文]

```
ssc delete license LicenseKey
```

[引数 / オプション]

LicenseKey (必須)	対象となるライセンスキーを指定します。
--------------------	---------------------

[構文例]

```
>ssc delete license XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
```

2.1.3 ライセンスの表示

ライセンスを表示します。

[構文]

ssc show license

[引数 / オプション]

なし

[構文例]

```
>ssc show license
```

2.2 ユーザ

2.2.1 ユーザアカウントの作成

ユーザアカウントを作成します。

[構文]

ssc create user *UserName* [*Password*] [-permission *AuthorityType* | -role *RoleName* | -norole] [-description *Description*] [-type *Type*]

[引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。 入力できる文字数は 32 文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 *+,/,:;<=>?¥ []
[<i>Password</i>]	パスワードを指定します。 入力できる文字数は 128 文字以内です。 使用できる文字はスペースを除く半角英数字、および記号です。 -type が "Local" の場合のみ指定できます。
[-permission <i>AuthorityType</i>]	権限を指定します。 指定できるユーザの権限は、"Administrator"、"Operator"、"Observer" です。
[-role <i>RoleName</i>]	初期ロールを指定します。 設定対象が "全リソース/システム"、あるいは "システム" のロールを指定してください。
[-norole]	ロールを設定しないユーザを作成します。
[-description <i>Description</i>]	ユーザの説明を入力します。 入力できる文字数は 128 文字以内です。
[-type <i>Type</i>]	認証種別を指定します。 指定できる認証種別は、"Local"、"SystemLDAP" です。 -type を省略した場合、"Local" が指定されます。

[構文例]

```
>ssc create user User01 xxxxxx -permission Administrator
>ssc create user User01 xxxxxx -role admin-users
>ssc create user User01 xxxxxx -description "User01 is Administrator."
>ssc create user User01 -type "SystemLDAP"
```

[注]

- -permission、-role とともに省略した場合は、管理者権限ユーザとして作成します。
- permission、-role とともに指定した場合は、-role で指定した初期ロールは無効となり、-permission で指定した権限に相当するロールが割り当てられます。

2.2.2 ユーザアカウントの削除

ユーザアカウントを削除します。

[構文]

```
ssc delete user UserName
```

[引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	削除するユーザ名を指定します。
-------------------------	-----------------

[構文例]

```
>ssc delete user User01
```

2.2.3 ユーザアカウント情報の表示

ユーザアカウント情報を CSV 形式で一覧表示します。

[構文]

```
ssc show user
```

[引数/オプション]

なし

[構文例]

```
>ssc show user
```

[表示例]

```
>ssc show user
#UserName,Permission,LoginDate,LoginIPAddress,Disabled,DisabledType,InitialRole,EmailAddress,CertificationType,CertificatedDate,DomainName,Description
```

```

"admin","Administrator","2013/01/08 3:56:35","192.168.1.123","False","",
"システム管理者","", "LocalUser","2013/01/08 3:56:35","", "admin user"
"admin2","Administrator","2013/01/08 4:56:35","", "False","", "システム管理
者","", "LocalUser","2013/01/08 4:56:35","", "second admin user"
"oper","Operator","2013/01/08 5:56:35","", "False","", "操作者","", "LocalUs
er","2013/01/08 5:56:35","", ""
"user","Observer","2013/01/08 6:56:35","", "False","", "参照者","", "LocalUs
er","2013/01/08 6:56:35","", ""
"user-a","UserSetting","2013/01/08 7:56:35","", "False","", "RoleA","", "Lo
calUser","2013/01/08 7:56:35","", ""

```

2.2.4 ユーザアカウントのパスワード変更

ユーザアカウントのパスワード、または仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更します。

[構文]

```
ssc change-passwd Type Name NewPassword [-l Account] [-p Password]
```

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	パスワードを変更する対象を指定します。 "manager": 仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。 "user": ユーザアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。
<i>Name</i> (必須)	対象の名前を指定します。 <i>Type</i> が "manager" の場合、ホスト名、もしくは 対象の仮想マシンサーバまでのフルパスを指定します。 (例: vCenterServer/DataCenter/ESX) 同一のホスト名が存在する場合、パス指定で指定します。 <i>Type</i> が "user" の場合、ユーザ名を指定します。
<i>NewPassword</i> (必須)	新しいパスワードを指定します。
[-l <i>Account</i>]	アカウント名を指定します。 <i>Type</i> が "manager" の場合は、仮想マシンサーバのアカウント名を指定します。 省略した場合、アカウント名は変更されません。 <i>Type</i> が "user" の場合は、認証情報として、Administrator 権限ユーザのアカウント名を指定します。 省略した場合は、認証情報として、-p オプションに旧パスワードを指定します。
[-p <i>Password</i>]	<i>Type</i> が "user" の場合のみ有効です。 -l オプション利用時は Administrator 権限ユーザのパスワードを指定します。 -l オプションを利用しない場合は対象ユーザの旧パスワードを指定します。

[構文例]

仮想マシンサーバのパスワードを変更する

```

>ssc change-passwd manager Host1 "*****" -l user1
>ssc change-passwd manager "vCenterServer/New DataCenter/Esx1" "*****"

```

ユーザのパスワードを変更する

- 1) 認証情報として対象ユーザの旧パスワードを指定する
`>ssc change-passwd user user1 "*****" -p "*****"`
- 2) 認証情報として Administrator 権限ユーザを指定する
`>ssc change-passwd user user2 "*****" -l Administrator -p "*****"`

2.2.5 ユーザアカウント/グループの取得

LDAPConfig.xml に設定されている LDAP サーバに接続して

取得したユーザ / グループ情報を SigmaSystemCenter に登録します。

このコマンドを実行するにあたり、事前に以下の設定が必要となります。

- SigmaSystemCenter 上にシステム管理者権限を持つ、有効なユーザアカウントが存在していること
 - SigmaSystemCenter のライセンス登録が完了していること
 - LDAPConfig.xml に、接続先となる LDAP サーバの情報が設定されていること
- (LDAPConfig.xml の記載については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「1.1.15 LDAP サーバの利用」を参照してください)

[構文]

`ssc sync ldapuser Account Password`

[引数/オプション]

<i>Account</i>	LDAP サーバ上に存在する、認証用のアカウント名を指定します。 このアカウントについては、LDAP サーバ上に存在していれば、SigmaSystemCenter 上に存在していなくても問題ありません。 入力できる文字数は 32 文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 *+, /: ; <=> ? ¥ [] ※対象となる LDAP サーバ側の文字制限については、LDAP サーバの各製品マニュアルを参照してください。
<i>Password</i>	LDAP サーバ上に存在する、認証用のアカウントのパスワードを指定します。 入力できる文字数は 128 文字以内です。 使用できる文字はスペースを除く半角英数字、および記号です。 ※対象となる LDAP サーバ側の文字制限については、LDAP サーバの各製品マニュアルを参照してください。

[構文例]

LDAP サーバとの同期を実行する
`>ssc sync ldapuser username password`

2.3 環境設定

2.3.1 環境設定の更新

環境設定を行います。

[構文]

ssc update environment <Key Value | -maintenance>

[引数/オプション]

Key	以下の Key のうち、設定する項目を指定します。
	VMSDefaultCapacity: 仮想マシンサーバのキャパシティ値 1 以上 100000 以下で指定してください。
	VMDefaultCost: 仮想マシンのコスト値 1 以上 1000 以下で指定してください。
	VMSRootPassword: 仮想マシンサーバの root パスワード
	ULogSize: 運用ログの最大出力件数 1000 以上で指定してください。
	ULogDay: 運用ログの最大出力日数(日) 1 以上 1000 以下で指定してください。
	DLogSize: デバックログの最大出力サイズ (MB) 1 以上 16 以下で指定してください。
	DLogLevel: デバックログのレベル 0 以上 7 以下で指定してください。 0: エラーログを取得します。 1: 警告ログを取得します。 2: 情報ログを取得します。 3～7: トレースログを取得します。(トレースレベル 1～5)
	EventHistorySize: イベント履歴設定の最大出力件数 1000 以上で指定してください。
	EventHistoryDay: イベント履歴設定の最大出力日数(日) 1 以上 1000 以下で指定してください。
	EnableMACAddressRange: MAC アドレスブール機能のオン / オフ(Hyper-V のみ有効) True、または False で指定してください。
	TempWorkingDir: ファイル転送に使用する作業フォルダ
	MaxLoginAttempts: ユーザアカウントのロックアウトの閾値 0 以上 999 以下で指定してください。
	HidePortalView: [ポータル] ビュー表示設定 True、または False を指定してください。
	RescueAccessPoint: RescueVM のホスト名、または IP アドレス
	RescueAccount: RescueVM のログインアカウント
	RescuePassword: RescueVM のログインパスワード
	Polling: 定期収集の設定 収集間隔(分)を 1 以上 3600 以下で指定してください。

定期収集を停止する場合は、0 を指定してください。

UpdateLatestJobInterval: ジョブの更新間隔(秒)

5、10、または 30 を指定してください。

UpdateLatestLogInterval: ログの更新間隔(秒)

5、10、または 30 を指定してください。

MonitorInterval: 画面の更新間隔(秒)

5 以上最大更新間隔の値以下で指定してください。

AutoUpdateMaxPeriod: 画面の最大更新間隔(秒)

5 以上 36000 以下で指定してください。

JobResultDisplayPeriod: ジョブ結果表示期間(分)

1 以上 10000 以下で指定してください。

EnableAutoUpdate: 画面の自動更新設定

自動更新を有効にする場合は True、

無効にする場合は False を指定してください。

CommunityName: ESMPRO が使用する SNMP コミュニティ名

MappingRetryCount:

ESMPRO/ServerManager への接続リトライ回数

MappingRetryWait:

ESMPRO/ServerManager への接続リトライの間隔

MappingTimeOut:

ESMPRO/ServerManager との接続タイムアウト値

ESMPRO_Password:

ESMPRO/ServerManager との接続パスワード

Mail: メール通報設定

メール通報を有効にする場合は True、

無効にする場合は False を指定してください。

MailFrom: 通信元メールアドレス

MailTo: 通信先メールアドレス

SMTPServer: 通信先メールサーバ名

SMTP_Port: メール送信先のメールサーバ側ポート番号

SMTP_Send_Password: SMTP 認証の設定

SMTP 認証でのメール送信を行う場合は True、

行わない場合は False を指定してください。

SMTP_UserName: SMTP 認証アカウント

SMTP_Password: SMTP 認証パスワード

SMTP_EnableSsl: メール送信時の SSL/TSL 使用

メール送信時に SSL/TSL を使用する場合は True、

使用しない場合は False を指定してください。

BmcEnableAliveMonitor: 定期死活監視機能の有効/無効

機能を有効にする場合は True、

無効にする場合は False を指定してください。

BmcDefaultEnableMonitor: 既定での死活監視の設定

監視を有効にする場合は True、

無効にする場合は False を指定してください。

BmcMonitoringInterval: 死活監視の間隔(分)

10 以上 1440 以下で指定してください。

BmcMonitoringSkipInterval: 最終更新時刻によるスキップ時間(分)

	<p>1 以上 30 以下で指定してください。</p> <p>BmcMonitoringRetry: 一度の死活監視におけるリトライ回数</p> <p>1 以上 15 以下で指定してください。</p> <p>BmcMonitoringRetryInterval: 一度の監視におけるリトライ間隔(秒)</p> <p>10 以上 60 以下で指定してください。</p> <p>BmcMonitoringThreads: 同時監視数</p> <p>1 以上 30 以下で指定してください。</p> <p>BmcCommandTimeout: IPMI コマンドのタイムアウト(秒)</p> <p>1 以上 30 以下で指定してください。</p> <p>BmcMonitoringPolicy: 死活監視ポリシー名</p>
<i>Value</i>	<i>Key</i> で指定した項目の設定値を指定します。
-maintenance	<p>メンテナンスモードになります。</p> <p>イベント ID が 520～522 であるイベントログの出力を制御します。</p> <p>コマンド実行後は 2:add/update を選択します。</p> <p>Input key name が表示されますので、イベント ID:520 を更新する場合は EventLog_Disable_520、イベント ID:521 の場合は EventLog_Disable_521、イベント ID:522 の場合は EventLog_Disable_522 を指定します。</p> <p>次に Input key value が表示されますので、対象のイベント ID のイベントログを出力する場合は False を、出力しない場合は True を指定します。</p> <p>なお、本オプションは保守用です。上記の設定以外には使用しないでください。</p>

[構文例]

```
>ssc update environment vmsdefaultcapacity 1
>ssc update environment vmdefaultcost 100
>ssc update environment vmsrootpassword xxxxxx
>ssc update environment enablemacaddressrange True
>ssc update environment tempworkingdir D:¥Work
```

```
>ssc update environment -maintenance

Caution: Before this command execution, please backup database
1:show 2:add/update 3:remove other:exit
2

Input key name
EventLog_Disable_520
Input key value
False
Update key EventLog_Disable_520 : (True) to (False) ? (y/n)
y
Success (EventLog_Disable_520).
```

2.3.2 起動時収集の設定

PVM サービス起動時の収集のオン / オフを指定します。

[構文]

```
ssc startup-collect-mode < on | off >
```

[引数/オプション]

< on off > (必須)	on:PVM サービス起動時に実行する全収集をオンにします。 off:PVM サービス起動時に実行する全収集をオフにします。
----------------------	---

[構文例]

```
>ssc startup-collect-mode on
>ssc startup-collect-mode off
```

2.4 サブシステム

2.4.1 サブシステムの追加

サブシステムを追加します。

[構文]

```
ssc add manager Type [-name HostName] [-account Account]
[-port PortNumber] [-url URL] [-p Password]
```

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	以下の <i>Type</i> のうち、追加するサブシステムを指定します。 dpm: DPM Server vcenter、virtualcenter: VMware vCenter Server esxi: ESXi xen: Citrix XenServer Pool Master hyper-v: Hyper-V hyper-v-cluster: Hyper-V Cluster kvm: KVM network: WebSAM NetvisorPro slb: Software Load Balancer pfc: ProgrammableFlow Controller istorage: iStorage Manager clarix: EMC CLARiX symmetrix: EMC Symmetrix netappstorage: NetApp Manager smi-s: SMI-S Service vcns: VMware vCloud Network and Security
[-name <i>HostName</i>]	ホスト名、または IP アドレスを指定します。 <i>URL</i> を入力している場合、自動生成されるため、省略することができます。
[-account <i>Account</i>]	接続対象のアカウント名、またはドメイン名を指定します。
[-port <i>PortNumber</i>]	接続対象のポート番号を指定します。
[-url <i>URL</i>]	<i>URL</i> を指定します。 <i>HostName</i> を指定している場合、自動生成されるため、省略することができます。
[-p <i>Password</i>]	接続対象に登録されているパスワードを指定します。

- Type に "esxi"、"hyper-v"、"kvm"、"clarix"、"symmetrix"、"netappstorage" を指定した場合、オプション (-name、-account、-port、-url、-p) は指定できません。
- Type に "dpm"、"network"、"slb"、"pfc"、"vcns" を指定した場合、オプション (-name) は省略することはできません。
- Type に "vcenter"、"xen" を指定した場合、オプション (-account、-p) は省略することはできません。
- Type に "smi-s" を指定した場合、オプション (-account、-url、-p) は省略することはできません。

[構文例]

```
>ssc add manager esxi
>ssc add manager hyper-v
>ssc add manager kvm
>ssc add manager dpm -name 192.168.1.50 -p xxxxx
>ssc add manager vcenter -name 192.168.1.100 -account user01 -port 443
    -url "https://192.168.1.100:443/sdk" -p xxxxx
>ssc add manager xen -name 192.168.1.200 -account user02 -p xxxxx
>ssc add manager hyper-v-cluster -name 192.168.1.100
    -account domain¥userA -p xxxxx
>ssc add manager smi-s -account user01 -url "http://172.16.0.69" -p xxxxx
```

2.5 収集

2.5.1 収集

収集を行います。

[構文]

```
ssc collect Type [-name Name... | -uuid Uuid... | -path Path] [-target < basic | sensor | software | all>]
[-priority < high | middle | low >]
```

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	以下のうち、指定した対象の情報を収集します。 all: 全サブシステム vms: 仮想マシンサーバ machine: 物理マシン、仮想マシンサーバ、仮想マシン group: -path で指定したグループ配下のマシン dpm: DPM サーバ virtual: 仮想マネージャ storage: ストレージ network: ネットワーク
[-name <i>Name...</i>]	<i>Type</i> が "vms"、"machine"、"dpm"、"virtual"、"storage"、"network" の場合に有効です。 vms、dpm、virtual、storage、network: サブシステムのホスト名 (または IP アドレス) を指定します。

	machine: マシン名を指定します。 複数指定することができます。
[-uuid Uuid...]	対象の UUID を指定します。 Type が "machine" の場合に有効です。 複数指定することができます。
[-path Path]	Type が "vms"、"machine"、"group" の場合に有効です。 収集対象までの各ビューからのフルパスを指定し、収集します。 "machine" [仮想] ビュー: virtual:/VC1/DataCenter/VMServer1/VM001 [リソース] ビュー: resource:/Group1/VM001 "vms" [仮想] ビュー: virtual:/VC1/DataCenter/VMServer1 [リソース] ビュー: resource:/Group1/VMServer1 "group" [仮想] ビュー: virtual:/VC1/DataCenter [リソース] ビュー: resource:/Group1 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
[-target <basic sensor software all>]	Type が "machine"、または "group" の時のみ有効。 収集を行う区分を選択します。 basic: 基本情報を収集します。 sensor: センサの瞬間値を収集します。 software: ソフトウェア情報を収集します。 all: マシンの全情報 (上記をすべて含む) を収集します。
[-priority <high middle low>]	Type が "machine"、または "group" の時のみ有効。 収集処理の優先度を選択します。

[構文例]

```
>ssc collect all
>ssc collect vms -name 192.168.1.1
>ssc collect vms -path virtual:/Manager/DataCenter/VMServer
```

2.6 マシン

2.6.1 マシンの登録

管理外マシンを指定したリソースグループ、またはラックに登録します。

また、新規に SigmaSystemCenter にマシンを登録することができます。このとき DPM サーバにも新規にマシンを登録します。

[構文]

`ssc register machine GroupName MachineName... [-e [GroupType]] [-n | < -c [DPMServerAddress] -
uuid UUID [-mac PrimaryMacAddress] [-force] >]`

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンを登録するリソースグループ、またはラックを指定します。 リソースグループ、またはラックのパスを指定します。
<i>MachineName...</i> (必須)	対象のマシンを指定します。 管理状態のマシンを指定することはできません。 また、マシンを作成する場合は、複数指定できません。
[-e [<i>GroupType</i>]]	<i>GroupName</i> で指定したグループもしくはラックを作成します。 group : グループを作成します。 rack : ラックを作成します。 <i>GroupType</i> を省略した場合グループを作成します。
[-n]	[リソース] ツリーの [マシン] アイコン直下にあるリソースを移動します。 [リソース] ツリーの [マシン] アイコン直下にあるリソースをすべて指定する場合、 <i>MachineName</i> は、"/" を指定します。
[-c <i>DPMServerAddress</i>]]	SigmaSystemCenter、および DPM サーバにマシンを作成する場合に指定します。 複数の DPM サーバを管理している場合、 [<i>DPMServerAddress</i>] に対象の DPM サーバのアドレスを指定します。 [-n] と同時に指定することはできません。
[-uuid <i>UUID</i>]	マシンの UUID を指定します。 マシンを作成する場合は、省略することはできません。
[-mac <i>PrimaryMacAddress</i>]	マシンの MAC アドレスを指定します。マシンを作成する場合に、有効なオプションです。
[-force]	SigmaSystemCenter 上に存在するマシンを DPM サーバに作成する際、 稼動中でも DPM サーバにマシンを作成します (対象のマシンがメンテナンス モードの場合)。 マシンを作成する場合に、有効なオプションです。

[構文例]

```
>ssc register machine Group1 machine01
>ssc register machine Group1/Rack01 machine02 machine03
>ssc register machine Group1/Group2 machine04
>ssc register machine Group1/Group2/Group3 machine05 -e
>ssc register machine Group1 / -n
>ssc register machine Group2 blade1 -e -c
  -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc register machine Group2 blade1 -c 192.168.1.101
  -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc register machine Group2 blade1 -c 192.168.1.101
  -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -mac 00:16:97:A7:00:00
>ssc register machine Group2 blade1 -c 192.168.1.101
  -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -mac 00:16:97:A7:00:00 -force
```

2.6.2 マシン対象外

マシンをリソースグループ、もしくはラックから対象外にします。

また、SigmaSystemCenter、および DPM サーバからマシンを削除することができます。

[構文]

ssc unregister machine *GroupName MachineName...* [-d]

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象外にするマシンが登録されているリソースグループ、またはラックを指定します。 リソースグループ、またはラックまでのパスを指定します。 "/" のみを指定した場合、[リソース] ツリーの[マシン] アイコン直下にある 管理対象マシンが対象となります。
<i>MachineName...</i> (必須)	対象のマシン名を指定します。 運用グループで稼動、または待機中のマシンは指定できません。 複数指定することができます。
[-d]	SigmaSystemCenter、および DPM サーバからマシンを削除する場合に指定します。

[構文例]

```
>ssc unregister machine / machine01
>ssc unregister machine Group1 machine02
>ssc unregister machine Group1/Rack01 machine03 machine04
>ssc unregister machine Group1/Group2 machine05
>ssc unregister machine Group1/Group2 machine05 -d
```

2.6.3 マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加

マシンの割り当て、マスタマシン登録、プールに追加を行います。

[構文]

ssc assign machine *GroupName [MachineName...]* [-sharedpool | -master | -addpool | -import]

[-host *HostName*] [-resource *ResourcePoolName*]

[-type *Type*][-filePath *FilePath*][-vms *VmsName*]

[-datastore *DatastoreName*][-newhost *NewHostName*]

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンの割り当て、マスタマシン登録、プールに追加を行うグループを指定します。 グループまたはモデルまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[<i>MachineName...</i>]	マシンの割り当て、マスタマシン登録、プールに追加を行うマシン名を指定します。 <i>MachineName</i> を省略した場合、グループプールのマシンが対象になります。

	<p>[-sharedpool]、[-master]、[-addpool] を指定している場合、省略することはできません。</p> <p>プールに追加する場合は、<i>MachineName</i> を複数指定することができます。</p>
[-sharedpool]	<p>共通プールのマシンをグループに追加する場合、指定します。</p> <p>[-sharedpool] を省略した場合、グループプールのマシンをグループに追加します。</p> <p>[-master]、および [-addpool] と同時に指定できません。</p>
[-master]	<p>マスタマシンの登録を行う場合、指定します。</p> <p>[-master] を省略した場合、グループプールのマシンをグループに追加します。</p> <p>[-sharedpool]、および [-addpool] と同時に指定できません。</p>
[-addpool]	<p>プールにマシンを追加する場合、指定します。</p> <p>[-sharedpool]、[-master]、および [-host HostName] と同時に指定できません。</p>
[-import]	<p>仮想マシンをインポートしてマスタ登録します。</p>
[-host HostName]	<p>対象のマシンが稼動するホスト名を指定します。</p> <p>[-import] を指定した場合、省略することはできません。</p> <p>[-addpool] と同時に指定できません。</p>
[-resource ResourcePoolName]	<p>使用するリソースプール名を指定します。</p> <p>GroupName のモデルの種別が "VM" の場合に有効です。</p> <p>[-addpool] と同時に指定できません。</p>
[-type Type]	<p>FilePath に指定するタイプを指定します。</p> <p>-import を指定する場合、指定できます。</p>
[-filePath FilePath]	<p>OVF、OVA または VHD ファイルのファイルパスを指定します。</p> <p>Type が指定されていない場合は自動判別します。</p>
[-vms VmsName]	<p>仮想マシンサーバを指定します。</p> <p>-import が指定されている場合に指定する必要があります。</p>
[-datastore DatastoreName]	<p>データストアを指定します。</p> <p>-import が指定されている場合に指定する必要があります。</p>
[-newhost NewHostName]	<p>ホストを新規に作成する場合に指定します。省略した場合、MachineName でホストを作成します。</p> <p>[-master] を指定する場合、指定できます。</p> <p>[-hostname] と同時に指定できません。</p>

[構文例]

```

* リソース割り当て (マシンを自動選択)
>ssc assign machine Category/Group1/Model1001

* リソース割り当て (グループプールのマシンが対象)
>ssc assign machine Category/Group1/Model1001 machine001
>ssc assign machine Category/Group1/Model1001 machine002 -host host002
>ssc assign machine Category/Group1/Model1001 -host03

* リソース割り当て (共通プールのマシンが対象)
>ssc assign machine Category/Group1/Model1001 machine001 -sharedpool
>ssc assign machine Category/Group1/Model1001 machine002 -sharedpool
-host host002

```

* マスタマシン登録

```
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine001 -master -host host001
```

* プールに追加

```
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine001 machine002 -addpool
```

* リソースプールを指定したリソース割り当て

```
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine002 -host host002  
-resource MyPool
```

2.6.4 割り当て解除、プールから削除

割り当て解除、プールから削除を行います。

[構文]

```
ssc release machine GroupName <[HostName...] [-sharedpool] [-force] < [-c] [-x [lm]] | [-t] > | -del  
MachineName... [-model ModelName]>
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	割り当て解除、プールから削除するマシンのグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
[<i>HostName...</i>]	対象マシンが稼動しているホスト名を指定します。 <i>HostName</i> を省略した場合、稼動しているマシン 1 台が自動選択され、 グループのプールに戻します。 -sharedpool、および-force が指定されている場合、 省略することはできません。 -del と同時に指定することはできません。 複数指定することができます。
[-sharedpool]	稼動しているマシンをグループから共通プールに戻します。 -sharedpool を省略した場合、グループのプールに戻します。 <i>HostName</i> は省略することはできません。 -del と同時に指定することはできません。
[-force]	データベースを操作して、強制的に割り当て解除を行います。 -force を省略した場合、ジョブを実行します。 <i>HostName</i> は省略することはできません。また、複数のホスト名 は指定できません。 -sharedpool、および-del と同時に指定はできません。
[-c]	マシンの解体を行う場合、指定します。 仮想マシンに対して指定した場合、仮想マシンは削除されます。 仮想マシンに対して指定する場合、-sharedpool と同時に 指定できません。
[-x [<i>lm</i>]]	解体しない部分を指定します。 論理化マシンを解体しないケースのみサポートしております。 このオプションを利用する場合、-c と同時に指定してください。

<code>[-t]</code>	マシンの解体を行わない場合、指定します。
<code>-del MachineName...</code>	対象マシンをプールから削除する場合、指定します。 <code>HostName</code> 、 <code>-sharedpool</code> 、および <code>-force</code> と同時に指定はできません。 対象マシンがグループプールに複数登録されている場合、 <code>-model</code> を省略すると、モデルに登録されていないマシンが削除されます。 対象マシンが複数のモデルに登録されている場合は、 <code>-model</code> は省略できません。
<code>[-model ModelName]</code>	<code>-del</code> で指定したすべてのマシンが登録されているモデルを指定します。 グループプールのマシンが複数のモデルに登録されている場合、指定します。

[注]

- SigmaSystemCenter 2.1 update 3 までは `ssc release machine` においてスケールインが実行されていましたが、

SigmaSystemCenter 3.0 においてスケールインは `ssc scalein` に移行しました。

[構文例]

```
=====
割り当て解除 (グループプール)  解体あり  論理解体あり
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 -c
```

物理マシンの場合は、以下の指定も可能

```
>ssc release machine Category/Group1
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001
```

```
=====
割り当て解除 (グループプール)  解体あり  論理解体なし
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 -c -x lm
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -c -x lm
```

```
=====
割り当て解除 (グループプール)  解体なし
(物理マシン、仮想マシンが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 -t
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -t
```

仮想マシンの場合は、以下の指定も可能

```
>ssc release machine Category/Group1
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001
```

```
=====
割り当て解除 (共通プール)      解体あり  論理解体あり
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c
```

物理マシンの場合は、以下の指定も可能

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool
```

```
=====
割り当て解除 (共通プール)      解体あり  論理解体なし
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c -x lm
```

```
=====
割り当て解除 (共通プール)      解体なし
(物理マシン、仮想マシンサーバ、仮想マシンが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -t
```

仮想マシンの場合は、以下の指定も可能

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool
```

仮想マシンサーバの場合は、以下の指定も可能

```
>ssc release machine Category/Group1
>ssc release machine Category/Group1 host001
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool
>ssc release machine Category/Group1 -t
>ssc release machine Category/Group1 host001 -t
```

```
=====
仮想マシン削除
(仮想マシンが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 -c
>ssc release machine Category/Group1 host001 -c
```

```
=====
仮想マシンの場合、以下の指定はできません
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 -c -x lm
>ssc release machine Category/Group1 host001 -c -x lm
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c -x lm
```

```
=====
プールから削除
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 -del machine001 machine002
```

```
=====
割り当て解除 (強制:グループプール)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -force
```

```
=====
割り当て解除 (強制:共通プール)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 host002 -sharedpool -force
```

2.6.5 マシンの表示

マシン情報を表示します。

[構文]

```
ssc show machine [-ms [on | off] ] [ [-vms [VMSName] ] [ -vm [VMName] ] ] | [-smartgroup SmartGroupName] ] [ [-perf] [-resource] | [-spec] | [-property] ] [-osservice] [-errorevent Status] [-summaryhint] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[-ms [on off]]	表示対象となるマシンの管理状態を指定します。 省略した場合、すべてのマシンが対象となります。 -ms に "on" を指定した場合、管理中のマシンを表示します。 -ms に "off" を指定した場合、管理外のマシンを表示します。 "on"、および "off" を省略した場合、すべてのマシンを表示します。
[-vms [VMSName]]	表示対象となる仮想マシンサーバを指定します。 仮想マシンサーバ名を省略すると、全仮想マシンサーバを表示します。 仮想マシンサーバ名を指定した場合は、配下の仮想マシン (VM) 一覧、およびテンプレート情報を表示します。
[-vm [VMName]]	表示対象となる仮想マシンを指定します。 仮想マシン名を省略すると、全仮想マシンを表示します。
[-smartgroup SmartGroupName]	指定したスマートグループの条件に合致するマシンの情報を表示します。 グループのパスは、存在するパスを指定します。 パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下) (設定例) operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 直下の smartgroup101 を指定します。 resource:/smartgroup102 : [リソース] ビューのルートノード直下の smartgroup102 を指定します。
[-perf]	性能情報 (パフォーマンス) を表示します。 仮想マシンサーバ、仮想マシンのみ情報が取得可能です。 最新の情報を取得するため、時間がかかる場合があります。
[-resource]	性能情報 (仮想リソース) を表示します。 仮想マシンサーバ、仮想マシンのみ情報が取得可能です。 最新の情報を取得するため、時間がかかる場合があります。
[-spec]	スペック情報を表示します。
[-property]	仮想マシンに指定された構成パラメータ設定のパラメータ名と値を表示します。 [-vm] で仮想マシンが 1 台のみ指定されている必要があります。 [-ms]、[-vms]、[-smartgroup]、および [-osservice] と同時に指定できません。
[-osservice]	マシンの OS サービス / デーモンの設定を表示します。 マシンが 1 台のみ指定されている必要があります。 [-ms]、[-vms]、[-smartgroup]、および [-property] と同時に指定できません。
[-errorevent Status]	指定したステータスが異常系となった要因のイベントを表示します。 指定できるステータスは下記です。

	<p>executestatus : 実行ステータス</p> <p>hardwarestatus : ハードウェアステータス</p> <p>下記のいずれかと同時に指定します。</p> <p>-vms [<i>VMSName</i>]</p> <p>-vm [<i>VMName</i>]</p>
[-summaryhint]	<p>サマリステータスのヒントメッセージを表示します。</p> <p>マシンが1台のみ指定されている必要があります。</p> <p>[-ms]、[-vms]、[-smartgroup]、[-property]、[-osservice] と同時に指定できません。</p>
[-vertical]	<p>表示形式を変更します。</p> <p>-vertical: 形式 = 項目名 : 値</p> <p>省略した場合、CSV形式で表示します。</p>

[構文例]

```
>ssc show machine -ms
>ssc show machine -ms on
>ssc show machine -ms on -perf
>ssc show machine -vms HYPER-V222 -perf
>ssc show machine -vertical
>ssc show machine -vm -resource
>ssc show machine -smartgroup resource:/smartgroup102
>ssc show machine -ms on -smartgroup resource:/smartgroup102 -spec
>ssc show machine -vms XenServer01 -vm VM-W2K8
>ssc show machine -vm vm01 -property
>ssc show machine -vm vm01 -errorevent executestatus
```

[表示例]

```
>ssc show machine -ms on
```

```
#Name,ManagedStatus,Uuid,MacAddress,Type,SummaryStatus,RunningStatus,ExecuteStatus,PowerStatus,EventPolicyStatus,OperatingSystemStatus,HardwareStatus,MaintenanceStatus,OperatingSystem,OperatingGroup,HostName
"192.168.10.174","Managed","80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162","00:30:13:F1:01:62","Blade, VMware, VM Server","-","Running","-","-","Off","-","Off",
"VMware ESX","",""
"MasterMachine","Managed","42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7","00:50:56:84:78:F6","VMware, Virtual Machine","-","-","-","On","-","On","-","Off","Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition (32-bit)","","",""
"MasterVM","Managed","42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d","00:50:56:84:09:86","VMware, Virtual Machine","-","-","-","On","-","On","-","Off","Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition (32-bit)","","",""
```

```
>ssc show machine -ms on -vms 192.168.10.174 -resource
```

```
[VMServer]
#MachineName,MachineType,Uuid,MacAddress,ProductName,ModelName,ManagedStatus,SummaryStatus,PowerState,HardwareStatus,MaintenanceStatus,RunningStatus,ExecuteStatus,EventPolicyStatus,OperatingSystem,OSVersion,HostName,IPAddresses,ConnectionStatus,VmsTotalCost,Capacity,VmCount,MemorySize (MB),Processor,CPUCount,CPULimit (MB),CPUShare,DiskUsage (GB)
"192.168.10.174","Blade, VMware, VM Server","80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162","00:30:13:F1:01:62","","","Managed","-","Running","-","Off","-","-","-","-","VMware ESX","4.0.0 Build-208167","","","192.168.10.174,192.168.10.58",""
```

```

", "0", "200", "0", "3071", "4( 2 ) Socket * 3.0GHz", "", "", "", "0"

[VirtualMachine]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStat
us, SummaryStatus, PowerState, HardwareStatus, MaintenanceStatus, RunningStatus,
ExecuteStatus, EventPolicyStatus, OperatingSystem, OSVersion, HostName, IPAddres
s, MachineSubType, Cost, MemorySize (MB), Processor, CPUCount, CPULimit (MB), CPUS
hare, DiskUsage (GB)
"MasterMachine", "VMware, Virtual Machine", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39
a6de7", "00:50:56:84:78:F6", "VMware Virtual Machine 7", "", "Managed", "-", "Off
", "-", "Off", "-", "-", "-", "Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition (3
2-bit)", "", "", "", "-", "0", "1024", "", "1", "Unlimited", "1000", "1.0"
"MasterVM", "VMware, Virtual Machine", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d
", "00:50:56:84:09:86", "VMware Virtual Machine 7", "", "Managed", "-", "Off", "-"
, "Off", "-", "-", "-", "Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition (32-bit
)", "", "", "", "-", "0", "1024", "", "1", "Unlimited", "1000", "1.0"

[Template]
#SoftwareName, CreateTime, SoftwareCost, SoftwareType, VMServerName, SoftwareLo
cation, ImageName, DiskSize (MB), Description
"FullCloneTemplate", "", "0", "Template, FullClone", "192.168.10.174", "Storage
1", "FullCloneTemplate", "", ""

```

```
>ssc show machine -ms on -vms 192.168.10.174 -perf -vertical
```

```

[VMServer-01]
MachineName      : 192.168.10.174
MachineType      : Blade, VMware, VM Server
Uuid             : 80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162
MacAddress       : 00:30:13:F1:01:62
ProductName      :
ModelName        :
ManagedStatus   : Managed
SummaryStatus    : -
PowerState       : Running
HardwareStatus   : -
MaintenanceStatus : Off
RunningStatus    : -
ExecuteStatus    : -
EventPolicyStatus : -
OperatingSystem  : VMware ESX
OSVersion        : 4.0.0 Build-208167
HostName         :
IPAddress        : 192.168.10.174, 192.168.10.58
ConnectionStatus :
VmsTotalCost     : 0
Capacity         : 200
VmCount          : 0
MemorySize (MB)  : 3071
Uptime           : 1 days, 06:52:49
LastStartTime    : 2010/07/12 9:29:19
CpuUsage (%)     : 5
HostCpuUsage (%) : 0
MemoryUsage (%)  : 24
HostMemoryUsage (%) : 0

[VirtualMachine-01]
MachineName      : MasterMachine

```

```

MachineType      :  VMware, Virtual Machine
Uuid             :  42044847-c340-8ec6-a0bf-36b248db25eb
:
:
:
[VirtualMachine-02]
:
:
:

[Template-01]
SoftwareName     :  FullCloneTemplate
CreateTime       :
SoftwareCost     :  0
SoftwareType     :  Template, FullClone
VMServerName     :  192.168.10.174
SoftwareLocation :  Storage1
ImageName        :  FullCloneTemplate
DiskSize (MB)    :
Description      :

```

```
>ssc show machine -ms on -smartgroup resource:/"Usable ESX" -spec
```

```

#UnitName,Uuid,MachineType,MacAddress,SummaryStatus,HardwareStatus,VendorI
D,MachineTag,MemorySize (MB),Family,ClockSpeed (GHz),NumCores,LogicalProces
sors,NumSockets,NumThreads
"esx41-1.local","1b29e313-3000-0180-dc11-f0e92b2e8004","Unitary, VMware, V
M Server","00:30:13:E3:29:1D","Normal","Ready","NEC","","2046","Intel(R) Xe
on(R) CPU          5110 @ 1.60GHz","1.6","4","4","2","4"
"esx41-9.local","1429e313-3000-0180-dc11-be70a8d0808a","Unitary, VMware, V
M Server","00:30:13:E3:29:18","Normal","Ready","NEC","","2046","Intel(R) Xe
on(R) CPU          5110 @ 1.60GHz","1.6","4","4","2","4"

```

```
>ssc show machine -vms XenServer01 -vm VM-W2K8
```

```

[VirtualMachine]
#Name,ManagedStatus,Uuid,MacAddress,Type,SummaryStatus,RunningStatus,Execut
eStatus,PowerStatus,EventPolicyStatus,OperatingSystemStatus,HardwareStatus,
MaintenanceStatus,OperatingSystem,OperatinGroup,HostName
"VM-W2K8","Managed","f72af3f3-5a91-27a9-c555-6a3021a58854","96:62:7A:57:23:
BC","Unitary, Xen, Virtual Machine","Normal","On","Wait","On","On","On","Re
ady","Off","Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise","¥¥XenTarget¥Win20
08R2SP1¥VM","VM-W2K8"

```

```

[VMServer]
#Name,ManagedStatus,Uuid,MacAddress,Type,SummaryStatus,RunningStatus,Execut
eStatus,PowerStatus,EventPolicyStatus,OperatingSystemStatus,HardwareStatus,
MaintenanceStatus,OperatingSystem,OperatinGroup,HostName
"XenServer01","Managed","ae3cd500-c0ca-11da-8001-001d924476bb","00:1D:92:44
:78:91","Unitary, Xen, VM Server","Normal","On","Wait","On","On","On","Read
y","Off","XenServer","¥¥XenServer¥XS","XenServer01"

```

```

[Datastore]
#DatastoreName,DatastoreSize (GB),DatastoreUsage (GB),DatastoreFree (GB),Da
tastoreUtilization (%),DataCenterPath,VmsManagerName
"SAN1","200.0","98.5","101.5","49","virtual:/172.16.0.16/XS61","XenServer01
,XenServer02"

```

```
>ssc show machine -vm vm01 -errorevent ExecuteStatus

#Name,#Type,#Number,StartTime,Message
"vm01","VirtualMachine","UC0001","2015/10/20 10:15:20","ジョブの実行(マシンを起動)"

>ssc show machine -vm vm01 -errorevent ExecuteStatus -vertical

Name : vm01
Type : VirtualMachine
Number : UC0001
StartTime : 2015/10/20 10:15:20
Message : ジョブの実行(マシンを起動)
```

[注]

- 仮想マシンサーバに接続できない場合や一時的に情報が取得できない場合、仮想マシンサーバ、および仮想マシンの性能情報(パフォーマンス、仮想リソース)を空白で表示する場合があります。

2.6.6 マシン情報の更新

指定したマシンの情報を更新します。

[構文]

```
ssc update machine < -name Machine | -uuid UUID > [-model ModelName] [-location Location] [-unitname name] [-tag Tag...] [-slot SlotNo] [-type Type] [-network NICNo,MAC,Switch,Port[...]] [-storage HBANo,WWN[...]] [-vendor [Vendor]] [-cpu [Clock(MHz),ProductName]] [-socket SocketCount] [-thread ThreadCount] [-lcpu LCPUCount] [-core CoreCount] [-memory [size(MB)]] [-newuuid Uuid] [-subtype SubType] [-onlypvm] [-esm]
```

[引数/オプション]

< -name Machine -uuid UUID > (必須)	対象マシンのマシン名、あるいは UUID を指定します。
[-model ModelName]	モデル名を指定します。
[-location Location]	ロケーションを指定します。 仮想マシンは指定できません。
[-unitname name]	ユニット名を指定します。
[-tag Tag...]	タグを指定します。複数指定可能です。
[-slot SlotNo]	スロット番号を指定します。
[-type Type]	マシン種別を指定します。 "unitary"、または "blade" が指定可能です。 Unitary、あるいは Blade マシンが対象です。
[-network NICNo,MAC,Switch,Port[...]]	以下のネットワーク情報を指定します。 NIC 番号、MAC アドレス、スイッチ、ポート データは","で区切って指定してください。 複数指定可能です。 NIC 番号には 1 以上 10 以下を指定します。

	仮想マシンは指定できません。
<code>[-storage <i>HBA</i>No,<i>WWN</i>[...]]</code>	以下のストレージ情報を指定します。 HBA 番号、アドレス データは "," で区切って指定してください。 複数指定可能です。 HBA 番号には 0 以上 9999 以下を指定します。 仮想マシンは指定できません。
<code>[-vendor [<i>Vendor</i>]]</code>	ベンダーを指定します。 "IBM"、"HP"、"NEC"、"DELL"、"Cisco" が指定可能です。 上記以外にベンダーに対応する数値を指定可能です。 [http://www.iana.org/assignments/enterprise-numbers] Vendor 省略時は Unknown(0) を設定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
<code>[-cpu [<i>Clock</i>(MHz),<i>ProductName</i>]]</code>	以下の CPU 情報を指定します。 CPU 周波数、CPU 種別 データは "," で区切って指定してください。 CPU 周波数は MHz 単位で指定してください。 <i>Clock</i> , <i>ProductName</i> 共に省略時は CPU 情報を削除します。 ただし CPU ソケット数、スレッド数、論理 CPU 数、 CPU コア数は削除しません。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません
<code>[-socket <i>SocketCount</i>]</code>	CPU ソケット数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
<code>[-thread <i>ThreadCount</i>]</code>	スレッド数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
<code>[-lcpu <i>LPCPUCount</i>]</code>	論理 CPU 数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
<code>[-core <i>CoreCount</i>]</code>	CPU コア数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
<code>[-memory [<i>size</i>(MB)]]</code>	メモリ総量を MB 単位で指定します。 <i>size</i> を省略した場合、メモリ情報を削除します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
<code>[-newuuid <i>Uuid</i>]</code>	UUID を指定します。
<code>[-subtype <i>SubType</i>]</code>	マシンサブ種別を指定します。 "none"、"ssc"、"vcenter"、"rescue" が指定可能です。
<code>[-onlypvm]</code>	DPM に対する UUID 更新通知を抑止します。
<code>[-esm]</code>	ESMPRO/ServerManager 上の UUID を更新します。 -uuid、-newuuid 以外は指定できません。

- 更新は情報項目 (全般、ネットワーク、ストレージ、スペック) ごとにされます。
エラーが含まれる項目は更新されません。また、そこで処理は打ち切られます。

[構文例]

全般情報設定

```
>ssc update machine -name machine1 -model "Express5800 110Rd-1" -location web
>ssc update machine -uuid 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D -slot 1 -type blade
```

ネットワーク情報設定

```
>ssc update machine -name machine1 -network 1,00:31:13:B8:F6:1D,switch1,lan2
>ssc update machine -name machine1 -network 1,00:31:13:B8:F6:1D,switch1,lan2
2,00:31:13:B8:F6:1E
```

ストレージ情報設定

```
>ssc update machine -name machine1 -storage 0,00:10:48:60:69:00:60:48
>ssc update machine -name machine1 -storage 0,00:10:48:60:69:00:60:48
1,00:10:48:60:68:00:60:48
```

スペック情報設定

```
>ssc update machine -name machine1 -vendor NEC
-cpu 1600,"Intel(R) Xeon(R) CPU 5110 @ 1.60GHz"
>ssc update machine -name machine1 -socket 2 -thread 4 -lcpu 4 -core 4
-memory 2048
```

2.6.7 マシンの電源操作

グループで稼働中のホスト、あるいは管理中マシンに対して、電源操作を行います。

[構文]

```
ssc power-control machine Operation <GroupName [HostName[...]] |
```

```
<-name MachineName[...] | -path Path[...] | -uuid UUID[...] | -mac MAC[...]>> [-status < wait | abort  
>] [-quick]
```

[引数/オプション]

<i>Operation</i> (必須)	操作内容を指定します。 startup:起動します。 shutdown:シャットダウンします。 reboot:再起動します。 suspend:サスペンドにします。(仮想マシンのみ)
<i>GroupName</i>	対象グループを指定します。 テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルのパスを指定します。 <i>HostName</i> を指定する場合は、グループを指定してください。
[<i>HostName</i> [...]]	稼働中のホスト名を指定します。 指定したグループに存在しているホストのみ複数指定できます。 省略時、対象グループで稼働するすべてのマシンを対象とします。
-name <i>MachineName</i> [...] -path <i>Path</i> [...] -uuid <i>UUID</i> [...]	設定する対象を指定します。 -name, -path, -uuid, -mac はいずれか 1 つを指定する必要があります。 指定する対象は複数指定が可能です。 -name : マシンの名称で指定します。

-mac <i>MAC</i> [...]	<p>-path : 対象までのパスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ビューのマシンまでのパス ビュータイプ(resource:/)は省略可能です。 <p>[運用] ビューの場合: operations:/Category/Group/Machine</p> <p>[リソース] ビューの場合: resource:/Group/Machine Group/Machine</p> <p>[仮想] ビューの場合: virtual:/VC/DC/VMS/VM</p> <ul style="list-style-type: none"> [リソース] ビューでのグループ、またはラックのパス resource:/Group/Rack Group/Rack [運用] ビューでのグループのパス operations:/Category/Group <p>-uuid : マシンの UUID で指定します。</p> <p>-mac : マシンのプライマリ MAC アドレスで指定します。</p> <p>-path 指定時、ビューを省略した場合、[リソース] ビューのパスとして扱われます。 パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-status < wait abort >]	<p>操作対象とするマシンの状態を指定します。</p> <p>wait : 実行ステータスが待機中のマシンを対象とします。</p> <p>abort : 実行ステータスが異常終了のマシンを対象とします。</p>
[-quick]	<p>起動時の確認処理を簡易的に行います。</p> <p>本オプションを指定しない場合と比べて、短時間で処理が完了します。</p> <p>VMware の VM のみ有効です。</p>

[注]

-quick オプションによる起動は、電源起動後の完了確認を簡略化して行いますので、操作完了後にまだ使用できない状態、もしくは操作自体がエラーになる可能性が、通常の起動操作より高くなりますが、その分短時間で処理が完了します。

[構文例]

[運用] ビューのグループ全体に対して起動

```
>ssc power-control machine startup Category1
>ssc power-control machine startup Category1/Group1
```

[運用] ビューの指定ホストに対してシャットダウン

```
>ssc power-control machine shutdown Category1/Group1 Host01
>ssc power-control machine shutdown Category1/Group1 Host01 Host02 Host03
```

[リソース] ビューのグループ全体に対して起動 (簡易起動)

```
>ssc power-control machine on -path resource:/VMGroup -quick
```

指定マシンに対して再起動 (マシン名指定)

```
>ssc power-control machine reboot -name machine1
```

指定マシンに対して再起動 (UUID 指定)

```
>ssc power-control machine reboot -uuid 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D
```

指定マシンに対して再起動 (MAC アドレス指定)

```
>ssc power-control machine reboot -mac 00:31:13:B8:F6:1D
```

2.6.8 バックアップ

バックアップを実行します。

[構文]

```
ssc machine backup Path -host HostName... [-concurrent Value] [-interval Value] [-description BackupDescription]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	グループまでのフルパスを指定します。
-host <i>HostName...</i> (必須)	稼働中のホスト名を指定します。(複数指定可能)
[-concurrent <i>Value</i>]	最大同時実行数を指定します。(既定値は 1) 1 から 100 の範囲で指定します。
[-interval <i>Value</i>]	実行間隔を指定します。(既定値は 0) 0 秒から 99999 秒の範囲で指定します。
[-description <i>BackupDescription</i>]	バックアップの説明を指定します。 バックアップの説明は " " で囲んで指定してください。 本オプション指定時は -host オプションは 1 つのホスト名のみ指定可能です。 本オプションを使用してのバックアップは同時に 1 台のみ実行可能です。

[構文例]

```
>ssc machine backup category1/group1 -host host1
>ssc machine backup category1/group1 -host host1 host2 host3
>ssc machine backup category1/group1 -host host1 host2 host3
  -concurrent 2 -interval 500
>ssc machine backup category1/froupl -host host1 -description "host1 の
バックアップです"
```

2.6.9 リストア

リストアを実行します。

[構文]

```
ssc machine restore Path -host HostName... [-concurrent Value] [-interval Value] [-imagename ImageName] [-force]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	グループまでのフルパスを指定します。
-host <i>HostName...</i>	稼働中のホスト名を指定します。(複数指定可能)

(必須)	
<code>[-concurrent Value]</code>	最大同時実行数を指定します。(既定値は 1) 1 から 100 の範囲で指定します。
<code>[-interval Value]</code>	実行間隔を指定します。(既定値は 0) 0 秒から 99999 秒の範囲で指定します。
<code>[-imagename ImageName]</code>	リストアするバックアップのイメージ名を指定します。 DPM サーバに格納されているバックアップイメージをフルパスで、" " で囲んで入力します。 本オプションを使用してリストアを実行する際には実行確認のメッセージが表示されます。強制的に実行する場合は <code>-force</code> オプションを指定してください。 本オプション指定時は <code>-host</code> オプションは 1 つのホスト名のみ指定可能です。
<code>[-force]</code>	<code>-imagename</code> を指定してリストアを実行する際に <code>-force</code> を指定することで強制的にリストアを実行します。

[構文例]

```
>ssc machine restore category1/group1 -host host1
>ssc machine restore category1/group1 -host host1 host2 host3
>ssc machine restore category1/group1 -host host1 host2 host3
  -concurrent 2 -interval 500
>ssc machine restore -host host1 -iamgename "D:¥DeployBackup¥image1.lbr"
```

2.6.10 ハードウェアの登録

ハードウェアを管理対象にします。

[構文]

```
ssc register hardware Type HardwareName [-account Account] [-p Password] [-scope Scope] [-serialno SerialNumber]
```

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	ハードウェアの種別を指定します。 [ネットワーク系] switch: 物理スイッチ lb: ロードバランサ firewall: ファイアウォール [ストレージ系] istorage: iStorage symmetrix: Symmetrix smi-s: SMI-S clarix: CLARiX netappstorage: NetApp
<i>HardwareName</i> (必須)	ハードウェア名、または IP アドレスを指定します。 <i>Type</i> が firewall、clarix、netappstorage の場合は IP アドレスを指定します。 それ以外のストレージ系の <i>Type</i> の場合はディスクアレイ名を指定します。
<code>[-account Account]</code>	ハードウェアのアカウントを指定します。 <i>Type</i> が firewall、clarix、netappstorage の場合のみ指定できます。

<code>[-p Password]</code>	ハードウェアのパスワードを指定します。 <i>Type</i> が <code>firewall</code> 、 <code>clarix</code> 、 <code>netappstorage</code> の場合のみ指定できます。
<code>[-scope Scope]</code>	スコープを指定します。 数値で指定可能で 0:グローバル、1:ローカル、2:LDAP を意味します。 省略した場合は 0 です。 <i>Type</i> が <code>clarix</code> の場合のみ指定できます。
<code>[-serialno SerialNumber]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に シリアル番号を指定します。 <i>Type</i> が <code>istorage</code> 、 <code>symmetrix</code> 、 <code>smi-s</code> の場合のみ指定できます。

[構文例]

```
>ssc register hardware switch Switch01
>ssc register hardware lb LB01
>ssc register hardware firewall 192.168.1.2 -account root -p xxxxx
>ssc register hardware smi-s 0123456789ABCDEF
>ssc register hardware istorage M100 -serialno 0123456789ABCDEF
>ssc register hardware clarix 192.168.1.3 -account root -p xxxxx -scope 1
>ssc register hardware netappstorage 192.168.1.4 -account root -p xxxxx
```

2.6.11 マシンの保守操作

指定マシンに対して保守操作を行います。

[構文]

```
ssc maintenance machine Operation <-name MachineName | -fullpath FullPath | -uuid UUID | -mac MAC>
```

[引数/オプション]

<i>Operation</i> (必須)	操作内容を指定します。 poweron: 電源オンします。 poweroff: 強制オフします。 reset: リセットします。 powercycle: パワーサイクルを実行します。 dump: ダンプを実行します。 ledon: LED を点灯します。 ledoff: LED を消灯します。 acpishutdown: ACPI シャットダウンを実行します。
-name <i>MachineName</i> -fullpath <i>FullPath</i> -uuid <i>UUID</i> -mac <i>MAC</i>	設定する対象を指定します。 -name, -fullpath, -uuid, -mac はいずれか 1 つを指定する必要があります。 -name: マシンの名称で指定します。 -fullpath: 対象マシンまでのパスで指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 各ビューのマシンまでのパス ビュータイプを省略した場合、[リソース] ビューのパスとして扱われます。 パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。

	-uuid: マシンの UUID で指定します。 ・ UUID の入力構文: dddddd-dddd-dddd-dddddddddddd ※ d:0-9、a-f、または A-F -mac: マシンのプライマリ MAC アドレスで指定します。 ・ MAC アドレスの入力構文: xx:xx:xx:xx:xx:xx、または xx-xx-xx-xx-xx-xx ※ x:0-9、a-f、または A-F
--	--

[注]

本コマンドでは、マシンの種別によりできる操作が異なります。詳細は以下の表に記載します。

種別	poweron	poweroff	reset	powercycle	dump	ledon	ledoff	acpishutdown
物理マシン (仮想マシンサーバも含む)	○	○	○	○	○	○	○	○
仮想マシン	○	○	○	○	×	×	×	×

物理マシン (仮想マシンサーバも含む) を操作する場合、OOB のアカウントを事前に設定して下さい。

稼動マシンに対して電源操作を行う場合は、メンテナンスモードを On にしてください。

[構文例]

```

指定マシンに対して電源オン (マシン名指定)
>ssc maintenance machine poweron -name machine1
指定マシンに対して強制オフ ([リソース] ビューパス指定)
>ssc maintenance machine poweroff -fullpath resource:/Group1/machine1
指定マシンに対してリセット ([仮想] ビューパス指定)
>ssc maintenance machine reset -fullpath virtual:/VC1/DataCenter/ESXi1
指定マシンに対してパワーサイクル ([運用] ビューパス指定)
>ssc maintenance machine powercycle -fullpath operation:/Category/Group/host1
指定マシンに対してダンプ (ビュー指定なしのパス指定)
>ssc maintenance machine dump -fullpath Group1/machine1
指定マシンに対して LED の点灯 (UUID 指定)
>ssc maintenance machine ledon -uuid 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D
指定マシンに対して LED の消灯 (MAC アドレス指定)
>ssc maintenance machine ledoff -mac 00:31:13:B8:F6:1D
指定マシンに対して ACPI シャットダウン (マシン名指定)
>ssc maintenance machine acpishutdown -name machine1

```

2.6.12 マシンの構成変更

稼動マシンに対して構成変更を行います。

[構文]

```
ssc machine chcfg GroupName HostName
```

```
[-storage] [-vlan] [-pflow] [-virtualnetwork] [-lb] [-shutdown]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ)
<i>HostName</i> (必須)	稼働中のホスト名を指定します。
[-storage]	ストレージの構成変更を実施します。 仮想マシンに対しては指定できません。
[-vlan]	VLAN の構成変更を実施します。 仮想マシンに対しては指定できません。
[-pflow]	P-Flow の構成変更を実施します。 仮想マシンに対しては指定できません。
[-virtualnetwork]	仮想ネットワークの構成変更を実施します。 仮想マシンに対しては指定できません。
[-lb]	構成変更前に LB からマシンを取り外します。
[-shutdown]	構成変更前にマシンを停止します。 仮想マシンに対しては指定できません。

[構文例]

```
>ssc machine chcfg Tenant/Category/Group Host
>ssc machine chcfg Tenant/Category/Group Host -shutdown
>ssc machine chcfg Group2 Host -vlan -virtualnetwork
```

[注]

- -storage, -vlan, -pflow, -virtualnetwork, -lb オプションを
すべて省略した場合は、すべての構成に対して構成変更を実施します。
1 つでも指定した場合は、その構成に対して構成変更を実施します。

2.6.13 マシンの検索

マシンの検索を行います。

[構文]

```
ssc search machine Keyword [-all] [-vertical]
```

[引数/オプション]

<i>Keyword</i> (必須)	キーワードを指定します。100 文字以内で指定してください。
[-all]	すべてのマシンを検索対象とする場合に指定します。 省略した場合、ホストに割り当てられているマシンを検索します。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc serch machine xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx
>ssc search machine xx:xx:xx:xx:xx:xx -all
>ssc search machine machine01 -vertical
```

2.7 マシンアカウント

2.7.1 アカウントの作成

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを作成します。

SigmaSystemCenter では、管理対象の管理 / 監視 / 制御で使用する接続の種別ごとにアカウントを設定することができます。

[構文]

```
ssc machine-account create < -uuid UUID | -machine MachineName > -type ConnectionType [-ip IPAddress] -u UserName [-p Password] [-overwrite] [-mon on|off]
```

[引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i> -machine <i>MachineName</i> > (必須)	アカウント登録する対象のマシンの UUID、またはマシン名を指定します。管理対象外のマシンも指定できます。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。"oob" と "ib" をサポートします。OOB は、Out-of-Band-Management で使用されます。
[-ip <i>IPAddress</i>]	IP アドレスを指定します。 -type が "oob" の場合のみサポートします。
-u <i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i>]	パスワードを指定します。 [-p <i>Password</i>] を省略した場合、パスワード指定なしとなります。 <i>Password</i> に、空文字 (") を指定した場合、省略した場合と同じ扱いとなります。
[-overwrite]	マシンアカウントが既に登録済みの場合、上書きをします。 [-overwrite] を省略した場合、マシンアカウントが既に登録されているとエラーになります。
[-mon on off]	監視の設定をします。 -type が "oob" の場合のみ有効です。

[構文例]

```
>ssc machine-account create -machine SV0100 -type oob -ip 192.168.1.100 -u User01
-p xxxxxxx
>ssc machine-account create -uuid 7DEB0F09-0BC6-495f-9CF6-A15EBC88BCC9 -ty
```

```

pe oob
-ip 192.168.1.101 -u User02
>ssc machine-account create -machine SV0200 -type oob -ip 192.168.1.102 -
u User01
-p "" -overwrite
>ssc machine-account create -uuid 1CC9EBCC-7091-498d-84D2-B2F168690BC8 -ty
pe oob
-p xxxxxxxx
>ssc machine-account create -machine SV0100 -type oob -ip 192.168.1.100 -
u User01
-p xxxxxxxx -mon on

```

2.7.2 アカウントの更新

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを更新します。

[構文]

```
ssc machine-account update < -uuid UUID | -machine MachineName > -type ConnectionType [-ip
IPAddress] [-u UserName] [-p Password] [-mon on|off]
```

[引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i> -machine <i>MachineName</i> > (必須)	対象マシンの UUID、またはマシン名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。"oob" と "ib" をサポートします。 OOB は、Out-of-Band-Management で使用されます。
[-ip <i>IPAddress</i>]	更新する IP アドレスを指定します。 -type が "oob" の場合のみサポートします。
[-u <i>UserName</i>]	更新するユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字が区別されることがあります。 -type が "oob" の場合のみサポートします。
[-p <i>Password</i>]	更新するパスワードを指定します。 <i>Password</i> に、空文字 ("") を指定した場合は、パスワードを削除します。
[-mon on off]	監視の設定をします。 -type が "oob" の場合のみ有効です。

- -ip、-u、-p、-mon オプションのうち、いずれか1つは必ず指定してください。

[構文例]

```

>ssc machine-account update -machine SV0100 -type oob -ip 192.168.1.100
-u User01a -p xxxxxxx
>ssc machine-account update -uuid 1CC9EBCC-7091-498d-84D2-B2F168690BC8 -ty
pe oob
-ip 192.168.1.200
>ssc machine-account update -machine SV0200 -type oob -u User02a
>ssc machine-account update -uuid 3571C728-EE55-4a43-A8AE-DDDA3ED8EBA0 -ty
pe oob

```

```
-p xxxxxxxx
>ssc machine-account update -machine SV0100 -type oob -mon off
```

2.7.3 アカウントの削除

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを削除します。

[構文]

```
ssc machine-account delete < -uuid UUID | -machine MachineName > -type ConnectionType
```

[引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i> -machine <i>MachineName</i> > (必須)	対象マシンの UUID、またはマシン名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。"oob" と "ib" をサポートします。 OOB は、Out-of-Band-Management で使用されます。

[構文例]

```
>ssc machine-account delete -machine SV0100 -type oob
>ssc machine-account delete -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439 -type oob
```

2.7.4 アカウントの表示

管理対象、または管理対象外マシンのアカウント情報を表示します。

[構文]

```
ssc machine-account show [ -uuid UUID | -machine MachineName ] [-setting]
```

[引数/オプション]

[-uuid <i>UUID</i> -machine <i>MachineName</i>]	対象マシンの UUID、またはマシン名を指定します。 <i>UUID</i> 、もしくは <i>MachineName</i> を省略した場合、すべての登録されたマシンが対象になります。
[-setting]	CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc machine-account show
>ssc machine-account show -setting
>ssc machine-account show -machine SV0100
>ssc machine-account show -machine SV0100 -setting
>ssc machine-account show -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439
>ssc machine-account show -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439 -setting
```

[表示例]

```
>ssc machine-account show
```

```
[1]
MachineName      : SV0100
UUID             : 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439
MachineAccount
  UserName       : user01
  HostName       : 192.168.1.100

  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:00:00]
  Monitoring       : ON

[2]
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName       : 192.168.1.101

  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
  Monitoring       : OFF
```

```
>ssc machine-account show -setting
```

```
#MachineName,UUID,UserName,HostName,Connection Status,Monitoring
SV0100,503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439,user01,192.168.1.100,Connecte
d [2009/06/09 13:00:00],ON
SV0101,555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE,user02,192.168.1.101,Connecte
d [2009/06/09 13:15:00],OFF
```

```
>ssc machine-account show -machine SV0101
```

```
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName       : 192.168.1.101

  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
  Monitoring       : ON
```

```
>ssc machine-account show -uuid
555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
```

```
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName       : 192.168.1.101

  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
  Monitoring       : OFF
```

```
>ssc machine-account show -uuid
555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE -setting
```

```
#MachineName,UUID,UserName,HostName,Connection Status,Monitoring
```

```
SV0101,555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFFFFFFE,user02,192.168.1.101,Connecte
d [2009/06/09 13:15:00],ON
```

2.8 グループ

2.8.1 グループの作成

テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを作成します。

[構文]

```
ssc create group GroupName <[-tenant] | [-category] | [-ostype OperatingSystemType] | [-modeltype ModelType]> [-machinetype MachineType] [-count Count] [-priority Priority] [-pool <group | shared>] [-dpmmanager DPMManager] [-vnet VirtualNetworkName...] [-optimized <on | off | none>] [-dc DatacenterName] [-prestriction] [-resource ResourcePoolName] [-resourceid Id] [-scaleoutgroup <off | [max=Value] [min=Value] [scaleoutcount=Value] [scaleincount=Value] [shutdown=<on | off>]>] [-mailto E-mailAddress]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	作成するテナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを指定します。 カテゴリ、グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 ※カテゴリ、グループのパスに未作成のカテゴリがある場合は、そのカテゴリを作成します。また、モデルのパスにあるグループは、既存のグループでなければなりません。 -tenant を指定した場合は、テナント作成、 -category を指定した場合は、カテゴリ作成、 -ostype を指定した場合は、グループ作成、 -modeltype を指定した場合は、モデル作成となります。 (例: テナント、カテゴリ、カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[-tenant]	テナントを作成する場合に指定します。
[-category]	カテゴリを作成する場合に指定します。
[-ostype <i>OperatingSystemType</i>]	OS 種別を指定します。 グループ作成時は、省略することはできません。 以下の <i>OperatingSystemType</i> を指定できます。 いずれか1つを指定してください。 <i>OperatingSystemType</i> : OS 種別 Linux: Linux Windows-client: Windows Client Windows: Windows Server
[-modeltype <i>ModelType</i>]	モデルに設定するモデル種別を指定します。 <i>ModelType</i> : モデル種別 Physical: 物理モデル VM: VM モデル VMServer: VM サーバモデル モデル作成時は、省略することはできません。

	省略するとグループを作成します。
<code>[-machinetype MachineType]</code>	グループに設定するマシン種別を指定します。 <i>MachineType</i> : マシン種別 Physical: 物理 VM: VM VMServer: VM サーバ 省略すると VM が指定されます。
<code>[-count Count]</code>	作成するグループ数、またはモデル数を指定します。 1 以上を指定してください。 2 以上の場合は、 <i>GroupName</i> に 1 から順に通し番号を付加します。 既定値は (1) です。
<code>[-priority Priority]</code>	グループ、またはモデルのプライオリティを指定します。 1 以上 10 以下で指定してください。既定値は (1) です。
<code>[-pool <group shared>]</code>	プールマシンの検索モードを指定します。 グループ作成時のみ指定できます。 group: グループプールのマシンのみ検索します(GroupOnly)。 shared: グループプールに対象マシンがない場合、共通プールも検索します(GroupAndShared)。
<code>[-dpmmanager DPMManager]</code>	DPM サーバの IP アドレスを指定します。 <i>ModelType</i> / <i>MachineType</i> が "VM" の場合、または、テナント / カテゴリの場合に有効です。
<code>[-vnet VirtualNetworkName...]</code>	仮想ネットワーク名を指定します。 <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VM" の場合に有効です。 最大 4 つ (NIC#1 から NIC#4 まで) 指定できます(空白区切り)。 記述順に、NIC#1 から割り当てます。 ※仮想ネットワーク設定でエラーになった場合でも、モデルは作成されています。その場合、Web コンソールで該当モデルの仮想ネットワークを設定し直す必要があります。
<code>[-optimized<on off none>]</code>	最適起動の有効 / 無効 / 設定なしを指定します。 <i>ModelType</i> / <i>MachineType</i> が "VMServer" / "VM" の場合、または、テナント / カテゴリの場合に有効です。
<code>[-dc DatacenterName]</code>	データセンタ名を指定します。[仮想] ビューのパスを指定します。 <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VMServer" の場合に有効です。 (例: 仮想マネージャ/DataCenter)
<code>[-prestriction]</code>	配置制約の設定を有効にします。 [-prestriction] を省略した場合は、配置制約の設定は無効になります。 <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VMServer" の場合に有効です。
<code>[-resource ResourcePoolName]</code>	使用するリソースプール名を指定します。 <i>ModelType</i> / <i>MachineType</i> が "VM" の場合、または、テナント / カテゴリの場合に有効です。
<code>[-resouceid Id]</code>	リソース管理 ID を指定します。 テナント作成の場合に有効です。
<code>[-scaleoutgroup <off [max=Value] [min=Value] [scaleoutcount=Value]</code>	スケールアウトグループとしての設定を行います。 "=" の前後に空白は指定できません。 off: スケールアウトグループとしての設定を行いません。 他のパラメータと同時指定はできません。

[<i>scaleincount=</i> <i>Value</i>] [<i>shutdown=<on off></i>]>]	<i>max=</i> <i>Value</i> : 最大稼働台数を設定します。 1 から 10000 の範囲で指定します。 <i>min=</i> <i>Value</i> : 最低稼働台数を設定します。 0 から 10000 の範囲で指定します。 <i>scaleoutcount=</i> <i>Value</i> : スケールアウト台数を設定します。 1 から 100 の範囲で指定します。 <i>scaleincount=</i> <i>Value</i> : スケールイン台数を設定します。 1 から 100 の範囲で指定します。 <i>shutdown=<on off></i> : スケールイン時に、稼働中マシンのシャットダウン有無を設定します。 on : シャットダウンします。 off : シャットダウンしません。
[-mailto <i>E-mailAddress</i>]	通報先メールアドレスを指定します。 グループ作成時のみ指定できます。

[構文例]

VM グループを作成 (リソースプールを指定、DPM サーバを指定)

```
>ssc create group VMGroup -ostype Windows -machinetype VM -resource ResourcePool
-dpmmanager 127.0.0.1
```

VM サーバモデルを作成 (データセンタ名指定、配置制約を有効設定)

```
>ssc create group Category1/Group01/VmsModel01 -modeltype VMServer
-dc VC/Datacenter1 -prestriction
```

・ 作成タイプ別指定可能オプション

作成タイプ	オプション
Tenant	-tenant -resourceid -dpmmanager -optimized
Category	-category -resource -dpmmanager -optimized
Group (Physical)	-ostype -machinetype -count -priority -pool -scaleoutgroup -mailto
Group (VM)	-ostype -machinetype -count

	<p>-priority</p> <p>-pool</p> <p>-scaleoutgroup</p> <p>-mailto</p> <p>-dpmmanager</p> <p>-resource</p> <p>-vnet</p> <p>-optimized</p>
Group (VMServer)	<p>-ostype</p> <p>-machinetype</p> <p>-count</p> <p>-priority</p> <p>-pool</p> <p>-scaleoutgroup</p> <p>-mailto</p> <p>-dc</p> <p>-prestriction</p> <p>-optimized</p>
Model (Physical)	<p>-modeltype</p> <p>-count</p> <p>-priority</p>
Model (VM)	<p>-modeltype</p> <p>-count</p> <p>-priority</p> <p>-dpmmanager</p> <p>-resource</p> <p>-vnet</p> <p>-optimized</p>
Model (VMServer)	<p>-modeltype</p> <p>-count</p> <p>-priority</p> <p>-dc</p> <p>-prestriction</p> <p>-optimized</p>

2.8.2 グループ設定情報の編集

テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルの設定内容を編集、または更新します。

[構文]

```
ssc update group GroupName [-pool <group | shared>] [-policy PolicyName...] [-higherpolicy <on | off>] [-priority Priority] [-dpmmanager [DPMManager]] [-vnet VirtualNetworkName...] [-optimized <on | off | none>] [-dc [DatacenterName]] [-vmoptimize <on | off>] [-loadbound <[low=value]
```

[high=*value*] [dl=*value*] [du=*value*]>] [-reserve *ReserveMachineNumber*] [-prestriction <on | off>] [-domain *name* [*account*] [*password*]] [-dns [*primary*] [*secondary*] [*tertiary*]] [-resource[*ResourcePoolName*]] [-balancelevel *n*] [-scaleoutgroup <off | [on] [max=*Value*] [min=*Value*] [scaleoutcount=*Value*] [scaleincount=*Value*] [shutdown=<on | off>]>] [-mailto *E-mailAddress*]

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	更新するテナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを指定します。 グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 (例: テナント、カテゴリ、カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[-pool <group shared>]	プールマシンの検索モードを指定します。 <i>GroupName</i> にグループを指定した場合に有効です。 group: グループプールのマシンのみ検索します。 shared: グループプールに対象マシンがない場合、 共通プールも検索します。
[-policy <i>PolicyName</i> ...]	ポリシー名を更新します。 <i>PolicyName</i> を省略した場合、ポリシー設定がされていない状態になります。
[-higherpolicy <on off>]	グループのポリシー設定を使用するか指定します。 <i>GroupName</i> がモデルの場合、有効です。 on: グループのポリシー設定を使用する設定を有効にします。 off: グループのポリシー設定を使用する設定を無効にします。
[-priority <i>Priority</i>]	グループ、またはモデルのプライオリティを更新します。 1 以上 10 以下で指定してください。
[-dpmmanager [<i>DPMManager</i>]]	DPM サーバの IP アドレスを指定します。 <i>DPMManager</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM" の場合に有効です。
[-vnet <i>VirtualNetworkName</i> ...]	仮想ネットワークを指定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM" の場合に有効です。 最大 4 つ (NIC#1 から NIC#4 まで) 指定できます。 既存の設定をすべて削除して、再設定します。 既存の設定に対して、追加、編集、削除はできません。 変更のない仮想ネットワーク名も含めて指定する必要があります。 <i>VirtualNetworkName</i> を省略した場合、未設定となります。
[-optimized <on off none>]	最適起動を設定します。 <i>GroupName</i> のモデルやマシンの種別が "VM" または "VM サーバ" の場合に有効です。 on: 最適起動を有効にします。 off: 最適起動を無効にします。 none: 上位階層の設定を継承します。すべての階層で "none" が指定されている場合は、最適起動は無効となります。
[-dc [<i>DatacenterName</i>]]	データセンタ名を指定します。[仮想] ビューのパスを指定します。 (例: 仮想マネージャ/DataCenter) <i>DatacenterName</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM サーバ" の場合に有効です。

[-vmoptimize <on off>]	<p>VM 最適配置を設定します。</p> <p><i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM サーバ" の場合に有効です。</p> <p>on: VM 最適配置の設定を有効にします。</p> <p>off: VM 最適配置の設定を無効にします。</p>
[-loadbound <[low= <i>value</i>] [high= <i>value</i>] [dl= <i>value</i>] [du= <i>value</i>]>]	<p>VM 最適配置の負荷分散、省電力を設定します。</p> <p><i>value</i> には 0 以上 100 以下 (単位: %) の値を指定します。</p> <p>"=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>low、high、dl、du のいずれか 1 つ指定する必要があります。</p> <p><i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM サーバ" の場合に有効です。</p> <p>low: 低負荷境界を指定します。</p> <p>high: 高負荷境界を指定します。</p> <p>dl: 稼動目標域の下限値を指定します。</p> <p>du: 稼動目標域の上限値を指定します。</p>
[-reserve <i>ReserveMachineNumber</i>]	<p>VM 最適配置の予備マシン台数を指定します。</p> <p>0 以上 9 以下の範囲で指定します。</p> <p><i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM サーバ" の場合に有効です。</p>
[-prestriction <on off>]	<p>配置制約を設定します。</p> <p><i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM サーバ" の場合に有効です。</p> <p>on: 配置制約の設定を有効にします。</p> <p>off: 配置制約の設定を無効にします。</p>
[-domain <i>name</i> [<i>account</i>] [<i>password</i>]]	<p>ドメイン (サフィックス) 名を指定します。</p> <p>Windows 系の場合は、アカウントとパスワードもあわせて指定します。</p>
[-dns [<i>primary</i>] [<i>secondary</i>] [<i>tertiary</i>]]	<p>DNS サーバの IP アドレスを指定します。</p> <p><i>primary</i>: プライマリ DNS を指定します。</p> <p><i>secondary</i>: セカンダリ DNS を指定します。</p> <p>(Windows, Linux 系)</p> <p><i>tertiary</i>: ターシャリ DNS を指定します。</p> <p>(Linux 系)</p> <p>上記設定がない場合は、現在の値がクリアされます。</p> <p>例)</p> <pre>-dns 192.168.10.1 172.10.1.5 192.168.1.1 primary=192.168.10.1 secondary=172.10.1.5 tertiary=192.168.1.1 -dns 192.168.10.1 172.10.1.5 primary=192.168.10.1 secondary=172.10.1.5 tertiary= -dns 192.168.10.1 primary=192.168.10.1 secondary= tertiary= -dns</pre>

	<p>primary= secondary= tertiary=</p>
<code>[-resource[ResourcePoolName]]</code>	<p>リソースプールを指定します。 <i>ResourcePoolName</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> がテナント、カテゴリ、あるいは配下のモデル種別やマシン種別が "VM" の場合に有効です。</p>
<code>[-balancelevel n]</code>	<p>最適起動の分散レベルを指定します。 <i>GroupName</i> のモデルやマシンの種別が VM または VM サーバの場合に有効です。 <i>n</i> には 0,1,2,3,none のいずれかを指定してください。 0: 仮想マシン起動時に現在の仮想マシンサーバが優先されます。 -現在の仮想マシンサーバでキャパシティ超過となる場合は、他の仮想マシンサーバで起動されます。このとき、起動状態でキャパシティの空きが大きい仮想マシンサーバが優先されます。 -現在の仮想マシンサーバが停止状態の場合は、起動状態でキャパシティの空きが大きい仮想マシンサーバが優先されます。 -起動先仮想マシンサーバを決定する際には、仮想マシンサーバの CPU 使用率・メモリ使用量は考慮されません。 1: 仮想マシン起動時に現在のサーバが優先されます。 -現在の仮想マシンサーバでキャパシティ超過となる場合は、他の仮想マシンサーバで起動されます。このとき、起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。 -現在の仮想マシンサーバが停止状態の場合は、起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。 -現在の仮想マシンサーバが高負荷である (CPU 使用率が VM サーバモデルの移動目標域上限を超過する / メモリ使用量が上限を超過する) と判断された場合は、起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。 2: 仮想マシン起動時に起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。 3: 仮想マシン起動時に停止状態のものを含む全仮想マシンサーバ中で、低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。停止状態の仮想マシンサーバは負荷 "0" とみなされるため基本的に停止状態の仮想マシンサーバが優先されます。 none: 上位階層の設定を継承します。すべての階層で "none" が指定されている場合は、分散レベル 1 として動作します。</p>
<code>[-scaleoutgroup <off on]</code> <code>[max=Value]</code> <code>[min=Value]</code> <code>[scaleoutcount=Value]</code> <code>[scaleincount=Value]</code> <code>[shutdown=<on off>]>]</code>	<p>スケールアウトグループとしての設定を行います。 "=" の前後に空白は指定できません。 off: スケールアウトグループの設定を無効にします。 他のパラメータと同時に指定はできません。 on: スケールアウトグループの設定を有効にします。 max=Value: 最大稼働台数を設定します。 1 から 10000 の範囲で指定します。 min=Value: 最低稼働台数を設定します。 0 から 10000 の範囲で指定します。 scaleoutcount=Value: スケールアウト台数を設定します。 1 から 100 の範囲で指定します。 scaleincount=Value:</p>

	<p>スケールイン台数を設定します。 1 から 100 の範囲で指定します。 shutdown=<on off> : スケールイン時に、稼動中マシンの シャットダウン有無を設定します。 on : シャットダウンします。 off : シャットダウンしません。</p>
[-mailto <i>E-mailAddress</i>]	<p>通報先メールアドレスを指定します。 <i>GroupName</i> にグループを指定した場合に有効です。</p>

[構文例]

VM グループの設定を更新

```
>ssc update group VMGroup -resource ResourcePool -dpmmanager 127.0.0.1
```

VM サーバモデルの設定を更新

```
>ssc update group Category1/Group01/VmsModel01 -vmoptimize on
-loadbound low=10 dl=20 du=60 high=80 -reserve 2
>ssc update group Category1/Group01/VmsModel01 -dc VC/Datacenter1
-prestriction on
```

・ 更新対象別指定可能オプション

更新対象	オプション
Tenant	-tenant -dpmmanager -optimized
Category	-category -resource -dpmmanager -optimized
Group (Physical)	-priority -pool -policy -domain -dns -scaleoutgroup -mailto
Group (VM)	-priority -pool -policy -domain -dns -scaleoutgroup -mailto -dpmmanager -vnet

	-optimized -resource -balancelevel
Group (VMServer)	-priority -pool -policy -domain -dns -scaleoutgroup -mailto -dc -vmoptimize -loadbound -reserve -prestriction
Model (Physical)	-priority -policy -higherpolicy
Model (VM)	-priority -policy -higherpolicy -dpmmanager -vnet -optimized -resource -balancelevel
Model (VMServer)	-priority -policy -higherpolicy -dc -vmoptimize -loadbound -reserve -prestriction

2.8.3 グループの削除

テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを削除します。

[構文]

```
ssc delete group GroupName [GroupName...] [-i]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象となるテナント、カテゴリ、グループ、またはモデルのパスを指定します。 (例: テナント、テナント/カテゴリ、カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル) テナント、またはカテゴリの場合、配下にグループが存在すると削除できません。
--------------------------	--

	グループで稼動しているマシン、グループのプールで待機しているマシンがある場合は、削除できません。
[-i]	確認メッセージを表示します。

[構文例]

```
>ssc delete group Category1/Group01
>ssc delete group Group-A001 Group-B001
>ssc delete group Group-C001 Group-D001 -i
```

2.8.4 グループ設定の表示

テナント、カテゴリ、グループの設定内容を表示します。

[構文]

```
ssc show group GroupName [-group] [-model [ModelName...]] [-path] [-vertical]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	グループ設定を表示するグループを指定します。 テナント、カテゴリ、グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ指定時は、その配下のグループが対象です。 全グループの設定を表示するには "/" を指定します。 (例: カテゴリ、カテゴリ/グループ)
[-group]	グループの設定内容を表示します。
[-model[<i>ModelName...</i>]]	モデルの設定内容を表示します。 対象となるモデル名を指定することができます。
[-path]	パスを表示します。 <i>GroupName</i> を省略した場合、トップ階層のテナント、カテゴリ、グループの一覧を表示します。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc show group Category1
>ssc show group Category1/Group01
>ssc show group Group-A001 -group
>ssc show group Group-B001 -model
>ssc show group Group-B001 -model Model-B001 Model-B002
>ssc show group Category1 -path
>ssc show group Group-A001 -group
>ssc show group / -vertical
```

2.8.5 マシンプロファイルの設定

マシンプロファイルを設定します。

[構文]

```
ssc set profile Path <ProfileName | [-cost costValue] [-cpu count=value [share=value]
[reservation=value] [limit=value]] [-mem size=value [share=value] [reservation=value]
[limit=value]] [-vnet VirtualNetworkName...] [-vnettype <vlan | network | edit>...] [-bandcontrol
nic=value [type=value] [limit=value burstlimit=value burstsize=value], ...] [-systemdisk [size=value]
[type=<thin | thick>] [independent] [datastoretag=value | datastore] [file=value] [share=value]
[reservation=value] [limit=value]] [-extdisk [size=value] [ctrl=value [position=value]] [type=<thin |
thick | rdm-p | rdm-v>] [independent] [reservation=value] [limit=value] [datastoretag=value |
datastore] [lun] [file=value] [share=value] [reservation=value] [limit=value], ...] | -delete [cost | cpu |
mem | vnet | systemdisk | extdisk]> [-host HostName]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	<p>設定対象運用グループ、モデル、またはホストまでのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。</p> <p>例:</p> <p>グループ指定の場合 Category/Group</p> <p>モデル指定の場合 Category/Group/Model</p> <p>ホスト指定の場合 Category/Group/Host</p> <p>ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Host</p>
<i>ProfileName</i>	<p>名前付きプロファイル名を指定します。 [-host] 以外のオプションと同時に指定することはできません。</p>
[-cost costValue]	<p>コスト値を指定します。1 から 1000 の範囲で指定します。 <i>ProfileName</i> や -delete と同時に指定することはできません。</p>
[-cpu count=value [share=value] [reservation=value] [limit=value]]	<p>CPU 数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。 CPU 数は必ず指定してください。 "=" の前後に空白は指定できません。 <i>ProfileName</i> や -delete と同時に指定することはできません。</p> <p>count : CPU 数を指定します。 value に、1 以上 9999 以下を指定します。 (例: count=2)</p> <p>share : CPU のシェア値を指定します。 CPU シェアの各仮想化基盤での設定値は 以下の通り</p> <p>VMware 設定値 * CPU 数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256 / 1000 KVM 設定値 * 1024 / 1000</p> <p>value に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。</p>

	<p>he: 最高 (4000) h: 高 (2000) n: 標準 (1000) l: 低 (500) le: 最低 (250) 1-99999: 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation: CPU の予約値 (MHz) を指定します。 value に、0 以上 99999 以下を指定します。 (例: reservation=1000) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit: CPU の制限値 (MHz) を指定します。 value に、0 以上 99999 以下を指定します。 (例: limit=1500) 省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
[-mem size=value [share=value] [reservation=value] [limit=value]]	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。 ProfileName や -delete と同時に指定することはできません。</p> <p>size: メモリのサイズ (MB) を指定します。 value に、1 (MB) 以上 99999999 (MB) 以下。 を指定します (例: size=512)</p> <p>share: メモリのシェア値を指定します。 メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V 設定値 * 5 Xen 設定不可 KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h: 高 (2000) n: 標準 (1000) l: 低 (500) 0-10000: 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation: メモリの予約値 (MB) を指定します。 value に、0 以上 99999999 以下を指定します。 (例: reservation=2048) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit: メモリの制限値 (MB) を指定します。 value に、0 以上 99999999 以下を指定します。 (例: limit=4096)</p>

	省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。
[-vnet VirtualNetworkName...]	仮想ネットワークを指定します。 最大 10 (NIC#1 から NIC#10 まで) 指定できます。 (空白区切りで指定します。) 記述順に、NIC#1 から順に割り当てます。 ProfileName や -delete と同時に指定することはできません。 DeploymentManager の固有情報反映を利用し、設定可能な NIC 数の上限は対象 OS が Windows Vista 以降の場合 "8"、 Windows 2000、Windows Server 2003、Windows XP の場合 "4" です。
[-vnettype <vlan network edit>...]	ネットワークタイプを指定します。 設定するネットワーク数分指定してください。 記述順に NIC#1 から順に割り当てます。 VLAN 名を指定する場合は、"vlan" 論理ネットワーク名を指定する場合は、"network" 任意のネットワーク名を指定する場合は、"edit" 省略した場合は、VLAN、あるいは任意の指定となります。 ProfileName や -delete と同時に指定することはできません。
[-bandcontrol nic=value [type=value] [limit=value burstlimit=value burstsize=value], ...]	ネットワーク帯域制御を指定します。 nic : NIC 番号を指定します。 type : 制御する通信の方向を指定します。 in / out のいずれかを指定します。 省略可能です。省略時は out が設定されます。 Hyper-V は out のみ設定可能です。 limit : 上限 [kbits/s] を指定します。 burstlimit : バースト時上限 [kbits/s] を指定します。 burstsize : バーストサイズ [kbytes] を指定します。 NIC の帯域制御を設定するには limit、burstlimit、burstsize に値を指定します。 省略できません。 無制限に設定するには limit、burstlimit、burstsize に 0 を指定します。省略できません。 NIC の帯域制御の設定を解除するには limit、burstlimit、burstsize は指定しません。
[-systemdisk [size=value] [type=<thin thick>] [independent] [datastoretag=value datastore] [file=value] [share=value] [reservation=value] [limit=value]]	システムディスク情報の設定をします。 ProfileName や -delete と同時に指定することはできません。 size : システムディスクのサイズ (MB) を指定します。 type : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時は thick が設定されます。 independent : "independent" と指定することで、 ディスクの独立型モードが設定されます。 VMware 環境で有効です。 datastore : システムディスクの位置を指定します。 datastoretag : データストアのタグを指定します。 "datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定します。 省略可能です。 file : 既存のファイルパスを指定します。

	<p>省略可能です。</p> <p>share : ディスクのシェア値を指定します。 ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値 Hyper-V 設定不可 Xen 設定不可 KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000) n : 標準(1000) l : 低 (500) 200-4000 : 手動 (例: share=h, share=1000)</p> <p>reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。 value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。 Hyper-V 環境で有効です。 (例: reservation=1000) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。 value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。 (例: limit=1500) 省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<p>[-extdisk [size=value] [ctrl=value [position=value]] [type=<thin thick rdm-p rdm-v>] [independent] [datastoretag=value datastore] [lun] [file=value] [share=value] [reservation=value] [limit=value], ...]</p>	<p>拡張ディスク情報の設定をします。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。(6 個まで) <i>ProfileName</i> や <i>-delete</i> と同時に指定することはできません。</p> <p>size : ディスクのサイズを指定します。 value に、10 (MB) 以上 99999999 (MB) 以下を指定します。 ディスクのタイプが rdm-p / rdm-v いずれかの場合は、1 (GB) 以上 10000000 (GB) 以下で LUN サイズ範囲 (既定値 10) の倍数を指定します。</p> <p>ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ value に以下を指定します。 PCIx IDEx SCSIx SATAx AutoDetect (自動選択) x はバス番号</p> <p>position : 拡張ディスクを付ける位置 value に以下の値が指定できます。 PCI の場合 0～31 IDE の場合 0～1 SCSI の場合 0～63 SATA の場合 0～29 ctrl=AutoDetect 時は指定できません。 拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は</p>

	<p>仮想基盤によって指定できる値が異なります。</p> <p>指定可能な値は、「1.1.8 各仮想基盤のコントローラと位置情報 (18 ページ)」を参照してください。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。</p> <p>thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定します。</p> <p>省略可能です。省略時は thick が設定されます。</p> <p>rdm-p:RDM (物理)</p> <p>rdm-v:RDM (仮想)</p> <p>independent : "independent" と指定することで、ディスクの独立型モードが設定されます。</p> <p>VMware 環境で有効です。</p> <p>ディスクタイプに RDM (物理) 指定時は "independent" は指定できません。</p> <p>*type=thick / thin の場合</p> <p>datastoretag : データストアのタグを指定します。</p> <p>datastore : 拡張ディスクの位置を指定します。</p> <p>"datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定します。</p> <p>省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成されます。</p> <p>*type=rdm-p / rdm-v の場合</p> <p>lun : ターゲット LUN (タグ) を指定します。</p> <p>file : 既存のファイルパスを指定します。</p> <p>省略可能です。</p> <p>share : ディスクのシェア値を指定します。</p> <p>ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値</p> <p>Hyper-V 設定不可</p> <p>Xen 設定不可</p> <p>KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000)</p> <p>n : 標準(1000)</p> <p>l : 低 (500)</p> <p>200-4000 : 手動</p> <p>(例: share=h, share=1000)</p> <p>reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>Hyper-V 環境で有効です。</p> <p>(例: reservation=1000)</p> <p>省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>(例: limit=1500)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
-delete [cost cpu mem vnet systemdisk extdisk]	<p>設定情報を消去します。</p> <p>オプション名を指定しない場合、すべての設定情報を消去します。</p> <p>オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。</p> <p><i>ProfileName</i> や [-host] 以外のオプションと同時に指定することはできません。</p>

<code>[-host HostName]</code>	<p>設定対象のホスト名を指定します。</p> <p>このオプションを指定した場合、<i>Path</i> に運用グループを指定してください。</p> <p>設定対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。</p>
-------------------------------	--

[注]

- `-cpu` オプション、`-mem` オプション、`-systemdisk` オプション、`-extdisk` オプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

[構文例]

```
>ssc set profile Group1 middle
>ssc set profile Group1 -cost 100
>ssc set profile Group1 -cpu count=2 share=h
>ssc set profile Group1/model -cpu count=2 share=600 -mem size=1024
>ssc set profile Group1/model -vnet "VM Network"
>ssc set profile Group1/host1 -systemdisk type=thin Storage1
>ssc set profile Group1/host1 -extdisk size=2048
>ssc set profile Group1 -systemdisk type=thick independent tag1
>ssc set profile Group1 -extdisk size=100 ctrl=SCSI0 position=0
    type=rdm-p LUN1, size=100 ctrl=AutoDetect type=rdm-v independent LUN2
>ssc set profile Group1 -delete
>ssc set profile operations:/Group1/model -delete cpu
```

2.8.6 ホストプロファイルの設定

ホストプロファイルを設定します。

[構文]

```
ssc set hostprofile Path <ProfileName | [-ostype OsType][[-os [osname=<name | code>]
[password=value] [SysprepFile=value] [owner=value] [orgname=value] [timezone=value]
[productkey=value] [ConnectedNumber=value] [DomainType=<workgroup | domain>]
[DomainName=value] [DomainAccount=value] [DomainPassword=value] [License=value]
[AccoutName=value] [Roles=value, ...]] [-dns
NICNo,<Primary,Secondary,PrimaryWINS,SecondaryWINS | Primary,Secondary,Tertiary> ...] [-
extend Command=value] | -delete [os | dns | extend | osservice | account] [-dns4 NICNo,<Primary |
Primary,Secondary | Primary,Secondary,Tertiary> ...] [-dns6 NICNo,<Primary | Primary,Secondary |
Primary,Secondary,Tertiary> ...] [-wins4 NICNo,<Primary | Primary,Secondary> ...]> [-host
HostName] [-osservice ServiceName ...] [-account Name=value Password=value [Roles=value, ...]
[Groups=value, ...], ...]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	<p>設定対象運用グループ、モデル、ホストまでのフルパスを指定します。</p> <p>ビュータイプ (operations:/) を省略可能です。</p> <p>テナント、カテゴリは指定できません。</p> <p>例:</p> <p>グループ指定の場合</p> <p>Category/Group</p>
---------------------	--

	<p>モデル指定の場合 Category/Group/Model</p> <p>ホスト指定の場合 Category/Group/Host</p> <p>ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Host</p>
<i>ProfileName</i>	<p>公開されたプロファイル名を指定します。 [-host] 以外のオプションと同時に指定することはできません。</p>
[-ostype <i>OsType</i>]	<p>OS 種別を指定します。 以下の <i>OsType</i> を指定できます。 いずれか 1 つを指定してください。 <i>OsType</i> : OS 種別 Windows: Windows Server Windows-client: Windows Client Linux: Linux</p>
[-os [osname=< <i>name</i> <i>code</i> >] [password= <i>value</i>] [SysprepFile= <i>value</i>] [owner= <i>value</i>] [orgname= <i>value</i>] [timezone= <i>value</i>] [productkey= <i>value</i>] [ConnectedNumber= <i>value</i>] [DomainType=<workgroup domain>] [DomainName= <i>value</i>] [DomainAccount= <i>value</i>] [DomainPassword= <i>value</i>] [License= <i>value</i>] [AccoutName= <i>value</i>] [Roles= <i>value</i> , ...]]	<p>OS 情報を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。 <i>ProfileName</i> や -delete と同時に指定することはできません。 osname : OS 名 OS 名のコード、または WebUI で表示されている文字列を指定します。 「1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ)」 を参照してください。 解除する場合は、"0" を指定してください。 password : パスワード SysprepFile : インポートする Sysprep ファイル OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。 owner : Owner 名 OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。 orgname : 組織名 OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。 timezone : タイムゾーン OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。 タイムゾーンのコード、または WebUI で表示されている文字列を指定します。 「1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ)」 を参照してください。 値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。 productkey : プロダクトキー OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。 「xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx」の形式で入力してください。 ConnectedNumber : 同時接続サーバ数 OS 種別が Windows Server の場合のみ指定できます。 指定しない場合は、ライセンスモードが「接続クライアント」になります。 DomainType : ワークグループ設定 ワークグループの場合 workgroup、ドメインの場合 domain と指定します。</p>

	<p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>DomainName : ドメイン (ワークグループ) 名</p> <p>DomainAccount : ドメインアカウント</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>DomainPassword : ドメインパスワード</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>License : ライセンス情報</p> <p>OS 種別が Linux の場合で、グループに登録されているモデルが VM サーバの場合のみ指定できます。</p> <p>xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx の形式で入力してください。</p> <p>AccountName : ビルトイン管理のアカウント名</p> <p>ビルトイン管理者の名前を変更する場合にアカウント名を指定します。</p> <p>Roles : 役割</p> <p>"Controller", "WSMan", "None" が指定できます。</p> <p>OS の操作に使用する場合は "Controller" を指定します。ESMPRO/ServerAgentService 登録に使用する場合は "WSMan" を指定します。設定を解除する場合は "None" を指定します。</p>
<p>[-dns NICNo, <Primary,Secondary, PrimaryWINS,SecondaryWINS Primary,Secondary,Tertiary> ...]</p>	<p>DNS 情報を指定します。</p> <p>ProfileName や -delete と同時に指定することはできません。</p> <p>NICNo : NIC 番号を指定します。</p> <p>Primary : 優先 (プライマリ) DNS</p> <p>Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS</p> <p>Tertiary : ターシャリ DNS</p> <p>OS 種別が Linux の場合のみ指定できます。</p> <p>PrimaryWINS : 優先 (プライマリ) WINS</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>SecondaryWINS : 代替 (セカンダリ) WINS</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>[-dns4]、[-dns6]、および [-wins4] と同時に指定できません。</p>
<p>[-extend Command=value]</p>	<p>拡張情報の設定をします。</p> <p>"=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>Command : 追加するコマンドを指定します。</p> <p>複数指定時は、"," で区切ってください。</p> <p>ProfileName や -delete と同時に指定することはできません。</p>
<p>-delete [os dns extend osservice account]</p>	<p>設定情報を消去します。</p> <p>オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。</p> <p>オプション名を指定しない場合、すべての設定情報を消去します。</p> <p>OS 情報のみを消去することはできません。</p> <p>ProfileName や他のオプションと同時に指定することはできません。</p>
<p>[-dns4 NICNo, <Primary Primary,Secondary Primary,Secondary,Tertiary> ...]</p>	<p>DNS 情報 (IPv4) を指定します。</p> <p>ProfileName や -delete と同時に指定することはできません。</p> <p>NICNo : NIC 番号を指定します。</p> <p>Primary : 優先 (プライマリ) DNS</p> <p>Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS</p> <p>Tertiary : ターシャリ DNS</p>

	OS 種別が Linux の場合のみ指定できます。 [-dns] と同時に指定できません。
[-dns6 <i>NICNo</i> , < <i>Primary</i> <i>Primary,Secondary</i> <i>Primary,Secondary,Tertiary</i> > ...]	DNS 情報 (IPv6) を指定します。 <i>ProfileName</i> や <i>-delete</i> と同時に指定することはできません。 <i>NICNo</i> : NIC 番号を指定します。 <i>Primary</i> : 優先 (プライマリ) DNS <i>Secondary</i> : 代替 (セカンダリ) DNS <i>Tertiary</i> : ターシャリ DNS OS 種別が Linux の場合のみ指定できます。 [-dns] と同時に指定できません。
[-wins4 <i>NICNo</i> , < <i>Primary</i> <i>Primary,Secondary</i> > ...]	WINS 情報 (IPv4) を指定します。 OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。 <i>ProfileName</i> や <i>-delete</i> と同時に指定することはできません。 <i>NICNo</i> : NIC 番号を指定します。 <i>Primary</i> : 優先 (プライマリ) WINS <i>Secondary</i> : 代替 (セカンダリ) WINS [-dns] と同時に指定できません。
[-host <i>HostName</i>]	設定対象のホスト名を指定します。 このオプションを指定した場合、 <i>Path</i> に運用グループを指定してください。 設定対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。
[-osservice <i>ServiceName</i> ...]	マシンの起動時に起動を待ち合わせるサービスの名前を指定します。 複数の指定する場合は空白区切りで指定します。
[-account <i>Name=value</i> <i>Password=value</i> [<i>Roles=value</i> , ...] [<i>Groups=value</i> , ..., ...]	ユーザアカウントを指定します。 <i>Name</i> : アカウント名を指定します。 "Administrator" または "root" は指定できません。 <i>Password</i> : パスワードを指定します。 <i>Roles</i> : 制御に使用する用途と指定します。 "Controller", "WSMan" が指定できます。 OS の操作に使用する場合は "Controller" を指定します。ESMPRO/ ServerAgentService 登録に使用する場合は "WSMan" を指定します。 <i>Groups</i> : グループを指定します。 アカウントを複数指定する場合は','で区切ってください。

[注]

- -os オプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

[構文例]

```
Public Profile
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 PublicHostProfile

Windows OS
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -os osname=11
password="pass" owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123
DomainType=workgroup DomainName="WorkGroup"
-dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2 2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
```

```

>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -os osname="Windows Server 2008
Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section" timezone=235
productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123 ConnectedNumber=10
DomainType=domain DomainName="Domain1" DomainAccount="admin"
DomainPassword=adminpass -dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2
2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -os osname="Windows Server 2008
Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section" timezone=235
productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123 ConnectedNumber=10
DomainType=domain DomainName="Domain1" DomainAccount="admin"
DomainPassword=adminpass -dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101
-dns6 1,::192.168.1.150 3,::192.168.1.152 -wins4 1,192.168.1.200 2,192.16
8.1.201

Linux OS
>ssc set hostprofile category1/linuxgroup1 -os
osname="SUSE Linux Enterprise Server 9"
password="pass" DomainName="Domain1"
-dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2,192.168.1.3
>ssc set hostprofile category1/linuxgroup1 -os
osname="SUSE Linux Enterprise Server 9"
password="pass" DomainName="Domain1"
-dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101,192.168.1.102
-dns6 1,::192.168.1.150,::192.168.1.151

-extend
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -extend Command=startcmd1,startcm
d2

-delete
>ssc set hostprofile -delete os dns
>ssc set hostprofile -delete

```

2.8.7 マシン置換

指定したマシンを置換します。

[構文]

ssc replace machine *GroupName* *HostName* [-pool *MachineName* | -shared *MachineName*]

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	グループ、またはモデルをフルパスで指定します。
<i>HostName</i> (必須)	置換元マシンが稼動しているホスト名を指定します。
[-pool <i>MachineName</i>]	指定グループのプールマシンを置換先マシンとして指定します。 -shared と同時に指定することはできません。
[-shared <i>MachineName</i>]	共通プールのマシンを置換先マシンとして指定します。 -pool と同時に指定することはできません。

[注]

- ユニット名の設定を行った場合、*MachineName* には、ユニット名を指定してください。

[構文例]

置換先マシンを指定しない場合

```
>ssc replace machine Category1/Group1 Host01
>ssc replace machine Category1/Group1/Model1 Host01
```

グループプールマシンを置換先マシンとして指定する場合

```
>ssc replace machine Category1/Group1 Host01 -pool PoolMachine1
>ssc replace machine Category1/Group1/Model1 Host01 -pool PoolMachine1
```

共通プールマシンを置換先マシンとして指定する場合

```
>ssc replace machine Category1/Group1 Host01 -shared SharedMachine1
>ssc replace machine Category1/Group1/Model1 Host01 -shared SharedMachine1
```

2.8.8 スケールイン

スケールインを行います。

[構文]

ssc scalein *GroupName*

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	スケールインを行うグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ)
--------------------------	--

[構文例]

```
>ssc scalein category1/wingroup1
>ssc scalein tenant1/vmgroupl
>ssc scalein vmgroup1
```

2.8.9 スケールアウト

スケールアウトを行います。

[構文]

ssc scaleout *GroupName*

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	スケールアウトを行うグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント、カテゴリ/グループ、グループ)
--------------------------	---

[構文例]

```
>ssc scaleout category1/wingroup1
>ssc scaleout tenant1/vmgroup1
>ssc scaleout vmgroup1
```

2.8.10 指定したグループの階層を DPM に反映

指定したグループの階層を DPM に反映します。

[構文]

```
ssc dpm-location notify <Path | -all>
```

[引数/オプション]

<i>Path</i>	DPM に階層を反映するテナント/カテゴリ/グループをフルパスで指定します。
-all	すべてのテナント/カテゴリ/グループの階層を反映させる場合に指定します。

[注]

Path または -all どちらか片方を指定する必要があります。

[構文例]

```
>ssc dpm-location notify category1/group1
>ssc dpm-location notify -all
```

2.9 ホスト

2.9.1 ホストの作成

グループにホストを作成します。

[構文]

```
ssc create host GroupName HostName [IPAddress <SubnetMask | [SubnetPrefixLength]>
[DefaultGateway] [-monitor]] [-hc HostCount] [-product ProductKey] [-p Password] [-priority n] [-
emergency <on | off | opened>] [-evacuationpolicy <open | keep>] [-autostartup <on | off>]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ホストを作成するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	グループに作成するホスト名を指定します。 入力できる文字数は 63 文字以内です。 ただし、数字のみで構成されたホスト名、あるいはホスト名の語尾に入力できる数字の文字数は、9 文字 (9 桁) 以内です。
[<i>IPAddress</i>]	作成するホストに設定する IP アドレスを指定します。 NIC#1 に設定されます。

	<p><i>HostCount</i> が 2 以上の場合は、指定した IP アドレスから順に+1 します。</p> <p><i>SubnetMask</i>、<i>DefaultGateway</i>、<i>[-monitor]</i> を指定した場合、省略することはできません。</p>
<i>SubnetMask</i>	<p>作成するホストの IP アドレスのサブネットマスクを指定します。</p> <p><i>IPAddress</i> を指定する必要があります。</p> <p><i>IPAddress</i> (IPv4) を指定した場合は、省略することはできません。</p> <p><i>SubnetPrefixLength</i> と同時に指定することはできません。</p>
<i>[SubnetPrefixLength]</i>	<p>サブネットプレフィックス長を指定します。</p> <p>省略した場合、64 が設定されます。</p> <p><i>SubnetMask</i> と同時に指定することはできません。</p>
<i>[DefaultGateway]</i>	<p>デフォルトゲートウェイを指定します。</p> <p><i>IPAddress</i> を指定する必要があります。</p>
<i>[-monitor]</i>	<p>指定すると、<i>IPAddress</i> を管理用 IP アドレスとして設定します。</p> <p><i>IPAddress</i> を指定する必要があります。</p>
<i>[-hc HostCount]</i>	<p>グループに作成するホスト数を指定します。</p> <p>2 以上を指定すると、<i>HostName</i> に 1 から順に通し番号を付加します。</p> <p><i>IPAddress</i> を指定した場合、IP アドレスが割り当てられる範囲内で指定してください。</p>
<i>[-product ProductKey]</i>	<p>プロダクトキーを指定します。</p> <p>グループの OS 種別が以下の場合、指定できます。</p> <p>Windows Client / Windows Server for IPF / Windows Server</p>
<i>[-p Password]</i>	<p>Administrator のパスワードを指定します。</p> <p>ホストに設定されている管理者パスワードを使用する場合に指定してください。</p> <p>省略すると、グループに設定されているパスワードを使用します。</p>
<i>[-priority n]</i>	<p>ホストの優先度を設定します。</p> <p><i>n</i> には 1 (最高) から 5 (最低) までの優先度の値を指定してください。</p>
<i>[-emergency <on off opened>]</i>	<p>非常用ホストを設定します。</p> <p>on : 非常用ホストの設定を有効にします。</p> <p>off : 非常用ホストの設定を無効にします。</p> <p>opened : 非常用ホストの設定を有効にし、開封済にします。</p>
<i>[-evacuationpolicy <open keep>]</i>	<p>VM 退避時の非常用ホスト利用ポリシーを設定します。</p> <p>open : 非常用ホストを開封します。</p> <p>keep : 非常用ホストを開封しません。</p>
<i>[-autostartup <on off>]</i>	<p>ホストに割り当てられている仮想マシンに対して、仮想マシンサーバの起動に連動して自動的に起動を行うかどうかを設定します。</p> <p>このオプションは、仮想マシンのみ指定できます。</p> <p>on : 自動起動を有効にします。</p> <p>off : 自動起動を無効にします。</p>

[構文例]

```
>ssc create host Category1/Group01 HOST-001
>ssc create host Group-A001 Host-A001 192.168.10.100 255.255.255.0 -hc 50
>ssc create host Group-B001 Host-B001 192.168.20.200 255.255.255.0 192.168.20.1
-monitor
```

```
>ssc create host Group-C001 Host-C001 -product xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxx
xx
>ssc create host Group-D001 Host-D001 -p xxxxxxxx
```

2.9.2 ホストの編集

ホストの設定内容を編集、または更新します。

[構文]

```
ssc update host GroupName HostName [-name NewHostName] [-product ProductKey] [-tag
TagName] [-change group DestinationGroupName] [-p Password] [-priority n] [-emergency <on | off |
opened>] [-evacuationpolicy <open | keep>] [-autostartup <on | off>]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	編集、更新するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	編集、更新するホスト名を指定します
[-name <i>NewHostName</i>]	<i>HostName</i> の設定内容を <i>NewHostName</i> に更新します。
[-product <i>ProductKey</i>]	プロダクトキーを更新します。 グループの OS 種別が以下の場合に更新ができます。 Windows Client Windows Server
[-tag <i>TagName</i>]	タグを更新します。
[-change group <i>DestinationGroupName</i>]	グループ間移動 (仮想マシンメンテナンス) を行います。 このオプションは、仮想マシンのみ指定できます。 <i>HostName</i> の移動先グループを指定します。 グループで稼動している仮想マシンのホストを別のグループに 移動させるために、ホストの設定内容を更新します。 モデルまでのパスを指定します。 ホストは稼動状態 (リソース割り当て済み) である必要があります。 他のオプションと同時に指定はできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[-p <i>Password</i>]	ホストに設定されている管理者パスワードを使用する場合の パスワードを指定します。
[-priority <i>n</i>]	ホストの優先度を設定します。 <i>n</i> には 1 (最高) から 5 (最低) までの優先度の値を指定して下さい。
[-emergency <on off opened>]	非常用ホストを設定します。 on : 非常用ホストの設定を有効にします。 off : 非常用ホストの設定を無効にします。 opened : 非常用ホストの設定を有効にし、開封済にします。
[-evacuationpolicy <open keep>]	VM 退避時の非常用ホスト利用ポリシーを設定します。 open : 非常用ホストを開封します。

	keep: 非常用ホストを開封しません。
[-autostartup <on off>]	ホストに割り当てられている仮想マシンに対して、仮想マシンサーバの起動に連動して自動的に起動を行うかどうかを設定します。 このオプションは、仮想マシンのみ指定できます。 on: 自動起動を有効にします。 off: 自動起動を無効にします。

-name、-product、-tag、-changegroup、-p、-priority、-emergency、-evacuationpolicy、-autostartupのうち、いずれか1つは必ず指定する必要があります。

[注]

- ホストのグループ間移動 (-changegroup) を行うには、以下の条件を満たしている必要があります。コマンド実行前に、移動元と移動先のグループ、モデル設定を確認してください。
 - 変更元、変更先グループのモデル種別が VM
 - 変更元、変更先グループの OS 種別、および仮想ネットワークの設定が同じ
 - 移動対象と同じ名前のホストが、変更先のグループに存在しない
 - 移動対象と同じ仮想マシンが、変更先の同じモデルグループのプールに存在しない
- データベースに対する操作のみで、ホストのグループ間移動を行いますので、ストレージ、ロードバランサ、ネットワーク、電源制御、DeploymentManager 上のグループ移動は行いません。

[構文例]

```
>ssc update host Category1/Group-01 Host-001 -name Host-A01
>ssc update host Category1/Group-01 Host-002
-product xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003 -tag tag001
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003 -p xxxxxxxx
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003
-changegroup Category1/Group-02/Mode-0201
```

2.9.3 ホストの削除

グループのホスト定義を削除します。

[構文]

```
ssc delete host GroupName [HostName...] [-i]
```

[引数/オプション]

GroupName (必須)	対象となるグループのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。
[HostName...]	対象となるホスト名を指定します。 省略すると、グループに設定されているすべてのホスト定義を削除します。 稼動しているマシンのホスト定義は削除できません。

[-i]	確認メッセージを表示します。
------	----------------

[構文例]

```
>ssc delete host Category1/Group01 HOST-01
>ssc delete host Category1/Group01 HOST-01 HOST-02
>ssc delete host Category1/Group01 HOST-01 -i
```

2.9.4 ホスト定義の表示

ホスト定義の設定内容を表示します。

[構文]

```
ssc show host <GroupName [HostName...] | SmartGroupName> [-net] [-storage] [-software] [-vertical]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	ホスト定義を表示するグループを指定します。 テナント、カテゴリやグループまでのパスを指定します。モデルは指定できません。 (例: テナント、カテゴリ、カテゴリ/グループ)
[<i>HostName...</i>]	対象となるホスト名を指定します。
<i>SmartGroupName</i>	指定したスマートグループの条件に合致するホスト定義の情報を表示します。 グループのパスは、存在するパスを指定します。 [運用] ビューのスマートグループが指定可能です。 (設定例) category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 直下の smartgroup101 を指定します。 smartgroup102 : [運用] ビュー のルートノード直下の smartgroup102 を指定します。
[-net]	ネットワーク設定を表示します。 [-storage]、[-software] と同時に指定することはできません。
[-storage]	ストレージ設定を表示します。 [-net]、[-software] と同時に指定することはできません。
[-software]	ソフトウェア設定を表示します。 [-net]、[-storage] と同時に指定することはできません。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc show host Category1/Group01 HOST-01
>ssc show host Group-A001 -vertical
>ssc show host category1/group11/smartgroup101
>ssc show host Category1/Group01 HOST-01 -net
>ssc show host Group-A001 -storage -vertical
>ssc show host category1/group11/smartgroup101 -software
```

2.9.5 ホストの依存関係設定の作成

ホストの依存関係設定を作成します。

[構文]

ssc dependency create-setting *DependencyName*

[引数/オプション]

<i>DependencyName</i> (必須)	依存関係設定の名前を指定します。(100 文字以内)
-------------------------------	----------------------------

[構文例]

```
>ssc dependency create-setting dependency1
```

2.9.6 ホストの依存関係設定の削除

ホストの依存関係設定を削除します。

[構文]

ssc dependency delete-setting *DependencyName*

[引数/オプション]

<i>DependencyName</i> (必須)	依存関係設定の名前を指定します。
-------------------------------	------------------

[構文例]

```
>ssc dependency delete-setting dependency1
```

2.9.7 ホストの依存関係設定の変更

ホストの依存関係設定を変更します。

[構文]

ssc dependency update-setting *DependencyName* <[-name *NewName*] [-enabled *expression*] [-auto *expression*] [-weak *expression*]>

[引数/オプション]

<i>DependencyName</i> (必須)	依存関係設定の名前を指定します。
[-name <i>NewName</i>]	依存関係設定の新しい名前を指定します。(100 文字以内)
[-enabled <i>expression</i>]	依存関係の有効無効を設定します。 <i>expression</i> の記述に従って指定します。
[-auto <i>expression</i>]	依存先、または依存元を自動的に操作対象に追加するかどうかを設定します。 <i>expression</i> の記述に従って指定します。

<code>[-weak expression]</code>	依存先、または依存元の状態に関わらず操作を実行するかどうかを設定します。 <code>expression</code> の記述に従って指定します。
---------------------------------	---

- `expression` : フラグ形式、または演算子形式で指定します。
 - フラグ形式 : 左から順に、起動・停止・再起動・VM 退避に対するフラグ (1:ON, 0:OFF) を指定します。
(例) 起動:ON、停止:ON、再起動:OFF、VM 退避:OFF → 1100
 - 演算子形式 : 現在の値に対する変更を操作毎に演算子 (+:ON、 -:OFF) で指定します。
 - * 起動 → startup(u)
 - * 停止 → shutdown(d)
 - * 再起動 → reboot(r)
 - * VM 退避 → evacuate(e)

(例) 起動を ON に停止を OFF に変更 → +startup -shutdown、または +u -d

[注]

- VM 退避に対する -auto の値は、-weak の値によって自動的に決定されます。(-weak が ON の場合 -auto は OFF、-weak が OFF の場合 -auto は ON となります)

[構文例]

```
>ssc dependency update-setting dependency1 -name dependency2 -enabled 1101
-auto +u -d -weak +d +e
```

2.9.8 ホストの依存関係設定の表示

ホストの依存関係設定を表示します。

[構文]

ssc dependency show-setting

[引数/オプション]

なし

[構文例]

```
>ssc dependency show-setting
```

[表示例]

```
>ssc dependency show-setting
#Name,Enabled,Auto,Weak
"dependency1","udre","ud-e","udr-"
"dependency2","u--e","u---","---e"
```

- u,d,r,e は、それぞれ起動、停止、再起動、VM 退避に対してフラグが ON であることを示します。

2.9.9 ホストの依存関係の追加

ホストの依存関係を追加します。

[構文]

```
ssc dependency add DependencyName SourceName DestinationName
```

[引数/オプション]

<i>DependencyName</i> (必須)	依存関係設定の名前を指定します。
<i>SourceName</i> (必須)	依存元 (依存する側) のホストの名前を指定します。
<i>DestinationName</i> (必須)	依存先 (依存される側) のホストの名前を指定します。

[構文例]

```
>ssc dependency add dependency1 group/host1 group/host2
```

2.9.10 ホストの依存関係の削除

ホストの依存関係を削除します。

[構文]

```
ssc dependency delete DependencyName SourceName DestinationName
```

[引数/オプション]

<i>DependencyName</i> (必須)	依存関係設定の名前を指定します。
<i>SourceName</i> (必須)	依存元 (依存する側) のホストの名前を指定します。
<i>DestinationName</i> (必須)	依存先 (依存される側) のホストの名前を指定します。

[構文例]

```
>ssc dependency delete dependency1 group/host1 group/host2
```

2.9.11 ホストの依存関係の表示

ホストの依存関係を表示します。

[構文]

ssc dependency show *DependencyName*

[引数/オプション]

<i>DependencyName</i> (必須)	依存関係設定の名前を指定します。
-------------------------------	------------------

[構文例]

```
>ssc dependency show dependency1
```

[表示例]

```
>ssc dependency show dependency1
#SourceHost, DestinationHost
"group/host1", "group/host2"
"group/host3", "group/host4"
```

2.10 IP アドレス

2.10.1 IP アドレス情報の追加

グループのホストに IP アドレス (ネットワーク) を追加します。

[構文]

```
ssc add ipaddress GroupName HostName NicNumber IPAddress <SubNetMask |  
[SubNetPrefixLength> [DefaultGateway] [-monitor] [-hc HostCount]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	IP アドレス情報を追加するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	IP アドレスを追加するホスト名を指定します。 -hc に 2 以上を指定した場合、 <i>HostName</i> は、末尾が数字でなければなりません。
<i>NicNumber</i> (必須)	対象となる NIC 番号を指定します。
<i>IPAddress</i> (必須)	IP アドレスを指定します。 IP アドレスは、指定した <i>IPAddress</i> を基準にホスト数分+1 します。 <i>SubNetMask</i> 、[<i>DefaultGateway</i>]、[-monitor] を指定した場合、省略することはできません。
<i>SubNetMask</i>	サブネットマスクを指定します。 <i>IPAddress</i> (IPv4) を設定した場合、省略することはできません。 <i>SubNetPrefixLength</i> と同時に指定することはできません。
[<i>SubNetPrefixLength</i>]	サブネットプレフィックス長を指定します。 省略した場合、64 が設定されます。

	<i>SubNetMask</i> と同時に指定することはできません。
[<i>DefaultGateway</i>]	デフォルトゲートウェイを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-monitor]	指定すると、 <i>IPAddress</i> を管理用 IP アドレスとして設定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-hc <i>HostCount</i>]	IP アドレスを設定するホスト数を指定します。 2 以上を指定すると、 <i>HostName</i> の末尾の数字を基準に通し番号を付加した名前のホストに追加します。 <i>IPAddress</i> を指定した場合、IP アドレスが割り当てられる範囲内で指定してください。

[構文例]

```
>ssc add ipaddress Category1/Group01 HOST-01 1 192.168.100.100 255.255.255.0
>ssc add ipaddress Group-A001 Host-A001 2 192.168.1.100 255.255.255.0 -hc 50
>ssc add ipaddress Group-A001 Host-A001 2 192.168.2.100 255.255.255.0 192.168.1.1
-monitor
```

2.10.2 IP アドレス情報の削除

ホストの *IPAddress* を削除します。

[構文]

```
ssc delete ipaddress GroupName HostName NicNumber <-ipaddress IPAddress | -all> [-i]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象となるグループを指定します。
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
<i>NicNumber</i> (必須)	対象となる NIC 番号を指定します。
-ipaddress <i>IPAddress</i>	対象となる IP アドレスを指定します。 -all と同時に指定できません。
-all	グループの <i>NicNumber</i> すべての IP アドレスを削除します。 -ipaddress と同時に指定できません。
[-i]	確認メッセージを表示します。

[構文例]

```
>ssc delete ipaddress Category1/Group01 HOST-01 1 -ipaddress 192.168.100.100
>ssc delete ipaddress Group-A001 Host-A001 2 -ipaddress 192.168.1.100 -i
>ssc delete ipaddress Group-A001 Host-A001 2 -all
```

2.11 ソフトウェア

2.11.1 ソフトウェアの追加

グループ (グループ / モデル)、ホスト、マシンにソフトウェアを追加します。

ソフトウェアを配布ポイントに追加します。

[構文]

```
ssc add software Path [-host HostName] -soft SoftwareName -point PointNumber
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	<p>ソフトウェアを追加する運用グループ、モデル、またはマシンまでのパスを指定します。</p> <p>(設定例)</p> <p>運用グループ、モデルの場合 (ビュータイプは operations:/です。)</p> <p>operations:/category1/group11/smartgroup101</p> <p>[運用] ビューの category1 配下の group11 直下の smartgroup101</p> <p>リソースグループの場合 (ビュータイプは resource:/です。)</p> <p>resource:/rack/machineA</p> <p>ビュータイプ(operations:/)は省略可能です。</p> <p>ビュータイプを省略した場合、[運用]ビューのパスとして扱われます。</p> <p>-host を指定した場合、運用グループ名までのパスを指定してください。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-host <i>HostName</i>]	<p>ホスト名を指定します。</p> <p>指定したホストにソフトウェアを追加します。</p> <p><i>Path</i> に運用グループを指定した場合に有効です。</p>
-soft <i>SoftwareName</i> (必須)	<p>追加するソフトウェアを指定します。</p>
-point <i>PointNumber</i> (必須)	<p>追加するソフトウェアの配布ポイントを指定します。</p> <p>グループ / モデルを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。</p> <p><i>PointNumber</i>: 配布ポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: マシン稼動時に配布 2: マシン待機時に配布 3: 待機時・シャットダウン後 4: マシン置換時に配布 5: リソース割り当て時 6: バックアップ実行時 7: リストア実行時 8: 論理マシン構築時 9: 論理マシン解体時 10: 起動実行時 <p>ホストを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。</p> <p><i>PointNumber</i>: 配布ポイント</p>

	1: 稼動時・グループ配布前 2: 稼動時・配布 3: 稼動時・グループ配布後 4: 待機時・グループ配布前 5: 待機時・配布 6: 待機時・グループ配布後 7: 待機時・シャットダウン後 8: マシン置換時に配布 9: リソース割り当て時 10: バックアップ実行時 11: リストア実行時 12: 論理マシン構築時 13: 論理マシン解体時 14: 起動実行時 マシンを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。 <i>PointNumber</i> : 配布ポイント 1: 稼動時・グループ配布前 2: 稼動時・グループ配布後 3: 待機時・グループ配布前 4: 待機時・グループ配布後 5: 待機時・シャットダウン後 6: レプリカ作成時 7: バックアップ実行時 8: リストア実行時 9: 起動実行時
--	--

[構文例]

```
>ssc add software operations:/Category1/Group01 -soft Soft-001 -point 1
>ssc add software operations:/Category1/Group01/Model001 -soft Soft-002 -point 2
>ssc add software operations:/Group-A001 -host Host01 -soft Soft-001 -point 1
>ssc add software resource:/SmartGroup01/Machine-A -soft Soft-001 -point 5
```

2.11.2 ソフトウェアの配信

指定マシンに対してソフトウェア配信を行います。

[構文]

```
ssc deploy software < GroupName [HostName[...]] | < -name MachineName[...] | -path path[...] | -  

uuid UUID[...] | -mac MAC[...] > > [-s SoftwareName[...]] [-package [SoftwareName/  

PackageName=]Option] [-packageresult] [-force] [-seq] [-description BackupDescription] [-  

imagename ImageName] [-forcerestore]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	対象グループを指定します。
------------------	---------------

	<p>グループ、またはモデルのパスを指定します。テナント、カテゴリは指定できません。</p> <p><i>HostName</i> を指定する場合は、グループを指定してください。</p>
[<i>HostName</i>]	<p>対象マシンが稼動しているホスト名を指定します。</p> <p>指定したグループに存在しているホストのみ複数指定できます。</p> <p>省略時、グループで稼動するすべてのマシンを対象とします。</p>
-name <i>MachineName</i> -path <i>Path</i> -uuid <i>UUID</i> -mac <i>MAC</i>	<p>配信する対象を指定します。</p> <p>-name, -path, -uuid, -mac はいずれか 1 つを指定する必要があります。</p> <p>指定する対象は複数指定が可能です。</p> <p>-name : マシンの名称で指定します。</p> <p>-path : 対象までのパスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ビューのマシンまでのパス <p>[運用] ビューの場合:</p> <p>operations:/Category/Group/Machine</p> <p>[リソース] ビューの場合:</p> <p>resource:/Group/Machine Group/Machine</p> <p>[仮想] ビューの場合:</p> <p>virtual:/VC/DC/VMS/VM</p> <ul style="list-style-type: none"> [リソース] ビューでのグループ、またはラックのパス <p>resource:/Group/Rack Group/Rack</p> <ul style="list-style-type: none"> [運用] ビューでのグループのパス <p>operations:/Category/Group</p> <p>-uuid : マシンの UUID で指定します。</p> <p>-mac : マシンのプライマリ MAC アドレスで指定します。</p> <p>-path 指定時、ビュータイプを省略した場合、[リソース] ビューのパスとして扱われます。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-s <i>SoftwareName</i>]	<p>配信するソフトウェアを指定します。</p> <p>グループに登録していないソフトウェアでも指定可能です。</p> <p>ソフトウェアの指定には、Web コンソールの [リソース] ビューの [ソフトウェア] アイコンで表示されるソフトウェア名を " " で囲んで入力してください。</p> <p>複数のソフトウェアを指定する場合には、間にスペースを挿入して指定します。</p> <p>グループに登録されたソフトウェアの配布状況に関わらず、指定したソフトウェアのみ配布します。</p> <p>-name -path -uuid -mac 指定時は必須です。</p>
[-package [<i>SoftwareName</i>]/ [<i>PackageName</i> =] <i>Option</i>]	<p>パッケージごとにオプションを指定します。</p> <p>オプションを指定する場合は -s でソフトウェアの指定が必須です。</p> <p><i>SoftwareName</i>/: ソフトウェア名を指定します。ソフトウェア名は " " で囲み、パッケージ名との区切りとして / を後に付加してください。ソフトウェア名は -s で指定されているソフトウェアが 1 本の場合にのみ省略可能です。</p> <p><i>PackageName</i>=: パッケージ名を指定します。パッケージ名は " " で囲み、オプションとの区切りとして = を後に付加してください。パッケージ名は指定したソフトウェアに含まれているパッケージが 1 本の場合にのみ省略可能です。</p>

	Option: オプションを指定します。オプションは" "で囲んで指定してください。
[-packageresult]	パッケージの実行結果をジョブの実行結果に反映する場合に指定します。 すべてのパッケージの実行結果が失敗と判断した場合にジョブの実行結果が失敗となります。 指定すると、ソフトウェアの種別がアプリケーションとアップデートであるすべてのソフトウェアに対して有効となります。
[-force]	グループに登録されたソフトウェアを、強制再配布 (既に配布済みのソフトウェアも配布) します。 <i>SoftwareName</i> を指定しない時に有効です。
[-seq]	シーケンシャル (1 台ずつ順番) 配布します。省略時は一斉配布します。
[-description <i>BackupDescription</i>]	バックアップの説明を指定します。 本オプションを指定する場合は-s でバックアップのソフトウェアの指定が必須です。 バックアップの説明は" "で囲んで指定してください。 本オプションを使用してのバックアップは同時に 1 台しか実行できません。
[-imagename <i>ImageName</i>]	リストアするバックアップのイメージ名を指定します。 本オプションを指定する場合は-s でリストアのソフトウェアの指定が必須です。 イメージ名の指定には、Web コンソールの [リソース] ビューの [ソフトウェア] の [Backup イメージ] のイメージ名を" "で囲んで入力してください。 本オプションを使用してリストアを実行する際には実行確認のメッセージが表示されます。-forcerestore オプションで強制配布が可能です。 本オプションを使用してリストアは同時に 1 台しか実行できません。
[-forcerestore]	-imagename オプションを使用してリストアのソフトウェアを配布する際に強制配布します。

[構文例]

[運用] ビューのグループ全体に対してソフトウェア配信

```
>ssc deploy software Category1/Group1
>ssc deploy software Category1/Group1 -s "Software [1]" "Patch-1"
>ssc deploy software Category1/Group1 -force
```

[運用] ビューの指定ホストに対してソフトウェア配信

```
>ssc deploy software Category1/Group1 Host01
>ssc deploy software Category1/Group1 Host01 Host02 Host03
>ssc deploy software Category1/Group1 Host01 Host02 Host03
-s "Software [1]" "Patch-1"
```

[リソース] ビューのグループ全体に対してソフトウェア配信

```
>ssc deploy software -path resource:/VMGroup -s "Software [1]" "Patch-1" -seq
```

指定マシンに対してソフトウェア配信 (マシン名指定)

```
>ssc deploy software -name machine1 machine2 -s "Software [1]" "Patch-1"
```

指定マシンに対してソフトウェア配信 (UUID 指定)

```
>ssc deploy software -uuid 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D
-s "Software [1]" "Patch-1"
```

指定マシンに対してソフトウェア配信 (MAC アドレス指定)

```
>ssc deploy software -mac 00:31:13:B8:F6:1D -s "Software [1]" "Patch-1"
```

指定マシンに対してオプションを指定してソフトウェア配信 (マシン名指定)

```
>ssc deploy software -name machine1 -s "Software [1]"
  -package "Software [1]"/"Package1"="Option" -packageresult
  "Software [1]" : Web コンソールの [リソース] ビューの [ソフトウェア] アイコンで表示
されるソフトウェア名を指す。
```

"Package1" : 上記ソフトウェアに含まれるパッケージ名を指す。
パッケージ"Package1"を実行する際に"Option"の部分が引数として渡されて実行されます。

指定マシンに対してバックアップの説明を指定してバックアップのソフトウェアを配信

```
> ssc deploy software -name machine1 -s "Backup [1]" -description "machine1
のバックアップです"
```

指定マシンに対してリストアのイメージ名を指定してリストアのソフトウェアを配信

```
> ssc deploy software -name machine1 -s "Restore [1]" -imagename "D:¥Deploy
Backup¥image1.lbr"
```

2.11.3 ソフトウェアの削除

ソフトウェアの設定を削除します。

[構文]

```
ssc delete software GroupName [-host HostName] [-soft SoftwareName] [-point PointNumber] [-i]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象となるグループ、モデルのパスを指定します。 (例 : カテゴリ/グループ、グループ、グループ/モデル) -host を指定した場合は、グループのパスを指定してください。
[-host <i>HostName</i>]	対象となるホスト名を指定します。
[-soft <i>SoftwareName</i>]	対象となるソフトウェア名を指定します。
-point <i>PointNumber</i>	対象となるソフトウェアの配布タイミングを指定します。 <i>PointNumber</i> に "all" を指定するとすべてのソフトウェアを削除します。 グループ、モデルのソフトウェアを削除する場合 <i>PointNumber</i> : 配布タイミング 1 : マシン稼動時 2 : マシン待機時 3 : 待機時・シャットダウン後 4 : マシン置換時 5 : リソース割り当て時 6 : バックアップ実行時 7 : リストア実行時 8 : 論理マシン構築時 9 : 論理マシン解体時 ホストのソフトウェアを削除する場合 <i>PointNumber</i> : 配布タイミング 1 : 稼動時・グループ配布前 2 : 稼動時 3 : 稼動時・グループ配布後

	4: 待機時・グループ配布前 5: 待機時 6: 待機時・グループ配布後 7: 待機時・シャットダウン後 8: マシン置換時 9: リソース割り当て時 10: バックアップ実行時 11: リストア実行時 12: 論理マシン構築時 13: 論理マシン解体時
[-i]	確認メッセージを表示します。

[構文例]

```
>ssc delete software Category1/Group01 -soft Soft-001 -point 1
>ssc delete software Category1/Group01/Model001 -soft Soft-002 -point 2
>ssc delete software Group-A001 -soft Soft-001 -point 1 -i
>ssc delete software Group-A001 -host Host-A001 -soft Soft-001 -point 1
>ssc delete software Group-B001 -host Host-B001 -point 1
>ssc delete software Group-B001 -point all
```

2.11.4 ソフトウェア情報の表示

ソフトウェア情報を表示します。

[構文]

```
ssc show software
```

[引数 / オプション]

なし

[構文例]

```
>ssc show software
```

2.12 ストレージ

2.12.1 ストレージの追加

グループ、モデル、ホストにストレージを追加します。

ディスクアレイのディスクボリュームをホストに追加します。

[構文]

```
ssc add storage GroupName [HostName] DiskArrayName DiskVolumeName
```

```
[-hbanum HBANumber] [-lun LUNNumber] [-after]
```

[<-hostip *ExportIPAddress* | -nicno *NicNumber*>]

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ストレージを追加するグループかモデル、もしくはホストが存在するグループを指定します。 グループ、モデルまでのパスを指定します。テナント、カテゴリは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[<i>HostName</i>]	ストレージを追加するホスト名を指定します。
<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
<i>DiskVolumeName</i> (必須)	ディスクボリューム名を指定します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字と小文字を区別します。
[-hbanum <i>HBA Number</i>]	接続する HBA 番号を指定します。 1 から 9999 までの範囲で指定できます。 省略すると、すべての HBA 番号に接続します。 NetApp ストレージの場合は、無効です。
[-lun <i>LUN Number</i>]	LUN 番号を設定します。 0 以上の番号を指定できます。 Symmetrix のディスクボリュームを指定した場合、指定できません。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、無効です。
[-after]	ソフトウェア配布後にストレージへ接続します。 省略すると、配布前に接続します。
[-hostip <i>ExportIPAddress</i>]	接続する IP アドレスを指定します。 ホスト定義に設定した IP アドレスが指定可能です。 DHCP を利用する場合は、省略してください。その場合、ホスト名が利用されます。 NetApp ストレージの場合、かつホストに追加する場合のみ、指定可能です。
[-nicno <i>NicNumber</i>]	接続する IP アドレスを持つ NIC の番号を指定します。 「1/2」のように半角スラッシュ区切りで数値を入力することで、NIC に割り当てている 2 つ目以降の IP アドレスを指定できます。 DHCP を利用する場合は、省略してください。 その場合、指定したグループ、モデルで稼動するホストのホスト名が利用されます。 NetApp ストレージの場合、かつグループかモデルに追加する場合のみ、指定可能です。

[注]

- NetApp ストレージの接続設定を行う場合、SigmaSystemCenter 3.0 update 1 までは、ソフトウェア配布後にストレージへ接続する設定のみが可能でしたが、SigmaSystemCenter 3.1 において、他のストレージ製品と同様にソフトウェア配布前にストレージへ接続する設定が可能となりました。

[-after] オプションの指定有無で、ソフトウェア配布前、配布後のストレージ接続設定が可能です。

- 既に他のホスト定義で使用されている非共有のディスクボリュームを、別のホスト定義に追加することができません。

- ・ 非共有のディスクボリュームはグループやモデルに追加することができません。

[設定対象の決定方法]

本コマンドではグループ、モデル、ホストを対象にストレージ設定を追加します。

設定対象は *GroupName* と *HostName* の指定方法で以下のように決定します。

設定対象	GroupName に指定する値	HostName に指定する値
グループ	グループ名	省略する
モデル	モデル名	省略する
ホスト	ホストの所属するグループ名	ホスト名

[構文例]

```
>ssc add storage Category1/Group01 HOST-01 DiskArray-001 Volume-001 -hbanu
m 1
  -lun 5 -after
>ssc add storage Group-A001 Host-A001 DiskArray-001 Volume-002
>ssc add storage Category1/ESX esx200 DiskArray-002 Volume-001
  -hostip 10.34.11.4
```

2.12.2 ストレージの削除

グループ、モデル、ホストのストレージを削除します。

[構文]

```
ssc delete storage GroupName [HostName] <[DiskArrayName DiskVolumeName] | [-all]> [-i]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象となるグループ、モデルのパスを指定します。 テナント、カテゴリは指定できません。 ホストのストレージを削除する場合、モデルは指定できません。
[<i>HostName</i>]	対象となるホスト名を指定します。
[<i>DiskArrayName</i>]	登録されているディスクアレイ名を指定します。
[<i>DiskVolumeName</i>]	登録されているディスクボリューム名を指定します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-all]	対象となるホストのストレージをすべて削除します。
[-i]	確認メッセージを表示します。

[構文例]

```
>ssc delete storage Category1/Group01 HOST-01 DiskArray-001 Volume-001
>ssc delete storage Group-A001 Host-A001 DiskArray-001 Volume-002 -i
>ssc delete storage Group-B001 Host-B001 -all
```

2.12.3 ディスクアレイの編集

ディスクアレイを編集します。

[構文]

```
ssc update diskarray DiskArrayName < [-ip IPAddress] [-account Account] [-p Password] [-iops on|off] > [-scope Scope] [-serialno SerialNumber]
```

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	対象のディスクアレイ名を指定します。
[-ip <i>IPAddress</i>]	ディスクアレイの IP アドレスを指定します。
[-account <i>Account</i>]	ディスクアレイに接続するアカウント名を指定します。
[-p <i>Password</i>]	ディスクアレイに接続するアカウントのパスワードを指定します。
[-iops on off]	IOPS 機能の利用を指定します。 on:利用する、off:利用しない。 NEC ストレージに指定可能です。
[-scope <i>Scope</i>]	スコープを指定します。 数値で指定可能で 0:グローバル、1:ローカル、2:LDAP を意味します。 省略した場合は 0 です。 対象のストレージ装置が CLARiX の場合のみ指定できます。
[-serialno <i>SerialNumber</i>]	対象ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

- -ip、-account、-p、-iops オプションをすべて省略することはできません。

[構文例]

```
>ssc update diskarray DiskArray-001 -ip 192.168.0.1 -account admin -p admin
>ssc update diskarray DiskArray-001 -ip 192.168.0.1 -account admin -p admin -scope 0
>ssc update diskarray DiskArray-001 -ip 192.168.0.1 -account admin -p admin -iops on
```

2.12.4 ディスクアレイのパスを表示

ディスクアレイのパスを表示します。

[構文]

```
ssc show diskarraypath < DiskArrayName | < -machine [MachineName | -all | -unused] | -array [DiskArrayName] > [-vertical] > [-serialno SerialNumber]
```

[引数 / オプション]

<i>DiskArrayName</i>	ディスクアレイ名を指定します。
-machine [<i>MachineName</i>]	マシン名を指定します。 マシン名を省略した場合、すべてのマシン情報を表示します。

<code>[-all]</code>	すべてのパス情報を表示します。 -machine を指定した場合に有効です。 指定した場合、マシンに関連付かないパス情報も表示します。
<code>[-unused]</code>	マシンに関連付かないパス情報を表示します。 -machine を指定した場合に有効です。
<code>-array [DiskArrayName]</code>	ディスクアレイ名を指定します。 省略した場合、すべてのディスクアレイ情報を表示します。
<code>[-vertical]</code>	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。 -machine、または-array を指定した場合に有効です。
<code>[-serialno SerialNumber]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

[構文例]

```
>ssc show diskarraypath CK200062700187
SG01 (CK200062700187/SP_A/0)
SG01 (CK200062700187/SP_A/1)

>ssc show diskarraypath -machine -all -vertical
[1]
MachineName      : w2k8r2-san1
Location         : 1
Address          : 2003-0030-130f-47e2
ControllerName   : WN:ldset_02
DiskArrayName    : s1400

Location        : 2
Address         : 2004-0030-130f-47e2
ControllerName  : WN:ldset_02
DiskArrayName   : s1400

[2]
MachineName      : rh6-san1
Location         : 1
Address          : 00:16:97:a7:fc:40
ControllerName   : 192.168.0.130
DiskArrayName    : Ontap81

Location        : 1
Address         : 2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb
ControllerName  : LX:ldset_01
DiskArrayName   : s1400

Location        : 1
Address         : 2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb
ControllerName  : SG01 (CK200062700187/SP_A/0)
DiskArrayName   : CK200062700187

Location        : 1
Address         : 2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb
ControllerName  : SG01 (CK200062700187/SP_A/1)
DiskArrayName   : CK200062700187
```

```

        Location      : 2
        Address       : 2014-0030-130f-47fb/2004-0030-130f-47fb
        ControllerName : LX:ldset_01
        DiskArrayName  : s1400

[3]
MachineName      : w2012-san1
    Location      : 1
    Address       : 2000-0000-c956-5140
    ControllerName :
    DiskArrayName :

[4]
MachineName      : w2010-san1

[-]
MachineName      :
    Location      :
    Address       : 1000-0000-c956-c164
    ControllerName : DF:ldset_10
    DiskArrayName : s1400

[-]
MachineName      :
    Location      :
    Address       : 1000-0000-c956-c165
    ControllerName : DF:ldset_10
    DiskArrayName : s1400

>ssc show diskarraypath -machine -all
#MachineName,Location,Address,ControllerName,DiskArrayName
"w2k8r2-san1","1","2003-0030-130f-47e2","WN:ldset_02","s1400"
"w2k8r2-san1","2","2004-0030-130f-47e2","WN:ldset_02","s1400"
"rh6-san1","1","00:16:97:a7:fc:40","192.168.0.130","Ontap81"
"rh6-san1","1","2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb","LX:ldset_01","s14
00"
"rh6-san1","1","2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb","SG01 (CK2000627001
87/SP_A/0)","CK200062700187"
"rh6-san1","1","2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb","SG01 (CK2000627001
87/SP_A/1)","CK200062700187"
"rh6-san1","2","2014-0030-130f-47fb/2004-0030-130f-47fb","LX:ldset_01","s14
00"
"w2012-san1","1","2000-0000-c956-5140","",""
"w2010-san1","","","",""
","","","1000-0000-c956-c164","DF:ldset_10","s1400"
","","","1000-0000-c956-c165","DF:ldset_10","s1400"

>ssc show diskarraypath -array -vertical

[1]
DiskArrayName      : s1400
    ControllerName  : LX:ldset_01
    Location        : 1
    Address         : 2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb
    MachineName     : rh6-san1

```

```

    ControllerName : WN:ldset_02
    Location       : 1
    Address        : 2003-0030-130f-47e2
    MachineName    : w2k8r2-san1

    ControllerName : WN:ldset_02
    Location       : 2
    Address        : 2004-0030-130f-47e2
    MachineName    : w2k8r2-san1

    ControllerName : DF:ldset_10
    Location       :
    Address        : 1000-0000-c956-c164
    MachineName    :

    ControllerName : DF:ldset_10
    Location       :
    Address        : 1000-0000-c956-c165
    MachineName    :

    ControllerName : WN:ldset_05
    Location       :
    Address        :
    MachineName    :

[2]
    DiskArrayName : CK200062700187
    ControllerName : SG01(CK200062700187/SP_A/0)
    Location       : 1
    Address        : 2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb
    MachineName    : rh6-san1

    ControllerName : SG01(CK200062700187/SP_A/1)
    Location       : 1
    Address        : 2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb
    MachineName    : rh6-san1

[3]
    DiskArrayName : Ontap81
    ControllerName : 192.168.0.130
    Location       : 1
    Address        : 00:16:97:a7:fc:40
    MachineName    : rh6-san1

>ssc show diskarraypath -array
#DiskArrayName,ControllerName,Location,Address,MachineName
"s1400","LX:ldset_01","1","2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb","rh6-san1"
"s1400","WN:ldset_02","1","2003-0030-130f-47e2","w2k8r2-san1"
"s1400","WN:ldset_02","2","2004-0030-130f-47e2","w2k8r2-san1"
"s1400","DF:ldset_10","","1000-0000-c956-c164",""
"s1400","DF:ldset_10","","1000-0000-c956-c165",""
"s1400","WN:ldset_05","","",""
"s1400","WN:ldset_05","","",""
"CK200062700187","SG01(CK200062700187/SP_A/0)","1","2013-0030-130f-47fb/2003-0030-130f-47fb","rh6-san1"
"CK200062700187","SG01(CK200062700187/SP_A/1)","1","2013-0030-130f-47fb/200

```

```
3-0030-130f-47fb","rh6-san1"
"Ontap81","192.168.0.130","1","00:16:97:a7:fc:40","rh6-san1"
```

2.12.5 ディスクアレイの一覧表示

ディスクアレイ一覧を表示します。

[構文]

```
ssc show diskarray [-vertical]
```

[引数/オプション]

[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。
-------------	--

[構文例]

```
>ssc show diskarray
>ssc show diskarray -vertical
```

[表示例]

```
>ssc show diskarray -vertical
[DiskArray-01]
  DiskArrayName      : 200000255C3A05AA
  SerialNumber       : 0000000941900148
  Type               : SMI-S
  Number             :
  ManagedStatus      : Managed
  StoragePoolCount   : 3
  AllDiskVolumeCount : 92
  DiskVolumeCount (Managed) : 0
  IPAddress          : 192.168.0.100
  UsesCapability      : IOPS

  [Port-01]
    Port      : 00-00h
    Address   : 2100-0025-5C3A-05AA
  [Port-02]
    Port      : 00-01h
    Address   : 2200-0025-5C3A-05AA
  [Port-03]
    Port      : 00-02h
    Address   : 2300-0025-5C3A-05AA
  [Port-04]
    Port      : 00-03h
    Address   : 2400-0025-5C3A-05AA

  ControllerIPAddress : 192.168.0.101,192.168.0.102

>ssc show diskarray
#DiskArrayName,SerialNumber,Type,Number,ManagedStatus,StoragePoolCount,AllDiskVolumeCount,DiskVolumeCount (Managed),IPAddress,UsesCapability,Port,ControllerIPAddress
```

```
"CLARiION+CK200062700187","CK200062700187","SMI-S","","Managed","2","36","6",
"192.168.0.100","IOPS","SP_A:0,5006-0160-41E0-0F99,SP_A:1,5006-0161-41E0-0F99,SP_B:0,5006-0168-41E0-0F99,SP_B:1,5006-0169-41E0-0F99","","
M100","0000000941900148","iStorage","0","Managed","3","116","13","192.168.0.110","None","00-00h,2100-0025-5C3A-05AA,00-01h,2200-0025-5C3A-05AA,00-02h,2300-0025-5C3A-05AA,00-03h,2400-0025-5C3A-05AA","192.168.0.111,192.168.0.112"
"ontap805-7m","4061490-59-4","NetAppStorage","","Managed","3","1","1","192.168.0.150","None","",""
```

2.12.6 HBA の設定

HBA をディスクアレイに関連付けます。

[構文]

```
ssc set hba DiskArrayName DiskArrayPath WWPN [-wwnn WWNN] [-serialno SerialNumber]
```

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイの名前を指定します。
<i>DiskArrayPath</i> (必須)	ディスクアレイのパスを指定します。
<i>WWPN</i> (必須)	WWPN を指定します。
[-wwnn <i>WWNN</i>]	WWNN を指定します。 ディスクアレイの種別が CLARiX の場合は必須です。
[-serialno <i>SerialNumber</i>]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

[構文例]

```
>ssc set hba ck1000 "SG20(SP A/10.15.22.176/0)" 1000-0000-C96F-E240
>ssc set hba CLARiION+CK1000 SG20 1000-0000-C96F-E240 -wwnn 2000-0000-C96F-E240
```

[注]

- ディスクアレイの種別が CLARiX、Symmetrix、および、SMI-S の場合に使用できます。
- WWPN、および WWNN に含まれるアルファベットは必ず大文字で指定して下さい。

2.12.7 HBA の解除

HBA をディスクアレイから関連解除します。

[構文]

```
ssc release hba DiskArrayName DiskArrayPath WWPN [-wwnn WWNN] [-serialno SerialNumber]
```

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイの名前を指定します。
<i>DiskArrayPath</i> (必須)	ディスクアレイのパスを指定します。
<i>WWPN</i> (必須)	WWPN を指定します。
<i>[-wwnn WWNN]</i>	WWNN を指定します。 ディスクアレイの種別が CLARiX の場合必須です。
<i>[-serialno SerialNumber]</i>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

[構文例]

```
>ssc release hba CK100000 "SG20(SP A/10.15.22.176/0)" 1000-0000-C96F-E240
>ssc release hba CLARiON+CK100000 SG20 1000-0000-C96F-E240
  -wwnn 2000-0000-C96F-E240
```

[注]

- ディスクアレイの種別が CLARiX、Symmetrix、および、SMI-S の場合に使用できます。

2.12.8 ディスクボリュームの作成

ディスクボリュームを作成します。

[構文]

```
ssc create diskvolume < DiskArrayName < PoolId | -pooltag StoragePoolTag...> > | < -pooltag
StoragePoolTag... > [-num DiskVolumeNumber] [-name DiskVolumeName] [-type Type] [-serialno
SerialNumber] [-snapshot SnapshotReserve] -capacity Capacity [-thin | -thick] [-shared | -unshared]
[-iops [< Limit | none > < Reservation | none > < on | off >]]
```

[ディスクアレイ指定時の引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
<i>PoolId</i>	プール ID を指定します。 NetApp ストレージの場合は、UUID を指定します。 -pooltag と同時指定できません。
<i>[-pooltag StoragePoolTag...]</i>	ストレージプールに設定しているタグを指定します。 複数指定可能です。 指定したタグを持つストレージプールを自動選択し、選択したストレージプールにボリュームを作成します。 複数タグを指定した場合は、すべてのタグを持つストレージプールが対象となります。 PoolId と同時指定できません。
<i>[-num DiskVolumeNumber]</i>	ディスクボリューム番号を指定します。 省略した場合は、自動採番します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、無効です。

-capacity Capacity (必須)	容量を GB 単位で指定します。 容量にはシステム領域は含まれません。
[-name DiskVolumeName]	ディスクボリュームの名前を指定します。 -type を指定した場合、-name は省略できません。 省略した場合、自動で名前が付与されます。 NetApp ストレージの場合は、省略できません。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字と小文字を区別します。
[-type Type]	ディスクボリュームの形式を指定します。 以下が指定可能なタイプです。 WN : Windows (MBR) の場合に指定します。 WG : Windows (GPT) の場合に指定します。 LX : Linux の場合に指定します。 iStorage 以外では指定しないでください。 -name を省略した場合、-type は指定できません。
[-serialno SerialNumber]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に シリアル番号を指定します。
[-snapshot SnapshotReserve]	ディスクボリュームのスナップショットに使用する領域を指定します。 0 から 100 まで指定可能です (単位 : %)。 省略した場合、スナップショット領域の設定はストレージ装置の既定値に依存します。 NetApp ストレージの場合のみ有効です。
[-thin -thick]	CLARiX / VNX の場合 StoragePool に対する LUN 作成 (Thin / Non Thin) 時に指定します。 -thin : Thin LUN を作成します。 -thick : Non Thin LUN を作成します。 FLARE30 以降の CLARiX / VNX にのみ有効です。 オプションを指定しない場合は、RaidGroup に対して LUN を作成します。 RaidGroup に対してオプションを指定して実行した場合はエラーとなります。 オプションを指定した場合は、StoragePool に対して LUN を作成します。 StoragePool に対してオプションを指定せずに実行した場合はエラーとなります。 SMI-S サービスの場合 -thin : シンプロビジョニングボリュームを作成します。 -thick : シンプロビジョニングではない通常のボリュームを作成します。 -thin / -thick を指定しない場合は、装置に依存します。 その他のストレージ装置ではオプション指定を無視します。 -pooltag と同時指定できません。 -pooltag を指定している場合、タグによって自動選択した装置、もしくはストレージプールの種別に基づいて、自動的に決定します。
[-shared -unshared]	ディスクボリュームの共有状態を指定します。 -shared : 共有にします。 -unshared : 非共有にします。 省略した場合は、共有となります。
[-iops [<Limit none>><Reservation none>><on off>]]	ディスクボリュームの IOPS 設定を有効にします。 詳細設定として以下を指定可能です。

	<p>< <i>Limit</i> none > : I/O 流量制御の LD の上限値を 10～1000000 で設定します。none を指定した場合、設定されている上限値を削除します。</p> <p>< <i>Reservation</i> none > : I/O 流量制御の LD の下限値を 10～1000000 で指定します。値を省略した場合、設定されている下限値を削除します。</p> <p>< on off > : I/O 流量制御の上限値制御が発生した場合の iStorageManager 運用ログ出力有無を設定します。(on または off)</p> <p>詳細設定を指定しない場合、各限界値はストレージプールに設定された初期値を利用します。</p> <p>NEC ストレージに指定可能です。</p> <p>詳細設定は <i>PoolId</i> 指定時のみ指定可能です。</p>
--	---

[ディスクアレイ未指定時の引数/オプション]

-pooltag <i>StoragePoolTag...</i> (必須)	<p>ストレージプールに設定しているタグを指定します。</p> <p>複数指定可能です。</p> <p>指定したタグを持つストレージプールを自動選択し、選択したストレージプールにボリュームを作成します。</p> <p>複数タグを指定した場合は、すべてのタグを持つストレージプールが対象となります。</p>
-capacity <i>Capacity</i> (必須)	<p>容量を GB 単位で指定します。</p> <p>容量にはシステム領域は含まれません。</p>
-name <i>DiskVolumeName</i> (必須)	<p>ディスクボリュームの名前を指定します。</p> <p>NetApp ストレージ、SMI-S サービスがボリューム作成先に選択された場合、大文字と小文字は区別されます。</p>
[-shared -unshared]	<p>ディスクボリュームの共有状態を指定します。</p> <p>-shared : 共有にします。</p> <p>-unshared : 非共有にします。</p> <p>省略した場合は、共有となります。</p>
[-iops]	<p>ディスクボリュームの IOPS 設定を有効にします。</p> <p>各限界値はストレージプールに設定された初期値を利用します。</p> <p>NEC ストレージに指定可能です。</p>

- 下記のオプションを指定した場合、エラーとなります。
- ボリュームを作成するディスクアレイ、ストレージプールは自動選択します。
- 作成するボリュームに適用する設定は以下の通りです。

項目	オプション	適用する設定	備考
ディスクアレイ名	<i>DiskArrayName</i>	ディスクアレイは自動選択します。	
プール ID	<i>PoolId</i>	ストレージプールは指定したタグを元に自動選択します。	
ボリューム番号	-num	自動採番します。	
OS タイプ	-type	下記の[注]を参照してください。	
スナップショット領域	-snapshot	ストレージ装置の既定値に依存します。	
シンプロビジョニング	-thin -thick	タグによって自動選択した装置、もしくはストレージプールの種別に基づいて、自動的に決定します。	

[注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。
- CLARiX / VNX の Virtual Provisioning プールからの LUN 作成は、FLARE30 以降をサポートします。
- コントロールボリューム (CV) は、サポートしていません (iStorage)。
- RANK によるディスクボリューム作成は、サポートしていません (iStorage)。
- ディスクボリュームの名前を指定して本コマンドを実行し、コマンドが失敗した場合は、既定名で作成されている場合があります。必要に応じてディスクボリュームの名前を更新してください。
- *DiskVolumeName* の指定で使用可能な文字列や文字数に関しては、各ストレージの仕様を確認してください。
- *-type* を省略した場合は、下記の通りの動作となります (iStorage)。
 - S シリーズ、D シリーズの場合、ディスクボリュームの形式は LX を指定した場合と同様に動作します。
 - * 詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.4. iStorage の論理ディスクの形式について」を参照してください。
 - M シリーズの場合、ディスクボリュームの形式は未指定として動作します。
- SMI-S サービスの場合、*PoolId* の大文字と小文字を区別します。

[構文例]

```
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -name Volume-001
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -name Volume-001 -type lx
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -num 1
>ssc create diskvolume DiskArray-002 5e0a90ca-d9c6-11e0-8c89-005056b50006
  -capacity 5 -name Volume-001 -snapshot 0
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -name Volume-001 -type lx
  -iops 1000 100 on

>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -name Volume-001 -thin
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -name Volume-001 -thick
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -unshared

>ssc create diskvolume DiskArray-001 -pooltag Gold Tokyo -capacity 200
  -name Volume-001 -unshared
>ssc create diskvolume -pooltag Gold Tokyo -capacity 200 -name Volume-001
  -unshared
>ssc create diskvolume -pooltag Gold Tokyo -capacity 200 -name Volume-003
  -shared -iops
```

2.12.9 ディスクボリュームの編集

ディスクボリュームを編集します。

[構文]

ssc update diskvolume *DiskArrayName*

<-num *DiskVolumeNumber* | -name *DiskVolumeName*>

[-serialno *SerialNumber*]

<[-newname *NewDiskVolumeName*]

[-type *Type*]

[-tag *Tag...*]

[-shared | -unshared]

[-managed | -unmanaged]

[-capacity *NewCapacity*]

[-lmt [*Limit*]]

[-rsv [*Reservation*]]

[-lmtrpt on|off]>

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	対象となるディスクボリュームが存在するディスクアレイ名を指定します。
-num <i>DiskVolumeNumber</i>	対象となるディスクボリューム番号を指定します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、指定できません。
-name <i>DiskVolumeName</i>	対象となるディスクボリューム名を指定します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-serialno <i>SerialNumber</i>]	対象となるディスクボリュームが存在するディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。
[-newname <i>NewDiskVolumeName</i>]	更新後のディスクボリューム名を指定します。
[-type <i>Type</i>]	更新後のディスクボリュームの形式を指定します。 以下が指定可能なタイプです。 WN : Windows (MBR) の場合に指定します。 WG : Windows (GPT) の場合に指定します。 LX : Linux の場合に指定します。 省略された場合は変更しません。ただし、機種によっては LX になるケースがあります。 iStorage 以外では指定しないでください。
[-tag <i>Tag...</i>]	更新後のタグを指定します。複数指定可能です。
[-shared -unshared]	更新後のディスクボリュームの共有状態を指定します。

	-shared : 共有にします。 -unshared : 非共有にします。
[-managed -unmanaged]	更新後のディスクボリュームの管理状態を指定します。 -managed : 管理中にします。 -unmanaged : 管理外にします。
[-capacity <i>NewCapacity</i>]	拡張後のディスクボリュームサイズを GB 単位で指定します。 サイズにはシステム領域は含まれません。 SMI-S サービスの場合のみ、指定できます。
[-lmt [<i>Limit</i>]]	I/O 流量制御の LD の上限値を 10～1000000 で設定します。 値を省略した場合、設定されている上限値を削除します。 NEC ストレージに指定可能です。
[-rsv [<i>Reservation</i>]]	I/O 流量制御の LD の下限値を 10～1000000 で指定します。 値を省略した場合、設定されている下限値を削除します。 NEC ストレージに指定可能です。
[-lmtrpt on off]	I/O 流量制御の上限値制御が発生した場合の iStorageManager 運用ログ出力有無を設定します。 NEC ストレージに指定可能です。

- -newname、-type、-tag、-shared、-unshared、-managed、-unmanaged、-capacity、-lmt、-rsv、-lmtrpt オプションをすべて省略することはできません。

[注]

- 本コマンドでのボリューム名変更 (-newname 指定) は、ディスクアレイの種別が Symmetrix、NetApp の場合は、サポートしておりません。
- -type を省略した場合は下記の通りの動作となります (iStorage)。
 - 変更対象のディスクボリュームに既に形式が設定されている場合
 - * 変更しません。
 - 変更対象のディスクボリュームに形式が設定されていない場合
 - * S シリーズ、D シリーズの場合、ディスクボリュームの形式は LX が指定された場合と同様に動作します。
 - + 詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド概要編」の「6.6.4. iStorage の論理ディスクの形式について」を参照してください。
 - * M シリーズの場合、形式指定なしのまま変更しません。
- タグ文字列に空白を含めることはできません。-tag に "" で空白を含むタグ文字列を設定しても、空白を含むタグは登録されません。
- 本コマンドでのボリューム容量拡張 (-capacity 指定) は、ボリューム容量拡張の場合のみ、サポートしております。
- iStorage I/O 流量制御オプションを指定した場合、I/O 流量制御ライセンスが無い場合はエラーとなります。

[構文例]

```

>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -newname Volume-001-
newname
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -newname Volume-001-
newname
  -type lx
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -num 1 -newname Volume-001-newname -t
ype lx
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -newname Volume-001-
newname
  -type lx -tag tag1 tag2 tag3
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -shared -managed
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -newname Volume-001-
newname
  -capacity 28
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -lmt 100 -rsv 50 -lm
trpt on
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -lmt -rsv

```

2.12.10 ディスクボリュームの削除

ディスクボリュームを削除します。

[構文]

ssc delete diskvolume *DiskArrayName*

<-num *DiskVolumeNumber* | -name *DiskVolumeName*>

[-serialno *SerialNumber*]

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
-num <i>DiskVolumeNumber</i>	ディスクボリューム番号を指定します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、指定できません。
-name <i>DiskVolumeName</i>	ディスクボリューム名を指定します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-serialno <i>SerialNumber</i>]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に シリアル番号を指定します。

[注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしておりません。
- レジストリ (HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥PVM¥base ¥StrictMode¥Storage) が 0 以外 (デフォルト値は 0) の場合
 - マシンに割り当たっているディスクボリュームを削除することができません。

- グループ、モデル、ホストの定義に追加されているディスクボリュームを削除することができません。

[構文例]

```
>ssc delete diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001
>ssc delete diskvolume DiskArray-001 -num 1
```

2.12.11 ディスクボリュームの割当

ディスクボリュームをマシンに接続します。

[構文]

ssc assign diskvolume <GroupName | MachineName> DiskArrayName

<-num DiskVolumeNumber... | -name DiskVolumeName...>

[-ostype OperatingSystemType] [-lun LUN]

[-hbanumber HBANumber...] [-serialno SerialNumber]

[-hostip ExportIPAddress] [-host HostName] [-force]

[引数/オプション]

GroupName	割り当てを行うグループを指定します。または、グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ)
MachineName	割り当てを行うマシンのパスを指定します。 例) [運用] ビューの場合: operations:/category/group/host [リソース] ビューの場合: resource:/group/machine
DiskArrayName (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
-num DiskVolumeNumber	割り当てを行うディスクボリューム番号を指定します。 複数指定可能です。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、指定できません。
-name DiskVolumeName	割り当てを行うディスクボリュームの名前を指定します。 複数指定可能です。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-ostype OperatingSystemType]	ホストの OS タイプを指定します。 以下が指定可能なタイプです。 WN : Windows の場合に指定します。 LX : Linux の場合に指定します。 iStorage、SMI-S サービスの場合に、有効です。 マシンがホストで稼働中の場合、省略可能です。
[-lun LUN]	LUN 番号を指定します。 省略した場合は、自動採番します。

	0以上が指定可能です。 ディスクボリュームを複数指定する場合、開始番号とします。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、無効です。
<code>[-hbanumber HBA Number...]</code>	割り当てを行うマシンの使用する HBA 番号を指定します。 0 から 9999 までの間で指定可能です。 省略すると、マシンに設定されているすべての HBA に接続されます。 NetApp ストレージの場合は、無効です。
<code>[-serialno SerialNumber]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に シリアル番号を指定します。
<code>[-hostip ExportIP Address]</code>	割り当てを行うマシンの IP アドレスを指定します。 ホスト定義に設定した IP アドレスが指定可能です。 DHCP を利用する場合は、省略してください。その場合、ホスト名が利用されます。 NetApp ストレージの場合のみ、指定可能です。 グループを指定する場合は、利用しないでください。
<code>[-host HostName]</code>	設定対象のホスト名を指定します。 このオプションを指定した場合、 <i>MachineName</i> に運用グループを指定してください。 設定対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。
<code>[-force]</code>	既に他のマシンに割り当てている非共有のディスクボリュームを、指定したマシンに強制的に割り当てます。

[注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしておりません。
- ディスクアレイの種別が CLARiX、NetApp ストレージの場合、稼動中のマシン以外では実行できません。
- NetApp ストレージで、グループを指定する場合は、ホスト名が利用されます。
また、グループを指定する場合に、`-hostip` を利用した場合、
指定した IP アドレスを持つマシンにのみディスクボリュームの割り当てが行われます。

[構文例]

```
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001
>ssc assign diskvolume machine002 DiskArray-001 -name Volume-001 -force
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -num 1
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001 Volume-002
Volume-003 -lun 0 -hbaNumber 1
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001 -ostype 1
>ssc assign diskvolume VmServer-g/esx/esx10 DiskArray-002 -name Volume-001
-hostip 10.34.11.4
>ssc assign diskvolume VmServer-g/esx DiskArray-002 -name Volume-002
```

2.12.12 ディスクボリュームの割当解除

ディスクボリュームをマシンから割り当て解除します。

[構文]

```
ssc release diskvolume <GroupName | MachineName> DiskArrayName
```

```
<-num DiskVolumeNumber... | -name DiskVolumeName...>
```

```
[-hbanumber HbaNumber...] [-serialno SerialNumber]
```

```
[-host HostName] [-force] [-nondetach]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	割り当て解除を行うグループを指定します。または、グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ)
<i>MachineName</i>	割り当て解除を行うマシンのパスを指定します。 例) [運用] ビューの場合: operations:/category/group/host [リソース] ビューの場合: resource:/group/machine
<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
-num <i>DiskVolumeNumber</i>	割り当て解除を行うディスクボリューム番号を指定します。 複数指定可能です。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、指定できません。
-name <i>DiskVolumeName</i>	割り当て解除を行うディスクボリュームの名前を指定します。 複数指定可能です。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-hbanumber <i>HbaNumber...</i>]	割り当て解除を行うマシンの使用する HBA 番号を指定します。 0 から 9999 までの間で指定可能です。 省略すると、マシンに設定されているすべての HBA が切断されます。 NetApp ストレージの場合は、無効です。
[-serialno <i>SerialNumber</i>]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に シリアル番号を指定します。
[-host <i>HostName</i>]	設定対象のホスト名を指定します。 このオプションを指定した場合、 <i>MachineName</i> に運用グループを指定してください。 設定対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。
[-force]	稼動中のマシンからディスクボリュームを強制的に割り当て解除します。
[-nondetach]	仮想化基盤管理のディスクに対する分離 (デタッチ) を行いません。

[注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。

- ディスクアレイの種別が CLARiX の場合、稼動中のマシン以外は実行できません。
- 仮想化基盤管理のディスクボリュームに対する分離 (デタッチ) に失敗した場合でも、ディスクボリュームの割り当て解除を実施します。
- 以下のレジストリが 0 以外 (デフォルト値は 0) の場合、稼動中のマシンからディスクボリュームを割り当て解除できません。割り当て解除したい場合は、**-force** オプションを指定してください。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\base\StrictMode\Storage
```

[構文例]

```
>ssc release diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001
>ssc release diskvolume machine001 DiskArray-001 -num 1
>ssc release diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001 Volume-002
Volume-003 -hbaNumber 1
>ssc release diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001 -force
>ssc release diskvolume VmServer-g/esx DiskArray-002 -name Volume-002
```

2.12.13 ディスクボリューム情報の表示

ディスクボリューム情報を表示します。

[構文]

ssc show diskvolume *DiskArrayName*

[-num *DiskVolumeNumber* | -name *DiskVolumeName*]

[-serialno *SerialNumber*] [-vertical] [-iops]

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
[-num <i>DiskVolumeNumber</i>]	指定したディスクボリューム番号のディスクボリューム情報を表示します。ディスクボリューム番号を省略すると、全ディスクボリュームが対象となります。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、無効です。
[-name <i>DiskVolumeName</i>]	指定したディスクボリューム名のディスクボリューム情報を表示します。ディスクボリューム名を省略すると、全ディスクボリュームが対象となります。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字と小文字を区別します。
[-serialno <i>SerialNumber</i>]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[-iops]	IOPS に関連する項目を表示します。
---------	---------------------

[構文例]

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -vertical
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -vertical
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -num 1
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -iops
```

[表示例]

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -vertical
```

```
[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : Volume-001
DiskVolumeNumber    : 1
UniqueId            : 00255c3a05aa0001
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                : LX
Format              : -
ConsumedCapacity (GB) : 12.8
Tag                 : Gold
ExtendedUniqueId    : 600255c00000000000255c3a05aa0001
```

```
[DiskVolume-02]
DiskVolumeName      : Volume-002
DiskVolumeNumber    : 2
UniqueId            : 00255c3a05aa0002
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                : LX
Format              : 20%
Tag                 : Silver
ExtendedUniqueId    : 600255c00000000000255c3a05aa0002
```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001
```

```
#DiskVolumeName,DiskVolumeNumber,UniqueId,DiskVolumeSize (GB),Type,Format,C
onsumedCapacity (GB),Tag,ExtendedUniqueId
"Volume-001","1","00255c3a05aa0001","250.0","LX","-", "12.8","Gold","600255c
00000000000255c3a05aa0001"
"Volume-002","2","00255c3a05aa0002","250.0","LX","20%", "", "Silver","600255c
00000000000255c3a05aa0002"
```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -vertical
```

```
[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : Volume-001
DiskVolumeNumber    : 1
UniqueId            : 00255c3a05aa0001
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                : LX
Format              : -
ConsumedCapacity (GB) : 12.8
```

```

Tag                : Gold
ExtendedUniqueId   : 600255c000000000000255c3a05aa0001

```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001
```

```

#DiskVolumeName,DiskVolumeNumber,UniqueId,DiskVolumeSize (GB),Type,Format,ConsumedCapacity (GB),Tag,ExtendedUniqueId
"Volume-001","1","00255c3a05aa0001","250.0","LX","-", "12.8","Gold","600255c000000000000255c3a05aa0001"

```

```
>ssc show diskvolume DataONTAP -name vol1 -vertical
```

```

[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : vol1
DiskVolumeNumber    : 0
UniqueId            : 07c0cfc2-e187-11e0-8682-000c2989b168
DiskVolumeSize (GB) : 0.0
Type                : -
Format              : -
Tag                 : Bronze
ExtendedUniqueId    :

```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -vertical -iops
```

```

[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : Volume-001
DiskVolumeNumber    : 1
UniqueId            : 00255c3a05aa0001
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                : LX
Format              : -
ConsumedCapacity (GB) : 12.8
Tag                 : Gold
ExtendedUniqueId    : 600255c000000000000255c3a05aa0001
Limit (IOPS)        : 200
Reservation (IOPS)  : none
LimitControlReport  : on

[DiskVolume-02]
DiskVolumeName      : Volume-002
DiskVolumeNumber    : 2
UniqueId            : 00255c3a05aa0002
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                : LX
Format              : 20%
Tag                 : Silver
ExtendedUniqueId    : 600255c000000000000255c3a05aa0002
Limit (IOPS)        : none
Reservation (IOPS)  : none
LimitControlReport  : off

```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -iops
```

```

#DiskVolumeName,DiskVolumeNumber,UniqueId,DiskVolumeSize (GB),Type,Format,ConsumedCapacity (GB),Tag,ExtendedUniqueId,Limit (IOPS),Reservation (IOPS),LimitControlReport
"Volume-001","1","00255c3a05aa0001","250.0","LX","-", "12.8","Gold","600255c000000000000255c3a05aa0001","200","none","on"

```

```
"Volume-002","2","00255c3a05aa0002","250.0","LX","20%","","Silver","600255c00000000000255c3a05aa0002","none","none","off"
```

[注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしておりません。
- ディスクボリューム情報の **type** は、iStorage の場合は WN、WG、LX、「-」のいずれかを表示します。それ以外の場合は Thin、Thick、「-」のいずれかを表示します。
- ディスクボリューム情報の **Format** は、ディスクボリュームのフォーマットの進捗率を表示します (iStorage)。
 - CLARiX、NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、常に「-」となります。
- 仮想ディスクの場合のみ **ConsumedCapacity** を表示します。
- IOPS オプション指定時に **Limit**、**Reservation**、**LimitControlReport** を表示します。
 - IOPS 値が取得できない場合は、各値は "N/A" と表示します。
 - 対象装置が IOPS 未対応の場合は "-" と表示します。

2.12.14 ストレージプールの編集

ストレージプールを編集します。

[構文]

```
ssc update storagepool DiskArrayName PoolId
```

```
<[-tag Tag...]
```

```
[-guide guide]
```

```
[-lmtmode on|off]
```

```
[-rsvmode on|off]
```

```
[-thre Threshold]
```

```
[-lmtdef [Limit]]
```

```
[-rsvdef [Reservation]]>
```

```
[-pooltype StoragePoolType]
```

```
[-serialno SerialNumber]
```

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	対象となるストレージプールが存在するディスクアレイ名を指定します。
<i>PoolId</i> (必須)	プール ID を指定します。 NetApp ストレージの場合は、UUID を指定します。
[-tag <i>Tag...</i>]	タグを指定します。複数指定可能です。

<code>[-guide <i>Guide</i>]</code>	I/O 流量制御のプールに対する性能目安を数値で設定します。 NEC ストレージに指定可能です。
<code>[-lmtmode <i>on off</i>]</code>	I/O 流量制御の上限制御有効 / 無効を設定します。 NEC ストレージに指定可能です。
<code>[-rsvmode <i>on off</i>]</code>	I/O 流量制御の下限制御有効 / 無効を設定します。 NEC ストレージに指定可能です。
<code>[-thre <i>Threshold</i>]</code>	I/O 流量制御の下限制御しきい値を 0～100 で設定します。 NEC ストレージに指定可能です。
<code>[-lmtdef [<i>Limit</i>]]</code>	I/O 流量制御の LD 切り出し時の上限初期値を 10～1000000 で設定します。 値を省略した場合、設定されている上限初期値を削除します。 NEC ストレージに指定可能です。
<code>[-rsvdef [<i>Reservation</i>]]</code>	I/O 流量制御の LD 切り出し時の下限初期値を 10～1000000 で指定します。 値を省略した場合、設定されている下限初期値を削除します。 NEC ストレージに指定可能です。
<code>[-pooltype <i>StoragePoolType</i>]</code>	ストレージプールのタイプを指定します。 <i>PoolId</i> でストレージプールが一意に特定できない場合に指定します。
<code>[-serialno <i>SerialNumber</i>]</code>	対象となるストレージプールが存在するディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

- `-tag`、`-guide`、`-lmtmode`、`-rsvmode`、`-thre`、`-lmtdef`、`-rsvdef` オプションをすべて省略することはできません。

[注]

- タグ文字列に空白を含めることはできません。`-tag` に "" で空白を含むタグ文字列を設定しても、空白を含むタグは登録されません。
- *PoolId* は大文字と小文字を区別します。
- iStorage I/O 流量制御オプションを指定した場合、I/O 流量制御ライセンスが無い場合はエラーとなります。

[構文例]

```
>ssc update storagepool DiskArray-001 1 -tag tag1 tag2 tag3
>ssc update storagepool DiskArray-001 1 -guide 2000 -lmtmode on -rsvmode on
  -thre 70 -lmtdef 500 -rsvdef 100
>ssc update storagepool DiskArray-001 1 -lmtdef -rsvdef
```

2.12.15 ストレージプール情報の表示

ストレージプール情報を表示します。

[構文]

```
ssc show storagepool [DiskArrayName] [-num PoolId | -pooltag StoragePoolTag...]
```

```
[-serialno SerialNumber] [-vertical] [-iops]
```

[引数/オプション]

[<i>DiskArrayName</i>]	ディスクアレイ名を指定します。
[-num <i>PoolId</i>]	プール ID を指定します。 指定したプール ID のストレージプール情報とストレージプールに所属するディスクボリューム情報を表示します。 <i>PoolId</i> を省略した場合、全ストレージプール情報が対象となります。 NetApp ストレージの場合は、UUID を指定します。 -pooltag と同時指定できません。 -num を指定した場合、 <i>DiskArrayName</i> は必須です。
[-pooltag <i>StoragePoolTag...</i>]	ストレージプールに設定しているタグを指定します。 複数指定可能です。 指定したタグを持つストレージプールが自動選択されます。 -num と同時指定できません。 <i>DiskArrayName</i> を省略した場合、必ず指定してください。
[-serialno <i>SerialNumber</i>]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。
[-iops]	IOPS に関連する項目を表示します。

• PoolType の示す値

Basic	iStorage の Basic プール、CLARiX (VNX) の RaidGroup、NetApp の Aggregate
Dynamic	iStorage の Dynamic プール
Thin	iStorage の仮想容量プール、CLARiX (VNX) の StoragePool、SMI-S サービスの仮想容量プール
Hybrid	iStorage の階層プール
-	SMI-S サービスの仮想容量プール以外

[注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。
- RANK についてはサポートしていません (iStorage)。

[構文例]

```
>ssc show storagepool DiskArray-001
>ssc show storagepool DiskArray-001 -vertical
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1 -vertical
>ssc show storagepool DiskArray-001 -pooltag Gold Tokyo
>ssc show storagepool -pooltag Gold Tokyo -vertical
```

[表示例]

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -vertical
```

```
[StoragePool-01]
StoragePoolName      : Pool-001
StoragePoolId        : 1
Capacity (GB)        : 20480.0
FreeCapacity (GB)    : 20255.5
PhysicalCapacity (GB) : 1066.8
ConsumedCapacity (GB) : 21.5
PoolType             : Thin
Tag                  : Gold Tokyo
```

```
[StoragePool-02]
StoragePoolName      : Pool-002
StoragePoolId        : 2
Capacity (GB)        : 130.5
FreeCapacity (GB)    : 130.5
PoolType             : Dynamic
Tag                  : Silver
```

```
[StoragePool-03]
StoragePoolName      : Pool-003
StoragePoolId        : 3
Capacity (GB)        : 4096.0
FreeCapacity (GB)    : 1024.0
PoolType             : Hybrid
Tag                  :
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001
```

```
#StoragePoolName,StoragePoolId,Capacity (GB),FreeCapacity (GB),PhysicalCapacity (GB),ConsumedCapacity (GB),PoolType,Tag
"Pool-001","1","20480.0","20255.5","1066.8","21.5","Thin","Gold Tokyo"
"Pool-002","2","130.5","130.5","","","Dynamic","Silver"
"Pool-003","3","4096.0","1024.0","","","Hybrid",""
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1 -vertical
```

```
[StoragePool-01]
StoragePoolName      : Pool-001
StoragePoolId        : 1
Capacity (GB)        : 20480.0
FreeCapacity (GB)    : 20255.5
PhysicalCapacity (GB) : 1066.8
ConsumedCapacity (GB) : 21.5
PoolType             : Thin
Tag                  : Gold Tokyo
```

```
[DiskVolume-01]
DiskVolumeName       : Volume-001
DiskVolumeNumber     : 1
Tag                  : Gold
```

```
[DiskVolume-02]
DiskVolumeName       : Volume-002
DiskVolumeNumber     : 2
Tag                  : Gold
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1
```

```
[StoragePool]
#StoragePoolName,StoragePoolId,Capacity (GB),FreeCapacity (GB),PhysicalCapacity (GB),ConsumedCapacity (GB),PoolType,Tag
"Pool-001","1","20480.0","20255.5","1066.8","21.5","Thin","Gold Tokyo"

[Diskvolume]
#DiskVolumeName,DiskVolumeNumber,Tag
"Volume-001","1","Gold"
"Volume-002","2","Gold"
```

```
>ssc show storagepool dataontap -vertical
```

```
[StoragePool-01]
StoragePoolName : aggr0
StoragePoolId   : 786e2870-c3ee-11e0-a56c-005056b50006
Capacity (GB)   : 0.8
FreeCapacity (GB) : 0.0
PoolType        : Basic
Tag             : Gold

[StoragePool-02]
StoragePoolName : aggr1
StoragePoolId   : 8f5700ca-c641-11e0-8ca2-005056b50006
Capacity (GB)   : 0.8
FreeCapacity (GB) : 0.3
PoolType        : Basic
Tag             : Silver

[StoragePool-03]
StoragePoolName : aggr2
StoragePoolId   : 5e0a90ca-d9c6-11e0-8c89-005056b50006
Capacity (GB)   : 2.5
FreeCapacity (GB) : 2.5
PoolType        : Basic
Tag             : Bronze
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -pooltag Gold Tokyo
```

```
#DiskArrayName,SerialNumber,StoragePoolName,StoragePoolId,Capacity (GB),FreeCapacity (GB),PhysicalCapacity (GB),ConsumedCapacity (GB),PoolType,Tag
"M100","0000000941900148","Pool-001","1","20480.0","20255.5","1066.8","21.5","Thin","Gold Tokyo"
```

```
>ssc show storagepool -pooltag Gold Tokyo -vertical
```

```
[StoragePool-01]
DiskArrayName      : M100
SerialNumber       : 0000000941900148
StoragePoolName    : Pool-001
StoragePoolId      : 1
Capacity (GB)      : 20480.0
FreeCapacity (GB)  : 20255.5
PhysicalCapacity (GB) : 1066.8
ConsumedCapacity (GB) : 21.5
```

```
PoolType      : Thin
Tag           : Gold Tokyo
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -iops -vertical
[StoragePool-01]
StoragePoolName      : Pool-001
StoragePoolId        : 0
Capacity (GB)        : 1779.3
FreeCapacity (GB)    : 30.0
PoolType             : Dynamic
Tag                  : b
LimitControlMode     : On
ReservationControlMode : Off
TotalLimit (IOPS)    : 1000
TotalReservation (IOPS) : 100
ReservationControlThreshold (%) : 60
ReservationControlStatus : Executing(Performing the Lower Control
)
DefaultLimitOfLD (IOPS) : 200
DefaultReservationOfLD (IOPS) : none

> ssc show storagepool DiskArray-003 -iops
#StoragePoolName,StoragePoolId,Capacity (GB),FreeCapacity (GB),PhysicalCapa
city
(GB),ConsumedCapacity (GB),PoolType,Tag,LimitControlMode,ReservationControl
Mode,TotalLimit (IOPS),TotalReservation (IOPS),ReservationControlThreshold
(%),ReservationControlStatus,DefaultLimitOfLD (IOPS),Default ReservationOfL
D (IOPS)
"Pool-001","1","67584.0","66009.5","1066.8","863.8","Thin","a","a b","-","-
","-","-","-","-","-","-"
```

[注]

- ・ 仮想容量プールの場合のみ、PhysicalCapacity、ConsumedCapacity を表示します。
- ・ タグを指定した場合、ディスクボリューム情報は出力されません。
- ・ タグを指定した場合、DiskArrayName、SerialNumber を表示します。
- ・ IOPS オプション指定時に LimitControlMode、ReservationControlMode、TotalLimit、TotalReservation、ReservationControlThreshold、ReservationControlStatus、DefaultLimitOfLD、DefaultReservationOfLD を表示します。
 - IOPS 値が取得できない場合は、各値は "N/A" と表示します。
 - 対象装置が IOPS 未対応の場合は "-" と表示します。

2.12.16 RDM 用 Disk の用途、あるいは状態の更新

RDM 用 Disk の用途、あるいは状態を更新します。

[構文]

```
ssc rdmstorage update <[rdm | none | clean] | [-tag Tag... [-overwrite]]>
```

```
-vms VmsName [-size Size | -id UniqueId | -name LunName]
```

[引数/オプション]

[rdm none clean]	以下からオペレーションを指定します。 rdm : 通常 Disk を RDM 用途に設定します。 none : 未使用、使用済みの Disk を RDM 用途から除きます。 clean : 使用済みの Disk を [未使用] にします。
[-tag Tag...]	対象 Disk にタグを設定します。複数設定可能です。 -overwrite オプションを指定しない場合、既にタグが設定済みの Disk は設定対象外になります。 Tag を設定しない (-tag のみ指定する) 場合、既に設定済みのタグ情報を削除します。
[-overwrite]	タグを上書き設定します。 -tag オプション指定時有効です。
-vms VmsName (必須)	対象となる仮想マシンサーバをフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
[-size Size]	対象となる Disk のサイズ (Allocation Size) を指定します。
[-id UniqueId]	対象となる UniqueId を指定します。
[-name LunName]	対象となる LUN 名を指定します。

[注]

- 仮想マシンサーバのみの指定:
仮想マシンサーバに接続されているすべての LUN (データストア除く) が対象となります。
- 仮想マシンサーバ + サイズ指定:
仮想マシンサーバに接続されている指定サイズ (Allocation Size) の Disk が対象となります。
- 仮想マシンサーバ + UniqueId 指定:
仮想マシンサーバに接続されている指定 UniqueId を持つ Disk が対象となります。
- 仮想マシンサーバ + LUN 名指定:
仮想マシンサーバに接続されている指定 LUN 名を持つ Disk が対象となります。
- tag オプション指定時、-id オプション、もしくは -name オプションと同時に指定する場合、
-overwrite オプション指定の有無に関わらず、既にタグ設定済みの Disk に対しても上書き設定されます。

[構文例]

```

>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1
>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1 -size 50
>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1 -id 2000003013840054
0000
>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1
  -name "NEC Fibre Channel Disk (eui.003013840e640021)"
>ssc rdmstorage update none -vms vc1/datacenter1/esx1
>ssc rdmstorage update clean -vms vc1/datacenter1/esx1
>ssc rdmstorage update -vms 192.168.1.10/DC/192.168.1.20 -tag bronze
>ssc rdmstorage update -vms 192.168.1.10/DC/192.168.1.20 -tag gold -size
20
  -overwrite
>ssc rdmstorage update -vms 192.168.1.10/DC/192.168.1.20 -tag gold
  -id 003013840e640005

```

2.12.17 RDM 用 Disk の一覧表示

RDM 用 Disk の一覧表示します。

[構文]

ssc rdmstorage show -vms *VmsName* [-vertical]

[引数/オプション]

-vms <i>VmsName</i> (必須)	対象となる仮想マシンサーバをフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```

>ssc rdmstorage show -vms vc1/datacenter1/esx1
>ssc rdmstorage show -vms vc1/datacenter1/esx1 -vertical

```

2.12.18 ストレージトポロジ情報の表示

ストレージトポロジ情報を表示します。

[構文]

ssc show storagetopology *DiskArrayName*

[-poolid *PoolId* | -num *DiskVolumeNumber* | -name *DiskVolumeName*]

[-serialno *SerialNumber*] [-all] [-vertical]

[引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
[-poolid <i>PoolId</i>]	指定したプール ID のストレージトポロジ情報を表示します。

	NetApp ストレージの場合は、UUID を指定します。
<code>[-num DiskVolumeNumber]</code>	指定したディスクボリューム番号のストレージトポロジ情報を表示します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、無効です。
<code>[-name DiskVolumeName]</code>	指定したディスクボリューム名のストレージトポロジ情報を表示します。 NetApp ストレージ、SMI-S サービスの場合は、大文字小文字を区別します。
<code>[-serialno SerialNumber]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に指定します。
<code>[-all]</code>	すべてのストレージトポロジ情報を表示します。 省略した場合、管理対象リソースのストレージトポロジ情報のみを表示します。
<code>[-vertical]</code>	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[ストレージトポロジの対応環境]

本コマンドがサポートする環境は、以下の通りです。

	VMware	Hyper-V	KVM	Xen
iStorage	o	o	x	x
CLARiX	o	o	x	x
Symmetrix	x	x	x	x
NetApp	o	x	o	x

[構文例]

管理対象リソースのストレージトポロジ情報のみを表示する

```
>ssc show storagetopology M100
```

すべてのリソースのストレージトポロジ情報を表示する

```
>ssc show storagetopology M100 -all
```

[表示例]

```
>ssc show storagetopology m100
#DiskArrayName,StoragePoolId,StoragePoolName,DiskVolumeName,DiskVolumeNumber,DiskVolumeType,DiskVolumeManagedStatus,DiskVolumeManagedSubStatus,DatastoreName,MachineName,MachineType,MachineManagedStatus,MachineManagedSubStatus,VmDiskName,VMName,VmMachineType,VmManagedStatus,VmManagedSubStatus
"M100","1","Pool0001","st_LD02","10","LD","Managed","-","","","","","","",""
"M100","1","Pool0001","TopoLD04","22","Datastore","Managed","-","[HVC] C:¥ClusterStorage¥Volume2¥","W2K8R2-SAN1","LogicalMachine, Hyper-V, VM Server","Managed","-","","","","","",""
"M100","1","Pool0001","TopoLD04","22","Datastore","Managed","-","[HVC] C:¥ClusterStorage¥Volume2¥","W2K8R2-SAN2","LogicalMachine, Hyper-V, VM Server","Managed","-","[HVC] C:¥ClusterStorage¥Volume2¥TopoVM102¥TopoVM102-0000.vhd","TopoVM102","Hyper-V, Virtual Machine","Managed","-"
"M100","2","Pool0002","st_LD00","23","LD","Managed","-","","","","","",""
"M100","2","Pool0002","st_LD01","8","LD","Managed","-","","","","","",""
"M100","0","SystemPool","Yamato2DataStore","7","LD","Managed","-","","","",""
```

```
, "", "", "", "", "", "", ""
" M100", "3", "SC02", "20008CDF9DCA40B8000C", "12", "VVOL", "Managed", "-", "", "ESX
i600", "LogicalMachine, VMware, VM Server", "Managed", "-", "[SC02] naa.68cdf9d
0000000008cdf9dca40b8000b/vm01_vvol.vmdk", "vm01_vvol", "VMware, Virtual Mach
ine", "Managed", "-"
```

[表示内容]

* -all を省略した場合、管理対象リソースのみが表示されます。

- ディスクボリュームが管理対象外の場合、コマンド実行結果には出力されません。
- 仮想マシンサーバが管理対象外の場合、ディスクボリュームまでが出力されます。
- 仮想マシンが管理対象外の場合、仮想マシンサーバまでが出力されます。
- 物理マシンが管理対象外の場合、ディスクボリュームまでが出力されます。

2.13 ネットワーク

2.13.1 VLAN の新規作成

物理スイッチに VLAN を新規作成します。

[構文]

```
ssc vlan create VlanName VlanId [-manager HostName | -switch SwitchName [-tag PortName...] [-
untag PortName...]]
```

[引数/オプション]

<i>VlanName</i> (必須)	作成する VLAN の名前を入力します。
<i>VlanId</i> (必須)	作成する VLAN の VLAN ID を指定します。 2～4094 の任意の数字を指定できます。
[-manager <i>HostName</i>]	マネージャのホスト名、または IP アドレスを指定します。
[-switch <i>SwitchName</i> [-tag <i>PortName...</i>] [-untag <i>PortName...</i>]]	スイッチ名とポート名を指定します。 -tag : VLAN タグを設定するポート名を指定します。 -untag : VLAN (タグなし) を設定するポート名を指定します。

[構文例]

```
>ssc vlan create VLAN_008 8
>ssc vlan create vlan_014 14 -manager Switch-A
>ssc vlan create vlan_118 18 -manager 192.168.10.1
>ssc vlan create vlan_210 20 -switch QX-S6500-XG
  -tag 10GigabitEthernet0/2 10GigabitEthernet0/3
>ssc vlan create vlan_210 20 -switch QX-S6500-XG
  -tag 10GigabitEthernet0/2 10GigabitEthernet0/3
  -untag 10GigabitEthernet0/4 10GigabitEthernet0/5
```

2.13.2 VLAN の削除

物理スイッチの VLAN を削除します。

[構文]

```
ssc vlan delete VlanName [-manager HostName | -switch SwitchName [PortName...]]
```

[引数/オプション]

<i>VlanName</i> (必須)	削除する VLAN の名前を入力します。
[-manager <i>HostName</i>]	マネージャのホスト名、または IP アドレスを指定します。
[-switch <i>SwitchName</i> [<i>PortName</i> ...]]	スイッチ名とポート名を指定します。 ポート名を指定しない場合、指定したスイッチのポートすべてが対象になります。

[構文例]

```
>ssc vlan delete VLAN_008
>ssc vlan delete vlan_014 -manager Switch-A
>ssc vlan delete vlan_118 -manager 192.168.10.1
>ssc vlan delete vlan_210 20 -switch QX-S6500-XG
>ssc vlan delete vlan_210 20 -switch QX-S6500-XG
10GigabitEthernet0/2 10GigabitEthernet0/3
```

2.13.3 VLAN 情報の表示

物理スイッチに作成されている VLAN の情報を表示します。

[構文]

```
ssc show vlan
```

[引数 / オプション]

なし

[構文例]

```
>ssc show vlan
```

2.13.4 ポートグループの作成

指定スイッチ (NetworkDevice) 上にポートグループを作成します。

[構文]

```
ssc portgroup create <PortGroupName NetworkDeviceName | VXLANName ScopeName >
```

```
Path VlanType [primary] [secondary]
```

[引数 / オプション]

<i>PortGroupName</i>	作成するポートグループ名を指定します。 入力できる文字数は、100 文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 ¥/.;*?<>
<i>NetworkDeviceName</i>	ポートグループを作成するスイッチ名を指定します。
<i>VXLANName</i>	作成する VXLAN 名を指定します。 入力できる文字数は 32 文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 *+./;=<>?¥ []
<i>ScopeName</i>	VXLAN を作成するスコープ名を指定します。
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在する仮想マシンサーバ、データセンタ、 もしくは VXLAN スコープが存在する vCenter Server のパスを指定します。 仮想スイッチを操作する場合は、仮想マシンサーバを指定します。 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1 分散スイッチを操作する場合は、データセンタのパスを指定します。 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ VXLAN スコープを操作する場合は、vCenter Server のパスを指定します。 [仮想] ビュー : virtual:/VC1 (ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。 ビュータイプを省略した場合、[仮想] ビューのパスとして扱われます。) パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」 を参照してください。
<i>VlanType</i> (必須)	VLAN タイプを指定します。 VLAN タイプは以下の 4 種があります。 none vlan private vxlan
[<i>primary</i>]	VLANID (PrimaryID) を指定します。 <i>VlanType</i> が vlan の場合は、2～4094 まで指定可能です。 <i>VlanType</i> が private の場合は、1～4094 まで指定可能です。
[<i>secondary</i>]	SecondaryId を指定します。 1～4094 まで指定可能です。

VLAN タイプが none 指定の場合は、*primary*、*secondary* とともに指定不要です。

VLAN タイプが vlan 指定の場合は、*primary* を指定します。

VLAN タイプが private 指定の場合は、*primary*、*secondary* 両方指定が必要です。

VLAN タイプが vxlan 指定の場合は、*primary*、*secondary* とともに指定不要です。

[構文例]

```
>ssc portgroup create vPortGroup1 vSwitch1
VC1/DataCenter1/VMServer1 none
>ssc portgroup create vPortGroup2 vSwitch1
virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 vlan 2
```

```
>ssc portgroup create vPortGroup3 vSwitch1
resource:/Group1/VMServer1 private 1 2
>ssc portgroup create dvPortGroup1 dvSwitch1
virtual:/VC1/DataCenter1 vlan 2
>ssc portgroup create vxlan01 privateScope
VC1 vxlan
```

2.13.5 ポートグループの編集

指定スイッチ (NetworkDevice) 上のポートグループを編集します。

[構文]

```
ssc portgroup update PortGroupName NetworkDeviceName Path [-vlan VlanType [primary]
[secondary]] [-bandcontrol <on | off> [ave=value peak=value burstsize=value] [type=<in | out>]]
```

[引数 / オプション]

<i>PortGroupName</i> (必須)	編集するポートグループ名
<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	ポートグループが存在するスイッチ名
<i>Path</i> (必須)	<p>スイッチが存在する仮想マシンサーバ、もしくは DataCenter の仮想 / リソースパスを指定します。</p> <p>仮想スイッチを操作する場合は、仮想マシンサーバを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1</p> <p>分散スイッチを操作する場合は、DataCenter のパスを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ (ビュータイプ(virtual:/)は省略可能です。 ビュータイプを省略した場合、[仮想]ビューのパスとして扱われます。)</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-vlan VlanType [primary] [secondary]]	<p>VlanType VLAN タイプを指定します。 VLAN タイプは以下の 3 種。</p> <p>none vlan private</p> <p>[primary] VLANID (PrimaryID) を指定します。 VLAN タイプが vlan の場合は、2～4094 まで指定可能 VLAN タイプが private の場合は、1～4094 まで指定可能</p> <p>[secondary] SecondaryId を指定します。 1～4094 まで指定可能</p> <p>VLAN タイプが none 指定の場合は、primary,secondary とともに指定不要。 VLAN タイプが vlan 指定の場合は、primary を指定。 VLAN タイプが private 指定の場合は、primary,secondary 両方指定が必須。</p>

<code>[-bandcontrol <on off> [ave=value peak=value burstsize=value] [type=<in out>]]</code>	<p><on off> ネットワーク帯域制御有効 / 無効指定 on : 制御を有効にします。 off : 制御を無効にします。 ave 平均バンド幅 [kbits/s] を指定します。 peak ピークバンド幅 [kbits/s] を指定します。 burstsize バーストサイズ [kbytes] を指定します。 type 制御タイプを指定します。(分散スイッチで有効です) in : 入力 out : 出力</p>
---	---

[注]

- ネットワーク帯域制御の各値は以下の範囲で指定できます。
 - ave
 $0 < \text{ave} < 9,000,000,000,000,000$
 - peak
 $0 < \text{peak} < 9,000,000,000,000,000$
 - burstsize
 $0 < \text{burstsize} < 9,007,199,254,740,991$
- ネットワーク帯域制御機能は VMware 環境でのみサポートしています。
ポートグループに対してネットワーク帯域制御 (トラフィックシェーピング) を設定できます。

[構文例]

```
>ssc portgroup update dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1 -vlan none
>ssc portgroup update VLAN1 vSwitch1 resource:/Group1/VMServer1 -vlan vlan 2
>ssc portgroup update VLAN2 vSwitch1 VC1/DataCenter1/VMServer1 -vlan private 1 2
>ssc portgroup update VLAN1 vSwitch1 VC1/DataCenter1/VMServer1
-bandcontrol on ave=1024 peak=2048 burstsize=100
>ssc portgroup update dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1
-bandcontrol on ave=1024 peak=2048 burstsize=100 type=in
>ssc portgroup update dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1
-bandcontrol off type=out
```

2.13.6 ポートグループの削除

指定スイッチ (NetworkDevice) 上のポートグループを削除します。

[構文]

```
ssc portgroup delete <PortGroupName NetworkDeviceName | VXLANName ScopeName >
Path [-vxlan]
```

[引数 / オプション]

<i>PortGroupName</i>	削除するポートグループ名を指定します。
<i>NetworkDeviceName</i>	ポートグループを削除するスイッチ名を指定します。
<i>VXLANName</i>	削除する VXLAN 名を指定します。
<i>ScopeName</i>	VXLAN を削除するスコープ名を指定します。
<i>Path</i> (必須)	<p>スイッチが存在する仮想マシンサーバ、データセンタ、もしくは VXLAN スコープが存在する vCenter Server のパスを指定します。 仮想スイッチを操作する場合は、仮想マシンサーバを指定します。</p> <p>[仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1</p> <p>分散スイッチを操作する場合は、データセンタのパスを指定します。</p> <p>[仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ VXLAN スコープを操作する場合は、vCenter Server のパスを指定します。</p> <p>[仮想] ビュー : virtual:/VC1 (ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。 ビュータイプを省略した場合、[仮想] ビューのパスとして扱われます。)</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-vxlan]	VXLAN を削除する場合に指定します。

[構文例]

```
>ssc portgroup delete vPortGroup1 vSwitch1 VC1/DataCenter1/VMServer1
>ssc portgroup delete vPortGroup2 vSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1
>ssc portgroup delete vPortGroup3 vSwitch1 resource:/Group1/VMServer1
>ssc portgroup delete dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1
>ssc portgroup delete vxlan01 privateScope VC1 -vxlan
```

2.13.7 ポートグループ一覧の表示

ポートグループ一覧を表示します。

[構文]

```
ssc portgroup show Path [-private] [-bandcontrol] [-vxlan] [-vertical]
```

[引数 / オプション]

<i>Path</i> (必須)	<p>仮想スイッチのポートグループを表示する場合は、仮想マシンサーバを指定します。</p> <p>[仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1</p> <p>分散スイッチのポートグループを表示する場合は、データセンタのパスを指定します。</p> <p>[仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ VXLAN のポートグループを表示する場合は、vCenter Server のパスを指定します。</p>
---------------------	--

	<p>[仮想] ビュー : virtual:/VC1/ (ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。 ビュータイプを省略した場合、[仮想] ビューのパスとして扱われます。 パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-private]	プライベート VLAN 一覧が表示されます。
[-bandcontrol]	ネットワーク帯域制御情報が表示されます。
[-vxlan]	VXLAN として作成したポートグループの一覧を表示します。
[-vertical]	表示形式を指定します。 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[注]

- ネットワーク帯域制御機能は VMware 環境でのみサポートしています。

ポートグループのネットワーク帯域制御 (トラフィックシェーピング) 情報を表示できます。

[構文例]

```
>ssc portgroup show virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1
>ssc portgroup show resource:/Group1/VMServer1 -private
>ssc portgroup show virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 -bandcontrol
>ssc portgroup show VC1/DataCenter1 -vertical
>ssc portgroup show VC1 -vxlan
```

[表示例]*** ポートグループ一覧**

```
#NetworkDeviceName,PortGroupName,NetworkType,VlanType,VlanId(PrimaryId),SecondaryId
"vSwitch0","Service Console","ServiceConsole","None","-","-"
"vSwitch0","VM Network","VirtualMachine","None","-","-"
"vSwitch1","VLAN10","VirtualMachine","Vlan","10","-"
"vSwitch1","VLAN20","VirtualMachine","Vlan","20","-"
```

*** PrivateVlan 一覧**

```
#NetworkDeviceName,PrimaryId,SecondaryId,PrivateType
"dvSwitch","10","10","Promiscuous"
"dvSwitch","10","11","Community"
"dvSwitch","10","12","Isolated"
"dvSwitch","10","13","Community"
"dvSwitch","10","14","Community"
```

*** ネットワーク帯域制御情報**

```
#NetworkDeviceName,PortGroupName,Type,AverageBandWidth(Kbits/s),PeakBandWidth(Kbits/s),BurstSize(Kbytes)
"vSwitch0","VirtualVLAN","in/out","1000","2100","100"
"vSwitch1","VirtualVLAN","in","1500","2000","200"
```

*** VXLAN ポートグループ一覧**

```
#VxlanScopeName,VxlanName,ExtendId,PortGroupName,VlanId(PrimaryId)
"Scope01","Web-Wire","9001","vxw-dvs-4791-virtualwire-4-sid-9001-Web-Wire"
"Scope02","App-Wire","9002","vxw-dvs-4791-virtualwire-5-sid-9002-App-Wire"
```

2.13.8 プライベート VLAN の作成

対象分散スイッチにプライベート VLAN を作成します。

[構文]

```
ssc privatevlan create NetworkDeviceName Path PrimaryId SecondaryId PrivateVlanType
```

[引数 / オプション]

<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	プライベート VLAN を作成する分散スイッチ名
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在する DataCenter の仮想パスを指定します。 virtual:/VC1/DataCenter1/ (virtual:/は省略可能) パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>PrimaryId</i> (必須)	プライベート VLAN のプライマリ ID を指定します。 1～4094 まで指定可能
<i>SecondaryId</i> (必須)	プライベート VLAN のセカンダリ Id を指定します。 1～4094 まで指定可能
<i>PrivateVlanType</i> (必須)	プライベート VLAN のタイプを指定します。 タイプは以下の 3 種。 community isolated promiscuous

[構文例]

```
ssc privatevlan create dvSwitch1 VC1/DataCenter1 1 2 community
ssc privatevlan create dvSwitch1 VC1/DataCenter1 2 3 solated
ssc privatevlan create dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1 3 4 promiscuous
```

2.13.9 プライベート VLAN の編集

対象分散スイッチのプライベート VLAN を編集します。

プライマリ ID とセカンダリ ID が一致したものを編集します。

無差別 (promiscuous) への変更は不可

無差別 (promiscuous) の PrivateVlan の変更は不可

[構文]

```
ssc privatevlan update NetworkDeviceName Path PrimaryId SecondaryId PrivateVlanType
```

[引数 / オプション]

<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	プライベート VLAN を編集する分散スイッチ名
<i>Path</i>	スイッチが存在する DataCenter の仮想パスを指定します。

(必須)	virtual:/VC1/DataCenter1/ (virtual:/は省略可能) パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>PrimaryId</i> (必須)	プライベート VLAN のプライマリ ID を指定します。 1～4094 まで指定可能
<i>SecondaryId</i> (必須)	プライベート VLAN のセカンダリ Id を指定します。 1～4094 まで指定可能
<i>PrivateVlanType</i> (必須)	プライベート VLAN のタイプを指定します。 community isolated

[構文例]

```
>ssc privatevlan update dvSwitch1 VC1/DataCenter1 1 2 isolated
>ssc privatevlan update dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1 2 3 community
```

2.13.10 プライベート VLAN の削除

対象分散スイッチのプライベート VLAN を削除します。

[構文]

```
ssc privatevlan delete NetworkDeviceName Path PrimaryId SecondaryId
```

[引数 / オプション]

<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	プライベート VLAN を削除する分散スイッチ名
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在する DataCenter の仮想パスを指定します。 virtual:/VC1/DataCenter1/ (virtual:/は省略可能) パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>PrimaryId</i> (必須)	プライベート VLAN のプライマリ ID を指定します。
<i>SecondaryId</i> (必須)	プライベート VLAN のセカンダリ Id を指定します。

[構文例]

```
>ssc privatevlan delete dvSwitch1 VC1/DataCenter1/ 1 2
>ssc privatevlan delete dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1/ 2 3
```

2.13.11 VXLAN 一覧の表示

VXLAN の一覧を表示します。

[構文]

```
ssc vxlan show Path [VxlanScope] [-vertical]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	仮想マシンサーバ、もしくは DataCenter のパスを指定します。 [仮想] ビューのパスを指定します。 (例: 仮想マネージャ/ DataCenter)
[<i>VxlanScope</i>]	VXLAN スコープ名を指定します。 <i>Datacenter</i> と併せて指定します。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc vxlan show 192.168.1.100/Datacenter
>ssc vxlan show vCenterServer/Datacenter VXLANScope -vertical
```

2.13.12 VTN 一覧の表示

VTN 情報を表示します。

[構文]

```
ssc vtn show [VtnName] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[<i>VtnName</i>]	VTN 名を指定します。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc vtn show
>ssc vtn show VTN1
```

2.13.13 ファイアウォールプロファイルの作成

ファイアウォールプロファイルを作成します。

[構文]

```
ssc firewallprofile create ProfileName [-description Description]
```

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	ファイアウォールプロファイル名を指定します。
[-description <i>Description</i>]	ファイアウォールプロファイルの説明を入力します。

[構文例]

```
>ssc firewallprofile create WebProfile
>ssc firewallprofile create WebProfile -description "Web サーバ用プロファイル"
```

2.13.14 ファイアウォールプロファイルの削除

ファイアウォールプロファイルを削除します。

[構文]

```
ssc firewallprofile delete ProfileName
```

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	ファイアウォールプロファイル名を指定します。
----------------------------	------------------------

[構文例]

```
>ssc firewallprofile delete WebProfile
```

2.13.15 ファイアウォールプロファイルの表示

ファイアウォールプロファイルの一覧、または内容を表示します。

[構文]

```
ssc firewallprofile show [ProfileName] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[<i>ProfileName</i>]	ファイアウォールプロファイル名を指定します。 省略した場合は、ファイアウォールプロファイルの一覧を表示します。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合は、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc firewallprofile show
>ssc firewallprofile show WebProfile
>ssc firewallprofile show -vertical
```

2.13.16 フィルタリングルールの追加

ファイアウォールプロファイルにフィルタリングルールを追加します。

[構文]

```
ssc firewallprofile add ProfileName Protocol Handling [-sip SourceIP] [-sport SourcePort] [-dip  
DestinationIP] [-dport DestinationPort] [-order OrderNumber]
```

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	ファイアウォールプロファイル名を指定します。
<i>Protocol</i> (必須)	プロトコルを指定します。 TCP : Tcp UDP : Udp ICMP : Icmp ALL : すべて
<i>Handling</i> (必須)	パケットの処理を指定します。 Accept : 許可 Drop : 破棄 Reject : 拒否
<i>[-sip SourceIP]</i>	送信元 IP アドレスを指定します。
<i>[-sport SourcePort]</i>	送信元ポートを指定します。 <i>Protocol</i> が "ICMP", "ALL" の場合は指定できません。
<i>[-dip DestinationIP]</i>	宛先 IP アドレスを指定します。
<i>[-dport DestinationPort]</i>	宛先ポートを指定します。 <i>Protocol</i> が "ICMP", "ALL" の場合は指定できません。
<i>[-order OrderNumber]</i>	ルールの順番を指定します。 省略した場合は最後に追加されます。

[構文例]

```
>ssc firewallprofile add WebProfile Tcp Accept -sip 192.168.1.10
>ssc firewallprofile add WebProfile Udp Drop -sport 22
    -dip 192.168.1.100-192.168.1.120
>ssc firewallprofile add WebProfile All Reject -dip 192.168.1.0/24
    -dport 23 -order 1
```

2.13.17 ネットワーク定義の作成

ネットワークの作成をします。

[構文]

```
ssc network create NetworkName [-scope < public | private >] [-tenant TenantName] [-tag value] [-description value]
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>[-scope < public private >]</i>	公開範囲を設定します。 省略時は、public が設定されます。
<i>[-tenant TenantName]</i>	公開するテナントを指定します。 公開範囲が public の場合は、指定できません。
<i>[-tag value]</i>	タグを指定します。
<i>[-description value]</i>	説明を入力します。

[構文例]

```
>ssc network create VMNetwork1
>ssc network create VMNetwork1 -scope public
>ssc network create VMNetwork1 -scope private
>ssc network create VMNetwork1 -tenant Tenant1
>ssc network create VMNetwork1 -scope private -tenant Tenant1
>ssc network create VMNetwork1 -scope public -tag resource -description cloud
```

2.13.18 ネットワーク定義の適用

ネットワークの設定を適用します。

[構文]

ssc network apply *NetworkName* *Type*

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>Type</i> (必須)	適用する設定種別を指定します。 firewall: ファイアウォール設定 pflow: P-Flow 設定 all: 上記すべて

[構文例]

```
>ssc network apply Network firewall
>ssc network apply Network pflow
>ssc network apply Network all
```

2.13.19 ネットワーク定義の削除

ネットワークを削除します。

[構文]

ssc network delete *NetworkName*

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
----------------------------	----------------

[構文例]

```
>ssc network delete Network
```

2.13.20 ネットワーク定義の表示

ネットワークの情報を表示します。

[構文]

```
ssc network show [NetworkName] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[<i>NetworkName</i>]	ネットワーク名を指定します。 省略した場合、ネットワークの一覧を表示します。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc network show
>ssc network show Network
>ssc network show -vertical
```

2.13.21 VLAN（ポートグループ）定義の追加

ネットワークに VLAN (ポートグループ) 定義を追加します。

[構文]

```
ssc network add-vlan NetworkName SwitchType [SwitchName] -vlanname VlanName [-vlantype <vlan | private>] [-vlanid VlanId [secondaryId]]
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>SwitchType</i> (必須)	スイッチタイプを指定します。 Physicals : 全スイッチ (物理) Physical : 物理スイッチ Virtual : 仮想スイッチ Distributed : 分散スイッチ
[<i>SwitchName</i>]	スイッチ名を指定します。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」の場合、指定できません。 <i>SwitchType</i> が「Physical」「Distributed」の場合、省略できません。
-vlanname <i>VlanName</i>	VLAN 名を指定します。
[-vlantype <vlan private>]	VLAN 種別を指定します。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」、「Physical」の場合、省略できません。 vlan:VLAN private:プライベート VLAN <i>VlanName</i> が指定したスイッチに既に存在している場合は、省略できます。

<code>[-vlanid VlanId [secondaryId]]</code>	VLAN ID を指定します。プライベート VLAN の場合に <i>secondaryId</i> を指定できません。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」、「Physical」の場合、省略できません。 <i>VlanName</i> が指定したスイッチに既に存在している場合は、省略できます。
---	--

[構文例]

```
>ssc network add-vlan VMNetwork1 Virtual dvSwitch -vlanname vPortGroup
-vlantype vlan -vlanid 1
>ssc network add-vlan VMNetwork1 Phisical Switch1 -vlanname PortGroup
-vlantype private -vlanid 100 101
>ssc network add-vlan VMNetwork1 Virtual -vlanname vPortGroup
-vlantype vlan -vlanid 1
```

2.13.22 VLAN（ポートグループ）定義の削除

ネットワークから VLAN (ポートグループ) 定義を削除します。

[構文]

```
ssc network delete-vlan NetworkName SwitchType [SwitchName] -vlanname VlanName
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>SwitchType</i> (必須)	スイッチタイプを指定します。 Physicals : 全スイッチ (物理) Physical : 物理スイッチ Virtual : 仮想スイッチ Distributed : 分散スイッチ
[<i>SwitchName</i>]	スイッチ名を指定します。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」の場合、指定できません。 <i>SwitchType</i> が「Physical」、「Distributed」の場合、省略できません。
<code>-vlanname VlanName</code> (必須)	VLAN 名を指定します。

[構文例]

```
>ssc network delete-vlan Network Physicals -vlanname VLAN10
>ssc network delete-vlan Network Physical Switch01 -vlanname VLAN10
>ssc network delete-vlan Network Virtual -vlanname "VM Network 1"
>ssc network delete-vlan Network Distributed dvSwitch -vlanname "VM Networ
k 1"
```

2.13.23 アドレスプールの追加

ネットワークにアドレスプールを追加します。

[構文]

ssc network add-addresspool *NetworkName* *RangeName* *StartIP* [*EndIP*] [*Division*] [-manage <off | on>] [-public *StartIP* *EndIP*] [-subnetmask *SubnetMask* | -prefixlength *PrefixLength*] [-gateway *Gateway*]

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RangeName</i> (必須)	IP レンジ名を指定します。
<i>StartIP</i> [<i>EndIP</i>]	IP アドレスの範囲を指定します。 特定のアドレスのみを指定する場合は、 <i>StartIP</i> のみ指定してください。(Division:除外のときに有効です)
[<i>Division</i>]	区分を指定します。 assign:割り当て exclude:除外 省略時は assign を設定します。
[-manage <off on>]	管理用 IP アドレスかどうかを指定します。 省略時は off を設定します。 (IPv4 アドレスを登録する場合に有効です。)
[-public <i>StartIP</i> <i>EndIP</i>]	Public IP アドレスの範囲を指定します。 Public IP アドレスを指定することで、対応する NAT 変換アドレス範囲を設定できます。 (IPv4 アドレスを登録する場合に有効です。)
[-subnetmask <i>SubnetMask</i>]	サブネットマスクを指定します。 省略時は 255.255.255.0 を設定します。 (IPv4 アドレスを登録する場合に有効です。)
[-prefixlength <i>PrefixLength</i>]	プレフィックス長を指定します。 省略時は 64 を設定します。 (IPv6 アドレスを登録する場合に有効です。)
[-gateway <i>Gateway</i>]	デフォルトゲートウェイを指定します。

[構文例]

```
>ssc network add-addresspool VMNet privateRange 192.168.1.1 192.168.1.255
assign
  -manage off -public 192.168.1.1 192.168.1.10 -subnetmask 255.255.127.0
  -gateway 192.168.1.0
>ssc network add-addresspool VMNet privateRange 2001:dbf8::100 2001:dbf8::
ffff
  -prefixlength 64
>ssc network add-addresspool VMNet privateRange 192.168.1.1 exclude
```

2.13.24 アドレスプールの削除

ネットワークからアドレスプールを削除します。

[構文]

ssc network delete-addresspool *NetworkName RangeName* [-ipversion *IpVersion*]

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RangeName</i> (必須)	IP レンジ名を指定します。
[-ipversion <i>IpVersion</i>]	対象のプロトコルを指定します。 IPv4 と IPv6 とで同じ IP レンジ名を登録しているときに指定します。 (例: ipv4、ipv6) 省略した場合、名前が一致するすべてのレンジを削除します。

[構文例]

```
>ssc network delete-addresspool Network Range1
>ssc network delete-addresspool Network Range1 -ipversion IPv6
```

2.13.25 ファイアウォール設定の追加

ネットワークにファイアウォール設定を追加します。

[構文]

ssc network add-firewallsetting *NetworkName [ProfileName]* [-firewall *FirewallName*] [-nat] [-order *OrderNumber*]

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
[<i>ProfileName</i>]	ファイアウォールプロファイル名を指定します。
[-firewall <i>FirewallName</i>]	ファイアウォールを指定します。 登録しているファイアウォールが 1 台の場合や既にファイアウォールが設定されている場合は省略することができます。
[-nat]	アドレス変換機能を有効にします。
[-order <i>OrderNumber</i>]	ルールの順番を指定します。 <i>ProfileName</i> を省略した場合は無視されます。

[注]

- 登録済みのファイアウォールとアドレス変換設定を変更することはできません。変更が必要な場合は、ファイアウォール設定を一度削除して再度追加を行ってください。

[構文例]

```
>ssc network add-firewallsetting LocalNetwork WebProfile -firewall vFW30
>ssc network add-firewallsetting LocalNetwork SSHProfile -order 2
>ssc network add-firewallsetting LocalNetwork -nat
```

2.13.26 ファイアウォール設定の削除

ネットワークからファイアウォール設定を削除します。

[構文]

```
ssc network delete-firewallsetting NetworkName [ProfileName | -order OrderNumber]
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
[<i>ProfileName</i> -order <i>OrderNumber</i>]	ファイアウォールプロファイル名、または対象ルールの順番を指定します。 省略した場合は、すべてのファイアウォール設定が対象となります。

[注]

- *ProfileName*, -order を指定して削除を行うと、直後にルールの順番が振り直されます。続けて -order を指定したコマンドを発行される場合は、振り直された順番を指定してください。

[構文例]

```
>ssc network delete-firewallsetting LogicalNetwork
>ssc network delete-firewallsetting LogicalNetwork WebProfile
>ssc network delete-firewallsetting LogicalNetwork -order 1
```

2.13.27 仮想ブリッジの追加

ネットワークに仮想ブリッジを追加します。

[構文]

```
ssc network add-virtualbridge NetworkName BridgeName VlanId [-controller ControllerName] [-othername VirtualNetworkName]
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>BridgeName</i> (必須)	仮想ブリッジ名を指定します。
<i>VlanId</i> (必須)	仮想ブリッジに設定する VLAN ID を指定します。
[-controller <i>ControllerName</i>]	コントローラ名を指定します。 コントローラを1つしか管理していない場合は、省略することができます。
[-othername <i>VirtualNetworkName</i>]	ネットワーク名に P-Flow 用の別名を指定します。 半角英数字とアンダーバーの組み合わせ(最大 31 文字)が入力可能です。

[注]

- ネットワーク名が P-Flow の規約に沿わない場合、**-othername** で別名を指定してください。

[構文例]

```
>ssc network add-virtualbrige Network VBR1 10
>ssc network add-virtualbrige Network VBR1 10 -controller PFC
>ssc network add-virtualbrige Network VBR1 10 -othername VTN1
```

2.13.28 仮想ブリッジの削除

ネットワークから仮想ブリッジを削除します。

[構文]

```
ssc network delete-virtualbridge NetworkName BridgeName
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>BridgeName</i> (必須)	仮想ブリッジ名を指定します。

[構文例]

```
>ssc network delete-virtualbridge Network VBR1
```

2.13.29 仮想ルータの追加

ネットワークにルーター定義を追加します。

[構文]

```
ssc network add-router NetworkName RouterName [Gateway]
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RouterName</i> (必須)	ルーター名を指定します。 入力できる文字数は 31 文字以内です。 半角英数字と "_" のみ指定可能です。
<i>[Gateway]</i>	デフォルトゲートウェイのアドレスを指定します。

[構文例]

```
>ssc network add-router 1SW_Network 2Sg_Router
>ssc network add-router 1SW_Network 2Sg_Router 192.168.1.2
```

2.13.30 仮想ルータの削除

ネットワークのルーター定義を削除します。

[構文]

ssc network delete-router *NetworkName*

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
----------------------------	----------------

[構文例]

```
>ssc network delete-router 1SW_Network
```

2.13.31 仮想ルータインターフェースの追加

ネットワークのルーター定義にインターフェースを追加します。

[構文]

ssc network add-router-if *NetworkName RouterName InterfaceName IPAddress*
SubnetMask [-point *AccessPoint* [-mac *MACAddress*]]

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RouterName</i> (必須)	ルーター名を指定します。 入力できる文字数は 31 文字以内です。 半角英数字と "_" のみ指定可能です。
<i>InterfaceName</i> (必須)	インターフェース名を指定します。 入力できる文字数は 31 文字以内です。 半角英数字と "_" のみ指定可能です。
<i>IPAddress</i> (必須)	IP アドレス (IPv4) を指定します。
<i>SubnetMask</i> (必須)	サブネットマスクを指定します。
-point <i>AccessPoint</i> (必須)	接続先を指定します。
[-mac <i>MACAddress</i>]	MAC アドレスを指定します。

[構文例]

```
>ssc network add-router-if 1SW_Network 2Sg_Router VIF_VBR1
192.168.1.2 255.255.255.0 -point VBR1
>ssc network add-router-if 1SW_Network 2Sg_Router VIF_VBR1
192.168.1.2 255.255.255.0 -point VBR1 -mac F0:FF:08:1A:FF:01
```

2.13.32 仮想ルータインターフェースの削除

ネットワークのルーター定義からインターフェースを削除します。

[構文]

```
ssc network delete-router-if NetworkName RouterName [InterfaceName]
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RouterName</i> (必須)	ルーター名を指定します。
<i>[InterfaceName]</i>	インターフェース名を指定します。 省略時はすべてのインターフェースを削除します。

[構文例]

```
>ssc network delete-router-if 1SW_Network 2Sg_Router
>ssc network delete-router-if 1SW_Network 2Sg_Router VIF_VBR1
```

2.13.33 静的ルーティングの追加

ネットワークのルーター定義に静的ルーティングを追加します。

[構文]

```
ssc network add-router-rt NetworkName RouterName
```

```
-dest DestinationAddress,SubnetMask -fwd ForwardingAddress
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RouterName</i> (必須)	ルーター名を指定します。 入力できる文字数は 31 文字以内です。 半角英数字と "_" のみ指定可能です。
-dest <i>DestinationAddress,SubnetMask</i> (必須)	宛先の IP アドレス (IPv4) を指定します。 0.0.0.0 を指定した場合はすべての IP アドレスが条件になります。
-fwd <i>ForwardingAddress</i> (必須)	転送先の IP アドレス (IPv4) を指定します。

[構文例]

```
>ssc network add-router-rt 1SW_Network 2Sg_Router
  -dest 0.0.0.0,0.0.0.0 -fwd 192.168.10.2
>ssc network add-router-rt 1SW_Network 2Sg_Router
  -dest 192.168.10.0,255.255.255.0 -fwd 192.168.1.2
```

2.13.34 静的ルーティングの削除

ネットワークのルーター定義から静的ルーティングを削除します。

[構文]

```
ssc network delete-router-rt NetworkName RouterName
```

```
[-dest DestinationAddress,SubnetMask] [-fwd ForwardingAddress]
```

[引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RouterName</i> (必須)	ルーター名を指定します。
<i>[-dest DestinationAddress,SubnetMask]</i>	宛先の IP アドレス (IPv4) を指定します。
<i>[-fwd ForwardingAddress]</i>	転送先の IP アドレス (IPv4) を指定します。

[構文例]

```
>ssc network delete-router-rt 1SW_Network 2Sg_Router
>ssc network delete-router-rt 1SW_Network 2Sg_Router
  -dest 0.0.0.0,255.255.255.0 -fwd 192.168.10.2
>ssc network delete-router-rt 1SW_Network 2Sg_Router
  -fwd 192.168.10.2
```

2.13.35 ネットワーク設定の追加

ネットワーク設定を追加します。

[構文]

```
ssc group set-network GroupPath NicNumber
```

```
<SwitchName VlanName | -network NetworkName>
```

```
[-tag < on | off >]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	グループ、もしくはモデルまでのパスを指定します。 VM グループ / モデルを指定することはできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>NicNumber</i> (必須)	NIC 番号を指定します。1 から 10 の範囲で指定します。
<i>SwitchName</i>	スイッチ名を指定します。
<i>VlanName</i>	VLAN 名を指定します。
<i>-network NetworkName</i>	ネットワーク名を指定します。
<i>[-tag < on off >]</i>	タグ情報を設定します。 on: VLAN にタグを設定します。 off: VLAN にタグを設定しません。

	[-tag <on off>] を省略した場合、"off" の指定と同じになります。
--	--

[構文例]

```
>ssc group set-network Category1/Group01 1 SW-001 VLAN-001
>ssc group set-network Group-A001 1 SW-A001 VLAN-A001 -tag on
>ssc group set-network Group-A001 2 -network Network2
>ssc group set-network Category1/Group01/VMSModel01 1 -network Network1
```

[注]

- SigmaSystemCenter 3.0 より、add vlan コマンドからコマンド名が変更になりました。

2.13.36 ネットワーク設定の削除

ネットワーク設定を削除します。

[構文]

ssc group delete-network *GroupName*

< *SwitchName VlanName* | -network *NetworkName* | -all >

[-nic *NicNumber*] [-i]

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 VM のグループ、またはモデルを指定することはできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>SwitchName</i>	対象となるスイッチ名を指定します。 -network、-all と同時に指定できません。
<i>VlanName</i>	対象となる VLAN 名を指定します。 -network、-all と同時に指定できません。
-network <i>NetworkName</i>	対象となるネットワーク名を指定します。 <i>SwitchName</i> 、-all と同時に指定できません。
-all	すべてのネットワーク設定を削除します。
[-nic <i>NicNumber</i>]	NIC 番号を指定します。1 から 10 の範囲で指定します。 -all と同時に指定できません。
[-i]	確認メッセージを表示します。

[構文例]

```
>ssc group delete-network Category1/Group01 SW-001 VLAN-001
>ssc group delete-network Group-A001 SW-A001 VLAN-A001 -i
>ssc group delete-network Group-B001 -all
>ssc group delete-network Group-C001 -network Network1 -nic 1
```

2.13.37 仮想ネットワークリソースの削除

仮想ネットワークリソースを削除します。

[構文]

```
ssc virtualnetwork delete TargetPath [-controller ControllerName]
```

[引数/オプション]

<i>TargetPath</i> (必須)	対象リソースのパスを指定します。 VTN、vBridge、vRouter を指定できます。
[-controller <i>ControllerName</i>]	コントローラの名前を指定します。

[構文例]

```
>ssc virtualnetwork delete VTN -controller PFC
>ssc virtualnetwork delete VTN¥VBR1
>ssc virtualnetwork delete VTN¥VRT
```

2.14 ロードバランサ

2.14.1 ロードバランサの追加

グループにロードバランサを追加します。

[構文]

```
ssc add lb GroupName LbGroupName
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ロードバランサを追加するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ)
<i>LbGroupName</i> (必須)	ロードバランサグループを指定します。

[構文例]

```
>ssc add lb Category1/Group01 LBGroup-001
>ssc add lb Group-A001 LBGroup-A001
```

2.14.2 ロードバランサの削除

ロードバランサの設定を削除します。

[構文]

```
ssc delete lb GroupName < [LbGroupName] | [-all] > [-i]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象となるグループを指定します。 グループのパスを指定します。(例: カテゴリ/グループ、グループ)
--------------------------	---

[<i>LbGroupName</i>]	対象となるロードバランサグループ名を指定します。 -all と同時に指定できません。
[-all]	グループのすべてのロードバランサを削除します。
[-i]	確認メッセージを表示します。

[構文例]

```
>ssc delete lb Category1/Group01 LBGroup-001
>ssc delete lb Group-A001 LBGroup-A001 -i
>ssc delete lb Group-B001 -all
```

2.14.3 ロードバランサ情報の表示

ロードバランサ情報を表示します。

[構文]

ssc show lb [-vertical]

[引数/オプション]

[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV 形式で表示します。
-------------	---

[構文例]

```
> ssc show lb
```

2.14.4 ロードバランサグループの追加

ロードバランサ、ソフトウェア・ロードバランサにロードバランサグループを新規作成します。

[構文]

ssc lbgroup create *LBName* *LBGroupName* *IPAddress* *Protocol* *PortNumber* [,*PortNumber*...]

[-type *LBType*] [-cpuweight]

[-session *SessionType* [*PersistentTime*] [*MaxConnectionCount*]

[-clientip *From To*] [-url *URL*] [-clienttype *ClientType*]

[-cookie <*CookiePersistentTime* | *Cookie*>] [-netmask *RangeNetMask*]

[-forward *ForwardType*]

-realserver *NetworkAddress* *NetMask* [*RealServerPortNumber*] [*Weight*]

[引数 / オプション]

<i>LBName</i> (必須)	ロードバランサ名を指定します。
-----------------------	-----------------

<i>LBGroupName</i> (必須)	作成するロードバランサグループ名を指定します。
<i>IPAddress</i> (必須)	仮想サーバの IP アドレスを指定します。
<i>Protocol</i> (必須)	プロトコルを指定します。 tcp : TCP ucp : UCP
<i>PortNumber</i> [, <i>PortNumber</i> ...] (必須)	ポート番号を指定します。 1~65535 の範囲が指定できます。 ポート番号を複数入力する場合、ポート番号を ", (カンマ)" 区切りで入力してください。 例) 80,443 ポート番号の範囲指定を利用する場合、ポート番号を "-(ハイフン)" 区切りで入力してください。 例) 1024-2048
[-type <i>LBType</i>]	負荷分散方式を指定します。 rr : ラウンドロビン lc : 最少コネクション数 wrr : 重み res : 応答速度
[-cpuweight]	CPU 負荷による重み付けを使用する場合に指定します。
[-session <i>SessionType</i> [<i>PersistentTime</i>] [<i>MaxConnectionCount</i>] [-clientip <i>From To</i>] [-url <i>URL</i>] [-clienttype <i>ClientType</i>] [-cookie < <i>CookiePersistentTime</i> <i>Cookie</i> >] [-netmask <i>RangeNetMask</i>]]	セッション維持方式と各種設定値を指定します。 <i>SessionType</i> セッション維持方式を指定します。 cookie : Cookie ssl : SSL sticky : クライアントの IP アドレス singleip : クライアントの IP アドレス rangeip : クライアントの IP アドレス (範囲指定) url : URL clienttype : クライアントの種別 (PC, i-mode) <i>PersistentTime</i> 維持 (固定化) 時間を指定します。 選択するセッション維持方式により、設定可能な範囲が以下のように変わります。 "singleip"、"rangeip" のとき、120~86400 "cookie"、"url"、"clienttype" のとき、0~86400 <i>MaxConnectionCount</i> 最大接続数を指定してください。 セッション維持方式に "cookie"、"url"、"clienttype" を指定したときに指定可能です。 1~8000 の範囲で指定できます。 -clientip <i>From To</i> <i>From</i> , <i>To</i> にクライアント IP アドレスの範囲を指定します。 セッション維持方式に "rangeip" を指定したときに指定可能です。 -url <i>URL</i> <i>URL</i> のパターンを指定します。 セッション維持方式に "url" を指定したときに指定可能です。 -client <i>ClientType</i> クライアントの種別を指定します。 セッション維持方式に "clienttype" を指定したときに指定可能です。 pc : PC

	<p>i-mode : i-mode</p> <p>-cookie <CookiePersistentTime Cookie> クッキーによる維持(固定化)を指定します。 ロードバランサではクッキーのパターンを指定します。 ソフトウェア・ロードバランサではクッキーによる固定時間を指定します。 セッション維持方式に "cookie" を指定したときに指定可能です。</p> <p>-netmask RangeNetMask クライアントのネットマスクを指定します。 セッション維持方式に "rangeip" を指定したときに指定可能です。</p>
[-forward ForwardTyoe]	<p>パケットの変換方式を指定します。</p> <p>mat : Direct Server Return</p> <p>nat : Network Address Translation</p>
<p>-realserver NetworkAddress NetMask [RealServerPortNumber] [Weight] (必須)</p>	<p>リアルサーバのネットワーク情報を指定します。 NetworkAddress: ネットワークアドレスを指定します。 NetMask: サブネットマスクを指定します。 RealServerPortNumber: ポート番号を指定します。 1～65535 の範囲が指定できます。 Weight: 負荷分散の重みを設定します。 0～65000 の範囲で指定できます。</p>

[構文例]

```
>ssc lbgroup create SS8000 LBGroup 172.16.0.100 tcp 80
-type rr -session cookie -cookie SSC
-realserver 192.168.1.0 255.255.255.0 80
>ssc lbgroup create InterSecVMLB2 LBGroup 172.16.1.100 tcp 1024-2048
-type ls -cpuweight -session weight 300 -forward nat
-realserver 192.168.2.0 255.255.255.0 1024
>ssc lbgroup create slb-2 LBGroup 172.18.0.100 udp 80
-type res -session rangeip 300 -netmask 255.0.0.0 -forward mat
-realserver 192.168.40.0 255.255.255.0
```

2.14.5 ロードバランサグループの削除

ロードバランサ、ソフトウェア・ロードバランサのロードバランサグループを削除します。

[構文]

ssc lbgroup delete *LBName* [*LBGroupName*]

[引数 / オプション]

<i>LBName</i> (必須)	ロードバランサ名を指定します。
[<i>LBGroupName</i>]	削除するロードバランサグループ名を指定します。

[構文例]

```
>ssc lbgroup delete SS8000
>ssc lbgroup delete SS8000 LBGroup1
```

2.15 論理マシン

2.15.1 指定マシンの論理化

指定マシンを論理化します。

また、指定したマシンとマシンの関連を作成します。

[構文]

```
ssc logicalmachine assign < -luuid UUID | -lname MachineName > < -puuid UUID | -pname MachineName > -profile ProfileName [-force]
```

[引数/オプション]

< -luuid <i>UUID</i> -lname <i>MachineName</i> > (必須)	論理マシンの UUID、またはマシン名を指定します。
< -puuid <i>UUID</i> -pname <i>MachineName</i> > (必須)	物理マシンの UUID、またはマシン名を指定します。
-profile <i>ProfileName</i> (必須)	適用しているサービス プロファイル名、またはブートコンフィグ名を指定します。
[-force]	指定した論理マシンが他の物理マシンと関連を持つ場合、指定した物理マシンとの関連を再作成します。 [-force] を省略した場合、論理マシンに関連する物理マシンが存在した場合は、指定した物理マシンが一致しないとエラーとなります。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine assign -lname esx01 -pname blade1 -profile
org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot01
>ssc logicalmachine assign -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -pu
uid
1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265 -profile org-root/org-SSC-org/ls-ssc
-slot01
>ssc logicalmachine assign -lname esx01 -pname blade2 -profile
org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot01 -force
```

2.15.2 論理マシンの解体・削除

指定マシンの論理化を解除します。または、論理マシンを削除します。

[構文]

```
ssc logicalmachine release < -luuid UUID | -lname MachineName > [-force]
```

[引数/オプション]

< -luuid <i>UUID</i> -lname <i>MachineName</i> > (必須)	論理マシンの UUID、またはマシン名を指定します。
--	----------------------------

<code>[-force]</code>	指定した論理マシンを SigmaSystemCenter、および DPM サーバから削除します。 省略した場合、論理マシンと物理マシンの関連のみ削除し、 論理化を解除します。
-----------------------	---

[構文例]

```
>ssc logicalmachine release -lname esx01
>ssc logicalmachine release -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc logicalmachine release -lname esx01 -force
```

2.15.3 論理マシンの表示

論理マシン情報を表示します。

[構文]

`ssc logicalmachine show [-luuid UUID | -lname MachineName] [-vertical]`

[引数/オプション]

<code>[-luuid <i>UUID</i> -lname <i>MachineName</i>]</code>	論理マシンの UUID、またはマシン名を指定します。
<code>[-vertical]</code>	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine show
>ssc logicalmachine show -vertical
>ssc logicalmachine show -lname esx01
>ssc logicalmachine show -lname esx01 -vertical
>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -vertical
```

[表示例]

```
>ssc logicalmachine show -vertical

[1]
MachineName      : esx01
UUID             : 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
MACAddress       : 00:16:97:A7:00:00
ProductName      : Express5800/B120a [N8400-082]
MachineType      : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName      : #11_config
SlotNumber       : 11
Location         : 192.168.1.40/11
Tag              :
UnitName         :
Description      :
Physical MachineName : Blade11
Physical UUID    : 1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265
Physical MACAddress : 00:16:97:E7:22:66
```

```
Physical ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType : Unitary
Physical ProfileName :
Physical SlotNumber : 11
Physical Location : 192.168.1.40/11
Physical Tag :
Physical UnitName :
Physical Description :

[2]
MachineName : esx02
UUID : 30381C00-D797-11DD-0100-001697A70400
MACAddress : 00:16:97:A7:04:00
ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
MachineType : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName : #12_config
SlotNumber : 12
Location : 192.168.1.40/12
Tag :
UnitName :
Description :
Physical MachineName : Blade12
Physical UUID : 0A211F80-24F4-11DF-8001-001697E72264
Physical MACAddress : 00:16:97:E7:22:62
Physical ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType : Unitary
Physical ProfileName :
Physical SlotNumber : 12
Physical Location : 192.168.1.40/12
Physical Tag :
Physical UnitName :
Physical Description :
```

```
>ssc logicalmachine show
#MachineName,UUID,MACAddress,ProductName,MachineType,ProfileName,SlotNumber
,Location,Tag,UnitName,Description,Physical MachineName,Physical UUID,Physi
cal MACAddress,Physical ProductName,Physical MachineType,Physical ProfileNa
me,Physical SlotNumber,Physical Location,Physical Tag,Physical UnitName,Phy
sical Description
"esx01","30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000","00:16:97:A7:00:00","Express
5800/B120a [N8400-082]","LogicalMachine, VMware, VM Server","#11_config","1
1",192.168.1.40/11,"","","","Blade11","1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E7226
5","00:16:97:E7:22:66","Express5800/B120a [N8400-082]","Unitary","","11","1
92.168.1.40/11","","",""
"esx02","30381C00-D797-11DD-0100-001697A70400","00:16:97:A7:04:00","Express
5800/B120a [N8400-082]","LogicalMachine, VMware, VM Server","#12_config","1
2",192.168.1.40/12,"","","","Blade12","0A211F80-24F4-11DF-8001-001697E7226
4","00:16:97:E7:22:62","Express5800/B120a [N8400-082]","Unitary","","12","1
92.168.1.40/12",,,"",""
```

```
>ssc logicalmachine show -lname esx01 -vertical
[1]
MachineName : esx01
UUID : 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
MACAddress : 00:16:97:A7:00:00
ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
```

```

MachineType      : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName      : #11_config
SlotNumber       : 11
Location         : 192.168.1.40/11
Tag              :
UnitName         :
Description      :
Physical MachineName : Blade11
Physical UUID     : 1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265
Physical MACAddress : 00:16:97:E7:22:66
Physical ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType : Unitary
Physical ProfileName :
Physical SlotNumber : 11
Physical Location  : 192.168.1.40/11
Physical Tag       :
Physical UnitName  :
Physical Description :

```

```
>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -vertical
```

```

[1]
MachineName      : esx01
UUID             : 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
MACAddress       : 00:16:97:A7:00:00
ProductName      : Express5800/B120a [N8400-082]
MachineType      : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName      : #11_config
SlotNumber       : 11
Location         : 192.168.1.40/11
Tag              :
UnitName         :
Description      :
Physical MachineName : Blade11
Physical UUID     : 1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265
Physical MACAddress : 00:16:97:E7:22:66
Physical ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType : Unitary
Physical ProfileName :
Physical SlotNumber : 11
Physical Location  : 192.168.1.40/11
Physical Tag       :
Physical UnitName  :
Physical Description :

```

```

>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
#MachineName,UUID,MACAddress,ProductName,MachineType,ProfileName,SlotNumber
,Location,Tag,UnitName,Description,Physical MachineName,Physical UUID,Physical
MACAddress,Physical ProductName,Physical MachineType,Physical ProfileName,Physical
SlotNumber,Physical Location,Physical Tag,Physical UnitName,Physical Description
"esx01","30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000","00:16:97:A7:00:00","Express
5800/B120a [N8400-082]","LogicalMachine, VMware, VM Server","#11_config","1
1",192.168.1.40/11,"","","","Blade11","1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E7226
5","00:16:97:E7:22:66","Express5800/B120a [N8400-082]","Unitary","","11","1
92.168.1.40/11","","",""

```

2.15.4 論理マシンアカウント作成

ホストに論理マシンアカウントを作成します。

[構文]

```
ssc logicalmachine create-account GroupName HostName -type ConnectionType -ip IPAddress -u UserName [-p Password] [-overwrite]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンアカウントを作成するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。"oob" のみサポートします。 OOB は、Out-of-Band-Management で使用されます。
-ip <i>IPAddress</i> (必須)	IP アドレスを指定します。
-u <i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字 が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i>]	パスワードを指定します。 [-p <i>Password</i>] を省略した場合、パスワード指定なしとなります。 <i>Password</i> に、空文字 ("") を指定した場合、省略した場合 と同じ扱いとなります。
[-overwrite]	マシンアカウントが既に登録済みの場合、上書きをします。 [-overwrite] を省略した場合、マシンアカウントが既に 登録されているとエラーになります。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.103 -u admin
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.103 -u admin -p ""
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.103 -u admin -p admin
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.103 -u admin -p admin -overwrite
```

2.15.5 論理マシンアカウント更新

ホストの論理マシンアカウントを更新します。

[構文]

```
ssc logicalmachine update-account GroupName HostName -type ConnectionType <[-ip IPAddress] [-u UserName] [-p Password]>
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンアカウントを更新するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。"oob"のみサポートします。 OOB は、Out-of-Band-Management で使用されます。
[-ip <i>IPAddress</i>]	更新する IP アドレスを指定します。
[-u <i>UserName</i>]	更新するユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字/小文字 が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i>]	更新するパスワードを指定します。 <i>Password</i> に、空文字 ("") を指定した場合は、パスワードを削除します。

-ip、-u、-p オプションのうち、いずれか1つは必ず指定してください。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip 192.168.1.3
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -p admin
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -u root
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -u root -p root
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip 192.168.1.4 -p ""
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip 192.168.1.105 -u administrator -p admin
```

2.15.6 論理マシンアカウント削除

ホストの論理マシンアカウントを削除します。

[構文]

```
ssc logicalmachine delete-account GroupName HostName -type ConnectionType
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	マシンアカウントを削除するホストが存在するグループを指定します。
------------------	----------------------------------

(必須)	グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
<i>-type ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。"oob"のみサポートします。 OOB は、Out-of-Band-Management で使用されます。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine delete-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob
```

2.15.7 論理マシンアカウント情報表示

ホストの論理マシンアカウント情報を表示します。

[構文]

```
ssc logicalmachine show-account [GroupName [HostName]] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[<i>GroupName</i> <i>HostName</i>]]	対象のホストが存在するグループ、ホスト指定します。 グループにはパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ) [<i>GroupName</i> [<i>HostName</i>]] を省略した場合、すべてのホストが対象になります。 [<i>HostName</i>] を省略した場合、グループ配下のホストが対象になります。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) [-vertical] を省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine show-account -vertical
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 -vertical
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001 -vertical
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001
```

[表示例]

```
>ssc logicalmachine show-account -vertical
[1]
GroupName      : Category1/Group-01
HostName       : Host-001
AccountUserName : admin
AccountHostName : 192.168.1.103

[2]
GroupName      : Category1/Group-02
HostName       : Host-002
AccountUserName : admin
AccountHostName : 192.168.1.10
```

```
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001 -vertical
[1]
GroupName      : Category1/Group-01
HostName       : Host-001
AccountUserName : admin
AccountHostName : 192.168.1.103
```

```
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001
#GroupName,HostName,AccountUserName,AccountHostName
"Category1/Group-01","Host-001","admin","192.168.1.103"
```

2.15.8 論理マシンプロファイル作成

ホストに論理マシンプロファイルを作成します。

[構文]

```
ssc logicalmachine create-profile GroupName HostName ProfileName -m ManagerAddress -uuid vUUID [-force]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンプロファイルを定義しているホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
<i>ProfileName</i> (必須)	プロファイル名を指定します。
-m <i>ManagerAddress</i> (必須)	プロファイルが有効なマネージャ (UCSM IP/EM IP) のアドレスを指定します。
-uuid <i>vUUID</i> (必須)	プロファイルの仮想 UUID を指定します。
[-force]	ホストにマシンプロファイルが存在した場合、マシンプロファイルを再作成します。 [-force] を省略した場合、ホストにマシンプロファイルがある場合、エラーとなります。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine create-profile Category1/Group-01 Host-001 #11_config
-m
192.168.1.40 -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc logicalmachine create-profile Category1/Group-02 Host-001
org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot01 -m 192.168.1.100 -uuid
30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -force
```

2.15.9 論理マシンプロファイル更新

論理マシンプロファイルを更新します。

[構文]

```
ssc logicalmachine update-profile GroupName HostName <[ProfileName] [-m ManagerAddress] [-  
uuid vUUID] [-mac [NICNo],MAC] [-wwn [HBANo],WWPN],[WWNN]]>
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンプロファイルを定義しているホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント/カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
[<i>ProfileName</i>]	プロファイル名を指定します。
[-m <i>ManagerAddress</i>]	プロファイルが有効なマネージャ (UCSM IP/EM IP) のアドレスを指定します。
[-uuid <i>vUUID</i>]	プロファイルの仮想 UUID を指定します。
[-mac [<i>NICNo</i>], <i>MAC</i>]	プロファイルの MAC アドレスを指定します。 NIC 番号、MAC アドレスを "," で区切って指定してください。 NIC 番号には 1 以上 10 以下を指定します。
[-wwn [<i>HBANo</i>], <i>WWPN</i> , [<i>WWNN</i>]]	プロファイルの WWN を指定します。 HBA 番号、WWPN、WWNN を "," で区切って指定してください。 HBA 番号には 0 以上 9999 以下を指定します。

[構文例]

```
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-01 Host-001 -m 192.168.  
1.101  
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-01 Host-001  
-mac 1,00:16:97:E7:22:66  
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-01 Host-001  
-wwn ,2003-0030-130F-4000,  
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-02 Host-002  
org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot05  
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-02 Host-002  
-uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -mac ,00:16:97:E7:22:60  
-wwn ,2003-0030-130F-4000,2004-0030-130F-4000
```

2.15.10 論理マシンプロファイル削除

論理マシンプロファイルを削除します。

[構文]

```
ssc logicalmachine delete-profile GroupName HostName
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンプロファイルを定義しているホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i>	対象となるホスト名を指定します。

(必須)

[構文例]

```
>ssc logicalmachine delete-profile Category1/Group-01 Host-001
```

2.16 スマートグループ

2.16.1 スマートグループの作成

スマートグループを作成します。

[構文]

```
ssc create smartgroup SmartGroupPath -target Target -formula Formula [-value Value[...]] [-join Join]
```

[引数/オプション]

<i>SmartGroupPath</i> (必須)	<p>スマートグループを登録するグループのパス、およびスマートグループ名を指定します。</p> <p>グループのパスは、存在するパスを指定します。</p> <p>パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下) <p>(設定例)</p> <p>operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード直下に smartgroup101 を作成します。</p> <p>resource:/smartgroup102 : [リソース] ビュー のルートノード直下に smartgroup102 を作成します。</p> <p>指定したパスにスマートグループが存在しない場合、新規にスマートグループを作成します。</p> <p>指定したパスにスマートグループが存在する場合、既存のスマートグループに対して、指定された条件を追加します。</p>
-target <i>Target</i> (必須)	<p>条件とする対象を指定します。</p> <p>条件として設定可能な <i>Target</i> は、対象とするビューに依存します。</p>
-formula <i>Formula</i> (必須)	<p>条件の式を指定します。</p> <p>条件として設定可能な <i>Formula</i> は、<i>Target</i> に依存します。</p>
[-value <i>Value</i> [...]]	<p>条件の値を指定します。</p> <p><i>Formula</i> に [Any]、または [NotAny] が指定されている場合のみ複数指定可能です。複数の値を指定する場合は、" " (スペース) で区切って指定します。</p> <p><i>Formula</i> に [Empty]、または [NotEmpty] が指定されている場合は、指定できません。</p>
[-join <i>Join</i>]	<p>各種条件の結合方法を指定します。</p> <p>スマートグループを複数の条件構成で作成する場合に指定が必要です。</p> <p>また、このオプションに指定した内容は、スマートグループを新規に登録する場合のみ有効となります。(既に存在するスマートグループに対して条件を追加する場合は、無視します。)</p> <p>and : すべての条件に一致</p>

	or : いずれかの条件に一致 省略した場合は、「and」として扱います。
--	--

[注]

- [運用] ビューの運用グループ配下にスマートグループを作成する場合、登録先の運用グループと同じ名称は指定できません。

[operations:]で利用可能な条件

対象のビューが、[operations:] の場合に利用可能なスマートグループ条件は以下です。

条件名	-target に設定可能な値	-formula に指定可能な値	-value に指定可能な値	備考
ホスト名 定義 IP アドレス	HostName DefinedIpAddress	BeginsWith / EndsWith / Equal / NotEqual / Match / NotMatch BeginsWith : ~から始まる EndsWith : ~で終わる Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない Match : ~を含む NotMatch : ~を含まない	任意の文字列	
ホストタグ	HostTag	BeginsWith / EndsWith / Match / NotMatch / Equal / NotEqual / Empty / NotEmpty BeginsWith : ~から始まる EndsWith : ~で終わる Match : ~を含む NotMatch : ~を含まない Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない Empty : 未設定 NotEmpty : 設定済み	任意の文字列	大文字小文字を区別します。
電源状態	PowerStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Off / On / Suspend Unknown : 不明 Off : Off On : On Suspend : サスペンド 複数選択可能	
稼働ステータス	RunningStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Off / On Off : 運用待機/未割当 On : 運用稼働中 複数選択可能	
OS ステータス	OperatingSystemStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する	Unknown / Off / On Unknown : 不明 Off : Off On : On	

		NotAny : 次のいずれとも一致しない	複数選択可能	
ハードウェアステータス	HardwareStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Ready / Faulted / Degraded Unknown : 不明 Ready : 正常 Faulted : 故障 Degraded : 機能低下 複数選択可能	
実行ステータス	ExecuteStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Wait / InProcess / Abort Wait : 待機中 InProcess : 処理中 Abort : 異常終了 複数選択可能	
メンテナンスステータス	MaintenanceStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Off / On Off : Off On : On 複数選択可能	
サービス開始日までの残日数	DaysToServiceStart	LessEqual / GreaterEqual LessEqual : ～以下 GreaterEqual : ～以上	任意の数値 (0～999)	サービス開始済み (リソース割り当て済み) を対象としない場合、 RunningStatus 条件と組み合わせて使用してください。
サービス終了日までの残日数 サービス終了日からの経過日数	DaysToServiceEnd DaysFromServiceEnd	LessEqual / GreaterEqual LessEqual : ～以下 GreaterEqual : ～以上	任意の数値 (0～999)	サービス終了済み (リソース解除済み) を対象としない場合、 RunningStatus 条件と組み合わせて使用してください。
サービス開始日 サービス終了日	ServiceStartDate ServiceEndDate	Equal / NotEqual / LessEqual / GreaterEqual Equal : ～と一致する NotEqual : ～と一致しない LessEqual : ～以下 GreaterEqual : ～以上	日付 (yyyy/mm/dd)	

[resource:]で利用可能な条件

対象のビューが、[resource:] の場合に利用可能なスマートグループ条件は以下です。

条件名	-target に設定可能な値	-formula に指定可能な値	-value に指定可能な値	備考
-----	-----------------	------------------	----------------	----

マシン名 モデル名 位置情報 OS 名	MachineName ModelName Location OsName	BeginsWith / EndsWith / Match / NotMatch / Equal / NotEqual / Empty / NotEmpty BeginsWith : ～から始まる EndsWith : ～で終わる Match : ～を含む NotMatch : ～を含まない Equal : ～と一致する NotEqual : ～と一致しない Empty : 未設定 NotEmpty : 設定済み	任意の文字列	
マシンタグ ホストタグ	MachineTag HostTag	BeginsWith / EndsWith / Match / NotMatch / Equal / NotEqual / Empty / NotEmpty BeginsWith : ～から始まる EndsWith : ～で終わる Match : ～を含む NotMatch : ～を含まない Equal : ～と一致する NotEqual : ～と一致しない Empty : 未設定 NotEmpty : 設定済み	任意の文字列	大文字小文字を区別します。
CPU 種別	CpuName	BeginsWith / EndsWith / Equal / NotEqual / Match / NotMatch BeginsWith : ～から始まる EndsWith : ～で終わる Equal : ～と一致する NotEqual : ～と一致しない Match : ～を含む NotMatch : ～を含まない	任意の文字列	
マシン種別	MachineType	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unitary / Blade / VirtualMachine / LostVirtualMachine / VMServer / Vmware / Xen / HyperV / Kvm Unitary : 物理コンピュータ Blade : ブレードサーバ VirtualMachine : 仮想マシン LostVirtualMachine : 削除された仮想マシン VMServer : 仮想マシンサーバ Vmware : VmWare (仮想マシン、または仮想マシンサーバ) Xen : Xen (仮想マシン、または仮想マシンサーバ) HyperV : Hyper-V (仮想マシン、または仮想マシンサーバ) Kvm : Kvm (仮想マシン、または仮想マシンサーバ) 複数選択可能	

電源状態	PowerStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Off / On / Suspend Unknown : 不明 Off : Off On : On Suspend : サスペンド 複数選択可能	
稼動ステータス	RunningStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Off / On Off : 運用待機/未割当 On : 運用稼動中 複数選択可能	
OS ステータス	OperatingSystemStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Off / On Unknown : 不明 Off : Off On : On 複数選択可能	
ハードウェアステータス	HardwareStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Ready / Faulted / Degraded Unknown : 不明 Ready : 正常 Faulted : 故障 Degraded : 機能低下 複数選択可能	
実行ステータス	ExecuteStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Wait / InProcess / Abort Wait : 待機中 InProcess : 処理中 Abort : 異常終了 複数選択可能	
ポリシー状態	PolicyStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Off / Partial / On Unknown : 不明 Off : 全て無効 Partial : 一部有効 On : 全て有効 複数選択可能	
メンテナンスステータス	MaintenanceStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Off / On Off : Off On : On 複数選択可能	
センサー異常状態	SensorCurrentStatus	Any Any : 次のいずれかに一致する	WarningOrCritical / Critical WarningOrCritical : 警告、または異常 Critical : 異常 いずれかのみ選択可能	
IPMI の接続状態	IpmiStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する	Unknown / Connected / NotResponding / NotAuthenticate / Invalid	

		NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown : 接続未確認 Connected : 接続可能 NotResponding : 接続不可 NotAuthenticate : 認証失敗 Invalid : 無効 複数選択可能	
ディスク タイプ	VmDiskType	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Thin / Thick / Differencing Thin : 可変 Thick : 固定 Differencing : 差分 複数選択可能	
VM 作成 方法	VmCreatingMethod	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	FullClone / HWProfileClone / DiffClone / DiskClone FullClone : Full Clone HWProfileClone : HW Profile Clone DiffClone : Differential Clone DiskClone : Disk Clone 複数選択可能	
ディスク 用途	VmDiskUsage	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	SystemDisk / DataStore / ExtendedDisk SystemDisk : システムディスク DataStore : データストア ExtendedDisk : 拡張ディスク 複数選択可能	
メモリサ イズ	MemorySize	Equal / LessEqual / GreaterEqual Equal : ～と一致する LessEqual : ～以下 GreaterEqual : ～以上	任意の数値(GByte) (0～99999)	
システム ディスク 使用量 差分ディ スク使用 量 データス トア使用 量 拡張ディ スク使用 量	VmSystemDiskUsed VmDifferencingDiskUsed VmDataStoreUsed VmExtendedDiskUsed	LessEqual / GreaterEqual LessEqual : ～以下 GreaterEqual : ～以上	任意の数値(GByte) (0～2097152) 小数点 1 桁	
CPU ソ ケット数 CPU ス レッド数	CpuSocket CpuThread	Equal / NotEqual / LessEqual / GreaterEqual Equal : ～と一致する NotEqual : ～と一致しない LessEqual : ～以下 GreaterEqual : ～以上	任意の数値(GByte) (0～99999)	

CPU 周波数	CpuClock	Equal / NotEqual / LessEqual / GreaterEqual Equal : ～と一致する NotEqual : ～と一致しない LessEqual : ～以下 GreaterEqual : ～以上	任意の数値(GHz) (0～2097152) 小数点 1 桁	
グループ プール設定	GroupPoolSetting	Empty / NotEmpty Empty : 未設定 NotEmpty : 設定済み	指定できません	
ベンダー	Vendor	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / IBM / HP / NEC / DELL / Cisco Unknown : 不明 IBM : IBM HP : HP NEC : NEC DELL : DELL Cisco : Cisco 複数選択可能	
ベンダー ID	VendorID	Equal / NotEqual Equal : ～と一致する NotEqual : ～と一致しない	任意の数値 (0～2147483647)	

[構文例]

[リソース] ビューのマシンノードの group1 配下の subgroup11 直下へ「電源状態がオフ、またはサスペンド」の smartgroup101 を作成する

```
>ssc create smartgroup resource:/group1/subgroup11/smartgroup101 -target
PowerStatus -formula Any -value Off Suspend
```

[リソース] ビューのマシンノードの group1 直下へ「電源状態がオフ、またはサスペンド」「または「ハードウェア状態が正常 以外」の smartgroup102 を作成する

```
>ssc create smartgroup resource:/group1/smartgroup102 -target PowerStatus
-formula Any -value Off Suspend -join or
>ssc create smartgroup resource:/group1/smartgroup102 -target HardwareStat
us
-formula NotAny -value Ready -join or
```

[リソース] ビューのマシンノード直下へ「マシン種別が VMS」かつ「マシン名に Express を含む」かつ「実行ステータスが待機中、または処理中」の smartgroup103 を作成する

```
>ssc create smartgroup resource:/smartgroup103 -target MachineType -formul
a
Any -value VmServer -join and
>ssc create smartgroup resource:/smartgroup103 -target MachineName -formul
a
Match -value Express -join and
>ssc create smartgroup resource:/smartgroup103 -target ExecuteStatus -form
ula
Any -value Wait InProcess -join and
```

2.16.2 スマートグループの削除

スマートグループを削除します。

[構文]

ssc delete smartgroup *GroupPath* [-lump]

[引数/オプション]

<i>GroupPath</i> (必須)	<p>削除するスマートグループが登録されているグループパス、またはスマートグループパスを指定します。</p> <p>グループのパスは、存在するパスを指定します。</p> <p>パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下) <p>(設定例)</p> <p>operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード直下から smartgroup101 を削除します。</p> <p>resource:/smartgroup102 : [リソース] ビュー のルートノード直下の smartgroup102 を削除します。</p>
[-lump]	<p>指定したグループパス直下のスマートグループを一括削除します。<i>GroupPath</i> にグループパスを指定した場合のみ有効となります。</p>

[構文例]

[リソース] ビューの group1 配下の subgroup11 直下から smartgroup101 を削除する

```
>ssc delete smartgroup resource:/group1/subgroup11/smartgroup101
```

[リソース] ビューの group1 配下の subgroup11 直下のスマートグループをすべて削除する

```
>ssc delete smartgroup resource:/group1/subgroup11 -lump
```

2.16.3 スマートグループ設定情報の表示

スマートグループ設定情報を表示します。

[構文]

ssc show smartgroup *GroupPath* [-detail]

[引数/オプション]

<i>GroupPath</i> (必須)	<p>参照するグループパス、またはスマートグループパスを指定します。</p> <p>パスは、存在するパスを指定します。</p> <p>パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下) <p>(設定例)</p> <p>operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード直下の smartgroup101 の設定情報を表示します。</p> <p>operations:/category1/group11 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード配下の 全スマートグループ の設定情報を表示します。</p>
--------------------------	---

	resource:/smartgroup102 : [リソース] ビューのルートノード直下の smartgroup102 の設定情報を表示します。 resource:/ : [リソース] ビューの全スマートグループの設定情報を表示します。
[-detail]	スマートグループ設定情報を詳細表示します。

[構文例]

[運用] ビューの category1 配下の group11 直下の smartgroup101 の設定情報を表示する

```
>ssc show smartgroup operations:/category1/group11/smartgroup101
```

[運用] ビューの category1 配下の group11 直下のすべてのスマートグループの設定情報を詳細表示する

```
>ssc show smartgroup operations:/category1/group11 -detail
```

[リソース] ビューのマシンノード直下の smartgroup102 の設定情報を詳細表示する

```
>ssc show smartgroup resource:/smartgroup102 -detail
```

[リソース] ビューのすべてのスマートグループの設定情報を表示する

```
>ssc show smartgroup resource:/
```

2.16.4 スマートグループのエクスポート

スマートグループを XML ファイルへエクスポートします。

[構文]

```
ssc export smartgroup FileName GroupPath
```

[引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	エクスポートするスマートグループ情報の XML ファイル名を指定します。 ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲みます。 ファイル名のみを指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダが対象となります。 指定したフォルダが存在しない場合、フォルダを作成します。 指定したファイルが存在する場合、上書きします。
<i>GroupPath</i> (必須)	エクスポート対象とするグループまでのパスを指定します。グループのパスは、存在するパスを指定します。 パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下) (設定例) operations:/category1/group11 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード直下のすべてのスマートグループをエクスポートします。 resource:/group2/group12/smartgroup102 : [リソース] ビューの group2 配下の group12 ノード直下の smartgroup102 のみをエクスポートします。 resource:/ : [リソース] ビューのルートノード直下のすべてのスマートグループをエクスポートします。

[構文例]

[運用] ビューの category1 配下の group11 直下のすべてのスマートグループを c:\¥ssc¥smartgroup.xml へエクスポートする

```
>ssc export smartgroup c:\¥ssc¥smartgroup.xml operations:/category1/group11
```

[リソース] ビューの group2 配下の group12 直下の smartgroup102 を
c:\¥ssc¥smartgroup.xml へエクスポートする

```
>ssc export smartgroup c:\¥ssc¥smartgroup.xml  
resource:/group2/group12/smartgroup102
```

[リソース] ビューのマシンノード直下のすべてのスマートグループを
c:\¥ssc¥smartgroup.xml へエクスポートする

```
>ssc export smartgroup c:\¥ssc¥smartgroup.xml resource:/
```

[運用] ビューの運用ノード直下の smartgroup201 を c:\¥ssc¥smartgroup.xml へ
エクスポートする

```
>ssc export smartgroup c:\¥ssc¥smartgroup.xml operations:/smartgroup201
```

2.16.5 スマートグループのインポート

スマートグループを XML ファイルからインポートします。

[構文]

```
ssc import smartgroup FileName GroupPath
```

[引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	インポートするスマートグループ情報の XML ファイル名を指定します。 ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲みます。 ファイル名のみを指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象となります。
<i>GroupPath</i> (必須)	インポートするスマートグループを配置するグループパスを指定します。グループのパスは、存在するパスを指定します。 パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下) (設定例) operations:/category1/group11 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード直下へ XML ファイル内のスマートグループをインポートします。 resource:/ : [リソース] ビューのルートノード直下へ XML ファイル内のスマートグループをインポートします。

インポートの途中で失敗した場合、すべてのインポートはロールバックされます。

[構文例]

```
[運用] ビューの category1 配下の group11 直下へ c:\¥ssc¥smartgroup.xml 内の  
スマートグループをインポートする  
>ssc import smartgroup c:\¥ssc¥smartgroup.xml operations:/category1/group11
```

```
[リソース] ビューのマシンノード直下へ c:\¥ssc¥smartgroup.xml 内のスマート  
グループをインポートする  
>ssc import smartgroup c:\¥ssc¥smartgroup.xml resource:/
```

[注]

- ・ エクスポートされた XML ファイルを編集してインポートした場合、以下のような現象が発生する可能性がありますので、編集した XML ファイルをインポートしないでください。
 - インポートに失敗する
 - スマートグループ編集画面で条件が正しく表示されない
 - スマートグループ指定時に期待した結果が得られない

2.17 プロファイル

2.17.1 性能監視プロファイルの作成

性能監視プロファイルを作成します。

[構文]

```
ssc monitoringprofile create ProfileName [-scope < public | private >] [-tenant TenantName] [-description Description] [-source CopyProfileName] [-perfinfo <name=value | id=value> [interval=value] [, <name=value | id=value> [interval=value]...]] [-report type=value [definition=ReportDefinitionFile] [interval=value]]
```

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	作成する性能監視プロファイルの名前を指定します。 入力できる文字数は 63 文字以内です。 使用可能な文字列は、半角英数字、半角空白、および半角記号 ("(", ")", "-", "_") です。
[-scope < public private >]	公開範囲を設定します。 省略時は、public が設定されます。
[-tenant <i>TenantName</i>]	公開するテナントを指定します。 公開範囲が public の場合は、指定できません。
[-description <i>Description</i>]	性能監視プロファイルの説明を指定します。 入力できる文字数は、255 文字以内です。
[-source <i>CopyProfileName</i>]	コピーする性能情報リストを持つ性能監視プロファイルの名前を指定します。
[-perfinfo <name=value id=value> [interval=value] [, <name=value id=value> [interval=value]...]]	性能情報を指定します。 複数指定可能です。 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って次を指定してください。 name : 性能情報の名前を指定します。 入力できる文字数は、256 文字以内です。 SystemMonitor 性能監視で定義したカスタム性能情報を指定する場合は、name オプションに加えて id オプションとして "id=0" を指定してください。 id : 性能情報の MetricId を指定します。

	<p>指定可能な値は「1.1.7 性能情報と Metric ID」を参照してください。</p> <p>interval : 性能情報の収集間隔を指定します。</p> <p>指定可能な値は [注] を参照してください。</p>
<pre>[-report type=value [definition=ReportDefinitionFile] [interval=value]]</pre>	<p>レポート定義ファイルから必要な性能情報を取得し、性能監視プロファイルを作成します。</p> <p>type : 性能監視対象の種別を指定します。</p> <p>VMServer : 仮想マシンサーバ</p> <p>VM : 仮想マシン</p> <p>Physical : 物理マシン</p> <p>definition : レポート定義ファイルの名前または ID を指定します。</p> <p>interval : 性能情報の収集間隔を指定します。</p> <p>指定可能な値は [注] を参照してください。</p>

[注]

性能情報の収集間隔は以下のいずれかを指定します。

1 分間隔 : "00:01"

5 分間隔 : "00:05"

30 分間隔 : "00:30"

1 時間間隔 : "01:00"

4 時間間隔 : "04:00"

1 日間隔 : "1"

1 週間間隔 : "7"

1 ヶ月間隔 : "30"

既定値は"00:05" (5 分) です。

[構文例]

```
>ssc monitoringprofile create profile1 -description "This is profile1."
-perfinfo name="CPU Usage (%)" interval="00:01"
>ssc monitoringprofile create profile2 -description "This is profile2."
-perfinfo id=1 , name="Disk Space (MB)" interval="1"
>ssc monitoringprofile create profile2 -description "This is profile2."
-source "profile1" -perfinfo id=0 name=="CPU Usage (GHz)" ,
name="Disk Space (MB)" interval="1"
```

2.17.2 性能監視プロファイルの更新

性能監視プロファイルの設定内容を更新します。

[構文]

```
ssc monitoringprofile update ProfileName [-scope < public | private >] [-tenant TenantName] [-deleteid] [-description Description] [-perfinfo <name=value | id=value>] [interval=value] [,
```

<name=value | id=value> [interval=value]...] [-delperfinfo <name=value | id=value> [<name=value | id=value>]...]

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	更新する性能監視プロファイルの名前を指定します。
[-scope < public private >]	公開範囲を指定します。
[-tenant <i>TenantName</i>]	公開するテナントを指定します。 公開範囲が public の場合は、指定できません。
[-deleteid]	リソース管理 ID を削除します。-tenant と同時に指定することはできません。
[-description <i>Description</i>]	性能監視プロファイルの説明を更新します。 入力できる文字数は、255 文字以内です。
[-perfinfo <name=value id=value> [interval=value] [, <name=value id=value> [interval=value]...]	性能情報を指定します。複数指定可能です。 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って次を指定してください。 name : 性能情報の名前を指定します。 入力できる文字数は、256 文字以内です。 SystemMonitor 性能監視で定義したカスタム性能情報を、指定する場合 name オプションに加えて、id オプションとして "id=0" を指定してください。 id : 性能情報の MetricId を指定します。 指定可能な値は、「1.1.7 性能情報と Metric ID (17 ページ)」を参照してください。 interval : 性能情報の収集間隔を指定します。 収集間隔は以下のいずれかを指定します。 1 分間隔 : "00:01" 5 分間隔 : "00:05" 30 分間隔 : "00:30" 1 時間間隔 : "01:00" 4 時間間隔 : "04:00" 1 日間隔 : "1" 1 週間間隔 : "7" 1 ヶ月間隔 : "30" 既定値は"00:05" (5 分) です。 指定する性能情報が登録済みの場合、指定する収集間隔を更新します。 指定する性能情報が未登録の場合、指定する性能情報 (名前と収集間隔) を追加します。
[-delperfinfo <name=value id=value> [<name=value id=value>]...]	削除する性能情報を指定します。 name : 性能情報の名前を指定します。 id : 性能情報の MetricId を指定します。 指定可能な値は、「1.1.7 性能情報と Metric ID (17 ページ)」を参照してください。

[構文例]

```
>ssc monitoringprofile update profile1 -description "This is the profile1."
>ssc monitoringprofile update profile1 -perfinfo name="CPU Usage (%)"
>ssc monitoringprofile update profile2 -description "This is the profile2."
  -perfinfo id=1 interval="00:30" , name="Disk Space (MB)"
```

```
>ssc monitoringprofile update profile2 -description "This is the profile2."
-perfinfo id=0 name="CPU Usage (GHz)" interval="00:30" ,
name="Disk Space (MB)" -delperfinfo id=2 name="Current Power (W)"
```

2.17.3 性能監視プロファイルの削除

性能監視プロファイルを削除します。

[構文]

```
ssc monitoringprofile delete ProfileName [ProfileName...] [-i]
```

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> [<i>ProfileName...</i>] (必須)	性能監視プロファイルの名前を指定します。 この性能監視プロファイルが任意のグループ・モデルに割り当てられた場合、削除できません。
[-i]	確認メッセージを表示します。

[構文例]

```
>ssc monitoringprofile delete profile1
>ssc monitoringprofile delete profile1 profile2 -i
```

2.17.4 性能監視プロファイルの表示

性能監視プロファイルの設定内容を表示します。

[構文]

```
ssc monitoringprofile show [<-path Path [-host HostName] | -profile ProfileName>]
```

[引数/オプション]

-path <i>Path</i>	表示対象の運用グループ、モデルのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。 例: グループ指定の場合 Category/Group モデル指定の場合 Category/Group/Model モデル指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Model
[-host <i>HostName</i>]	表示対象のホストの名前を指定します。 このオプションを指定した場合、 <i>Path</i> に運用グループを指定してください。
-profile <i>ProfileName</i>	性能監視プロファイルの名前を指定します。 指定した性能監視プロファイルの設定を表示します。

[注]

- -path と -profile を指定しない場合、全性能監視プロファイルの設定情報を表示します。

[表示例]

・すべての性能監視プロファイルの表示

```
>ssc monitoringprofile show
[MonitoringProfile][1] -----
Profile Name           : Standard Monitoring Profile (1min)
Public Scope           : Public
Resource Management ID :
Description            :
[PerformanceInformation][1]
Performance Name       : CPU Usage (%)
Interval               : 1分
[PerformanceInformation][2]
Performance Name       : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
Interval               : 1分
[PerformanceInformation][3]
Performance Name       : Disk Space (MB)
Interval               : 1分
[PerformanceInformation][4]
Performance Name       : Physical Memory Space (MB)
Interval               : 1分
[MonitoringProfile][2] -----
Profile Name           : Standard Monitoring Profile (5min)
Public Scope           : Public
Resource Management ID :
Description            :
[PerformanceInformation][1]
Performance Name       : CPU Usage (%)
Interval               : 5分
[PerformanceInformation][2]
Performance Name       : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
Interval               : 5分
[PerformanceInformation][3]
Performance Name       : Disk Space (MB)
Interval               : 5分
[PerformanceInformation][4]
Performance Name       : Physical Memory Space (MB)
Interval               : 5分
```

省略

```
[MonitoringProfile][10] -----
Profile Name           : Physical Machine Monitoring Profile (30min)
Public Scope           : Public
Resource Management ID :
Description            :
[PerformanceInformation][1]
Performance Name       : CPU Usage (%)
Interval               : 30分
[PerformanceInformation][2]
Performance Name       : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
Interval               : 30分
[PerformanceInformation][3]
Performance Name       : Disk Space (MB)
Interval               : 30分
[PerformanceInformation][4]
```

```

Performance Name : Physical Memory Space (MB)
Interval          : 30 分
[PerformanceInformation][5]
Performance Name : Current Power (W)
Interval          : 30 分

```

・指定の性能監視プロファイルの表示

```

>ssc monitoringprofile show -profile "Standard Monitoring Profile (1min)"
[MonitoringProfile]
Profile Name          : Standard Monitoring Profile (1min)
Public Scope          : Public
Resource Management ID :
Description           :
[PerformanceInformation][1]
Performance Name      : CPU Usage (%)
Interval              : 1分
[PerformanceInformation][2]
Performance Name      : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
Interval              : 1分
[PerformanceInformation][3]
Performance Name      : Disk Space (MB)
Interval              : 1分
[PerformanceInformation][4]
Performance Name      : Physical Memory Space (MB)
Interval              : 1分

```

・グループに設定されている性能監視プロファイルの表示 (グループに設定あり)

```

>ssc monitoringprofile show -path group1
[MonitoringProfile]
Profile Name          : Standard Monitoring Profile (1min)
Public Scope          : Public
Resource Management ID :
Description           :
[PerformanceInformation][1]
Performance Name      : CPU Usage (%)
Interval              : 1分
[PerformanceInformation][2]
Performance Name      : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
Interval              : 1分
[PerformanceInformation][3]
Performance Name      : Disk Space (MB)
Interval              : 1分
[PerformanceInformation][4]
Performance Name      : Physical Memory Space (MB)
Interval              : 1分
[SystemMonitor ManagementServer]
IP Address            : 127.0.0.1
Port Number           : 26200
[Host Access Account]
Account               : root
Password              : *****

```

・グループに設定されている性能監視プロファイルの表示 (グループに設定なし)

```

>ssc monitoringprofile show -path group2
[MonitoringProfile]
Profile Name          :
Public Scope          :

```

Resource Management ID :
Description :

2.17.5 性能監視プロファイルのグループへの設定

性能監視プロファイルをグループ (グループ / モデル)、ホストに関連付けます。

[構文]

```
ssc monitoringprofile set Path <ProfileName [-ip IPAddress] [-port PortNumber] [-account Account]
[-p Password] | -delete | -disable [-ip IPAddress] [-port PortNumber] [-account Account] [-p
Password]> [-host HostName]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	設定対象運用グループ、モデルのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。 例: グループ指定の場合 Category/Group モデル指定の場合 Category/Group/Model モデル指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Model
<i>ProfileName</i>	性能監視プロファイル名を指定します。
<i>[-ip IPAddress]</i>	SystemMonitor 管理サーバの IP アドレスを指定します。 省略すると、"127.0.0.1" を使用します。
<i>[-port PortNumber]</i>	SystemMonitor 管理サーバのポート番号を指定します。 1 から 65535 の範囲で指定します。 省略すると、"26200" を使用します。
<i>[-account Account]</i>	監視対象ホストへのアクセスに利用するアカウントを指定します。 監視対象ホストへ直接アクセスしてデータを取得する必要がある場合、このアカウントを利用します。 入力できる文字数は 255 文字以内です。
<i>[-p Password]</i>	監視対象ホストへのアクセスに利用するパスワードを指定します。 監視対象ホストへ直接アクセスしてデータを取得する必要がある場合、このパスワードを利用します。 入力できる文字数は 256 文字以内です。
<i>-delete</i>	性能監視設定情報を消去します。 指定したパスの性能監視設定情報を消去します。
<i>-disable</i>	性能監視設定情報を無効にします。 指定したパスの性能監視設定情報を無効にします。
<i>[-host HostName]</i>	ホスト名を指定します。 指定したホストに性能監視プロファイルに関連付けます。 このオプションを指定した場合、 <i>Path</i> に運用グループを指定してください。

[構文例]

```
>ssc monitoringprofile set Group1 profile1
>ssc monitoringprofile set Group1 profile1 -ip 127.0.0.1
>ssc monitoringprofile set Group1 profile1 -ip 127.0.0.1 -port 26200
>ssc monitoringprofile set Group1 profile1 -ip 127.0.0.1 -port 26200
  -account root -p root123
>ssc monitoringprofile set Group1 -delete
>ssc monitoringprofile set Group1 -disable
```

2.17.6 名前付きホストプロファイルの作成

名前付きホストプロファイルを作成します。

[構文]

```
ssc hostprofile create ProfileName OsType <[-private [GroupName]] [-os [osname=<name | code>]
[password=value] [SysprepFile=value] [owner=value] [orgname=value] [timezone=value]
[productkey=value] [ConnectedNumber=value] [DomainType=<workgroup | domain>]
[DomainName=value] [DomainAccount=value] [DomainPassword=value] [License=value]
[AccountName=value] [Roles=value, ...]] [-dns
NICNo,<Primary,Secondary,PrimaryWINS,SecondaryWINS | Primary,Secondary,Tertiary> ...] [-
extend Command=value] | -delete [dns | extend | osservice | account]> [-dns4 NICNo,<Primary |
Primary,Secondary | Primary,Secondary,Tertiary> ...] [-dns6 NICNo,<Primary | Primary,Secondary |
Primary,Secondary,Tertiary> ...] [-wins4 NICNo,<Primary | Primary,Secondary> ...] [-osservice
ServiceName ...] [-account Name=value Password=value [Roles=value, ...] [Groups=value, ...], ...]
```

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	名前付きホストプロファイル名を指定します。
<i>OsType</i> (必須)	OS 種別を指定します。 以下の <i>OsType</i> を指定できます。 いずれか1つを指定してください。 <i>OsType</i> : OS 種別 Windows: Windows Server Windows-client: Windows Client Linux: Linux
[-private [<i>GroupName</i>]]	専有のホストプロファイル作成時に指定します。 <i>GroupName</i> にホストプロファイルを割り当てるテナントを指定します。(省略可) このオプションを指定しない場合は、共有のホストプロファイルが作成されます。
[-os [osname=< <i>name</i> <i>code</i> >] [password= <i>value</i>] [SysprepFile= <i>value</i>] [owner= <i>value</i>] [orgname= <i>value</i>] [timezone= <i>value</i>]]	OS 情報を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。 osname : OS 名 OS 名のコード、または WebUI に表示されている文字列を指定します。 「1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ)」 を参照してください。 password : パスワード SysprepFile : インポートする Sysprep ファイル

<pre>[productkey=value] [ConnectedNumber=value] [DomainType=<workgroup domain>] [DomainName=value] [DomainAccount=value] [DomainPassword=value] [License=value] [AccountName=value] [Roles=value, ...]</pre>	<p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>owner : Owner 名</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>orgname : 組織名</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>timezone : タイムゾーン</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>タイムゾーンのコード、または WebUI で表示されている文字列を指定します。</p> <p>「1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ)」を参照してください。</p> <p>値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。</p> <p>productkey : プロダクトキー</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx の形式で入力してください。</p> <p>ConnectedNumber : 同時接続サーバ数</p> <p>OS 種別が Windows Server の場合のみ指定できます。</p> <p>指定しない場合は、ライセンスモードが「接続クライアント」になります。</p> <p>DomainType : ワークグループ設定</p> <p>ワークグループの場合 workgroup、ドメインの場合 domain と指定します。</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>DomainName : ドメイン (ワークグループ) 名</p> <p>DomainAccount : ドメインアカウント</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>DomainPassword : ドメインパスワード</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>Licence : ライセンス情報</p> <p>OS 種別が Linux の場合のみ指定できます。</p> <p>xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx の形式で入力してください。</p> <p>AccountName : ビルトイン管理のアカウント名</p> <p>ビルトイン管理者の名前を変更する場合にアカウント名を指定します。</p> <p>Roles : 役割</p> <p>"Controller", "WSMan" が指定できます。</p> <p>OS の操作に使用する場合は "Controller" を指定します。ESMPRO/ServerAgentService 登録に使用する場合は "WSMan" を指定します。</p>
<pre>[-dns NICNo,<Primary,Secondary, PrimaryWINS,SecondaryWINS Primary,Secondary,Tertiary> ...]</pre>	<p>DNS 情報を指定します。</p> <p>NICNo : NIC 番号を指定します。</p> <p>Primary : 優先 (プライマリ) DNS</p> <p>Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS</p> <p>Tertiary : ターシャリ DNS</p> <p>OS 種別が Linux の場合のみ指定できます。</p> <p>PrimaryWINS : 優先 (プライマリ) WINS</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>SecondaryWINS : 代替 (セカンダリ) WINS</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>[-dns4], [-dns6]、および [-wins4] と同時に指定できません。</p>

[-extend Command= <i>value</i>]	<p>拡張情報を設定します。</p> <p>"=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>Command : 追加するコマンドを指定します。</p> <p>複数指定時は、"," で区切ってください。</p>
-delete [dns extend osservice account]	<p>設定情報を消去します。</p> <p>オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。</p> <p>その他のオプションとは分けて実行してください。</p> <p>dns : DNS 情報</p> <p>DNS 情報を削除します。</p> <p>extend : 拡張情報</p> <p>拡張情報を削除します。</p> <p>osservice : OS サービス情報</p> <p>OS サービス情報を削除します。</p> <p>account : アカウント情報</p> <p>アカウント情報を削除します。</p> <p>オプション名を指定しない場合は、ホストプロファイルを消去します。</p> <p>OS 情報は消去できません。</p>
[-dns4 <i>NICNo</i> , < <i>Primary</i> <i>Primary,Secondary</i> <i>Primary,Secondary,Tertiary</i> > ...]	<p>DNS 情報 (IPv4) を指定します。</p> <p>NICNo : NIC 番号を指定します。</p> <p>Primary : 優先 (プライマリ) DNS</p> <p>Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS</p> <p>Tertiary : ターシャリ DNS</p> <p>OS 種別が Linux の場合のみ指定できます。</p> <p>[-dns] と同時に指定できません。</p>
[-dns6 <i>NICNo</i> , < <i>Primary</i> <i>Primary,Secondary</i> <i>Primary,Secondary,Tertiary</i> > ...]	<p>DNS 情報 (IPv6) を指定します。</p> <p>NICNo : NIC 番号を指定します。</p> <p>Primary : 優先 (プライマリ) DNS</p> <p>Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS</p> <p>Tertiary : ターシャリ DNS</p> <p>OS 種別が Linux の場合のみ指定できます。</p> <p>[-dns] と同時に指定できません。</p>
[-wins4 <i>NICNo</i> , < <i>Primary</i> <i>Primary,Secondary</i> > ...]	<p>WINS 情報 (IPv4) を指定します。</p> <p>OS 種別が Windows の場合のみ指定できます。</p> <p>NICNo : NIC 番号を指定します。</p> <p>Primary : 優先 (プライマリ) WINS</p> <p>Secondary : 代替 (セカンダリ) WINS</p> <p>[-dns] と同時に指定できません。</p>
[-osservice <i>ServiceName</i> ...]	<p>マシンの起動時に起動を待ち合わせるサービスの名前を指定します。</p> <p>複数の指定する場合は空白区切りで指定します。</p>
[-account Name= <i>value</i> Password= <i>value</i> [Roles= <i>value</i> , ...] [Groups= <i>value</i> , ...], ...]	<p>ユーザアカウントを指定します。</p> <p>Name : アカウント名を指定します。</p> <p>"Administrator" または "root" は指定できません。</p> <p>Password : パスワードを指定します。</p> <p>Roles : 制御に使用する用途と指定します。</p>

	<p>"Controller", "WSMan" が指定できます。</p> <p>OS の操作に使用する場合は "Controller" を指定します。ESMPRO/ServerAgentService 登録に使用する場合は "WSMan" を指定します。</p> <p>Groups : グループを指定します。</p> <p>アカウントを複数指定する場合は','で区切ってください。</p>
--	--

[注]

- -os オプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

[構文例]

Windows OS

```
>ssc hostprofile create NamedHostProfile1 Windows
-os osname="Windows Server 2003 Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123
DomainType=workgroup DomainName="WorkGroup"
-dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2 2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
>ssc hostprofile create NamedHostProfile1 Windows
-os osname="Windows Server 2003 Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123
DomainType=workgroup DomainName="WorkGroup"
-dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101
-dns6 1,::192.168.1.150 3,::192.168.1.152 -wins4 1,192.168.1.200 2,192.168.1.201
```

Linux OS

```
>ssc hostprofile create NamedHostProfile2 Linux
-os osname="Red Hat Enterprise Linux AS 4" password="pass"
DomainName="Domain1" -dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2,192.168.1.3
-extend Command=startcmd1,startcmd2
>ssc hostprofile create NamedHostProfile2 Linux
-os osname="Red Hat Enterprise Linux AS 4" password="pass"
DomainName="Domain1"
-dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101,192.168.1.102
-dns6 1,::192.168.1.150,::192.168.1.151
-extend Command=startcmd1,startcmd2
```

Windows-Client

```
>ssc hostprofile create NamedHostProfile3 Windows-client
-os osname="Windows Vista Business (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123 ConnectedNumber=10
DomainType=domain DomainName="Domain1" DomainAccount="admin"
DomainPassword=adminpass -dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2
2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
```

-delete

```
>ssc hostprofile create NamedHostProfile1 Windows -delete dns
>ssc hostprofile create NamedHostProfile2 Linux -delete
```

2.17.7 名前付きマシンプロファイルの作成

名前付きマシンプロファイルを作成します。

[構文]

```
ssc profile create ProfileName <[-private [GroupName]] [-cost costValue] [-cpu count=value
[share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-mem size=value [share=value]
[reservation=value] [limit=value]] [-vnet VirtualNetworkName...] [-vnettype <vlan | network |
edit>...] [-bandcontrol nic=value [type=value] [limit=value burstlimit=value burstsize=value], ...] [-
systemdisk size=value [type=<thin | thick>] [independent] [datastoretag=value | datastore]
[share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-extdisk size=value [ctrl=value [position=value]]
[type=<thin | thick | rdm-p | rdm-v>] [independent] [datastoretag=value | datastore] [lun]
[share=value] [reservation=value] [limit=value], ...] | -delete [cost | cpu | mem | vnet | systemdisk |
extdisk]>
```

[引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	名前付きマシンプロファイル名を指定します。
[-private [GroupName]]	専有マシンプロファイル作成時に指定します。 <i>GroupName</i> にマシンプロファイルを割り当てるテナントを指定します。(省略可) このオプションを指定しない場合は、共有マシンプロファイルが作成されます。
[-cost <i>costValue</i>]	コスト値を指定します。1 から 1000 の範囲で指定します。
[-cpu count= <i>value</i> [share= <i>value</i>] [reservation= <i>value</i>] [limit= <i>value</i>]]	CPU 数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。 CPU 数は必ず指定してください。 "=" の前後に空白は指定できません。 count : CPU 数を指定します。 <i>value</i> に、1 以上 9999 以下を指定します。 (例: count=2) share : CPU のシェア値を指定します。 CPU シェアの各仮想化基盤での設定値は 以下の通り VMware 設定値 * CPU 数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256 / 1000 KVM 設定値 * 1024 / 1000 <i>value</i> に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。 he: 最高 (4000) h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) le : 最低 (250) 1-99999 : 手動 (例: share=h, share=30)

	<p>reservation : CPU の予約値 (MHz) を指定します。 <i>value</i> に、0 以上 99999 以下を指定します。 (例: reservation=1000) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : CPU の制限値 (MHz) を指定します。 <i>value</i> に、0 以上 99999 以下を指定します。 (例: limit=1500) 省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-mem size=<i>value</i> [share=<i>value</i>] [reservation=<i>value</i>] [limit=<i>value</i>]]</pre>	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>size : メモリのサイズ (MB) を指定します。 <i>value</i> に、1 (MB) 以上 99999999 (MB) 以下。 を指定します (例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。 メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値*メモリサイズ/100 Hyper-V 設定値*5 Xen 設定不可 KVM 設定不可</p> <p><i>value</i> に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) 0-10000 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : メモリの予約値 (MB) を指定します。 <i>value</i> に、0 以上 99999999 以下を指定します。 (例: reservation=2048) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : メモリの制限値 (MB) を指定します。 <i>value</i> に、0 以上 99999999 以下を指定します。 (例: limit=4096) 省略時は limit=0 (unlimited) が設定され</p>

	ます。
[-vnet <i>VirtualNetworkName...</i>]	<p>仮想ネットワークを指定します。</p> <p>最大 10 (NIC#1 から NIC#10 まで) 指定できます。</p> <p>(空白区切りで指定します。)</p> <p>記述順に、NIC#1 から順に割り当てます。</p> <p>専有マシンプロファイル作成時に有効です。</p> <p>DeploymentManager の固有情報反映を利用し、設定可能な NIC 数の上限は対象 OS が Windows Vista 以降の場合 "8"、Windows 2000、Windows Server 2003、Windows XP の場合 "4" です。</p>
[-vnettype <vlan network edit>...]	<p>ネットワークタイプを指定します。</p> <p>設定するネットワーク数分指定してください。</p> <p>記述順に NIC#1 から順に割り当てます。</p> <p>VLAN 名を指定する場合は、"vlan"</p> <p>論理ネットワーク名を指定する場合は、"network"</p> <p>任意のネットワーク名を指定する場合は、"edit"</p> <p>省略した場合は、VLAN、あるいは任意の指定となります。</p> <p>専有マシンプロファイル作成時に有効です。</p>
[-bandcontrol nic= <i>value</i> [<i>type=value</i>] [<i>limit=value</i> <i>burstlimit=value</i> <i>burstsize=value</i>], ...]	<p>ネットワーク帯域制御を指定します。</p> <p>nic : NIC 番号を指定します。</p> <p>type : 制御する通信の方向を指定します。</p> <p>in / out のいずれかを指定します。</p> <p>省略可能です。省略時は out が設定されます。</p> <p>Hyper-V は out のみ設定可能です。</p> <p>limit : 上限 [kbits/s] を指定します。</p> <p>burstlimit : バースト時上限 [kbits/s] を指定します。</p> <p>burstsize : バーストサイズ [kbytes] を指定します。</p> <p>NIC の帯域制御を設定するには limit、burstlimit、burstsize に値を指定します。省略できません。</p> <p>無制限に設定するには limit、burstlimit、burstsize に 0 を指定します。省略できません。</p> <p>NIC の帯域制御の設定を解除するには limit、burstlimit、burstsize は指定しません。</p>
[-systemdisk size= <i>value</i> [<i>type=<thin thick></i>] [<i>independent</i>] [<i>datastoretag=value</i> <i>datastore</i>] [<i>share=value</i>] [<i>reservation=value</i>] [<i>limit=value</i>]]	<p>システムディスク情報の設定をします。</p> <p>size : システムディスクのサイズ (MB) を指定します。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。</p> <p>thin / thick のどちらかを指定します。</p> <p>省略可能です。省略時は "thick" が設定されます。</p> <p>independent : "independent" と指定することで、ディスクの独立型モードが設定されます。</p> <p>VMware 環境で有効です。</p> <p>datastoretag : データストアのタグを指定します。</p> <p>datastore : システムディスクの位置を指定します。</p> <p>"datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定します。</p> <p>省略可能です。</p> <p>share : ディスクのシェア値を指定します。</p> <p>ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値</p>

	<p>Hyper-V 設定不可 Xen 設定不可 KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000) n : 標準(1000) l : 低 (500) 200-4000 : 手動 (例: share=h, share=1000)</p> <p>reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。 value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。 Hyper-V 環境で有効です。 (例: reservation=1000) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。 value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。 (例: limit=1500) 省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-extdisk size=value [ctrl=value [position=value]] [type=<thin thick rdm-p rdm-v>] [independent] [datastoretag=value datastore] [lun] [share=value] [reservation=value] [limit=value], ...]</pre>	<p>拡張ディスク情報の設定をします。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。(6 個まで)</p> <p>size : ディスクのサイズ (MB) を指定します。 value に、10 (MB) 以上 99999999 (MB) 以下を指定します。 ディスクのタイプが rdm-p / rdm-v いずれかの場合は、1 (GB) 以上 10000000 (GB) 以下で LUN サイズ範囲 (既定値:10) の倍数を指定します。</p> <p>ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ value に以下を指定します。</p> <p>PCIx IDEx SCSIx SATAx AutoDetect (自動選択) x はバス番号</p> <p>position : 拡張ディスクを付ける位置 value に以下の値が指定できます。</p> <p>PCI の場合 0～31 IDE の場合 0～1 SCSI の場合 0～63 SATA の場合 0～29 ctrl=AutoDetect 時は指定できません。</p> <p>拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は 仮想基盤によって指定できる値が異なります。 指定可能な値は、「1.1.8 各仮想基盤のコントローラと位置情報 (18 ページ)」を参照してください。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定します。</p>

	<p>省略可能です。省略時は "thick" が設定されます。</p> <p>rdm-p:RDM (物理)</p> <p>rdm-v:RDM (仮想)</p> <p>independent : "independent" と指定することで、ディスクの独立型モードが設定されます。</p> <p>VMware 環境で有効です。</p> <p>*type=thick / thin の場合</p> <p>datastoretag : データストアのタグを指定します。</p> <p>datastore: 拡張ディスクの位置を指定します。</p> <p>"datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定します。</p> <p>省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成されます。</p> <p>*type=rdm-p / rdm-v の場合</p> <p>lun : ターゲット LUN (タグ) を指定します。</p> <p>share : ディスクのシェア値を指定します。</p> <p>ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値</p> <p>Hyper-V 設定不可</p> <p>Xen 設定不可</p> <p>KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000)</p> <p>n : 標準(1000)</p> <p>l : 低 (500)</p> <p>200-4000 : 手動</p> <p>(例: share=h, share=1000)</p> <p>reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>Hyper-V 環境で有効です。</p> <p>(例: reservation=1000)</p> <p>省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>(例: limit=1500)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
[-delete [cost cpu mem vnet systemdisk extdisk]]	<p>設定情報を消去します。</p> <p>オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。</p> <p>その他のオプションとは分けて実行してください。</p> <p>オプション名を指定しない場合は、プロファイルそのものを消去します。</p>

[注]

- -cpu オプション、-mem オプション、-systemdisk オプション、-extdisk オプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

[構文例]

```

>ssc profile create Large -cost 100
>ssc profile create Middle -cpu count=2 share=h
>ssc profile create Small -cpu count=2 share=600 -mem size=1024
  -vnet "VM Network"
>ssc profile create PrivateProfile1 -private -cpu count=1 share=n -mem size
=2048
>ssc profile create GyomuProfile1 -private Gyomu -systemdisk type=thin Stor
age1
  -extdisk size=10240 ctrl=IDE1 position=0 type=thin, size=100 ctrl=AutoDete
ct
  type=rdm-v
>ssc profile create Large -delete
>ssc profile create Small -delete cpu

```

2.17.8 マシンプロファイルの内容表示

マシンプロファイルの内容を表示します。

[構文]

ssc profile show *Path* [-host *HostName* | -named] [-type <standard | network | storage | all>] [-vertical]

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	<p>フルパスを指定します。</p> <p>運用グループ、モデル、またはホストを指定した場合は、設定されたマシンプロファイルを表示します。</p> <p>ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。テナント、カテゴリは指定できません。名前付きマシンプロファイルの場合は名前を指定します。</p> <p>例:</p> <p>グループ指定の場合</p> <p>Category/Group</p> <p>モデル指定の場合</p> <p>Category/Group/Model</p> <p>ホスト指定の場合</p> <p>Category/Group/Host</p> <p>ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時)</p> <p>operations:/Category/Group/Host</p> <p>名前付きマシンプロファイルの場合</p> <p>ProfileName</p> <p>仮想マシンを指定した場合は、仮想マシンのマシンプロファイルを表示します。</p> <p>ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。</p> <p>ビュータイプを省略した場合、[運用]ビューのパスとして扱われます。</p> <p>例:</p> <p>virtual:/VC1/DataCenter1/Host1/VM1</p> <p>resource:/Virtual/VM1</p> <p>operations:/Category/Group/Model/VM1</p>
[-host <i>HostName</i>]	<p>設定対象のホスト名を指定します。</p> <p>このオプションを指定した場合、Path に運用グループを指定してください。</p>

	設定対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。
[-named]	名前付きマシンプロファイルを表示する場合に指定します。 <i>Path</i> にはマシンプロファイルの名前を指定します。 -host と -named は同時に指定できません。
[-type <standard network storage all>]	表示タイプを指定します standard: CPU とメモリ情報表示 network: ネットワーク情報表示 storage: ストレージ情報表示 all: standard network storage すべて表示 省略した場合は、standard
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc profile show Category/Group
>ssc profile show Category/Group/Model -type standard
>ssc profile show Category/Group/Host -type network
>ssc profile show Category/Group -type storage
>ssc profile show Category/Group -type all
>ssc profile show operations:/Category/Group/Host -type all -vertical
>ssc profile show virtual:/VC/DC1/ESX01/vm1 -type all -vertical
```

[表示例]

* Path にグループを指定した場合の例

(拡張ディスクが RDM の場合は、"Datastore Tag" に "LUN Tag" を表示します)

```
>ssc profile show operations:/Category/Group -type all
#Name, Cost, CPUCount, CPUShare, CPUReservation, CPULimit, MemorySize (MB), Memory
Share, MemoryReservation, MemoryLimit
"Large", "0", "4", "1000", "0", "0", "4096", "1000", "0", "0"
#Virtual NIC No., MacAddress, NetworkName, NetworkType
"1", "-", "VM Network", "NetworkAdapter"
#Storage Type, DiskType, DiskSize (GB), Datastore, Datastore Tag, Disk File, Cont
roller, Disk No.
"SystemDisk", "Thin", "0.001", "", "", "-", "-", "-"
"ExtendedDisk", "Thin", "10.000", "", "", "-", "AutoDetect", "AutoDetect"
"ExtendedDisk", "RAW, RDM(Virtual)", "100", "-", "LUN1", "-", "IDE0", "0"
```

```
>ssc profile show operations:/Category/Group -type all -vertical
[Machine Profile-1]
Name          : Large
Cost           : 0
CPUCount       : 4
CPUShare       : 1000
CPUReservation : 0
CPULimit       : 0
MemorySize (MB) : 4096
MemoryShare    : 1000
MemoryReservation : 0
MemoryLimit    : 0
```

```

[Machine Profile Network-1]
Virtual NIC No.      : 1
MacAddress           : -
NetworkName          : VM Network
NetworkType          : NetworkAdapter
Limit(kbps) (Out)    : 0
BurstLimit(kbps) (Out) : 0
BurstSize(KB) (Out)  : 0
Limit(kbps) (In)     : -
BurstLimit(kbps) (In) : -
BurstSize(KB) (In)   : -

[Machine Profile Storage-1]
Storage Type         : SystemDisk
DiskType             : Thin
DiskSize (GB)        : 0.001
Datastore            :
Datastore Tag        :
Disk File            : -
Controller           : -
Disk No.             : -
DiskShare            : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)     : 0

[Machine Profile Storage-2]
Storage Type         : ExtendedDisk
DiskType             : Thin
DiskSize (GB)        : 10.000
Datastore            :
Datastore Tag        :
Disk File            : -
Controller           : AutoDetect
Disk No.             : AutoDetect
DiskShare            : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)     : 0

[Machine Profile Storage-3]
Storage Type         : ExtendedDisk
DiskType             : RAW, RDM(Virtual)
DiskSize (GB)        : 100
Datastore            : -
Datastore Tag        : LUN1
Disk File            : -
Controller           : IDE0
Disk No.             : 0
DiskShare            : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)     : 0

```

* Path に仮想マシンを指定した場合の例

(拡張ディスクが RDM の場合は、"Datastore" に "ターゲット LUN 名" を表示します)

```

>ssc profile show Category/Group/model1/vm1 -type all
#Name, Cost, CPUCount, CPUShare, CPUReservation, CPULimit, MemorySize (MB), Memory

```

```

Share,MemoryReservation,MemoryLimit
"-","0","1","1000","0","0","1024","1000","0","0"
#Virtual NIC No.,MacAddress,NetworkName,NetworkType
"1","00:50:56:97:03:74","VM Network","NetworkAdapter"
#Storage Type,DiskType,DiskSize (GB),Datastore,Datastore Tag,Disk File,Cont
roller,Disk No.
"SystemDisk","Sys, Thick, VMDK","8.000","Storage1","-","[Storage1] test1/te
st1.vmdk","-","-"
"ExtendedDisk","Ext, Thick, VMDK","20.000","Storage1","-","[Storage1] test1
/test1_1.vmdk","SCSI0","1"
"ExtendedDisk","Ext, Thick, VMDK","20.000","Storage1","-","[Storage1] test1
/test1_2.vmdk","SCSI0","2"
"ExtendedDisk","Ext, RAW, RDM(Physical)","12.000","NEC Fibre Channel Disk (
eui.003013840e64000a)","-","[Storage1] test1/test1_3.vmdk","SCSI0","3"
"ExtendedDisk","Ext, Thick, VMDK","0.020","Storage1","-","[Storage1] test1/
test2.vmdk","SCSI0","4"
"ExtendedDisk","Ext, Thick, VMDK, IDRW","0.010","Storage1","-","[Storage1]
test1/test2_1.vmdk","SCSI0","5"
"ExtendedDisk","Ext, Thick, VMDK","0.023","Storage1","-","[Storage1] test1/
test2_2.vmdk","SCSI0","6"

```

```
>ssc profile show virtual:/VC/DC1/ESX01/vm1 -type all -vertical
```

```
[Machine Profile-1]
```

```

Name           : -
Cost            : 0
CPUCount        : 1
CPUShare        : 1000
CPUReservation  : 0
CPULimit        : 0
MemorySize (MB) : 1024
MemoryShare     : 1000
MemoryReservation : 0
MemoryLimit     : 0

```

```
[Machine Profile Network-1]
```

```

Virtual NIC No.      : 1
MacAddress           : 00:50:56:97:03:74
NetworkName          : VM Network
NetworkType          : NetworkAdapter
Limit(kbps) (Out)    : 0
BurstLimit(kbps) (Out) : 0
BurstSize(KB) (Out)  : 0
Limit(kbps) (In)     : -
BurstLimit(kbps) (In) : -
BurstSize(KB) (In)   : -

```

```
[Machine Profile Storage-1]
```

```

Storage Type        : SystemDisk
DiskType            : Sys, Thick, VMDK
DiskSize (GB)       : 8.000
Datastore           : Storage1
Datastore Tag       : -
Disk File           : [Storage1] test1/test1.vmdk
Controller         : -
Disk No.            : -
DiskShare           : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)    : 0

```

```
[Machine Profile Storage-2]
Storage Type      : ExtendedDisk
DiskType          : Ext, Thick, VMDK
DiskSize (GB)     : 20.000
Datastore         : Storage1
Datastore Tag     : -
Disk File         : [Storage1] test1/test1_1.vmdk
Controller        : SCSI0
Disk No.          : 1
DiskShare         : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)  : 0

[Machine Profile Storage-3]
Storage Type      : ExtendedDisk
DiskType          : Ext, Thick, VMDK
DiskSize (GB)     : 20.000
Datastore         : Storage1
Datastore Tag     : -
Disk File         : [Storage1] test1/test1_2.vmdk
Controller        : SCSI0
Disk No.          : 2
DiskShare         : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)  : 0

[Machine Profile Storage-4]
Storage Type      : ExtendedDisk
DiskType          : Ext, RAW, RDM(Physical)
DiskSize (GB)     : 12.000
Datastore         : NEC Fibre Channel Disk (eui.003013840e64000a)
Datastore Tag     : -
Disk File         : [Storage1] test1/test1_3.vmdk
Controller        : SCSI0
Disk No.          : 3
DiskShare         : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)  : 0

[Machine Profile Storage-5]
Storage Type      : ExtendedDisk
DiskType          : Ext, Thick, VMDK
DiskSize (GB)     : 0.020
Datastore         : Storage1
Datastore Tag     : -
Disk File         : [Storage1] test1/test2.vmdk
Controller        : SCSI0
Disk No.          : 4
DiskShare         : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)  : 0

[Machine Profile Storage-6]
Storage Type      : ExtendedDisk
DiskType          : Ext, Thick, VMDK, IDRW
DiskSize (GB)     : 0.010
Datastore         : Storage1
```

```

Datastore Tag      : -
Disk File          : [Storage1] test1/test2_1.vmdk
Controller         : SCSI0
Disk No.           : 5
DiskShare          : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)   : 0

[Machine Profile Storage-7]
Storage Type       : ExtendedDisk
DiskType           : Ext, Thick, VMDK
DiskSize (GB)      : 0.023
Datastore          : Storage1
Datastore Tag      : -
Disk File          : [Storage1] test1/test2_2.vmdk
Controller         : SCSI0
Disk No.           : 6
DiskShare          : 1000
DiskReservation (IOPS) : 0
DiskLimit (IOPS)   : 0

```

2.17.9 性能監視プロファイルのエクスポート

監視プロファイルの出力を行います。

[構文]

ssc monitoringprofile export *OutputFolder* [-file *FileName*]

[引数/オプション]

<i>OutputFolder</i>	監視プロファイルの出力先ディレクトリを指定します。
[-file <i>FileName</i>]	出力を行うファイル名を指定します。 省略時は、コマンドの実行日時に基づいて自動で命名されます。 例) 2016 年 11 月 22 日 12 時 34 分 56 秒の場合 monitoringprofile-20161122123456.xml

[構文例]

```

>ssc monitoringprofile export "c:¥temp"
>ssc monitoringprofile export "c:¥temp" -file "monitoringprofile.xml"

```

2.17.10 性能監視プロファイルのインポート

監視プロファイルの取り込みを行います。

[構文]

ssc monitoringprofile import *FileName* [-overwrite]

[引数/オプション]

<i>FileName</i>	取り込みを行う、監視プロファイルのファイルを指定します。
[-overwrite]	同名のプロファイルがあった場合、上書きを許可します。

省略時は、同名のプロファイルがあった場合、そのプロファイルは取り込まれません。

[注]

取り込まなかったプロファイル、または上書きを行ったプロファイルについては、コマンド実行後のメッセージにて出力します。

* 同名の監視プロファイルが存在した為、以下のプロファイルは取り込みませんでした。

プロファイル名 : Profile1,Profile2,Profile3

* 同名の監視プロファイルが存在した為、以下のプロファイルを上書きしました。

プロファイル名 : Profile1,Profile2,Profile3

[構文例]

```
>ssc monitoringprofile import "c:¥temp¥monitoringprofile-yyyymmddHHMMss.xml"
>ssc monitoringprofile import "c:¥temp¥monitoringprofile-yyyymmddHHMMss.xml" -overwrite
```

2.18 API キー

2.18.1 API キーの作成

API キー、および API ユーザアカウントを作成します。

[構文]

```
ssc apikey create UserName [-description Description]
```

[引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	API ユーザ名を指定します。 入力できる文字数は 32 文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 *+, /:;<=>?¥ []
-description <i>Description</i>	API ユーザの説明を入力します。 入力できる文字数は 128 文字以内です。

[構文例]

```
>ssc apikey create MyApp
>ssc apikey create MyApp2 -description "My Application2 API key"
```

[注]

- API ユーザは管理者権限ユーザとして作成します。
- API キーは自動的に生成されます。

2.18.2 API キーの更新

API キーを更新します。

[構文]

```
ssc apikey update UserName [-description Description]
```

[引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	API キーを更新する API ユーザ名を指定します。 API キーを更新すると古い API キーは利用できなくなります。
-description <i>Description</i>	API ユーザの説明を入力します。 入力できる文字数は 128 文字以内です。

[構文例]

```
>ssc apikey update MyApp -description "My Application API key"
>ssc apikey update MyApp2
```

2.18.3 API キーの削除

API キー、および API ユーザアカウントを削除します。

[構文]

```
ssc apikey delete UserName
```

[引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	削除する API ユーザ名を指定します。
-------------------------	----------------------

[構文例]

```
>ssc apikey delete MyApp
```

2.18.4 API キーの表示

API キー、および API ユーザアカウント情報を表示します。

[構文]

```
ssc apikey show [UserName]
```

[引数/オプション]

<i>UserName</i>	表示する API ユーザ名を指定します。 省略した場合、すべての API ユーザを一覧表示します。
-----------------	--

[構文例]

```
>ssc apikey show
#UserName,AccessKeyId,Description
"MyApp","NVG8YlfiP3rKbgbwjmK6/EqTAsh5bTqJXSaELekTjuo=","My Application API
user"
"MyApp2","Ch2Np96lhjSH6spJz2R6nB6JE/eXw4sjS23ZI00T0VU=","My Application2 AP
I user"

>ssc apikey show MyApp
UserName      : MyApp
Description   : My Application API user
AccessKeyId   : NVG8YlfiP3rKbgbwjmK6/EqTAsh5bTqJXSaELekTjuo=
SecretAccessKey : hMn7iZAM55p7TallUikrnyplnX1VY0xVYEZX9JPHQ0k=
```

2.19 カスタム設定

2.19.1 カスタム設定の作成

対象にカスタム設定を追加します。

[構文]

```
ssc customproperty add Type Target [-host HostName] [-vmserver VMServerPath] [-property Name
Value] [-construction>
```

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	<p>対象の種別を指定します。</p> <p>group : 運用グループ</p> <p>host : ホスト</p> <p>machineprofile : 運用グループ / モデル / ホストのマシンプロファイル</p> <p>namedmachineprofile : 名前付きマシンプロファイル</p> <p>template : テンプレート</p> <p>machine : マシン</p>
<i>Target</i> (必須)	<p>カスタム設定を追加する対象のパス、または UUID を指定します。</p> <p>パスを指定する場合、ビュータイプは省略可能です。</p> <p>例:</p> <p>運用グループの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group</p> <p>モデルの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group/Model</p> <p>ホストの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group/Host</p> <p>名前付きマシンプロファイルの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">MachineProfile</p> <p>テンプレートの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Template</p> <p>マシンの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Group/Machine</p>

	XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX マシンのパスを指定する場合、[リソース] ビューのパスを指定してください。 パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。
[-host <i>HostName</i>]	ホストの名前を指定します。 このオプションを指定した場合、 <i>Target</i> に運用グループを指定してください。 対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。
[-vmserver <i>VMServerPath</i>]	仮想マシンサーバのパスを指定します。 例: virtual:/VC/DataCenter/VMServer VC/DataCenter/VMServer ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。 対象のテンプレートと同じ名前のテンプレートが複数存在する場合に指定します。 パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。
-property <i>Name</i> <i>Value</i>	名前と値を指定します。 <i>Name</i> :名前を指定します。 256 文字以内で指定してください。 <i>Type</i> が "group"、"host"、"machine" の場合、 半角英数字と "_" のみ指定可能ですが、 「PVM_」、および数字で始まる文字列は指定できません。 <i>Type</i> が "machineProfile"、"namedmachineprofile"、"template" の場合、半角英数記号のみ指定可能です。 <i>Value</i> :値を指定します。 256 文字以内で指定してください。 <i>Type</i> が "machineProfile"、"namedmachineprofile"、"template" の場合、半角英数記号のみ指定可能です。
-construction	構成パラメータ設定をオンにする場合に指定します。 <i>Target</i> が "machineProfile" の場合に指定できます。

[構文例]

```
>ssc customproperty add machine Group/Machine
  -property WWN 10:00:00:00:C9:56:C0:99
>ssc customproperty add host Category/Group -host Host
  -property WWN 10:00:00:00:C9:56:C0:99
>ssc customproperty add machineprofile Category/Group/Model
  -property vm.vcpu.core 2
>ssc customproperty add machineprofile Category/Group -host Host
  -construction
```

2.19.2 カスタム設定の削除

対象からカスタム設定を削除します。

[構文]

```
ssc customproperty delete Type Target [-host HostName]
```

`[-vmserver VMServerPath] <-property Name... | -all | -construction>`

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	<p>対象の種別を指定します。</p> <p>group : 運用グループ</p> <p>host : ホスト</p> <p>machineprofile : 運用グループ / モデル / ホストのマシンプロファイル</p> <p>namedmachineprofile : 名前付きマシンプロファイル</p> <p>template : テンプレート</p> <p>machine : マシン</p>
<i>Target</i> (必須)	<p>カスタム設定を削除する対象のパス、または UUID を指定します。</p> <p>パスを指定する場合、ビュータイプは省略可能です。</p> <p>例:</p> <p>運用グループの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group</p> <p>モデルの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group/Model</p> <p>ホストの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group/Host</p> <p>名前付きマシンプロファイルの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">MachineProfile</p> <p>テンプレートの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Template</p> <p>マシンの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Group/Machine</p> <p style="padding-left: 20px;">XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX</p> <p>マシンのパスを指定する場合、[リソース] ビューのパスを指定してください。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
<code>[-host HostName]</code>	<p>ホストの名前を指定します。</p> <p>このオプションを指定した場合、<i>Target</i> に運用グループを指定してください。</p> <p>対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。</p>
<code>[-vmserver VMServerPath]</code>	<p>仮想マシンサーバのパスを指定します。</p> <p>例:</p> <p style="padding-left: 20px;">virtual:/VC/DataCenter/VMServer</p> <p style="padding-left: 20px;">VC/DataCenter/VMServer</p> <p>ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。</p> <p>対象のテンプレートと同じ名前のテンプレートが複数存在する場合に指定します。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
<code>-property Name...</code>	プロパティ名を指定します。(複数指定可能)
<code>-all</code>	すべてのプロパティを削除する場合に指定します。
<code>-construction</code>	<p>構成パラメータ設定をオフにし、すべてのプロパティを削除する場合に指定します。</p> <p><i>Target</i> が "machineProfile" の場合に指定できます。</p>

[構文例]

```

>ssc customproperty delete group
  Tenant/Category/Group -property tenant
>ssc customproperty delete host
  Tenant/Category/Group -host host -all
>ssc customproperty delete machineprofile
  Tenant/Category/Group/Model -construction
>ssc customproperty delete namedmachineprofile
  MachineProfile -property vm.vcpu.core
>ssc customproperty delete template
  Template -vmserver VC/DataCenter/VMServer -all
>ssc customproperty delete machine
  Group/Machine -property WWN

```

2.19.3 カスタム設定の表示

対象のカスタム設定を表示します。

[構文]

ssc customproperty show *Type Target* [-host *HostName*] [-vmserver *VMServerPath*]

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	<p>対象の種別を指定します。</p> <p>group : 運用グループ</p> <p>host : ホスト</p> <p>machineprofile : 運用グループ / モデル / ホストのマシンプロファイル</p> <p>namedmachineprofile : 名前付きマシンプロファイル</p> <p>template : テンプレート</p> <p>machine : マシン</p>
<i>Target</i> (必須)	<p>カスタム設定を表示する対象のパス、または UUID を指定します。</p> <p>パスを指定する場合、ビュータイプは省略可能です。</p> <p>例:</p> <p>運用グループの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group</p> <p>モデルの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group/Model</p> <p>ホストの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Tenant/Category/Group/Host</p> <p>名前付きマシンプロファイルの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">MachineProfile</p> <p>テンプレートの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Template</p> <p>マシンの場合</p> <p style="padding-left: 20px;">Group/Machine</p> <p style="padding-left: 20px;">XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX</p> <p>マシンのパスを指定する場合、[リソース] ビューのパスを指定してください。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-host <i>HostName</i>]	ホストの名前を指定します。

	このオプションを指定した場合、 <i>Target</i> に運用グループを指定してください。 対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。
<code>[-vmserver VMServerPath]</code>	仮想マシンサーバのパスを指定します。 例: virtual:/VC/DataCenter/VMServer VC/DataCenter/VMServer ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。 対象のテンプレートと同じ名前のテンプレートが複数存在する場合に指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。

[構文例]

```
>ssc customproperty show machine Group/Machine
```

[表示例]

```
>ssc customproperty show machine Group/Machine
#PropertyName,Value
"WWN","10:00:00:00:C9:56:C0:99"
```

2.20 CIM Indication 設定

2.20.1 CIM Indication 受信設定の登録

CIM Indication を受信するための設定を行います。

[構文]

```
ssc indication register filter
```

[引数/オプション]

なし

[構文例]

```
>ssc indication register filter
```

2.20.2 CIM Indication 受信設定の解除

CIM Indication の受信設定を解除します。

[構文]

```
ssc indication unregister filter [ManagementTargetAddress]
```

[引数/オプション]

<i>ManagementTargetAddress</i>	特定の管理ターゲットからの Indication を受信しないようにする場合に指定します。
--------------------------------	---

	イベント定義ファイルに記載する ManagementTarget タグ配下の Address 値を指定します。
--	---

[構文例]

```
>ssc indication unregister filter
>ssc indication unregister filter http://172.16.0.69:5988/
```

2.21 カスタムオブジェクト

2.21.1 カスタムオブジェクトの追加

カスタムオブジェクトを作成します。

[構文]

```
ssc create object FilePath [-name Name] [-id Identifier]
```

[引数/オプション]

<i>FilePath</i> (必須)	XML ファイルのファイルパスを指定します。
[-name <i>Name</i>]	カスタムオブジェクトの名前を指定します。 省略した場合は XML ファイル内で設定された名前が使用されます。
[-id <i>Identifier</i>]	カスタムオブジェクトの識別子を指定します。 省略した場合は XML ファイル内で設定された識別子が使用されます。

2.21.2 カスタムオブジェクトの編集

カスタムオブジェクトを更新します。

[構文]

```
ssc update object Name [-id Identifier] [-policy [PolicyName...]] [-name NewName] [-xml FilePath [-force]]
```

```
[-type <networkdevice | diskarray | customobject>]
```

[引数/オプション]

<i>Name</i> (必須)	対象の名前を指定します。
[-id <i>Identifier</i>]	識別子 (IP アドレス) を指定します。
[-policy <i>[PolicyName...]</i>]	ポリシーの名前を指定します。 5 つまで指定することができます。 指定したポリシーだけが設定されます。 ポリシーを解除する場合は、 <i>PolicyName</i> を省略します。
[-name <i>NewName</i>]	カスタムオブジェクトの新しい名前 を指定します。 -type が customobject の場合のみサポートします。

[-xml <i>FilePath</i> [-force]]	<p>カスタムオブジェクトの定義ファイル を指定します。</p> <p>-type が customobject の場合のみサポートします。</p> <p>カスタムオブジェクトの定義ファイルの productname タグ、policy タグ、node タグの内容で、製品名、ポリシー#1、ノードを更新します。</p> <p>-force を指定した場合、<i>Name</i> に指定したカスタムオブジェクトに製品名とポリシー#1 が設定されていた場合でも、productname タグ、policy タグの内容で更新します。<i>Name</i> に指定したカスタムオブジェクトに設定されているノードが、node タグに指定されたノードに存在しない場合、そのノードを削除します。</p>
[-type <networkdevice diskarray customobject>]	<p>対象の種別を指定します。</p> <p>省略した場合は、customobject になります。</p> <p>networkdevice: 物理スイッチ</p> <p>diskarray: ディスクアレイ</p> <p>customobject: カスタムオブジェクト</p>

[構文例]

```
>ssc update object Name -id 192.168.1.201
>ssc update object Name -id 192.168.1.202 -type diskarray
>ssc update object Name -policy NetworkPolicy -type networkdevice
>ssc update object Name -id 192.168.1.203 -policy CustomObjectPolicy -type customobject
```

2.21.3 カスタムオブジェクトの削除

カスタムオブジェクトを削除します。

[構文]

```
ssc delete object -name Name
```

[引数/オプション]

-name <i>Name</i> (必須)	削除するカスタムオブジェクトの名前を指定します。
---------------------------	--------------------------

2.21.4 カスタムオブジェクト情報の表示

カスタムオブジェクトを表示します。

[構文]

```
ssc show object [-name Name] [-type <base | policy | relation | node | all> ] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[-name <i>Name</i>]	<p>カスタムオブジェクトの名前を指定します。</p> <p>省略した場合はすべてのカスタムオブジェクトの基本情報を表示します。</p>
[-type <base policy relation node all>]	<p>表示する情報を指定します。</p> <p>base: 基本情報の表示</p> <p>policy: ポリシーを表示</p> <p>relation: 関連設定の表示</p> <p>node: ノード一覧の表示</p>

	all: すべてを表示 省略した場合は基本情報を表示します。
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[表示例]

```
> ssc show object -name OBJECT -type all
#Name,Type,Identifier,ProductName,SummaryStatus,HardwareStatus
"OBJECT","Switch","192.168.1.1","OBJECT NAME","Normal","Normal"
#Name
"Policy01",
#Direction,Object,Type
"forward ","OBJECT2","rack"
"both","OBJECT3","object"
#Node,Direction,Object,Type
"ethernet1","forward","OBJECT4","rack"
```

2.21.5 関連の追加

カスタムオブジェクトと対象のリソースの間に関連を追加します。

[構文]

```
ssc add-relate object CustomObjectPath -dest DestObjectKeyword
```

```
<machine | rack | switch | diskarray | customobject> [-dir <forward | backward | both | non>]
```

[引数 / オプション]

<i>CustomObjectPath</i> (必須)	カスタムオブジェクト名を指定します。 ノードを指定する場合は、ノードまでのパスを指定してください。 例) CustomObjectName¥NodeName
-dest <i>DestObjectKeyword</i> <machine rack switch diskarray customobject> (必須)	対象のリソースを指定します。 <i>DestObjectKeyword</i> : 対象を検索するキーワードを指定します。 物理スイッチのポート、またはディスクアレイのポートやカスタムオブジェクトのノードを指定する場合は、対象までのパスを指定してください。 例) Switch¥Port 対象の種別を指定します。 machine: マシン rack: ラック switch: 物理スイッチ diskarray: ディスクアレイ customobject: カスタムオブジェクト
[-dir <forward backward both non>]	影響の向きを指定します。 省略した場合は、non を設定します。 forward: カスタムオブジェクトが対象のリソースに影響を与えます。 backward: 対象のリソースがカスタムオブジェクトに影響を与えます。 both: forward + backward non: 向きを設定しません。

[注]

本コマンドでは、*ModelName* に指定する種別によって、*DestObjectKeyword* に指定する内容が変わります。

詳細は以下の表に記載します。

<i>ModelName</i>	<i>DestObjectKeyword</i>
machine	マシンの UUID
rack	ラック名
switch	物理スイッチ名、またはポートまでのパス
diskarray	ディスクアレイ名、またはポートまでのパス
customobject	カスタムオブジェクトの名、またはノードまでのパス

[構文例]

```
>ssc add-relate object UPS001 -dest 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D machine -dir forward
>ssc add-relate object UPS001 -dest Rack1 rack
>ssc add-relate object NECRouter¥Ethrenet0/3 -dest QX-S5828T¥GigabitEthernet0/1 network -dir backward
>ssc add-relate object UPS001 -dest DiskArray02 diskarray
>ssc add-relate object NECSwitch¥Ethrenet0/11 -dest NECRouter¥Ethrenet0/3 customobject -dir both
```

2.21.6 関連の削除

カスタムオブジェクトと対象のリソースとの間の関連を削除します。

[構文]

ssc delete-relate object *CustomObjectPath* -dest *DestObjectKeyword*

<machine | rack | switch | diskarray | customobject>

[引数 / オプション]

<i>CustomObjectPath</i> (必須)	カスタムオブジェクト名を指定します。 ノードを指定する場合は、ノードまでのパスを指定してください。 例) CustomObjectName¥NodeName
-dest <i>DestObjectKeyword</i> <machine rack switch diskarray customobject> (必須)	対象のリソースを指定します。 <i>DestObjectKeyword</i> : 対象を検索するキーワードを指定します。 物理スイッチのポート、またはディスクアレイのポートやカスタムオブジェクトのノードを指定する場合は、対象までのパスを指定してください。 例) Switch¥Port 対象の種別を指定します。 machine: マシン rack: ラック switch: 物理スイッチ diskarray: ディスクアレイ customobject : カスタムオブジェクト

[注]

本コマンドでは、*ModelName* に指定する種別によって、*DestObjectKeyword* に指定する内容が変わります。

詳細は以下の表に記載します。

ModelName	DestObjectKeyword
machine	マシンの UUID
rack	ラック名
switch	物理スイッチ名、またはポートまでのパス
diskarray	ディスクアレイ名、またはポートまでのパス
customobject	カスタムオブジェクトの名、またはノードまでのパス

[構文例]

```
>ssc delete-relate object UPS001 -dest 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D machine
>ssc delete-relate object UPS001 -dest Rack1 rack
>ssc delete-relate object NECRouter¥Ethrenet0/3 -dest QX-S5828T¥GigabitEthernet0/1 switch
>ssc delete-relate object UPS001 -dest DiskArray02 diskarray
>ssc delete-relate object NECSwitch¥Ethrenet0/11 -dest NECRouter¥Ethrenet0/3 customobject
```

第 3 章

仮想環境の構成制御コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の仮想環境の構成制御に関するコマンドについて記載します。

目次

3.1 データセンターの操作	203
3.2 仮想マシンサーバの操作	203
3.3 仮想マシンの操作	208
3.4 配置制約	242
3.5 データストア	251
3.6 リソースプール	260
3.7 配置情報	266
3.8 サービス	269

3.1 データセンターの操作

3.1.1 データセンターの追加

仮想マネージャに DataCenter を追加します。

[構文]

```
ssc datacenter add VirtualManager DataCenterName [-description Description]
```

[引数/オプション]

<i>VirtualManager</i> (必須)	仮想マネージャの名前、または IP アドレスを指定します。
<i>DataCenterName</i> (必須)	追加する DataCenter の名前を指定します。 80 文字以内で指定してください。 使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号 ("_", "-") です。
[-description <i>Description</i>]	説明を指定します。 255 文字以内で指定してください。

[構文例]

```
>ssc datacenter add EsxServer01 DC
>ssc datacenter add 192.168.1.101 DC -description "test server"
```

3.2 仮想マシンサーバの操作

3.2.1 仮想マシンサーバの追加

DataCenter に仮想マシンサーバを追加します。

[構文]

```
ssc add vmserver Datacenter [-name HostName] [-url URL]
```

```
[-port PortNumber] [-account Account] [-p Password]
```

[引数/オプション]

<i>Datacenter</i> (必須)	仮想マシンサーバを追加する DataCenter を指定します。 DataCenter までのフルパスで指定します。
[-name <i>HostName</i>]	ホスト名、または IP アドレスを指定します。
[-url <i>URL</i>]	URL を指定します。HostName を指定している場合、 自動生成されるため、省略することができます。
[-port <i>PortNumber</i>]	ポート番号を指定します。1 から 65535 の範囲で指定します。 省略すると、"443" を設定します。
[-account <i>Account</i>]	アカウント名を指定します。

<code>[-p Password]</code>	パスワードを指定します。
----------------------------	--------------

[注]

- Datacenter に KVM 以外を指定した場合、オプション (-url) は指定できません。-name を指定してください。

[構文例]

```
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name VMServer-01
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name 192.168.10.100
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name 192.168.10.101 -port 443
  -account user01 -p xxxxx
>ssc add vmserver KVM/DefaultDataCenter
  -url "qemu+tls://server.test.net:5000/system"
```

3.2.2 仮想マシンサーバの編集

仮想マシンサーバのキャパシティ値を編集します。

[構文]

```
ssc update vmserver VMServer -capacity Value
```

[引数/オプション]

<i>VMServer</i> (必須)	仮想マシンサーバのパスを指定します。 例: virtual:/VC/DataCenter/VMServer ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<code>-capacity Value</code> (必須)	キャパシティ値を指定します。 1～100000 の範囲で指定してください。

[構文例]

```
>ssc update vmserve virtual:/VC/DataCenter/VMServer -capacity 500
```

3.2.3 仮想マシンサーバの削除

DataCenter から仮想マシンサーバを削除します。

[構文]

```
ssc delete vmserver Datacenter VMServerName[...]
```

[引数/オプション]

<i>Datacenter</i> (必須)	削除する仮想マシンサーバの DataCenter を指定します。 DataCenter までのフルパスを指定します。
<i>VMServerName[...]</i>	対象の仮想マシンサーバ名を指定します。

(必須)

[構文例]

```
>ssc delete vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 VMServer-01
>ssc delete vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 192.168.10.100 192.168.10.101
```

3.2.4 仮想マシンサーバのパスワード変更

ユーザアカウントのパスワード、または仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更します。

[構文]

`ssc change-passwd Type Name NewPassword [-l Account] [-p Password]`

[引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	パスワードを変更する対象を指定します。 "manager": 仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。 "user": ユーザアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。
<i>Name</i> (必須)	対象の名前を指定します。 <i>Type</i> が "manager" の場合、ホスト名、もしくは対象の仮想マシンサーバまでのフルパスを指定します。 (例: vCenterServer/DataCenter/ESX) 同一のホスト名が存在する場合、パス指定で指定します。 <i>Type</i> が "user" の場合、ユーザ名を指定します。
<i>NewPassword</i> (必須)	新しいパスワードを指定します。
[-l <i>Account</i>]	アカウント名を指定します。 <i>Type</i> が "manager" の場合は、仮想マシンサーバのアカウント名を指定します。 省略した場合、アカウント名は変更されません。 <i>Type</i> が "user" の場合は、認証情報として、Administrator 権限ユーザのアカウント名を指定します。 省略した場合は、認証情報として、-p オプションに旧パスワードを指定します。
[-p <i>Password</i>]	<i>Type</i> が "user" の場合のみ有効です。 -l オプション利用時は Administrator 権限ユーザのパスワードを指定します。-l オプションを利用しない場合は対象ユーザの旧パスワードを指定します。

[構文例]

仮想マシンサーバのパスワードを変更する

```
>ssc change-passwd manager Host1 "*****" -l user1
>ssc change-passwd manager "vCenterServer/New DataCenter/Esx1" "*****"
```

ユーザのパスワードを変更する

1) 認証情報として対象ユーザの旧パスワードを指定する

```
>ssc change-passwd user user1 "*****" -p "*****"
```

2) 認証情報として Administrator 権限ユーザを指定する

```
>ssc change-passwd user user2 "*****" -l Administrator -p "*****"
```

3.2.5 仮想マシンサーバの復旧の後処理

仮想マシンサーバ復旧処理 (Failover) 実行後の後処理を行います。

本コマンドは、接続状態が "切断" 状態のスタンドアロン ESXi のみ有効です。

[構文]

ssc recover machine *SourceName*

[引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	<p>対象となる仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。</p> <p>運用グループの場合：</p> <pre>operation:/Category1/Group1/Model1/VMServer1</pre> <p>ビュータイプ (operation:/) は、省略できません。</p> <p>仮想グループの場合：</p> <pre>virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1</pre> <pre>VC1/DataCenter1/VMServer1</pre> <p>ビュータイプ (virtual:/) は、省略可能です。</p> <p>ビュータイプを省略した場合、[仮想]ビューのパスとして扱われます。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
---------------------------	---

[構文例]

```
>ssc recover machine operation:/Category01/Group01/Model01/VMS001
>ssc recover machine virtual:/192.168.1.100/DC/192.168.1.5
>ssc recover machine 192.168.1.100/DC/192.168.1.5
```

3.2.6 マシン退避

仮想マシンを他の仮想マシンサーバに退避させます。

[構文]

ssc evacuate machine *SourceName* [*DestinationName*] [-all] [-migration] [-move] [-failover] [-q] [-s] [-ignorerule] [-reboot]

[引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	<p>移動元の仮想マシンサーバ、または移動する仮想マシンのパスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [運用] ビュー : operation:/Category1/Group1/Model1/VMServer1 ・ [仮想] ビュー : virtual:/Manager1/DataCenter1/VMServer1 ・ ビュータイプ(virtual:/)は省略可能です。ビュータイプの指定がない場合 (Manager1/DataCenter1/VMServer1) は、[仮想] ビューのパスとして扱われます。 <p>仮想マシンサーバを指定した場合は、その仮想マシンサーバ上に存在する電源オン状態の仮想マシンを移動します。</p> <p>(-all を指定した場合は電源オフ状態のものを含むすべての仮想マシンを移動します。)</p>
---------------------------	--

	<p>仮想マシンを指定した場合は、VM 移動 (Failover) を行います。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[<i>DestinationName</i>]	<p>移動先の仮想マシンサーバのパスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [運用] ビュー : operation:/Category1/Group1/Model1/VMServer1 ・ [仮想] ビュー : virtual:/Manager1/DataCenter1/VMServer1 ・ ビュータイプ(virtual:/)は省略可能です。ビュータイプの指定がない場合 (Manager1/DataCenter1/VMServer1) は、[仮想] ビューのパスとして扱われます。 <p>省略した場合は、自動で仮想マシンサーバが選択されます。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンを指定した場合、省略できません。)</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-all]	<p>仮想マシンサーバ上のすべての仮想マシン (電源オフ状態のものを含む) を移動します。</p> <p>省略した場合は、電源オン状態の仮想マシンのみ移動します。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)</p>
[-migration]	<p>仮想マシンの移動に Migration を使用する場合に指定します。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)</p>
[-move]	<p>仮想マシンの移動に Move を使用する場合に指定します。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)</p>
[-failover]	<p>仮想マシンの移動に Failover を使用する場合に指定します。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)</p>
[-q]	<p>仮想マシンをサスペンド後に移動 (Quick Migration) する場合に指定します。移動後はレジュームされます。</p> <p>省略した場合は、Migration により仮想マシンを移動します。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)</p>
[-s]	<p>-move オプションを指定した場合に、Move の代わりに Storage Migration を使用して仮想マシンを移動します。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)</p>
[-ignorerule]	<p>配置制約を無視して移動する場合に指定します。</p> <p>省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンを指定した場合のみ有効です。)</p>
[-reboot]	<p>移動対象の仮想マシンに対し、依存元となるマシンを再起動する場合に指定します。</p> <p>省略した場合は依存元の再起動を行いません。</p> <p>(<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)</p>

[注]

- *SourceName* に仮想マシンサーバを指定し、-move オプションを指定しなかった場合、共有データストア上にない電源オン状態の仮想マシンは移動されません。-move オプションを指定した場合、および電源オフ状態の仮想マシンは、共有データストア上にない場合においても移動されます。(仮想ディスクが他のデータストアに移動されます。)
- *SourceName* に仮想マシンを指定した場合、共有データストア上にない仮想マシンの VM 移動 (Failover) は実行できません。

- *SourceName* に XenServer Pool Master の仮想マシンサーバを指定し、その仮想マシンサーバがダウンしている場合、同じプール配下でキャパシティの最も大きな仮想マシンサーバが新しい Pool Master に切り替わります。
- *SourceName* に仮想マシンサーバを指定した場合、移動対象の仮想マシンや移動先の仮想マシンサーバは VM 最適配置機能により決定されます。*(DestinationName* を指定した場合は、指定した仮想マシンサーバが移動先となります。)*VM* 最適配置機能の移動条件や配置制約によって、仮想マシンを移動できない場合があります。詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「4.7.3. VM 退避」、および「4.7.4. VM 最適配置の条件」を参照してください。
- *SourceName* に仮想マシンサーバを指定し、いずれの移動方法も指定しなかった場合、Migration, Failover を指定したものとして扱います。

[構文例]

```
>ssc evacuate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002
>ssc evacuate machine operations:/Group-VM001/Model-VM01/VM-002
operations:/Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002
>ssc evacuate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-003 -all
>ssc evacuate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001 -q
>ssc evacuate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001 -migration -failover
```

3.3 仮想マシンの操作

3.3.1 仮想マシンの作成

仮想マシンの作成を行います。

[構文]

```
ssc create machine <GroupName [-host HostName[...]] [-count Count] [-index start=value
<end=value | count=value>] [-vmname VMName] [-installmanually] | SmartGroupName> [-vms
VmsName] [-datastore DatastoreName] [-import Type] [-filepath FilePath] [-osname <Name |
Code>] [-iso IsoFile...]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	対象のグループをフルパスで指定します。 テナント、カテゴリだけの指定はできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ、グループ/モデル)
<i>[-host HostName[...]]</i>	稼働させるホスト名、あるいは IP アドレスを指定します。 IP アドレス指定の場合は、xxx.xxx.xxx.xxx 形式で記述してください。 作成先グループで設定済みのホスト定義を指定する必要があります。 このオプションを指定した場合は、-count は指定できません。 複数指定した場合は、-index は指定できません。

<code>[-count Count]</code>	作成する仮想マシンの台数を指定します。 このオプションを指定した場合は、 <code>-host</code> 、 <code>-index</code> は指定できません。
<code>[-index start=value <end=value count=value>]</code>	作成する仮想マシンのホスト名の開始番号、終了番号、または件数を指定します。 <code>-host</code> が IP アドレスの場合、複数指定している場合は、無効となります。 <code>-count</code> が指定されている場合は、無効となります。 <code>-host</code> 、 <code>-count</code> が共に省略されている場合は、ホスト設定一覧の順番となります。 (例) VM001-VM010 を作成する場合 <code>-host vm -index start=001 end=010</code> <code>-host vm -index start=001 count=10</code> (例) ホストの 5 番目から 10 番目を作成する場合 <code>-index start=5 end=10</code> <code>-index start=5 count=6</code>
<code>[-vmname VMName]</code>	仮想マシンにつけるマシン名を指定します。 作成する仮想マシンが 1 台の場合に指定可能です。
<code>[-installmanually]</code>	仮想マシンを作成後に OS を手作業でインストールする場合に指定します。 作成後は電源 OFF、メンテナンス ON になります。
<i>SmartGroupName</i>	指定したスマートグループの条件に合致するホストを稼働させます。 グループのパスは、存在するパスを指定します。 [運用] ビューのスマートグループが指定可能です。 (設定例) category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 直下の smartgroup101 を指定します。 smartgroup102 : [運用] ビューのルートノード直下の smartgroup102 を指定します。 このオプションを指定した場合は、 <code>-host</code> 、 <code>-count</code> 、 <code>-index</code> 、 <code>-vmname</code> は指定できません。
<code>[-vms VmsName]</code>	作成先となる仮想マシンサーバのマシン名を指定します。
<code>[-datastore DatastoreName]</code>	使用するデータストア名を指定します。
<code>[-import Type]</code>	FilePath に指定するタイプを明示して指定します。
<code>[-filepath FilePath]</code>	OVF、OVA、または VHD ファイルのファイルパスを指定します。 Type が指定されていない場合は自動判別します。
<code>[-osname <Name Code>]</code>	仮想マシンにインストールする OS タイプを指定します。 <code>-installmanually</code> を指定したときのみ指定できます。
<code>[-iso IsoFile...]</code>	仮想マシンにマウントする ISO ファイルを指定します。 <code>-installmanually</code> を指定したときのみ指定できます。

- グループの指定には、*GroupName*、または *SmartGroupName* のいずれかを指定する必要があります。
- グループの指定が *GroupName* に該当する場合、`-host`、`-count`、`-index` のいずれかを指定する必要があります。

[注]

- `-index` で指定するホストは、`start` と `end (count)` の間に使用中のホストがあるとエラーになります。

- グループの指定がスマートグループ (*SmartGroupName*) に該当する場合、指定したスマートグループで VM グループ以外のホストが対象になるとエラーになります。
- 本コマンドのオプションにスマートグループを指定した場合、スマートグループで抽出されたホストが複数の運用グループに分散している場合、複数のジョブに分けてシーケンシャルに処理します。

このときエラーが発生すると以降のジョブは実行されません。エラーの原因を取り除いて再度実行してください。

- 最後の文字が¥ (バックスラッシュ、円マーク) である文字列を" " (二重引用符) で囲んで指定する場合、最後の文字を ¥ 自身でエスケープしてください。

例: Datastore 名が "[cluster1] C:¥ClusterStorage¥Volume1¥" の場合

```
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vmname vm1 -datastore " [cluster1] C:¥ClusterStorage¥Volume1¥ ¥"
```

- 以下の注意事項は SSC0300-0002 にて解除されました。
 - IP アドレスプール機能を利用して、作成したマシンに IP アドレスの払い出しを行う場合は、マシン作成先となるグループ名でモデルの指定を省略したり、スマートグループを指定することはできません。

[構文例]

```
>ssc create machine vmgroup1 -host host1
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 host2
```

仮想マシンサーバ, データストア指定

```
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vms vms1 -datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -datastore datastore1
```

vm001 - vm010 の仮想マシン作成

```
>ssc create machine vmgroup1 -host vm -index start=001 end=010 -vms vms1
-datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -host vm -index start=001 count=10 -vms vms1
-datastore datastore1
```

ホスト設定リストの順番で 5 番目から 10 番目の仮想マシンを作成

```
>ssc create machine vmgroup1 -index start=5 end=10
>ssc create machine vmgroup1 -index start=5 count=6
```

作成 VM 名指定

```
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vmname vm1 -datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -count 1 -vmname vm1
```

スマートグループ指定

```
>ssc create machine category1/group11/smartgroup101
```

3.3.2 仮想マシン(OS なし)の作成

仮想マシン (OS なし) の作成を行います。

[構文]

```
ssc vm create -vms VmsName -vmname VMName -cost costValue -cpu count=value [share=value]
[reservation=value] [limit=value] -mem size=value [share=value] [reservation=value] [limit=value] -
systemdisk size=value datastore [type=<thin | thick>] [independent] [share=value]
[reservation=value] [limit=value] [-osname <Name | Code>] [-vnet VirtualNetworkName...] [-
bandcontrol nic=value [type=value] [limit=value burstlimit=value burstsize=value], ...] [-extdisk
[size=value] [ctrl=value [position=value]] [type=<thin | thick | rdm-p | rdm-v>] [independent]
[datastore] [lun] [share=value] [reservation=value] [limit=value], ...] [-iso IsoFile...] [-property
name="name" value="value", ...]
```

[引数/オプション]

-vms <i>VmsName</i> (必須)	対象となる仮想マシンサーバをフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
-vmname <i>VMName</i> (必須)	仮想マシンにつけるマシン名を指定します。
-cost <i>costValue</i> (必須)	コスト値を指定します。1 から 1000 の範囲で指定します。
-cpu count= <i>value</i> [[share= <i>value</i>] [reservation= <i>value</i>] [limit= <i>value</i>]]	<p>CPU 数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。 CPU 数は必ず指定してください。 "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>count : CPU 数を指定します。 value に、1 以上 9999 以下を指定します。 (例: count=2)</p> <p>share : CPU のシェア値を指定します。 CPU シェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * CPU 数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256 / 1000 KVM 設定値 * 1024 / 1000 value に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。 he: 最高 (4000) h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) le : 最低 (250) 1-99999 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : CPU の予約値 (MHz) を指定します。 value に、0 以上 99999 以下を指定します。 (例: reservation=1000) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : CPU の制限値 (MHz) を指定します。 value に、0 以上 99999 以下を指定します。</p>

	<p>(例: limit=1500)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<p>-mem size=value</p> <p>[[share=value]</p> <p>[reservation=value]</p> <p>[limit=value]]</p>	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。</p> <p>"=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>size : メモリのサイズ (MB) を指定します。</p> <p>value に、1 (MB) 以上 99999999 (MB) 以下を指定します。</p> <p>(例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。</p> <p>メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値 * メモリサイズ / 100</p> <p>Hyper-V 設定値 * 5</p> <p>Xen 設定不可</p> <p>KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000)</p> <p>n : 標準 (1000)</p> <p>l : 低 (500)</p> <p>0-10000 : 手動</p> <p>(例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : メモリの予約値 (MB) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 99999999 以下を指定します。</p> <p>(例: reservation=2048)</p> <p>省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : メモリの制限値 (MB) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 99999999 以下を指定します。</p> <p>(例: limit=4096)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<p>-systemdisk size=value</p> <p>datastore</p> <p>[[type=<thin thick>]</p> <p>[independent] [share=value]</p> <p>[reservation=value]</p> <p>[limit=value]]</p>	<p>システムディスク情報の設定をします。</p> <p>size : システムディスクのサイズ (MB) を指定します。</p> <p>datastore : システムディスクの位置を指定します。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。</p> <p>thin / thick のどちらかを指定します。</p> <p>省略可能です。省略時は thick が設定されます。</p> <p>independent : "independent" と指定することで、ディスクの独立型モードが設定されます。</p> <p>VMware 環境で有効です。</p> <p>share : ディスクのシェア値を指定します。</p> <p>ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値</p> <p>Hyper-V 設定不可</p> <p>Xen 設定不可</p> <p>KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p>

	<p>h : 高 (2000) n : 標準(1000) l : 低 (500) 200-4000 : 手動 (例: share=h, share=1000)</p> <p>reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。 value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。 Hyper-V 環境で有効です。 (例: reservation=1000) 省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。 value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。 (例: limit=1500) 省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
[-osname <Name Code>]	<p>OS 名を指定します。 OS 名のコード、または WebUI に表示されている文字列を指定します。 「1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ)」 を参照してください。</p>
[-vnet VirtualNetworkName...]	<p>仮想ネットワークを指定します。 最大 10 (NIC#1 から NIC#10 まで) 指定できます。 (空白区切りで指定します。) 記述順に、NIC#1 から順に割り当てます。</p>
[-bandcontrol nic=value [type=value] [limit=value burstlimit=value burstsize=value], ...]	<p>ネットワーク帯域制御を指定します。 nic : NIC 番号を指定します。 type : 制御する通信の方向を指定します。 in / out のいずれかを指定します。 省略可能です。省略時は out が設定されます。 Hyper-V は out のみ設定可能です。 limit : 上限 [kbits/s] を指定します。 burstlimit : バースト時上限 [kbits/s] を指定します。 burstsize : バーストサイズ [kbytes] を指定します。 NIC の帯域制御を設定するには limit、burstlimit、burstsize に値を指定します。 省略できません。 無制限に設定するには limit、burstlimit、burstsize に 0 を指定します。省略できません。 NIC の帯域制御の設定を解除するには limit、burstlimit、burstsize は指定しません。</p>
[-extdisk [size=value] [ctrl=value [position=value]] [type=<thin thick rdm-p rdm-v>] [independent] [datastore] [lun] [share=value] [reservation=value] [limit=value], ...]	<p>拡張ディスク情報の設定をします。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。(6 個まで) size : ディスクのサイズを指定します。 value に、10 (MB) 以上 99999999 (MB) 以下を指定します。 ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ value に以下を指定します。 PCIx IDEx SCSIx SATAx</p>

AutoDetect (自動選択)

x はバス番号

position : 拡張ディスクを付ける位置

value に以下の値が指定できます。

PCI の場合 0～31

IDE の場合 0～1

SCSI の場合 0～63

SATA の場合 0～29

ctrl=AutoDetect 時は指定できません。

拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は

仮想基盤によって指定できる値が異なります。

指定可能な値は、マニュアルを参照してください。

type : ディスクのタイプを指定します。

thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定します。

省略可能です。省略時は thick が設定されます。

rdm-p:RDM (物理)

rdm-v:RDM (仮想)

independent : "independent" と指定することで、

ディスクの独立型モードが設定されます。

VMware 環境で有効です。

ディスクタイプに RDM (物理) 指定時は "independent" は指定できません。

*type=thick / thin の場合

datastore: 拡張ディスクの位置を指定します。

*type=rdm-p / rdm-v の場合

lun : ターゲット LUN (タグ) を指定します。

share : ディスクのシェア値を指定します。

ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り

VMware 設定値

Hyper-V 設定不可

Xen 設定不可

KVM 設定不可

value に、以下の値を指定します。

省略時は share=n が設定されます。

h : 高 (2000)

n : 標準(1000)

l : 低 (500)

200-4000 : 手動

(例: share=h, share=1000)

reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。

value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。

Hyper-V 環境で有効です。

(例: reservation=1000)

省略時は reservation=0 が設定されます。

limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。

value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。

(例: limit=1500)

省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。

<code>[-iso IsoFile...]</code>	仮想マシンにマウントする ISO ファイルを指定します。
<code>[-property name="name" value="value", ...]</code>	仮想マシンに反映させる構成パラメータ設定のパラメータ名とその値を指定します。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って次のパラメータ名と値を指定してください。(100 個まで) <code>name</code> : パラメータ名を二重引用符で囲んで指定します。 <code>value</code> : パラメータの値を二重引用符で囲んで指定します。 指定可能なパラメータ名と値の詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「4.3.11. 仮想化基盤別の固有設定(構成パラメータ設定)」を参照してください。

[構文例]

```
>ssc vm create -vms virtual:/VC/DataCenter/VMServer -vmname vm -cost 10 -cpu count=2 -mem size=1024 -systemdisk size=4000 datastore -osname 40 -iso "[datastore] ISO/Windows7.iso"
>ssc vm create -vms virtual:/VC/DataCenter/VMServer -vmname vm -cost 10 -cpu count=2 share=h reservation=1000 limit=1500 -mem size=1024 share=h reservation=1024 limit=1024 -systemdisk size=4000 datastore type=thin -osname 40 -vnet "VM Network" -iso "[datastore] ISO/Windows7.iso"
>ssc vm create -vms virtual:/VC/DataCenter/VMServer -vmname vm -cost 10 -cpu count=2 -mem size=2048 -systemdisk size=40960 datastore -property name="vm.vcpu.cores-per-socket" value="2", name="vm.vnic.device" value="vmxnet3"
```

3.3.3 仮想マシンの構成変更

仮想マシンの CPU 数、メモリサイズなど構成変更を行います。

リソースグループ (またはラック) や仮想マシンサーバ (または DataCenter) を指定することで、その配下に存在する仮想マシンの構成変更を一括で行います。

[注]

- 仮想マシンの一括編集を行う前に、必ず収集を行い、仮想マシンを最新の状態にしてください。最新の状態でない場合、編集操作が反映されない場合があります。
- `-cpu` オプション、`-mem` オプション、`-systemdisk` オプション、`-extdisk` オプション指定時、
オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

[構文]

```
ssc update vmproperty Path [-name vmName] [-cost costValue] [-cpu count=value [share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-mem size=value [share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-vnet nic=value operation=<modify | delete | connect | disconnect> [network=value]...] [-bandcontrol nic=value [type=value] [limit=value burstlimit=value burstsize=value], ...] [-extdisk <add | delete | disconnect | modify | connect> [size=value] [type=<thin | thick | rdm-p | rdm-v>] [lun=value] [location=value] [independent=<persistent | nonpersistent |
```

none>] [ctrl=*value* [position=*value*]] [file=*value*] [share=*value*] [reservation=*value*] [limit=*value*] , ...] [-systemdisk [size=*value*] [type=<thin | thick>] [independent=<persistent | nonpersistent | none>] [share=*value*] [reservation=*value*] [limit=*value*]] [-opticaldrive *IsoFile* ...] [-property <add | delete | modify> name="*name*" value="*value*", ...]

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	<p>対象仮想マシンが所属するグループ、または対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。グループには、仮想マシンサーバ、DataCenter、リソースのパスが指定できます。</p> <p>リソースグループの場合 (ビュータイプは、resource:/です。)</p> <p>resource:/Rack01</p> <p>仮想グループの場合 (ビュータイプは、virtual:/です。)</p> <p>virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1</p> <p>ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。</p> <p>ビュータイプを省略した場合、[仮想] ビューのパスとして扱われます。</p> <p>指定したグループ配下で、管理対象の仮想マシンが編集対象になります。</p> <p>稼動中で、メンテナンスオフの仮想マシンが存在すると、エラーとなり、全仮想マシンの編集処理が行われません。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-name <i>vmName</i>]	<p>対象仮想マシンの名称を指定した名称に変更します。</p> <p>対象仮想マシンが 1 台の場合に有効となります。省略時、変更しません。</p>
[-cost <i>costValue</i>]	<p>対象仮想マシンのコスト値を変更します。</p> <p>0 から 1000 の範囲で指定します。省略時、変更しません。</p>
[-cpu count= <i>value</i> [share= <i>value</i>] [reservation= <i>value</i>] [limit= <i>value</i>]]	<p>CPU 数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。省略時、変更しません。</p> <p>"=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>count : CPU 数を指定します。</p> <p><i>value</i> に、1 から 9999 の範囲で指定します。</p> <p>(例: count=2)</p> <p>share : CPU のシェア値を指定します。</p> <p>CPU シェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値 * CPU 数</p> <p>Hyper-V 設定値 / 10</p> <p>Xen 設定値 * 256/1000</p> <p>KVM 設定値 * 1024/1000</p> <p><i>value</i> に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p> <p>he : 最高 (4000)</p> <p>h : 高 (2000)</p> <p>n : 標準 (1000)</p> <p>l : 低 (500)</p> <p>le: 最低 (250)</p> <p>1-99999 : 手動</p> <p>(例: share=h、share=30)</p> <p>reservation : CPU の予約値 (MHz) を指定します。</p> <p><i>value</i> に、0 から 99999 の範囲で指定します。</p>

	<p>(例: reservation=1000)</p> <p>省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : CPU の制限値 (MHz) を指定します。</p> <p>value に、0 から 99999 の範囲で指定します。</p> <p>(例: limit=1500)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<p>[-mem size=value [share=value] [reservation=value] [limit=value]]</p>	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。省略時、変更しません。</p> <p>"="の前後に空白は指定できません。</p> <p>size : メモリのサイズ (MB) を指定します。</p> <p>value に、1 から 99999999 (MB) の範囲で指定します。</p> <p>(例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。</p> <p>メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値 * メモリサイズ / 100</p> <p>Hyper-V 設定値 * 5</p> <p>Xen 設定不可</p> <p>KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000)</p> <p>n : 標準 (1000)</p> <p>l : 低 (500)</p> <p>0-10000 : 手動</p> <p>(例: share=l, share=30)</p> <p>reservation : メモリの予約値 (MB) を指定します。</p> <p>value に、0 から 99999999 の範囲で指定します。</p> <p>(例: reservation=2048)</p> <p>省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : メモリの制限値 (MB) を指定します。</p> <p>value に、0 から 99999999 の範囲で指定します。</p> <p>(例: limit=4096)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<p>[-vnet nic=value operation= <modify delete connect disconnect> [network=value]...]</p>	<p>仮想ネットワークを指定します。(空白区切りで指定します。)</p> <p>対象マシンが 1 台の場合に有効となります。</p> <p>nic : NIC 番号を指定します。</p> <p>network : ネットワーク名を指定します。</p> <p>operation=modify のときに有効です。</p> <p>operation : 操作を指定します。</p> <p>更新する場合は、modify を指定します。</p> <p>(設定がない場合は、追加されます)</p> <p>削除する場合は、delete を指定します。</p> <p>(NIC 番号の大きいものから指定可能です)</p> <p>接続する場合は、connect を指定します。</p> <p>切断する場合は、disconnect を指定します。</p>
<p>[-bandcontrol nic=value [type=value] [limit=value]</p>	<p>ネットワーク帯域制御を指定します。</p>

burstlimit= <i>value</i> burstsize= <i>value</i>], ...]	<p>nic : NIC 番号を指定します。</p> <p>type : 制御する通信の方向を指定します。 in / out のいずれかを指定します。 省略可能です。省略時は out が設定されます。 Hyper-V は out のみ設定可能です。</p> <p>limit : 上限 [kbits/s] を指定します。</p> <p>burstlimit : バースト時上限 [kbits/s] を指定します。</p> <p>burstsize : バーストサイズ [kbytes] を指定します。</p> <p>NIC の帯域制御を設定するには limit、burstlimit、burstsize に値を指定します。省略できません。</p> <p>無制限に設定するには limit、burstlimit、burstsize に 0 を指定します。省略できません。</p> <p>NIC の帯域制御の設定を解除するには limit、burstlimit、burstsize は指定しません。</p>
[-extdisk <add delete disconnect modify connect> [size= <i>value</i>] [type=<thin thick rdm-p rdm-v>] [lun= <i>value</i>] [location= <i>value</i>] [independent=<persistent nonpersistent none>] [ctrl= <i>value</i> [position= <i>value</i>]] [file= <i>value</i>] , ...] [share= <i>value</i>] [reservation= <i>value</i>] [limit= <i>value</i>]]	<p>拡張ディスクの設定を変更します。</p> <p>対象仮想マシンが 1 台の場合に有効となります。</p> <p>複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。</p> <p>追加する場合、add を指定します。</p> <p>size、type は必須指定となります。</p> <p>location は省略可能です。</p> <p>type が rdm-p、rdm-v の場合は、 size、location の代わりに lun を指定します。</p> <p>削除する場合は、delete を指定します。</p> <p>ctrl、position で対象ディスクを指定してください。</p> <p>ctrl、position 省略時は 1 番目の情報が対象となります。</p> <p>切断する場合は、disconnect を指定します。</p> <p>ctrl、position で対象ディスクを指定してください。</p> <p>ctrl、position 省略時は 1 番目の情報が対象となります。</p> <p>更新する場合は、modify を指定します。</p> <p>location 以外が対象となります。</p> <p>接続する場合は、connect を指定します。</p> <p>location、file は必須指定となります。</p> <p>ctrl、position は省略可能です。</p> <p>size : ディスクのサイズ (MB) を指定します。 value に、10 から 99999999 (MB) の間で指定します。</p> <p>type : 拡張ディスクのタイプを指定します。 thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定します。 省略可能です。省略時は thick が設定されます。</p> <p>rdm-p:RDM (物理) rdm-v:RDM (仮想)</p> <p>lun : ターゲット LUN (LUN Name) を指定します。 ディスクタイプに rdm-p、rdm-v 指定時に有効です。 未使用の RDM 用 LUN を指定してください。</p> <p>location : 拡張ディスクの位置を指定します。 ディスクタイプに thin、thick 指定時に有効です。 省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成されます。</p>

	<p>independent : 拡張ディスクの独立型モードを指定します。</p> <p>persistent (通常) / nonpersistent (読み取り専用) / none (独立型解除) を指定します。</p> <p>VMware 環境で有効です。</p> <p>ディスクタイプに RDM (物理) 指定時は independent 指定はできません。</p> <p>ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ</p> <p>value に以下を指定します。</p> <p>PCIx</p> <p>IDEx</p> <p>SCSIx</p> <p>SATAx</p> <p>AutoDetect (自動選択)</p> <p>x はバス番号</p> <p>position : 拡張ディスクを付ける位置</p> <p>value に以下の値が指定できます。</p> <p>PCI の場合 0～31</p> <p>IDE の場合 0～1</p> <p>SCSI の場合 0～63</p> <p>SATA の場合 0～29</p> <p>ctrl=AutoDetect 時は指定できません。</p> <p>拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は仮想基盤によって指定できる値が異なります。</p> <p>指定可能な値は、「1.1.8 各仮想基盤のコントローラと位置情報 (18 ページ)」を参照してください。</p> <p>share : ディスクのシェア値を指定します。</p> <p>ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値</p> <p>Hyper-V 設定不可</p> <p>Xen 設定不可</p> <p>KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000)</p> <p>n : 標準(1000)</p> <p>l : 低 (500)</p> <p>200-4000 : 手動</p> <p>(例: share=h, share=1000)</p> <p>reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>Hyper-V 環境で有効です。</p> <p>(例: reservation=1000)</p> <p>省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>(例: limit=1500)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
[-systemdisk [size=value]	システムディスクの設定を変更します。

<pre>[type=<thin thick>] [independent= <persistent nonpersistent none >] [share=value] [reservation=value] [limit=value]]</pre>	<p>対象仮想マシンが1台の場合に有効となります。</p> <p>size : ディスクのサイズ (MB) 指定します。</p> <p>value に 10 から 99999999 (MB) の間で指定します。</p> <p>type : システムディスクのタイプを指定します。</p> <p>thin / thick のどちらかを指定します。</p> <p>independent : システムディスクの独立型モードを指定します。</p> <p>persistent (通常) / nonpersistent (読み取り専用) /</p> <p>none (独立解除) を指定します。VMware 環境で有効です。</p> <p>share : ディスクのシェア値を指定します。</p> <p>ディスクシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値</p> <p>Hyper-V 設定不可</p> <p>Xen 設定不可</p> <p>KVM 設定不可</p> <p>value に、以下の値を指定します。</p> <p>省略時は share=n が設定されます。</p> <p>h : 高 (2000)</p> <p>n : 標準(1000)</p> <p>l : 低 (500)</p> <p>200-4000 : 手動</p> <p>(例: share=h, share=1000)</p> <p>reservation : ディスクの予約値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>Hyper-V 環境で有効です。</p> <p>(例: reservation=1000)</p> <p>省略時は reservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : ディスクの制限値 (IOPS) を指定します。</p> <p>value に、0 以上 2147483647 以下を指定します。</p> <p>(例: limit=1500)</p> <p>省略時は limit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-opticaldrive IsoFile ...]</pre>	<p><i>IsoFile</i> : マウントする ISO ファイルを指定します。</p> <p>空文字 ("") を指定した場合はマウントしていないドライブを作成します。</p> <p><i>IsoFile</i> を省略した場合、ドライブを削除します。</p>
<pre>[-property <add delete modify> name="name" value="value", ...]</pre>	<p>構成パラメータ設定を変更します。</p> <p>対象仮想マシンが1台の場合に有効となります。</p> <p>複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って</p> <p>次の構成パラメータ設定の情報を指定してください。</p> <p>新規のパラメータ名と値を追加する場合は、add を指定します。</p> <p>name、value は必須指定となります。</p> <p>既存のパラメータ名と値を削除する場合は、delete を指定します。</p> <p>name は必須指定となります。</p> <p>value は省略可能です。</p> <p>既存の構成パラメータ設定の値のみを変更する場合は、modify を指定します。</p> <p>name、value は必須指定となります。</p> <p>name : パラメータ名を二重引用符で囲んで指定します。</p> <p>value : パラメータの値を二重引用符で囲んで指定します。</p>

指定可能なパラメータ名と値の詳細は、 「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の 「4.3.11. 仮想化基盤別の固有設定(構成パラメータ設定)」を 参照してください。
--

[構文例]

・ DataCenter 配下の仮想マシンを編集する

```
>ssc update vmproperty virtual:/192.168.1.1/DataCenter001 -cpu count=2
>ssc update vmproperty 192.168.1.1/DataCenter002 -cpu count=2 share=1
-mem size=512 share=h
```

・ 仮想マシンサーバ配下の仮想マシンを編集する

```
>ssc update vmproperty 192.168.1.1/DataCenter001/VMServer01 -cpu count=1
share=35 -mem size=512 share=50
```

・ リソースグループ配下、仮想マシンサーバ配下の仮想マシンを編集する

```
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -cpu count=2
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -mem size=256
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -extdisk modify size=512
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -extdisk add size=512 typ
e=thin
location=localstorage independent=persistent
```

・ 仮想マシン単独指定 (名称変更、コスト値変更、CPU 数変更)

```
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm003 -cost 1
5
-cpu count=2
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm016 -cost 2
0
-cpu count=3 -vnet nic=1 operation=modify network=NECNET
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm016 -cost 2
0
-cpu count=3 -vnet nic=1 operation=connect
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm003 -cost 1
5
-cpu count=2 -extdisk add type=rdm-v
lun="NEC Fibre Channel Disk (eui.003013840e64000a)" ctrl=SCSI0 position=0,
add size=1000 type=thin location=Storage1 -systemdisk size=4000 type=thin
independent=nonpersistent
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm003 -cost 1
5
-property modify name="vm.vcpu.cores-per-socket" value="2",
add name="vm.vnic.device" value="vmxnet3"
```

3.3.4 仮想マシンの削除

仮想マシンの削除を行います。

[構文]

```
ssc delete machine <GroupName [-auto] [-host HostName...] [-index start=value <end=value |
count=value>] | -path Path... | -smartgroup SmartGroupName> [-diskdelete] [-i]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	<p>対象のグループをフルパスで指定します。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ、グループ/モデル) -host、-index が有効です。 省略時は-auto を指定することにより、グループで稼働中のマシンが 1 台自動選択されます。 ※-auto 指定時は、テナント、カテゴリ名のみを指定することもできます。 その場合、削除対象となるグループは指定されたテナント、カテゴリ配下から、プライオリティの低い順に自動的に選択されます。</p>
<code>[-auto]</code>	<p>グループで稼働中のマシンが 1 台自動選択されます。対象のグループのみが指定されたときに有効です。</p>
<code>[-host HostName...]</code>	<p>対象仮想マシンが稼働するホスト名、あるいは IP アドレスを指定します。 IP アドレス指定の場合は、xxx.xxx.xxx.xxx 形式で記述してください。</p>
<code>[-index start=value <end=value count=value>]</code>	<p>削除する仮想マシンのホスト名の開始番号、終了番号、または件数を指定します。 -host が IP アドレスの場合、複数指定している場合は、無効となります。 -host が省略されている場合は、ホスト設定一覧の順番となります。 (例) VM001-VM010 を削除する場合 -host vm -index start=001 end=010 -host vm -index start=001 count=10 (例) ホストの 5 番目から 10 番目を削除する場合 -index start=5 end=10 -index start=5 count=6</p>
<code>-path Path...</code>	<p>対象仮想マシンが所属するグループ、または対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。 グループには、仮想マシンサーバ、DataCenter、リソースのパスが指定できます。 リソースグループの場合 (ビュータイプは、resource:/です。) resource:/Rack01 仮想グループの場合 (ビュータイプは、virtual:/です。) virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 ビュータイプ(virtual:/)は省略可能です。 ビュータイプを省略した場合、[仮想] ビューのパスとして扱われます。 指定したグループ配下の仮想マシンが削除対象になります。 (稼働中のマシンは対象外です) パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
<code>-smartgroup SmartGroupName</code>	<p>指定したスマートグループの条件に合致するマシンを削除します。 グループのパスは、存在するパスを指定します。 パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下) [運用] ビューのスマートグループを指定した場合、グループで稼働中のマシンが削除対象となります。 [リソース] ビューのスマートグループを指定した場合、非稼働のマシンが削除対象となります。 (設定例) operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 直下の smartgroup101 を指定します。 resource:/smartgroup102 : [リソース] ビューのルートノード直下の smartgroup102 を指定します。</p>

[-diskdelete]	接続されている仮想ディスクを削除します。
[-i]	確認メッセージを表示します。

[注]

- -index で指定するホストは、start と end (count) の間に未使用のホストがあるとエラーになります。
- 本コマンドのオプションにスマートグループを指定した場合、スマートグループで抽出されたホストが複数の運用グループに分散している場合、複数のジョブに分けてシーケンシャルに処理します。

このとき、エラーが発生すると以降のジョブは実行されません。エラーの原因を取り除いて再度実行してください。

[構文例]

```
>ssc delete machine vmgroup1 -host host1 host2 -diskdelete
>ssc delete machine -path resource:/vmgroup1/vm1
>ssc delete machine -path virtual:/vms-gp1/vm-gp1/vm1
>ssc delete machine -path vms-gp1/vm-gp1
```

グループで稼働中のマシンを 1 台自動選択して削除

```
>ssc delete machine vmgroup1 -auto
>ssc delete machine category1 -auto
```

vm001 - vm010 の仮想マシン削除

```
>ssc delete machine vmgroup1 -host vm -index start=001 end=010
>ssc delete machine vmgroup1 -host vm -index start=001 count=10
```

ホスト設定リストの順番で 5 番目から 10 番目の仮想マシンを削除

```
>ssc delete machine vmgroup1 -index start=5 end=10
>ssc delete machine vmgroup1 -index start=5 count=6
```

スマートグループを指定してグループで稼働中のマシンを削除

```
>ssc delete machine -smartgroup operations:/category1/group11/smartgroup101
```

スマートグループを指定して非稼働のマシンを削除

```
>ssc delete machine -smartgroup resource:/smartgroup102
```

3.3.5 仮想マシンのクローン

仮想マシンのクローンを行います。

[構文]

```
ssc clone machine SourceName VMName VmsName DatastoreName
```

[引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	クローン元の仮想マシン名をフルパスで指定します。 (例: [運用] ビュー:/カテゴリ/グループ/モデル/仮想マシン [仮想] ビュー:/マネージャ/DataCenter/仮想マシンサーバ/仮想マシン
---------------------------	--

	<p>[リソース] ビュー:/仮想マシン)</p> <p>ビューには、以下を指定できます。</p> <p>「operations:」:[運用] ビュー</p> <p>「virtual:」:[仮想] ビュー</p> <p>「resource:」:[リソース] ビュー</p> <p>ビューを省略した場合、[仮想] ビューのパスとして扱われます。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
<i>VMName</i> (必須)	仮想マシンにつけるマシン名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	作成先となる仮想マシンサーバのマシン名を指定します。
<i>DatastoreName</i> (必須)	使用するデータストア名を指定します。

[構文例]

```
>ssc clone machine virtual:/vcl/dcl/VMServer1/MasterVm1 CloneVm1 VmHost1 S
toragel
```

3.3.6 仮想マシンの移動 (Migrate)

仮想マシンの移動 (Migration / Quick Migration) を行います。

[構文]

```
ssc migrate machine SourceName DestinationName [-n] [-q] [-ignorerule]
```

[引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	<p>移動元の仮想マシン名をフルパスで指定します。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
<i>DestinationName</i> (必須)	<p>移動先の仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。</p> <p>パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。</p>
[-n]	移動後に仮想マシンを起動しない場合、指定します。
[-q]	<p>仮想マシンをサスペンド後に移動 (Quick Migration) する場合に指定します。</p> <p>移動後はレジュームされます。省略した場合は、Migration します。</p>
[-ignorerule]	<p>配置制約を無視して移動する場合に指定します。</p> <p>省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。</p>

[構文例]

```
>ssc migrate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002
>ssc migrate machine operations:/Group-VM001/Model-VM01/VM-002
operations:/Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002
>ssc migrate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -n
```

```
>ssc migrate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-004 -q
```

3.3.7 仮想マシンの移動 (Move)

仮想マシンにディスクを含めての移動 (StorageMigration / Move) を行います。

[構文]

```
ssc move machine SourceName DestinationName [-datastore DatastoreName] [-n] [-s] [-onlysystemdisk] [-ignorerule]
```

[引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシン名をフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>DestinationName</i> (必須)	移動先の仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>[-datastore DatastoreName]</i>	移動先のデータストア名を指定します。
<i>[-n]</i>	移動後に仮想マシンを起動しない場合、指定します。
<i>[-s]</i>	仮想マシンを電源オン状態のまま移動 (StorageMigration) する場合に指定します。 省略した場合は、仮想マシンを停止後に移動 (Move) します。
<i>[-onlysystemdisk]</i>	移動時に拡張ディスクを移動対象から除外する場合に指定します。 省略した場合は、仮想マシンのすべての仮想ディスクが移動します。
<i>[-ignorerule]</i>	配置制約を無視して移動する場合に指定します。 省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。

[構文例]

```
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002
>ssc move machine operations:/Group-VM001/Model-VM01/VM-002
operations:/Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -datastore storage1
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -n
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -s
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -onlysystemdisk
```

3.3.8 マシン退避 (ホスト指定)

仮想マシンを他の仮想マシンサーバに退避させます。

[構文]

ssc evacuate host *SourceName* [*DestinationName*] [-all] [-migration] [-move] [-failover] [-q] [-s] [-ignorerule] [-reboot]

[引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシンサーバ、または移動する仮想マシンが割り当てられているホスト (運用グループ) のパスを指定します。 仮想マシンサーバを指定した場合は、その仮想マシンサーバ上に存在する電源オン状態の仮想マシンを移動します。(-all を指定した場合は電源オフ状態のものを含むすべての仮想マシンを移動します。) 仮想マシンを指定した場合は、VM 移動 (Failover) を行います。
[<i>DestinationName</i>]	移動先の仮想マシンサーバが割り当てられているホスト (運用グループ) のパスを指定します。 省略した場合は、自動で仮想マシンサーバが選択されます。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンを指定した場合、省略できません。)
[-all]	仮想マシンサーバ上のすべての仮想マシン (電源オフ状態のものを含む) を移動します。 省略した場合は、電源オン状態の仮想マシンのみ移動します。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-migration]	仮想マシンの移動に Migration を使用する場合に指定します。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-move]	仮想マシンの移動に Move を使用する場合に指定します。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-failover]	仮想マシンの移動に Failover を使用する場合に指定します。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-q]	仮想マシンをサスペンド後に移動 (Quick Migration) する場合に指定します。移動後はレジュームされます。 省略した場合は、Migration により仮想マシンを移動します。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-s]	-move オプションを指定した場合に、Move の代わりに Storage Migration を使用して仮想マシンを移動します。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-ignorerule]	配置制約を無視して移動する場合に指定します。 省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンを指定した場合のみ有効です。)
[-reboot]	移動対象の仮想マシンに対し、依存元となるマシンを再起動する場合に指定します。 省略した場合は依存元の再起動を行いません。 (<i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)

[注]

- *SourceName* に仮想マシンサーバを指定し、-move オプションを指定しなかった場合、共有データストア上にない電源オン状態の仮想マシンは移動されません。-move オプションを指定した場合、および電源オフ状態の仮想マシンは、共有データストア上にない場合においても移動されます。(仮想ディスクが他のデータストアに移動されます。)
- *SourceName* に仮想マシンを指定した場合、共有データストア上にない仮想マシンの VM 移動 (Failover) は実行できません。

- *SourceName* に XenServer Pool Master の仮想マシンサーバを指定し、その仮想マシンサーバがダウンしている場合、同じプール配下でキャパシティの最も大きな仮想マシンサーバが新しい Pool Master に切り替わります。
- *SourceName* に仮想マシンサーバを指定した場合、移動対象の仮想マシンや移動先の仮想マシンサーバは VM 最適配置機能により決定されます。(*DestinationName* を指定した場合は、指定した仮想マシンサーバが移動先となります。) VM 最適配置機能の移動条件や配置制約によって、仮想マシンを移動できない場合があります。詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「4.7.3. VM 退避」、および「4.7.4. VM 最適配置の条件」を参照してください。
- *SourceName* に仮想マシンサーバを指定し、いずれの移動方法も指定しなかった場合、Migration, Failover を指定したものとして扱います。

[構文例]

```
>ssc evacuate host //Category1/Group01/HOST-01
>ssc evacuate host //Group-VM001/Host-A001 //Group-VMServer001
>ssc evacuate host //Group-VMServer001/Host-VMS001 //Group-VMServer002
>ssc evacuate host //Group-VM002 -all
>ssc evacuate host //Category1/Group01/HOST-01 -q
>ssc evacuate host //Category1/Group01/HOST-01 -migration -failover
```

3.3.9 仮想マシンのエクスポート

仮想マシンをエクスポートします。

[構文]

```
ssc export vm VmName Type [-Path Path]
```

[引数/オプション]

<i>VmName</i> (必須)	対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。 パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。
<i>Type</i> (必須)	エクスポートのタイプを指定します。
[-Path <i>Path</i>]	エクスポート先のディレクトリを指定します。 省略した場合は、カレントディレクトリを使用します。

[構文例]

```
>ssc export vm resource:¥sample_vm ovf
>ssc export vm resource:¥sample_vm ova -Path c:¥tmp
```

3.3.10 仮想マシンのインポート

仮想マシンをインポートします。

[構文]

```
ssc import vm FilePath VmName Cost VmsName DatastoreName [-import Type]
```

[引数/オプション]

<i>FilePath</i> (必須)	OVF、OVA、または VHD ファイルのファイルパスを指定します。 <i>Type</i> が指定されていない場合は、自動判別します。
<i>VmName</i> (必須)	仮想マシン名を指定します。
<i>Cost</i> (必須)	コスト値を指定します。 1 から 1000 の範囲で指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	仮想マシンサーバを指定します。
<i>DatastoreName</i> (必須)	データストアを指定します。
[-import <i>Type</i>]	インポートするファイルのタイプを指定します。

[構文例]

```
>ssc import vm c:\test\vm_data1.ovf vm_test 3 VM.xxx.co.jp datastore
>ssc import vm c:\test\vm_data2.ova vm_test 3 VM.xxx.co.jp datastore -import ova
```

3.3.11 テンプレートの作成

テンプレートの作成を行います。

[構文]

```
ssc create template Path -name name -cost costValue -type <full | hw | diff | disk> [-image name] [-vmserver vmServer] [-datastore value] [-snapshot name] [-mastervmpasswd Password] [-fixedreplica] [-ostype OperatingSystemType] [-osname <name | code>] [-ownername value] [-orgname value] [-timezone value] [-productkey value] [-license mode=<perserver | perseat>] [-users=value]] [-modevm <on | off>]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。 VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
-name <i>name</i> (必須)	作成するテンプレートの名称を指定します。
-cost <i>costValue</i> (必須)	作成するテンプレートのコスト値を指定します。 1 以上から 1000 以下で指定してください。
-type <full hw diff disk> (必須)	作成するテンプレートのタイプを指定します。 指定には、以下を使用します。 full : Full Clone

	hw : HW Profile Clone diff : Differential Clone disk : Disk Clone
<code>[-image name]</code>	作成するイメージの名称を指定します。 テンプレートのタイプが、Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-vmserver vmServer]</code>	作成先の仮想マシンサーバを指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-datastore value]</code>	格納場所を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-snapshot name]</code>	スナップショット名を指定します。 テンプレートのタイプが、Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-mastervmpasswd Password]</code>	マスタ VM のパスワードを指定します。 VMware 環境で Linux ゲスト OS のパスワードを更新するために使用します。 256 文字以内で指定してください。
<code>[-fixedreplica]</code>	レプリカ VM をイメージと同じデータストアのみに作成する場合に指定します。 ただし、作成するテンプレートのタイプが Differential Clone の場合のみ有効となります。
<code>[-ostype OperatingSystemType]</code>	OS タイプを指定します。 以下の <i>OperatingSystemType</i> を指定できます。いずれか 1 つを指定してください。 <i>OperatingSystemType</i> : OS タイプ Windows: Windows Server Windows-client: Windows Client linux: Linux テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-osname <name code>]</code>	OS 名を指定します。 OS 名のコード、または WebUI に表示されている文字列を指定します。 「1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ)」 を参照してください。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-ownername value]</code>	Owner 名を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で、OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。
<code>[-orgname value]</code>	組織名を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で、OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。
<code>[-timezone value]</code>	タイムゾーンを指定します。(省略可能) 省略時はシステムに設定されたタイムゾーンになります。 タイムゾーンのコード、または WebUI に表示されている文字列を指定します。 「1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ)」 を参照してください。 値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。

	<p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で、OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。</p>
<code>[-productkey value]</code>	<p>プロダクトキーを指定します。(省略可能) xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx の形式で入力してください。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で、OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。</p>
<code>[-license mode=<perserver perseat> [users=value]]</code>	<p>ライセンスモードを指定します。 perserver : 同時接続サーバ数 perseat : 接続クライアント [users=value] perserver を指定時に、サーバ数を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で、OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。</p>
<code>[-modevm < on off >]</code>	<p>VM モードを指定します。 on : VM モードをオンにします。 off : VM モードをオフにします。 テンプレートのタイプに、Disk Clone / Differential Clone を設定した場合のみ指定できます。</p>

[注]

- -ownername、-orgname オプションを指定しない場合、
-timezone、-productkey、-license オプションは無効です。

[構文例]

```

・Full Clone の場合
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype windows -osname 1
1
-ownername nec -orgname 2CS -timezone 235 -productkey
xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perserver users=5
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype windows -osname
"Windows Server 2008 Enterprise (x64)" -ownername nec -orgname 2CS
-timezone 235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=per
seat
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype windows-client
-osname "Windows 7 Professional (x64)" -ownername nec -orgname 2CS
-timezone 235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype linux -osname
"Red Hat Enterprise Linux ES 3"
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0

```

```

-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01

・HW Profile Clone の場合
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type hw

・Differential Clone の場合
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -ostype windows -osname 11 -ownername nec -orgname 2CS -timezon
e 235
-productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perserver users=5
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -fixedreplica -ostype windows -osname
"Windows Server 2008 Enterprise (x64)" -ownername nec -orgname 2CS -timezo
ne
235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perseat
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -fixedreplica -ostype linux -osname "Red Hat Enterprise Linux E
S 3"
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01

・Disk Clone の場合
>ssc create template VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 1
0
-type disk -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01

```

3.3.12 テンプレートの更新

テンプレートの更新を行います。

[構文]

```

ssc template update TemplateName [-vmserver vmserver] [-name name] [-cost costValue] [-
mastervmpasswd Password] [-image name] [-ostype OperatingSystemType] [-osname <name | code>]
<[-ownername value] [-orgname value] [-timezone value] [-productkey value] [-license
mode=<perserver | perseat> [users=value]] | [-del] > [-mastervm <Name=value | Uuid=value>]

```

[引数/オプション]

<i>TemplateName</i> (必須)	更新対象のテンプレート名を指定します。
[-vmserver <i>vmserver</i>]	テンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。
[-name <i>name</i>]	テンプレート名を変更する場合に指定します。

	テンプレートのタイプが、HW Profile Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-cost <i>costValue</i>]</code>	テンプレートのコスト値を指定します。 1 以上から 1000 以下で指定して下さい。
<code>[-mastervmpasswd Password]</code>	マスタ VM のパスワードを指定します。 VMware 環境で Linux ゲスト OS のパスワードを更新するために使用します。 256 文字以内で指定してください。
<code>[-image <i>name</i>]</code>	使用するイメージの名称を指定します。 テンプレートのタイプが、Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-ostype OperatingSystemType]</code>	OS タイプを指定します。 以下の <i>OperatingSystemType</i> を指定できます。 <i>OperatingSystemType</i> : OS タイプ Windows: Windows Server Windows-client: Windows Client Linux: Linux 解除する場合は、"None" を指定して下さい。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-osname <<i>name</i> <i>code</i>>]</code>	OS 名を指定します。 OS 名のコード、または WebUI で表示されている文字列を指定します。 「 1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ) 」を参照してください。 解除する場合は、"0" を指定してください。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<code>[-ownername <i>value</i>]</code>	Owner 名を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。
<code>[-orgname <i>value</i>]</code>	組織名を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。
<code>[-timezone <i>value</i>]</code>	タイムゾーンを指定します。(省略可能) 省略時はシステムに設定されたタイムゾーンになります。 タイムゾーンのコード、または WebUI で表示されている文字列を指定します。 「 1.1.6 OS 一覧、タイムゾーン (13 ページ) 」を参照してください。 値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。
<code>[-productkey <i>value</i>]</code>	プロダクトキーを指定します。(省略可能) XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX の形式で入力してください。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。
<code>[-license mode=<perserver perseat> [users=<i>value</i>]]</code>	ライセンスモードを指定します。 perserver : 同時接続サーバ数 perseat : 接続クライアント [users= <i>value</i>]

	perserver を指定時に、サーバ数を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で OS タイプに Windows を指定した場合のみ指定できます。
[-del]	プロファイル情報 (Owner 名・組織名・タイムゾーン・プロダクトキー・ライセンスモード) の設定を解除します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で OS タイプに Windows、または Windows-client を指定した場合のみ指定できます。
[-mastervm <Name=value Uuid=value>]	マスタ VM を指定します。 テンプレートのタイプが、Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。 テンプレート(レプリカ)と同じ仮想マネージ内の仮想マシンを指定できます。

[注]

- 更新するテンプレートの Owner 名、組織名の設定がある、または -ownername、-orgname オプションを指定した場合に、-timezone、-productkey、-license オプションは有効です。

[構文例]

```
> ssc template update template1 -name tempalteA -cost 10 -ostype windows
-osname "Windows Server 2008 Enterprise (x64)" -ownername owner1 -orgname
org1
-productkey xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx -license mode=perserver user=5

> ssc template update template1 -name tempalteA -cost 10 -ostype windows-c
lient
-osname "Windows 7 Professional (x64)" -ownername owner1 -orgname org1
-productkey xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx

> ssc template update template1 -name tempalteA -cost 10 -ostype linux
-osname "SUSE Linux Enterprise Server 10"

> ssc template update template1 -del
```

3.3.13 テンプレートの削除

テンプレートの削除を行います。

[構文]

```
ssc delete template TemplateName[...] [-vmserver VMServerName]
```

[引数/オプション]

<i>TemplateName</i> [...] (必須)	削除するテンプレートの名称を指定します。
[-vmserver <i>VMServerName</i>]	削除するテンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。

[構文例]

```
> ssc delete template FullCloneTemplate_W2K8
> ssc delete template FullCloneTemplate_W2K8 DiffCloneTemplate_Linux
> ssc delete template FullCloneTemplate_W2K3 -vmserver VMS-01
```

3.3.14 テンプレートのエクスポート

テンプレートをエクスポートします。

[構文]

```
ssc export template TemplateName [-vmserver VMServer] [-image Image] [-path Path]
```

[引数/オプション]

<i>TemplateName</i> (必須)	対象のテンプレート名を指定します。
[-vmserver <i>VMServer</i>]	テンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。
[-image <i>Image</i>]	エクスポートするイメージ名を指定します。 省略した場合はデフォルトイメージをエクスポートします。
[-path <i>Path</i>]	エクスポート先のディレクトリを指定します。 省略した場合は、カレントディレクトリを使用します。

[構文例]

```
>ssc export template Template -vmserver VMS -path C:¥
```

3.3.15 テンプレートのインポート

テンプレートをインポートします。

[構文]

```
ssc import template FilePath VmsName DatastoreName [-template Name] [-image Name] [-notdefault] [-mastervm <Name=value | Uuid=value>] [-vnet VirtualNetwork ...] [-force]
```

[引数/オプション]

<i>FilePath</i> (必須)	テンプレートファイルのファイルパスを指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	仮想マシンサーバを指定します。
<i>DatastoreName</i> (必須)	データストアを指定します。
[-template <i>Name</i>]	テンプレートの名前を指定します。 イメージとしてインポートする場合は無視されます。 省略した場合はインポートするテンプレートの情報を使用します。
[-image <i>Name</i>]	イメージの名前を指定します。 省略した場合はインポートするテンプレートの情報を使用します。
[-notdefault]	既定のイメージに設定しません。 イメージとしてインポートする場合のみ有効です。

<code>[-mastervm <Name=value Uuid=value>]</code>	テンプレートのマスタ VM を指定します。 テンプレートのタイプが、Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。 テンプレートと同じ仮想マネージャ内の仮想マシンを指定できます。 既にテンプレートがインポートされている場合は無視されます。 省略した場合はマスタ VM なしになります。
<code>[-vnet VirtualNetwork ...]</code>	レプリカが接続ネットワークを設定します。 省略した場合はインポートするテンプレートの情報を使用します。
<code>[-force]</code>	テンプレート/イメージが重複してもインポートします。

3.3.16 イメージの作成

イメージを作成します。

[構文]

```
ssc image add ImageName Template Vmserver Datastore [-snapshot SnapshotName]
```

```
[-notdefault] [-fixedreplica] [-mastervmpasswd password] [-modevm <on | off>] [-vmserver  
VMServerName]
```

[引数/オプション]

<i>ImageName</i> (必須)	作成するイメージ名を指定します。 入力できる文字数は 53 文字以内です。 使用可能な文字列は半角英数字、半角空白、および半角記号 ("("、")"、"-","_") です。
<i>Template</i> (必須)	イメージを作成するテンプレート名を指定します。
<i>Vmserver</i> (必須)	格納先の仮想マシンサーバを指定します。
<i>Datastore</i> (必須)	格納先を指定します。
<code>[-snapshot SnapshotName]</code>	テンプレートの種別が Differential Clone の場合、スナップショット名を指定します。
<code>[-notdefault]</code>	イメージの追加のみ行います。 省略した場合、イメージをテンプレートの使用するデフォルトイメージとして登録します。
<code>[-fixedreplica]</code>	レプリカ VM をイメージと同じデータストアのみに作成する場合に指定します。
<code>[-mastervmpasswd password]</code>	マスタ VM のパスワードを指定します。 VMware 環境で Linux ゲスト OS のパスワードを更新するために使用します。
<code>[-modevm <on off>]</code>	VM モードを指定します。 on : VM モードをオンにします。 off : VM モードをオフにします。 省略した場合、"off" の指定と同じになります。 テンプレートのタイプに、Disk Clone / Differential Clone を指定した場合のみ指定できます。

<code>[-vmserver VMServerName]</code>	イメージを追加するテンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。
---	--

[注]

- ・ イメージの作成はテンプレートの種別が **Differential Clone** か **Disk Clone** のテンプレートのみ実行可能です。

[構文例]

```
>ssc image add diffclone-image differentialclone-template 192.168.10.1 datastore1
  -snapshot snapshotA
>ssc image add diskclone-image diskclone-template 192.168.10.1 datastore1
  -notdefault
```

3.3.17 イメージの更新

イメージを更新します。

[構文]

```
ssc image update ImageName Template [Vmserver [Datastore]] [-mastervmpasswd password]
```

[引数/オプション]

<i>ImageName</i> (必須)	作成するイメージ名を指定します。 入力できる文字数は 53 文字以内です。 使用可能な文字列は半角英数字、半角空白、および半角記号 ("("、")"、"-","_") です。
<i>Template</i> (必須)	イメージを作成するテンプレート名を指定します。
<code>[Vmserver Datastore]</code>	イメージを更新するテンプレートがある仮想マシンサーバ名 / データストア名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。
<code>[-mastervmpasswd password]</code>	マスタ VM のパスワードを指定します。 VMware 環境で Linux ゲスト OS のパスワードを更新するために使用します。

[構文例]

```
>ssc image update diffclone-image differentialclone-template 192.168.10.1
  datastore1 -mastervmpasswd pw
```

3.3.18 イメージの削除

イメージを削除します。

[構文]

```
ssc image delete Template ImageName... [-vmserver VMServerName]
```

[引数/オプション]

<i>Template</i> (必須)	イメージを削除するテンプレート名を指定します。
<i>ImageName...</i> (必須)	削除するイメージ名を指定します。 複数指定可能です。
<i>[-vmserver VMServerName]</i>	イメージを削除するテンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。

[構文例]

```
>ssc image delete testTemplate testImage1
>ssc image delete testTemplate testImage1 testImage2
>ssc image delete testTemplate testImage1 -vmserver 192.168.220.142
```

3.3.19 イメージの表示

イメージ情報を表示します。

[構文]

```
ssc image show TemplateName [-vmserver VMServer] [-image Image] [-vertical]
```

[引数 / オプション]

<i>TemplateName</i> (必須)	対象のテンプレート名を指定します。
<i>[-vmserver VMServer]</i>	テンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。
<i>[-image Image]</i>	対象のイメージ名を指定します。
<i>[-vertical]</i>	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc image show Template -image Image
```

3.3.20 スナップショットの作成

スナップショットを作成します。

[構文]

```
ssc snapshot create SnapshotName Path [-vm name[...]]
```

[引数/オプション]

<i>SnapshotName</i> (必須)	作成するスナップショットの名前を指定します。
<i>Path</i>	仮想マシンサーバ、または仮想マシンまでのパスを指定します。

(必須)	virtual:/vc1/dc1/esx1 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
[-vm name[...]]	Path に仮想マシンサーバを指定している場合に有効です。 指定した仮想マシンサーバに所属する仮想マシンの名前を指定します。 省略時は、仮想マシンサーバに所属するすべての仮想マシンが対象となります。 仮想マシンは、複数指定することが可能です。

[注]

- スナップショットを作成する仮想マシンが複数の場合のみ、進捗ログが表示されます。

[構文例]

esx1 所属の仮想マシンすべてを対象にする場合

```
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1
```

esx1 所属の仮想マシンで、vm1,vm2 を対象にする場合

```
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1 -vm vm1 vm2
```

esx1 所属の仮想マシン vm1 を対象にする場合

```
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
```

```
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1 -vm vm1
```

3.3.21 スナップショットの編集

スナップショットを編集します。

[構文]

```
ssc snapshot update VM SnapshotName [-newname Name] [-description Description]
```

[引数/オプション]

VM (必須)	仮想マシンのパスを指定します。 例: virtual:/VC/DataCenter/VMServer/VM ビュータイプ (virtual:/) は省略可能です。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
SnapshotName (必須)	スナップショットの名前を指定します。
[-newname Name]	スナップショットの新しい名前を指定します。
[-description Description]	説明を指定します。 255 文字以内で指定してください。

[構文例]

```
>ssc snapshot update virtual:/VC/DataCenter/VMServer/VM snapshot01 -newname snapshot2015_10
```

```
>ssc snapshot update virtual:/VC/DataCenter/VMServer/VM snapshot01 -description 2015/10
```

3.3.22 スナップショットの削除

スナップショットを削除します。

[構文]

```
ssc snapshot delete Path <SnapshotName... | -all>
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>SnapshotName...</i>	削除を行うスナップショットの名前を指定します。 複数指定することが可能です。 一括削除の場合は、指定不要です。
-all	一括削除を行う場合に指定します。

[構文例]

```
>ssc snapshot delete virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 snapshot1
>ssc snapshot delete virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 snapshot1 snapshot2
>ssc snapshot delete virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 -all
```

3.3.23 スナップショットの復元

スナップショットを復元します。

[構文]

```
ssc snapshot revert SnapshotName Path
```

[引数/オプション]

<i>SnapshotName</i> (必須)	復元を行うスナップショットの名前を指定します。
<i>Path</i> (必須)	仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。

[構文例]

```
>ssc snapshot revert snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
```

3.3.24 スナップショットの表示

スナップショットを表示します。

[構文]

```
ssc snapshot show Path [-vertical]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc snapshot show virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
>ssc snapshot show virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 -vertical
```

3.3.25 再構成

仮想マシンの再構成を行います。

[構文]

```
ssc reconfigure machine GroupFullPath [-target Name[...]] [-reconstruct | -revert | -apply] [-concurrent value] [-interval value] [-turnoff <0 | 1>] [-disksize size] [-shutdown]
```

[引数/オプション]

<i>GroupFullPath</i> (必須)	[運用] ビューのグループのパスを指定します。 テナント、カテゴリの指定はできません。 (例 : テナント/カテゴリ/グループ)
[-target <i>Name</i> [...]]	ホスト名を指定します。(複数指定可能) 省略した場合、指定したグループで稼動中のすべてのマシンが対象となります。
[-reconstruct]	指定のグループ、モデル、ホスト設定に指定されている優先度の高いテンプレート、またはイメージの状態に再構築します。
[-revert]	差分ディスクの破棄を行います。
[-apply]	マシンプロファイルを適用します。
[-concurrent <i>value</i>]	最大同時実行数を指定します。(既定値は 1) 1 から 100 の範囲で指定します。
[-interval <i>value</i>]	実行間隔を指定します。(既定値は 0) 0 秒から 99999 秒の範囲で指定します。
[-turnoff <0 1>]	実行条件として電源状態を指定します。(既定値は 1) 0 : 電源状態を確認せず実行します。 1 : 電源状態がオフのみ対象とします。

<code>[-disksize size]</code>	実行条件としてディスク使用容量 (MB) を指定する。 ディスク使用容量が指定容量以上の仮想マシンを対象とする。 10MB から 99999999MB の範囲で指定します。
<code>[-shutdown]</code>	マシン停止後にマシンプロファイルを適用する場合に指定します。

- `-reconstruct`、`-revert`、`-apply` を同時に指定できません。

また、これらをすべて省略した場合は、`-reconstruct` となります。

[構文例]

```
* Reconstruct の実行
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -reconstruct
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -target host1 host2

* Reconstruct の実行 (コマンドの別名指定)
>ssc reconstruct machine operation:/vmgroup1 -target host1 host2

* Revert の実行
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -revert

* Apply Machine Profile の実行
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -apply -shutdown

* 実行条件の指定
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -target host1 -concurrent 2
-interval 500 -turnoff 1 -disksize 2048
```

3.3.26 CD/DVD ドライブとマウント可能な ISO イメージ一覧表示

仮想マシンにある CD / DVD ドライブとマウント可能な ISO イメージ一覧を表示します。

[構文]

```
ssc iso show VMName [-vertical]
```

[引数/オプション]

<code>VMName</code> (必須)	仮想マシンをフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path 、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<code>[-vertical]</code>	表示形式を指定します。 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[構文例]

```
>ssc iso show virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm
>ssc iso show virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm -vertical
```

3.3.27 ISO イメージのマウント

仮想マシンに ISO イメージをマウントします。

[構文]

```
ssc iso mount VMName IsoFilePath Ctrl Position
```

[引数/オプション]

<i>VMName</i> (必須)	仮想マシンをフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path 、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>IsoFilePath</i> (必須)	ISO イメージをフルパスで指定します。
<i>Ctrl</i> (必須)	コントローラを指定します。
<i>Position</i> (必須)	位置を指定します。

[構文例]

```
>ssc iso mount virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm "[datastore] ISO/file.iso" ide1 0
```

3.3.28 ISO イメージのアンマウント

仮想マシンから ISO イメージをアンマウントします。

[構文]

```
ssc iso unmount VMName Ctrl Position
```

[引数/オプション]

<i>VMName</i> (必須)	仮想マシンをフルパスで指定します。 パスの指定については、「 1.1.5 Path 、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
<i>Ctrl</i> (必須)	コントローラを指定します。
<i>Position</i> (必須)	位置を指定します。

[構文例]

```
>ssc iso unmount virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm ide1 0
```

3.4 配置制約

3.4.1 配置制約の設定

仮想マシンの配置制約を設定します。

[構文]

```
ssc vmop set-rule GroupName SourceName [TargetName] [-type Type] [-o options] [-priority n]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を設定する、種別が VM サーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>SourceName</i> (必須)	配置制約を設定する元のホスト / VM 制約グループ名を指定します。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。 ホスト / VM 制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常に VM 制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、(VM 制約グループ)、VM 制約グループ)
[<i>TargetName</i>]	配置制約を設定する先のホスト / VM サーバ制約グループ名を指定します。 -type が "eq"、"ne"、"hold" の場合は、省略します。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。 ホスト / VM サーバ制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常に VM サーバ制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、 (VM サーバ制約グループ)、VM サーバ制約グループ) 配置制約を設定する先のホスト名のみを指定した場合、 <i>GroupName</i> のグループに所属するホストとみなされます。
[-type <i>Type</i>]	配置制約の種別を指定します。 pinned : <i>SourceName</i> の仮想マシン (ホスト / VM 制約グループ) を <i>TargetName</i> の仮想マシンサーバ (ホスト / VM サーバ制約グループ) に配置します。 eq : <i>SourceName</i> で指定された VM 制約グループに所属する仮想マシンを、 同一の仮想マシンサーバに配置します。 ne : <i>SourceName</i> で指定された VM 制約グループに所属する仮想マシンを、 互いに異なる仮想マシンサーバに配置します。 hold : <i>SourceName</i> で指定された仮想マシン (ホスト / VM 制約グループ) を、 移動対象から除外します。 -type を省略した場合、"pinned" が指定されます。
[-o <i>options</i>]	配置制約のオプションを設定します。(複数指定可能) オプションは-type が "pinned" の場合に指定できます。 force : 配置制約を強制します。 weak : 最適起動の利用時、故障などの理由で起動できる 仮想マシンサーバが存在しない場合は、無視します。
[-priority <i>n</i>]	優先度を指定します。 優先度は-type が "pinned" の場合に指定できます。 値域は $1 \leq n \leq 4$ 省略時、1 (最高) 指定となります。

- 既に設定済み (*GroupName*、*SourceName*、*TargetName* が同じ) の場合、上書きします。

[構文例]

```

>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01
Vm-g/vm01 VMServer-g/Esx-g-01/esx01
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VMServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-pinned-group) (vms-pinned-group) -type pinned
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-eq-group) -type eq
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-hold-group) -type hold
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VMServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned -o force
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VMServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned -o force weak
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VMServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned -o weak -priority 2

```

3.4.2 配置制約の削除

仮想マシンの配置制約を削除します。

[構文]

ssc vmop delete-rule *GroupName* [*SourceName*] [*TargetName*] [-all]

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を削除する、種別が VM サーバのグループ/モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[<i>SourceName</i>]	対象となる配置制約元(仮想マシン)のホスト名、もしくは VM 制約グループ名を指定します。 ただし、"-all" 指定時以外は省略することはできません。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。 ホスト/VM 制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常に VM 制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、(VM 制約グループ)、VM 制約グループ)
[<i>TargetName</i>]	対象となる制約設定先のホスト名 (仮想マシンサーバ) のホスト名、 もしくは VM サーバ制約グループ名を指定します。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。 ホスト/VM サーバ制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常に VM サーバ制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、 (VM サーバ制約グループ)、VM サーバ制約グループ)
[-all]	<i>GroupName</i> のみ指定した場合、VM サーバモデルに関連付いている すべての配置制約を削除します。 <i>GroupName</i> 、 <i>SourceName</i> 、または <i>TargetName</i> を指定した場合、VM サーバモデルと 指定したホスト/制約グループに関連付いているすべての配置制約を削除します。

[構文例]

```

1) SourceHost (仮想マシン) と TargetHost (仮想マシンサーバ) の制約を削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01
Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01
2) SourceGroup (VM 制約グループ) と TargetHost (仮想マシンサーバ)
の制約を削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-pinned-group) VmServer-g/Esx-g-01/esx01
3) SourceGroup (VM 制約グループ) の EQ 制約を削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01 (vm-eq-group)
4) SourceHost (仮想マシン) の制約をすべて削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 -all
5) TargetHost (仮想マシンサーバ) の制約をすべて削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
VmServer-g/Esx-g-01/esx01 -all
6) SourceGroup (VM 制約グループ) の制約をすべて削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-restriction-group) -all
7) GroupName (VM サーバモデル) の制約をすべて削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01 -all

```

3.4.3 配置制約の有効化

仮想マシンの配置制約設定を有効にします。

[構文]

ssc vmop enable-rule *GroupName*

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を有効とする、種別が VM サーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
--------------------------	--

[構文例]

```

>ssc vmop enable-rule VMS-Group
>ssc vmop enable-rule VMS-Group/VMS-Model

```

3.4.4 配置制約の無効化

仮想マシンの配置制約設定を無効にします。

[構文]

ssc vmop disable-rule *GroupName*

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を無効にする、種別が VM サーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
--------------------------	--

[構文例]

```
>ssc vmop disable-rule VMS-Group
>ssc vmop disable-rule VMS-Group/VMS-Model
```

3.4.5 配置制約に従った配置

仮想マシンを配置制約に従って配置します。

[構文]

```
ssc vmop apply-rule GroupName [TargetHostName]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約適用の対象となる、種別が VM サーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[<i>TargetHostName</i>]	配置制約の設定先のホスト名を指定します。 対象の仮想マシンサーバが稼動している必要があります。

[構文例]

```
>ssc vmop apply-rule Category/Group1
>ssc vmop apply-rule Category/Group1/Model1 Host1
```

3.4.6 配置制約の表示

仮想マシンの配置制約設定を表示します。

[構文]

```
ssc vmop show-rule [GroupName] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[<i>GroupName</i>]	表示対象である、種別が VM サーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 <i>GroupName</i> を省略した場合、全グループ / モデルの配置制約の有効 / 無効状態を表示します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[-vertical]	情報表示形式で表示します。このオプションを省略した場合、 CSV 形式 (1 行単位のカンマ区切り) で表示します。

- CSV 形式の場合、制約グループは"([制約グループ名])"の形式で表示されます。

[構文例]

```
>ssc vmop show-rule
>ssc vmop show-rule -vertical
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup
```

```
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01 -vertical
```

[表示例]

```
>ssc vmop show-rule -vertical
  GroupName : //test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01      Restriction : Enabled
d
  GroupName : //test1/test2/vmsgroup2/vmsmodel1      Restriction : Disabled
ed

>ssc vmop show-rule
#GroupName,Restriction
//test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01,Enabled
//test1/test2/vmsgroup2/vmsmodel1,Disabled

>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01 -vertical
* GroupName      : vmsmodel01

* Restriction    : Enabled

* Source
  HostName       : vmhost01
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmsgroup002
  MachineName    : vm100

* Target
  HostName       : vmshost01
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmsgroup
  MachineName    : Not Running

* RestrictionType : Pinned
* RestrictionPriority : 1
* RestrictionFlag  : none
-----

* Source
  HostName       : vmhost02
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmsgroup002
  MachineName    : vm200

* Target
  HostName       : vmshost01
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmsgroup
  MachineName    : Not Running

* RestrictionType : Pinned
* RestrictionPriority : 2
* RestrictionFlag  : none
-----

* Source
  RestrictionGroupName : vm-group
  GroupName            : ¥¥test1¥test2¥vmsgroup002
  HostName             : vmhost03
  HostName             : vmhost04
  HostName             : vmhost05
```

```

* Target
  HostName          : vmshost01
  GroupName         : ¥¥test1¥test2¥vmgroup
  MachineName       : Not Running
* RestrictionType   : Pinned
* RestrictionPriority : 1
* RestrictionFlag    : none

>ssc vmop show-rule test1/test2/vmgroup/vmsmodel01
#GroupName,Restriction,SourceHost,TargetHost,Type,Priority,Flag
"vmsmodel01","Enabled","vmshost01","vmshost01","Pinned","1","none"
"vmsmodel01","Enabled","vmshost02","vmshost01","Pinned","2","none"
"vmsmodel01","Enabled","(vm-group)","vmshost01","Pinned","1","none"

```

3.4.7 配置制約設定の妥当性確認

仮想マシンの配置制約設定が正しいか確認します。

[構文]

ssc vmop verify-rule *GroupName*

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を確認する、種別が VM サーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
--------------------------	---

[構文例]

```
>ssc vmop verify-rule category/vmsGroup/model1
```

3.4.8 制約グループの作成

配置制約の制約グループを作成します。

[構文]

ssc vmop create-group *GroupName RestrictionGroupName*

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループを作成するグループ / モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、グループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	作成する制約グループの名前を指定します。

[構文例]

```

1) VM 制約グループを作成する場合
>ssc vmop create-group Category/VmGroup-01 restriction-group
2) VM サーバ制約グループを作成する場合
>ssc vmop create-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-restriction-group

```

3.4.9 制約グループの削除

配置制約の制約グループを削除します。

[構文]

```
ssc vmop delete-group GroupName RestrictionGroupName
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループを削除するグループ / モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、グループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	削除する制約グループの名前を指定します。

[構文例]

```

1) VM 制約グループを削除する場合
>ssc vmop delete-group Category/VmGroup-01 restriction-group
2) VM サーバ制約グループを削除する場合
>ssc vmop delete-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-restriction-group

```

3.4.10 制約グループへのメンバ追加

配置制約の制約グループにホストを追加します。

[構文]

```
ssc vmop add-member GroupName RestrictionGroupName HostName1 [HostName2]...
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループが所属するグループ / モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、グループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	メンバを追加する制約グループの名前を指定します。
<i>HostName1</i> (必須) <i>[HostName2]</i>	制約グループに追加するホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。

...	(例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト) 複数指定した場合、指定されたすべてのホストを追加します。
-----	---

[構文例]

```
>ssc vmop add-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001
>ssc vmop add-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001 vm-002 vm-003
>ssc vmop add-member Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-group vms-001
```

3.4.11 制約グループからのメンバ削除

配置制約の制約グループからホストを削除します。

[構文]

```
ssc vmop remove-member GroupName RestrictionGroupName HostName1 [HostName2]...
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループが所属するグループ / モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、グループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	メンバを削除する制約グループの名前を指定します。
<i>HostName1</i> (必須) <i>[HostName2]</i> ...	制約グループから削除するホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト) 複数指定した場合、指定されたすべてのホストを削除します。

[構文例]

```
>ssc vmop remove-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001
>ssc vmop remove-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001 vm-002 vm-003
>ssc vmop remove-member Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-group vms-001
```

3.4.12 制約グループ設定の表示

配置制約の制約グループ設定を表示します。

[構文]

```
ssc vmop show-group [GroupName] [-vertical]
```

[引数/オプション]

<i>[GroupName]</i>	制約グループ設定を表示するグループ/モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。
--------------------	--

	(例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル) <i>GroupName</i> を省略した場合、すべての VM 制約グループの設定を表示します。
<code>[-vertical]</code>	情報表示形式で表示します。このオプションを省略した場合、CSV 形式 (1 行単位のカンマ区切り) で表示します。

[構文例]

```

1) VM 制約グループの設定を表示する場合
>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01
2) VM サーバ制約グループの設定を表示する場合
>ssc vmop create-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01
3) VM 制約グループの設定を、情報表示形式で表示する場合
>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01 -vertical
4) すべての VM 制約グループの設定を表示する場合
>ssc vmop show-group

```

[表示例]

```

>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01
#GroupName, RestrictionGroupName, Member1, Member2, ...
"VmGroup-01", "vm-group-01", "vm-001", "vm-002", "vm-003"
"VmGroup-01", "vm-group-02", "vm-004", "vm-005"

>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01 -vertical
* RestrictionGroupName : vm-group-01
  GroupName             : ¥¥Category¥VmGroup-01
  HostName              : vm-001
  HostName              : vm-002
  HostName              : vm-003
-----

* RestrictionGroupName : vm-group-02
  GroupName             : ¥¥Category¥VmGroup-01
  HostName              : vm-004
  HostName              : vm-005

>ssc vmop show-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01
#GroupName, RestrictionGroupName, Member1, Member2, ...
"EsxModel-01", "vms-group-01", "vms-001", "vms-002"
"EsxModel-01", "vms-group-02", "vms-003", "vms-004", "vms-005"

```

3.5 データストア

3.5.1 データストアの表示

データストア一覧を表示します。

[構文]

```

ssc show datastore [DatastoreName <-vm | -template>] [-storage] [-path Path] [-vms VmsName] [-vertical]

```

[引数/オプション]

[<i>DatastoreName</i>]	指定したデータストアの詳細情報を表示します。
[-vm]	指定したデータストアに配置されている仮想マシンの情報を表示します。
[-template]	指定したデータストアに配置されているテンプレートの情報を表示します。
[-storage]	仮想マシンサーバに接続されているデータストア/LUN 情報を表示します。
[-path <i>Path</i>]	データストアが所属する DataCenter、または仮想マシンサーバを指定します。
[-vms <i>VmsName</i>]	仮想マシンサーバ名を指定します。(-storage のときに有効です)
[-vertical]	表示形式を変更します。 -vertical: 形式 = 項目名 : 値 省略した場合、CSV 形式で表示します。

[注]

- ssc show datastore -storage についての注意事項
 - 複数の LUN で 1 つのデータストアを作成している場合やマルチパス環境の場合には、同じ DatastoreName を示す PathId が異なる複数のデータストアとして表示されます。
 - 未使用の場合でも ssc rdmstorage update コマンドや連携製品で RDM 用として設定しているディスクボリューム (LUN) は表示されません。

[構文例]

```
>ssc show datastore
>ssc show datastore -path VC1/DC
>ssc show datastore -path VC1/DC/VMserver
>ssc show datastore Storage1 -vertical
>ssc show datastore Storage1 -vm
>ssc show datastore Storage1 -template
>ssc show datastore -storage -path vc1/datacenter/vms1
>ssc show datastore -storage -vms vms1 -vertical
```

[表示例]

```
>ssc show datastore
#DatastoreName,DatastoreSize (GB),DatastoreUsage (GB),DatastoreFree (GB),DatastoreUtilization (%),DataCenterPath,VmsManagerName
"iStorageS500","265.8","261.2","4.5","98","virtual:/192.168.10.220/dataCenterA","192.168.220.142,192.168.220.148"
"iStorageS500","265.8","217.7","48.1","81","virtual:/192.168.10.220/dataCenterB","192.168.220.141"
```

```
>ssc show datastore -path
"virtual:/192.168.10.220/dataCenterA"

#DatastoreName,DatastoreSize (GB),DatastoreUsage (GB),DatastoreFree (GB),DatastoreUtilization (%),DataCenterPath,VmsManagerName
"iStorageS500","265.8","261.2","4.5","98","virtual:/192.168.10.220/dataCenterA","192.168.220.142,192.168.220.148"
```

```
>ssc show datastore "iStorageS500" -path
    "virtual:/192.168.10.220/dataCenterA" -vm

[Machine]
    #MachineName,MachineType,Uuid,MacAddress,ProductName,ModelName,ManagedStat
us,SummaryStatus,PowerState,HardwareStatus,MaintenanceStatus,RunningStatus,
ExecuteStatus,EventPolicyStatus,OperatingSystem,OSVersion,HostName,IPAdres
s,MachineSubType,Cost,MemorySize (MB),Processor,CPUCount,CPULimit (MB),CPUS
hare,DiskUsage (GB)
    "MasterMachine","VMware, Virtual Machine","42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39
a6de7","00:50:56:84:78:F6","VMware Virtual Machine 7","", "Managed", "-", "Off
", "-", "Off", "-", "-", "-", "", "", "", "", "", "Master VM", "0", "", "", "", "", ""
    "MasterVM","VMware, Virtual Machine","42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d
", "00:50:56:84:09:86", "VMware Virtual Machine 7", "", "Discovered", "-", "Off",
 "-", "Off", "-", "-", "-", "", "", "", "", "-", "0", "", "", "", "", "", ""
```

```
>ssc show datastore Storage1 -vertical

[Datastore-01]
DatastoreName      : iStorageS500
DatastoreSize (GB) : 265.8
```

```
DatastoreUsage (GB)      : 261.2
DatastoreFree (GB)       : 4.5
DatastoreUtilization (%) : 98
DataCenterPath           : virtual:/192.168.10.220/dataCenterA
VmsManagerName           : 192.168.220.142,192.168.220.148
```

```
[Machine-01]
MachineName      : MasterMachine
MachineType      : VMware, Virtual Machine
Uuid            : 42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7
MacAddress       : 00:50:56:84:78:F6
ProductName      : VMware Virtual Machine 7
:
:
IPAddress        :
MachineSubType   : MasterVM
Cost             : 0
MemorySize (MB) :
Processor        :
CPUCount         :
CPULimit (MB)    :
CPUShare         :
DiskUsage (GB)   :
```

```
[Machine-02]
:
:
:
```

```
[Template-01]
SoftwareName     : FullCloneTemplate
CreateTime       : 2010/07/09 15:16:13
SoftwareCost     : 1
SoftwareType     : Template, FullClone
VMServerName     : 192.168.220.142
SoftwareLocation : iStorageS500
ImageName        : FullCloneTemplate
DiskSize (MB)    : 1024
Description      :
```

```
>ssc show datastore -storage -vms vms1 -vertical
```

```
[Datastore-01]
DatastoreName : iStorage001
LUN           : 1
PathId        : vmhba1:2:3:4:5
UniqueId      : eui.123456789e123456
WWPN          : -
WWNN          : -
RemoteHost    : -
MountPoint    : -
Size (GB)     : 500.0

[Datastore-02]
DatastoreName : Storage1
LUN           : 2
PathId        : vmhba1:3:5:7:9
UniqueId      : mpx.vmhba1:C3:T5:L7
```

```

WWPN          : -
WWNN          : -
RemoteHost    : -
MountPoint    : -
Size (GB)     : 40.5

[Datastore-03]
DatastoreName : iStorage002
LUN           : 3
PathId        : vmhba2:4:6:8:0
UniqueId      : eui.987654321e654321
WWPN          : -
WWNN          : -
RemoteHost    : -
MountPoint    : -
Size (GB)     : 550.6

```

3.5.2 データストアの作成

データストアの作成を行います。

[構文]

```
ssc create datastore DatastoreName VmsName <-lun LUN -hbano HBANo |
-pathid PathId | -uniqueid UniqueId | -folder FolderName -server ServerAddress> [-property
name=Value value=Value, ...]
```

[引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	作成するデータストア名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	データストアを作成する仮想マシンサーバを指定します。
-lun <i>LUN</i>	作成するデータストアの LUN 番号を指定します。
-hbano <i>HBANo</i>	作成するデータストアの HBA 番号を指定します。 ローカル Disk の場合と仮想マシンサーバに HBA を登録していない場合は、指定できません。
-pathid <i>PathId</i>	作成するデータストアのパス Id を指定します。
-uniqueid <i>UniqueId</i>	作成するデータストアの識別名を指定します。
-folder <i>FolderName</i>	作成するデータストアのフォルダを指定します。 (例: /nfs_volume)
-server <i>ServerAddress</i>	作成するデータストアのフォルダがあるサーバを指定します。
[-property name= <i>Value</i> value= <i>Value</i> , ...]	データストアに反映させる構成パラメータ設定のパラメータ名とその値を指定します。 複数指定するときは、","(カンマ)で区切って次のパラメータ名と値を指定してください。(100 個まで) name: パラメータ名を指定します。 value: パラメータの値を指定します。 指定可能なパラメータ名と値の詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド概要編」の「6.3.8 データストア」を参照してください。

[注]

- 1つのHBAが複数のストレージ装置に接続されている場合は、"-lun LUN"と"-hbanо HBANo"を指定してデータストアを作成することはできません。
- NFSデータストアを作成する場合は、<-folder FolderName -server ServerAddress>を指定してください。
- コマンドや連携製品でRDM用として設定しているディスクボリューム(LUN)はデータストアの作成に使用できません。

[構文例]

```
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -lun 0 -hbanо 1
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -pathid vmhba0:1:1:0
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -uniqueid "eui.003013840e640001"
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -uniqueid "003013840e640001"
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1
  -uniqueid "naa.60060160967021004ab70806c311de10"
>ssc create datastore NfsDatastore1 esx10.ssc-asc.net -folder /Volume-001
  -server 172.26.0.201
```

3.5.3 データストアの削除

データストアの削除を行います。

[構文]

ssc delete datastore *DatastoreName* *VmsName* [-nonunmount]

[引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	削除するデータストア名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	削除するデータストアが接続されている 仮想マシンサーバを指定します。
-nonunmount	データストアを削除する前のアンマウントを実行しません。 VMware 環境のみ有効です。

[注]

- 指定したデータストアに、仮想マシンやテンプレートが存在する場合は、削除できません。
- vSphere5.0以降の環境では、VMFSデータストアを削除する前にアンマウントが実行されます。

[構文例]

```
>ssc delete datastore storage1 vms1
```

3.5.4 仮想マシンサーバ接続データストア情報の更新

仮想マシンサーバに接続されているデータストア情報を更新します。

[構文]

```
ssc scan datastore <VmsName | -model ModelName>
```

[引数/オプション]

<i>VmsName</i>	スキャン対象の仮想マシンサーバを指定します。
-model <i>ModelName</i>	VM サーバモデルを指定します。 指定された場合は、VM サーバモデル配下の仮想マシンサーバに対してスキャンを行います。 VM サーバモデル以外には指定できません。

[構文例]

```
>ssc scan datastore vms-1
>ssc scan datastore -model tenant1/vmsgroup1/esxmodel
```

3.5.5 データストア設定情報を更新

データストア設定情報を更新します。

[構文]

```
ssc update datastore DatastoreName [-path Path] [-capacity Value] [-desiredmax Value] [-tag Tag...]
```

[引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	設定するデータストアを指定します。 大文字 / 小文字を区別して指定してください。
[-path <i>Path</i>]	データストアが所属する DataCenter、または仮想マシンサーバの <i>Path</i> を指定します。 省略された場合は、全体から検索します。
[-capacity <i>Value</i>]	VM 数上限を指定します。 (0 <= value <= 100000)
[-desiredmax <i>Value</i>]	使用率上限 (%) を指定します。 (0 <= value <= 100)
[-tag <i>Tag...</i>]	タグを指定します。複数指定可能です。

※-capacity, -desiredmax, -tag のうち、いずれか 1 つは必ず指定してください。

[構文例]

```
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -capacity 1000
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -desiredmax 50
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -tag public
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -capacity 1000
  -desiredmax 50 -tag private VMS1
>ssc update datastore storage1 -capacity 1000 -desiredmax 50
```

3.5.6 仮想マシン作成先データストアの設定

仮想マシン作成先データストアの設定をします。

[構文]

```
ssc set datastore-setting Path [DatastoreName] [-host HostName] < [-priority Value] [-candidate < true | false >] | [-delete] >
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	設定対象運用グループ、モデル、またはホストまでのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。 例: グループ指定の場合 Category/Group モデル指定の場合 Category/Group/Model ホスト指定の場合 Category/Group/Host ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Host
[<i>DatastoreName</i>]	設定するデータストアを指定します。 大文字 / 小文字を区別して指定してください。 -candidate false のときは省略可能です。
[-host <i>HostName</i>]	設定対象のホスト名を指定します。 このオプションを指定した場合、 <i>Path</i> に運用グループを指定してください。 設定対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。
[-priority <i>Value</i>]	優先度を指定します。 (1 <= value <= 10)
[-candidate < true false >]	仮想マシン作成先候補にするかどうかを指定します。 true: VM 作成先候補とする。 false: VM 作成先候補としない。 ※false のときは、 <i>DatastoreName</i> の指定が省略できます。 その場合、すべてが候補先から外れます。
[-delete]	設定を破棄します。

※-priority, -candidate のうち、いずれか1つは必ず指定してください。

[構文例]

```
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup storage1 -priority 2
  -candidate false
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup storage1 -candidate true
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup/model storage1 -priority 2
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup/host1 storage1 -priority 2
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup storage1 -delete
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup -candidate false
```

3.5.7 データストア配下のファイル/サブフォルダの表示

指定フォルダ配下のファイル/サブフォルダを表示します。

[構文]

```
ssc datastorefile show -vms Vms -datastore DataStore [-path Path] [-type Type] [-size Size] [-index  
[start=Start] count=Count]
```

[引数/オプション]

-vms <i>Vms</i> (必須)	仮想マシンサーバを指定します。
-datastore <i>DataStore</i> (必須)	データストアを指定します。
[-path <i>Path</i>]	フォルダのパスを指定します。
[-type <i>Type</i>]	表示するファイルタイプを指定します。
[-size <i>Size</i>]	サイズを指定します。
[-index [start= <i>Start</i>] count= <i>Count</i>]	start は省略可能です。 -index を指定する場合、count は必須オプションです。

[構文例]

```
>ssc datastorefile show -vms 192.**.**.** -datastore DS1
```

3.5.8 データストアのマウント

データストアをマウントします。

[構文]

```
ssc mount datastore DatastoreName VmsName
```

[引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	マウントするデータストア名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	マウントするデータストアが接続されている 仮想マシンサーバを指定します。

[構文例]

```
>ssc mount datastore DS VMS
```

3.5.9 データストアのアンマウント

データストアをアンマウントします。

[構文]

```
ssc unmount datastore DatastoreName VmsName
```

[引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	アンマウントするデータストア名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	アンマウントするデータストアが接続されている仮想マシンサーバを指定します。

[構文例]

```
>ssc unmount datastore DS VMS
```

3.6 リソースプール

3.6.1 リソースプールの作成/切り出し

リソースプールを作成します。

[構文]

```
ssc resourcepool create <-root GroupName ResourcePoolName vCPU | ParentResourcePoolName  
SubResourcePoolName [-resource [overcommit=on] [vm=value] [vcpu=value] [memory=value]  
[datastore=value] [datastore:tag=value] [lun:sizeGB=value] [lun:sizeGB:tag=value]]> [-private  
[GroupName]] [-desc description]
```

[引数/オプション]

<i>-root GroupName ResourcePoolName vCPU</i>	リソースプール作成時に指定します。 仮想マシンサーバのグループを指定します。 <i>GroupName</i> : リソースプールを作成するグループのパスを指定します。仮想マシンサーバのグループを指定します。 <i>ResourcePoolName</i> : 作成するリソースプール名を指定します。 <i>vCPU</i> : vCPU の数、あるいは周波数(MHz)を指定します。 例 数を指定する場合は、10vpc、または 10 周波数を指定する場合は、300mhz
<i>ParentResourcePoolName</i> <i>SubResourcePoolName</i> [-resource [overcommit=on] [vm=value] [vcpu=value] [memory=value] [datastore=value] [datastore:tag=value] [lun:sizeGB=value] [lun:sizeGB:tag=value]]	リソースプール切り出し時に指定します。 <i>ParentResourcePoolName</i> : 親リソースプール名を指定します。 <i>SubResourcePoolName</i> : 切り出すサブリソースプール名を指定します。 -resource : リソース情報の設定をします。 "="の前後に空白は指定できません。 overcommit=on : 最大値を超えた割り当てを許容する場合に指定します。 vm : <i>value</i> に VM 数を指定します。 vcpu : <i>value</i> に vCPU 数を指定します。 memory : <i>value</i> にメモリサイズ[MB]を指定します。 datastore : <i>value</i> にデータストア容量[GB]を指定します。 datastore:tag : <i>tag</i> にデータストアのタグを、 <i>value</i> にデータストア容量[GB]を指定します。

	<p><code>lun:sizeGB:size</code> に LUN のサイズ(GB)を、<code>value</code> に LUN 数を指定します。</p> <p><code>lun:sizeGB:tag:size</code> に LUN のサイズ(GB)を、<code>tag</code> に LUN のタグを、<code>value</code> に LUN 数を指定します。</p>
<code>[-private [GroupName]]</code>	<p>専有リソースプール作成時に指定します。</p> <p>このオプションを指定しない場合は、共有リソースプールが作成されます。</p> <p><code>GroupName</code> にリソースプールを割り当てるグループを指定します。(省略可)</p>
<code>[-desc description]</code>	説明を指定します。

[構文例]

```
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 10vpc
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 20
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 300mhz
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 20vpc
  -private -desc "private resourcepool"
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 300mhz
  -private tenant/tenant1
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -private
  -resource vcpu=2 memory=512 storage=100 vm=5
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -resource vcpu=2 vm=5
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -private tenant/tenant1
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -desc "public resource
pool"
```

3.6.2 リソースプールの表示

リソースプール情報を表示します。

[構文]

`ssc resourcepool show [ResourcePoolName] [-all]`

[引数/オプション]

<code>[ResourcePoolName]</code>	<p>表示するリソースプール名を指定します。</p> <p>サブリソースプールも指定可能です。</p> <p>省略した場合は、リソースプール名を列挙します。</p> <p>行の先頭文字の R は Root を、S は Sub を表します。</p>
<code>[-all]</code>	サブリソースプールまで列挙するときに指定します。

[構文例]

```
>ssc resourcepool show
>ssc resourcepool show -all
>ssc resourcepool show rp-gold-tokyo-1
>ssc resourcepool show subResourcePool-A
```

[表示例]

```
>ssc resourcepool show
R rp-gold-tokyo-1
R rp-gold-kobe-1
```

```

R rp-gold-us-east-1
R rp-silver-tokyo-1
R rp-silver-kobe-1

>ssc resourcepool show -all
R rp-gold-tokyo-1
R rp-gold-kobe-1
S subResourcePool-A
S subResourcePool-B
R rp-gold-us-east-1
R rp-silver-tokyo-1
R rp-silver-kobe-1
S subResourcePool-C

>ssc resourcepool show rp-gold-tokyo-1
[Base]
vCPU: 300MHz
Type: shared
Overcommit: false

[ResourcePool]
#type,capacity,consumed,unused,reserved,actually-used
vm,20,10,10,20,15
cpu,170624MHz,50MHz,170574MHz,300000MHz,1440MHz
vcpu,100,20,80,50,10
memory,2048MB,512MB,1536MB,1024MB,3000MB
datastore,200GB,10GB,190GB,100GB,150GB

[SubResourcePool]
#name,vm,vm-reserved,vcpu,vcpu-reserved,memory,memory-reserved,datastore,da
tastore-reserved,applied-group
subResourcePool-A,50/600,0,50/500,0,12800/200000,0,200.00/2000.00,0.0,"Tena
nt1"
subResourcePool-B,50/400,0,50/300,0,12800/300000,0,200.00/1000.00,0.0,""

>ssc resourcepool show rp-silver-kobe-1
[Base]
vCPU: 20vpc
Type: dedicated
Overcommit: false

[ResourcePool]
#type,capacity,consumed,unused,reserved,actually-used
vm,20,10,10,20,15
cpu,170624MHz,50MHz,170574MHz,300000MHz,1440MHz
vcpu,100,20,80,50,10
memory,2048MB,512MB,1536MB,1024MB,3000MB
datastore,200GB,10GB,190GB,100GB,150GB

[SubResourcePool]
#name,vm,vm-reserved,vcpu,vcpu-reserved,memory,memory-reserved,datastore,da
tastore-reserved,applied-group
subResourcePool-C,50/600,0,50/500,0,12800/200000,0,200.00/2000.00,0.0,"Tena
nt2"

>ssc resourcepool show subResourcePool-A
[Base]
Parent: rp-gold-tokyo-1

```

```
Type: dedicated
Overcommit: true

[ResourcePool]
#type,capacity,consumed,unused,reserved,actually-used
vm,20,10,10,20,15
vcpu,100,20,80,50,10
memory,2048MB,512MB,1536MB,1024MB,3000MB
datastore,200GB,10GB,190GB,100GB,150GB

[SubResourcePool]
#name,vm,vm-reserved,vcpu,vcpu-reserved,memory,memory-reserved,datastore,da
tastore-reserved,applied-group
```

3.6.3 リソースプールの削除

リソースプールを削除します。

[構文]

```
ssc resourcepool delete ResourcePoolName
```

[引数/オプション]

<i>ResourcePoolName</i> (必須)	削除するリソースプール名、またはサブリソースプール名を指定します。
---------------------------------	-----------------------------------

[構文例]

```
>ssc resourcepool delete ResourcePool1
>ssc resourcepool delete SubResourcePool1
```

3.6.4 リソースプール監視設定の設定

リソースプール監視設定を設定します。

[構文]

```
ssc resourcepool set-monitor-setting ResourcePoolName [-s expression] [-d type]
```

[引数/オプション]

<i>ResourcePoolName</i> (必須)	設定対象のリソースプール名を指定します。
[-s <i>expression</i>]	監視閾値の設定を行います。 <i>expression</i> の記述に従って設定します。
[-d <i>type</i>]	監視閾値の設定を削除します。 <i>type</i> の指定に従って削除します。 <i>type</i> を省略した場合は、すべての設定を削除します。

- *type*: リソース種別を指定します。以下のリソース対応表に対応する指定値を記述します。

- 指定値を "+" で連結することで、同時に複数の種別を表現することができます。

(例) cpu+memory+datastore

指定値	対応リソース種別
cpu	CPU
vcpu	vCPU 数
memory (mem)	メモリ
datastore (disk)	データストア
vm	VM 数
all	全種別

- expression : "type=info,warning,critical" の形式で指定します。

(例) cpu=60,80,100

- 各指定値の対応は、以下記載の内容となります。
 - * type : 設定するリソース種別を指定します。
前述の種別指定形式で指定します。
 - * info : Info レベルに対応する監視閾値を指定します。
 - * warning : Warning レベルに対応する監視閾値を指定します。
 - * critical : Critical レベルに対応する監視閾値を指定します。
- 監視閾値は、以下形式で指定します。
 - * 1 - 10000 : リソース総数に対する割合 (%) を指定します。
 - * 0 : 監視無効を指定します。
 - * d : デフォルト値の使用を指定します。
 - * k : 既存設定の維持を指定します。
- 複数の設定を同時に行う場合、expression を複数指定することが可能です。

[注]

- 指定を行わなかったリソース種別に対しては、設定が維持されます。

[構文例]

```
>ssc resourcepool set-monitor-setting pool-1 -s all=60,80,100
>ssc resourcepool set-monitor-setting pool-1 -s cpu+memory=k,70,90 datastore=d,90,120 vm=0,50,80
>ssc resourcepool set-monitor-setting pool-1 -d
>ssc resourcepool set-monitor-setting pool-1 -d cpu+datastore
```

3.6.5 リソースプール監視設定の表示

リソースプール監視設定を表示します。

[構文]

```
ssc resourcepool show-monitor-setting [ResourcePoolName]
```

[引数/オプション]

[ResourcePoolName]	表示対象のリソースプール名を指定します。 省略した場合は、すべてのリソースプールに対する設定を表示します。
--------------------	--

- デフォルト値は、PoolName に "-"、Type に "<Default>" が表示されます。
- デフォルト値を利用している項目は、"(設定値)" の形式で表示されます。
- 監視無効を指定している項目は、 "-" と表示されます。

[構文例]

```
>ssc resourcepool show-monitor-setting pool-1
>ssc resourcepool show-monitor-setting
```

[表示例]

```
>ssc resourcepool show-monitor-setting pool-1
#Type,Info,Warning,Critical
"<Default>","60","80","100"
"CPU","50","(80)","100"
"vCPU","50","75","100"
"Memory","-","75","95"
"Storage","70","90","120"
"VM","60","(80)","95"

>ssc resourcepool show-monitor-setting
#PoolName,Type,Info,Warning,Critical
"-","<Default>","60","80","100"
"pool-1","CPU","50","(80)","100"
"pool-1","vCPU","50","75","100"
"pool-1","Memory","-","75","95"
"pool-1","Storage","70","90","120"
"pool-1","VM","60","(80)","95"
"pool-2","CPU","-","(80)","95"
"pool-2","Memory","-","75","95"
```

[注]

- 設定を行っていないリソース種別については、監視時にデフォルト値が利用されます。

3.7 配置情報

3.7.1 配置情報の設定

仮想マシンの配置情報を設定します。

[構文]

```
ssc vmop set-position GroupName [SourceHostName] [TargetHostName] -key keyword
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を設定する VM グループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[<i>SourceHostName</i>]	配置情報を設定する元のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト) 省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストに対し、現在の配置で配置情報を設定します。
[<i>TargetHostName</i>]	配置情報を設定する先のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト) 省略した場合、 <i>SourceHostName</i> で指定したホストに対し、現在の配置で配置情報を設定します。
-key <i>keyword</i> (必須)	配置情報の名前を設定します。

[注]

- *TargetHostName* を省略した場合において、現在の配置先の VM サーバが運用グループで管理されていない場合には、配置情報が作成されません。
- *keyword* で指定できる配置情報名には、以下の制限があります。
 - 文字列長 : 32 文字以内
 - 文字種別 : 半角英数(a-z,A-Z,0-9)、ハイフン(-)、アンダーバー(_)

[構文例]

```
>ssc vmop set-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword

>ssc vmop set-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 -key keyword

>ssc vmop set-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01
-key keyword
```

3.7.2 配置情報の削除

仮想マシンの配置情報設定を削除します。

[構文]

```
ssc vmop delete-position GroupName [HostName] -key keyword
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を削除する VM グループ/モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[<i>HostName</i>]	配置情報を削除する VM のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト) 省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストに対し、指定した名前の配置情報を削除します。
-key <i>keyword</i> (必須)	配置情報の名前を設定します。

[構文例]

```
>ssc vmop delete-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword
>ssc vmop delete-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 -key keyword
```

3.7.3 配置情報の表示

仮想マシンの配置情報設定を表示します。

[構文]

```
ssc vmop show-position GroupName [-key keyword]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を表示する VM グループ/モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[-key <i>keyword</i>]	配置情報の名前を設定します。 省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストで利用されている配置情報名の一覧を表示します。

[注]

- 以下の条件を満たす場合、配置先として<INVALID>が表示されます。
 - 配置元の仮想マシンのホスト、もしくは、配置先の仮想マシンサーバのホストにマシンが割り当てられていない場合

- 配置先の仮想マシンサーバが削除されたなどの理由で、配置先が不明となっている場合

[構文例]

```
>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01

>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword
```

[表示例]

```
>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01
#Keyword
"keyword1"
"keyword2"
"keyword3"

>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword1
#SourceHost,TargetHost
"vmhost01","vmshost01"
"vmhost02","vmshost01"
"vmhost03","vmshost02"
"vmhost04","<INVALID>"
```

3.7.4 配置情報の適用

仮想マシンを配置情報に従って配置します。

[構文]

```
ssc vmop apply-position GroupName [TargetHostName] -key keyword
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を適用する VM グループ / モデル、もしくは VM サーバグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[<i>TargetHostName</i>]	対象のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 対象のホストが稼動している必要があります。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト) 省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストに対し、配置情報の適用を行います。
-key <i>keyword</i> (必須)	配置情報の名前を設定します。

[注]

- *GroupName* に VM グループ / モデルを指定した場合

- 移動対象となる仮想マシンは、指定されたグループ / モデルに所属している仮想マシンとなります。
- *TargetHostName* は、*GroupName* で指定したグループ下の仮想マシンを指定する必要があります。
- *GroupName* に VM サーバグループ / モデルを指定した場合
 - 移動対象となる仮想マシンは、指定されたグループ / モデルに所属している仮想マシンサーバ上の仮想マシンとなります。
 - *TargetHostName* は、*GroupName* で指定したグループ下の仮想マシンサーバを指定する必要があります。
 - *TargetHostName* を指定した場合、移動対象となる仮想マシンは、次の条件を満たすものとなります。
 - * 指定された仮想マシンサーバ上に所属している仮想マシン
 - * 指定された仮想マシンサーバを、配置先として設定されている仮想マシン
- 配置情報適用の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「4.7.21. VM 配置情報について」を参照してください。

[構文例]

```
>ssc vmop apply-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword
>ssc vmop apply-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 -key keyword
>ssc vmop apply-position VmServer-g/Esx-g-01 -key keyword
>ssc vmop apply-position VmServer-g/Esx-g-01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01
-key keyword
```

3.8 サービス

3.8.1 サービス設定の表示

サービスの情報を表示します。

[構文]

```
ssc show osservice <-name Name | -uuid UUID> [-vertical]
```

[引数/オプション]

<-name Name -uuid UUID>	対象マシンのマシン名、あるいは UUID を指定します。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV 形式で表示します。

3.8.2 サービス設定の更新

サービスの情報を更新します。

[構文]

```
ssc update osservice ServiceName <-name Name | -uuid UUID> -waitforstartup <true | false>
```

[引数/オプション]

<i>ServiceName</i> (必須)	サービスの名前を指定します。
<-name <i>Name</i> -uuid <i>UUID</i> > (必須)	対象マシンのマシン名、あるいは UUID を指定します。
-waitforstartup < <i>true</i> <i>false</i> > (必須)	マシン起動時にサービスの起動を待つかどうかを指定します。

第4章 保守コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の保守に関するコマンドについて記載します。

目次

4.1 運用ログ	272
4.2 ポリシー	273
4.3 メンテナンス	274
4.4 マシン操作履歴.....	283
4.5 SSC 設定情報バックアップ/リストア	285
4.6 レポート出力	288

4.1 運用ログ

4.1.1 運用ログの表示

運用ログを表示します。

-all を指定した場合を除き、表示できる件数は最大 100 件です。

-all を指定した場合、データベースに残っているすべてのログ情報を表示します。

全パラメータを省略した場合は、実行日時から 3 日前までのログが最大 100 件表示されます。

[構文]

```
ssc show log [-date [yyyy/mm/dd] [hh:mm:ss]] [-days Number] [-level LogLevel] [-category <user | policy | system>] [-eventnum EventNumber] [-jobid JobID] [-ip IPAddress] [-username UserName] [-all] [-format <csv|json>] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[-date [yyyy/mm/dd] [hh:mm:ss]]	表示対象となる基点の日時を指定します。 表示件数は、最大 100 件です。 時間 (時分秒) を省略すると、00:00:00 が設定されます。 年月日を省略すると、実行した年月日が設定されます。 -date を省略すると、実行日時が基点となります。 -all と同時に指定はできません。
[-days Number]	表示対象となる日数を指定します。 正の値は、基点となる-date の日時以後の日数分となります。 負の値は、基点となる-date の日時以前の日数分となります。 0 は、-1 となります。 既定値は、(-3) です。 -all と同時に指定はできません。
[-level LogLevel]	ログレベルを指定します。指定したログレベル以上の運用ログを表示します。 ログレベルは「fatal」、「error」、「warning」、「normal」、「detail」、「trace」のいずれか 1 つを指定できます。
[-category <user policy system>]	イベント区分で絞込みを行います。(複数指定可) -category の指定がない場合は、すべてのイベント区分が対象です。 以下のイベント区分を指定できます。 user : ユーザを指定します。 policy : ポリシーを指定します。 system : システムを指定します。
[-eventnum EventNumber]	イベント番号で絞込みを行います。 EventNumber : イベント番号を指定します。 -jobid, -all と同時に指定はできません。
[-jobid JobID]	ジョブ ID で絞込みを行います。 JobID : ジョブ ID を指定します。

	-eventnum, -all と同時に指定はできません。
[-ip <i>IPAddress</i>]	ログイン元 IP アドレスで絞込みを行います。 -category が "user" の場合のみ指定できます。 -all と同時に指定はできません。
[-username <i>UserName</i>]	ユーザ名で絞込みを行います。 -category が "user" の場合のみ指定できます。 -all と同時に指定はできません。
[-all]	すべての運用ログを表示します。
[-format <csv json>]	出力形式を指定します。 以下の出力形式を指定できます。 csv : CSV 形式で出力します。 json : JSON 形式で出力します。 省略した場合、空白区切りで出力します。 -vertical と同時に指定はできません。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名:値)

[構文例]

```
>ssc show log
>ssc show log -date "2008/10/14 09:00:00" -days -1
>ssc show log -date "2008/10/14" -days -1 -level error
>ssc show log -level normal
>ssc show log -category user system
>ssc show log -eventnum SY00002
>ssc show log -jobid 00001
>ssc show log -all
>ssc show log -format csv
```

4.2 ポリシー

4.2.1 ポリシーをエクスポートする

ポリシー情報を XML ファイルに出力します。

[構文]

ssc export policy *FileName PolicyName*[...] [-template]

[引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	ポリシー情報を出力する XML ファイル名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレートデータを出力する XML ファイル名を指定します。ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲む必要があります。 ファイル名のみ指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象になります。パスを指定せずに、ファイル名のみ指定した場合、コマンドを実行したフォルダにファイルを作成します。
<i>PolicyName</i> [...]	対象のポリシー名を指定します。

(必須)	[-template] を指定した場合、アクションテンプレート名を指定します。
[-template]	アクションテンプレートデータを出力します。

[構文例]

```
>ssc export policy C:\work\policy1.xml policyA1
>ssc export policy C:\work\policy2.xml "policy B1" "policy B2"
>ssc export policy "C:\Documents and Settings\users\template.xml"
template1 template2 -template
```

4.2.2 ポリシーをインポートする

XML ファイルからポリシー情報を取り込みます。

[構文]

ssc import policy *FileName* [-template]

[引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	インポートするポリシー情報の XML ファイル名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレートデータの XML ファイル名を指定します。 ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲む必要があります。ファイル名のみを指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象になります。
[-template]	XML ファイルからアクションテンプレートデータを取り込みます。

[注]

- 本バージョン以外でエクスポートしたポリシー情報の XML ファイルをインポートしないでください。

バージョンが異なるポリシー情報をインポートした場合、コマンドが成功してもポリシーが正常に動作しない可能性があります。

[構文例]

```
>ssc import policy C:\work\policy1.xml
>ssc import policy "C:\Documents and Settings\users\template.xml" -template
```

4.3 メンテナンス

4.3.1 構成情報のメンテナンス

構成情報データベースのメンテナンスを行います。

変更を行う場合は、SystemProvisioning を停止することを推奨します。

[構文]

```
ssc maintenance cmdb [-recoverymodel <simple | full>] [-defrag Average] [-shrinkdata]
[-shrinklog] [-all] [-tbl]
```

[引数/オプション]

[-recoverymodel]	データベースの復旧モデルを設定します。 simple : 単純復旧モデル (推奨) full : 完全復旧モデル
[-defrag <i>Average</i>]	指定された断片率以上のテーブルの断片化を解消します。 <i>Average</i> には、0 から 99 までの断片率を指定します。 すべてのテーブルに対して行う場合は、"0" を指定してください。
[-shrinkdata]	データファイルのサイズを圧縮します。
[-shrinklog]	ログファイルのサイズを圧縮します。 ログファイルのサイズが閾値 (300MB 以上) を超えている場合に実行してください
[-all]	データベース情報の詳細を表示します。(ログファイルなどのファイルパスなど)
[-tbl]	-all の後で対で指定された場合に、テーブルの断片化率もあわせて表示します。

-recoverymodel、-defrag、-shrinkdata、-shrinklog は同時に指定できません。

オプションを指定しない場合、構成情報データベースの情報を表示します。

[構文例]

```
>ssc maintenance cmdb
>ssc maintenance cmdb -recoverymodel simple
>ssc maintenance cmdb -defrag 50
>ssc maintenance cmdb -shrinkdata
>ssc maintenance cmdb -shrinklog
```

[表示例]

- オプション指定なし

```
>ssc maintenance cmdb

[Cmdb Information]
  Datafile  Name           : PVMINF
           Allocate Size   : 142.19 MB

  Secondary Name          : pvminf_2
           Allocate Size   : 40.00 MB

  Logfile   Name           : PVMINF_log
           Allocate Size   : 83.88 MB

  RecoveryModeType        : Simple
```

- -all

```
> ssc maintenance cmdb -all
```

```

[Cmdb Information]
#----
Database   Name           : pvminf

Datafile   Name           : PVMINF
           Location        : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\PVMINF.mdf
           Allocate Size    : 142.19 MB
           Unallocated Size : 122.75 MB
           Unallocated Ratio : 86.33 %

Secondary Name       : pvminf_2
           Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\pvminf_2.ndf
           Allocate Size   : 40.00 MB
           Unallocated Size : 0.44 MB
           Unallocated Ratio : 1.09 %

Logfile      Name       : PVMINF_log
           Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\PVMINF_log.LDF
           Allocate Size   : 83.88 MB
           Unallocated Size : 75.08 MB
           Unallocated Ratio : 89.52 %
#----
Database   Name           : tempdb

Datafile   Name           : tempdev
           Location        : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\tempdb.mdf
           Allocate Size    : 2.19 MB
           Unallocated Size : 0.81 MB
           Unallocated Ratio : 37.14 %

Logfile      Name       : templog
           Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\templog.ldf
           Allocate Size    : 0.50 MB
           Unallocated Size : 0.25 MB
           Unallocated Ratio : 49.60 %

RecoveryModeType      : Simple

```

- **-all -tbl**

```

> ssc maintenance cmdb -all -tbl

[Cmdb Information]
#----
Database   Name           : pvminf

Datafile   Name           : PVMINF
           Location        : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\PVMINF.mdf
           Allocate Size    : 142.19 MB
           Unallocated Size : 122.75 MB

```

```

Unallocated Ratio : 86.33 %

Secondary Name      : pvminf_2
Location            : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\pvminf_2.ndf
Allocate Size       : 40.00 MB
Unallocated Size    : 0.44 MB
Unallocated Ratio   : 1.09 %

Logfile Name        : PVMINF_log
Location            : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\PVMINF_log.LDF
Allocate Size       : 83.88 MB
Unallocated Size    : 75.08 MB
Unallocated Ratio   : 89.52 %

```

```

#----
Database Name       : tempdb

Datafile Name       : tempdev
Location            : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\tempdb.mdf
Allocate Size       : 2.19 MB
Unallocated Size    : 0.81 MB
Unallocated Ratio   : 37.14 %

Logfile Name        : templog
Location            : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\M
SSQL.1\MSSQL\DATA\templog.ldf
Allocate Size       : 0.50 MB
Unallocated Size    : 0.25 MB
Unallocated Ratio   : 49.60 %

```

```
RecoveryModeType    : Simple
```

```
[Cmdb Table Fragmentation Average]
```

Tabale Name	Fragmentation Average
TBL_EventHistory	99.93
TBL_EventAction	99.23
TBL_Parts	98.87
TBL_ManagementLogHistory	98.50
TBL_PartsGroupRelation	95.51
TBL_DiskPartition	91.67
TBL_PartsGroup	91.30
TBL_DiskVolume	90.00
TBL_Machine	89.61
TBL_ManagerRelation	86.41
TBL_PhysicalGroupRelation	83.33
TBL_Scenario	80.00
TBL_PolicySetting	75.00
TBL_DeployHistory	75.00
TBL_DevicePort	66.67
TBL_PolicyParameters	66.67
TBL_Manager	66.67
TBL_DiskControllerRelation	66.67

TBL_ScenarioRelation	50.00
TBL_PolicyAction	50.00
TBL_DiskController	27.27
TBL_ExtendedParameter	22.22
TBL_Acl	0.00
TBL_InstalledSoftware	0.00
TBL_ComputerSystemProfile	0.00
TBL_AccessControl	0.00
TBL_NetworkDeviceRelation	0.00
TBL_DatabaseVersion	0.00
TBL_DeviceRouting	0.00
TBL_RoutingRelation	0.00
TBL_ComputerSystemProfileRelation	0.00
TBL_Protocol	0.00
TBL_DomainDefinition	0.00
TBL_SmartGroupCondition	0.00
TBL_VirtualNetworkDefinition	0.00
TBL_NameServerDefinition	0.00
TBL_VolumeGroup	0.00
TBL_Policy	0.00
TBL_MachineSettings	0.00

TBL_GroupRelation	0.00
TBL_Reservation	0.00
TBL_CmdbConvertLog	0.00
TBL_Duplicate	0.00
TBL_VolumeGroupRelation	0.00
TBL_LogicalDiskRelation	0.00
TBL_PolicyRelation	0.00
TBL_PoolMachineRelation	0.00
TBL_DiskVolumeRelation	0.00
TBL_SensorGroup	0.00
TBL_ScenarioImage	0.00
TBL_DiskPartitionRelation	0.00
TBL_Sensor	0.00
TBL_GeneralParameter	0.00
TBL_PhysicalGroup	0.00
TBL_License	0.00
TBL_NetworkDevice	0.00
TBL_Tag	0.00
TBL_LoadBalancerGroup	0.00
TBL_DeviceVlan	0.00
TBL_DeviceVlanRelation	0.00
TBL_ScenarioImageRelation	0.00
TBL_EventActionParameter	0.00
TBL_PortRelation	0.00
TBL_VlanGroup	0.00
TBL_ResourceAllocationBase	0.00
TBL_NicTeaming	0.00
TBL_NicTeamingRelation	0.00
TBL_AclRelation	0.00
TBL_ServerGroup	0.00
TBL_NetworkProfile	0.00
TBL_LoadBalancerGroupRelation	0.00
TBL_LinkAggregation	0.00
TBL_PlacementRestriction	0.00
TBL_ServerDefinition	0.00
TBL_LinkAggregationRelation	0.00

TBL_StorageProfile	0.00
TBL_AccessLink	0.00
TBL_DiskArray	0.00
TBL_IpAddressDefinition	0.00
TBL_MachineAccount	0.00
TBL_UserAccount	0.00

4.3.2 配布履歴の削除

最新の OS イメージを配布する以前のソフトウェアの配布履歴を削除します。

[構文]

```
ssc delete history <[-all] | [-path Path [-host HostName]]>
```

[引数/オプション]

[-all]	すべてのマシンが対象です。
[-path Path]	対象のフルパスを指定します。 ビュータイプ(operations:/)は省略可能です。 ビュータイプを省略した場合は、[運用]ビューのパスとして扱われます。 例: グループ指定の場合 Category/Group ホスト指定の場合 Category/Group/Host [リソース] ビューでのマシン指定の場合 resource:/MachineGroup/Machine-A
[-host HostName]	設定対象のホスト名を指定します。 このオプションを指定した場合、Path に運用グループを指定してください。 設定対象のホストと同じ名前のモデルが存在する場合に指定します。

[構文例]

```
>ssc delete history -path Category/Group
>ssc delete history -path operation:/Category/Group/Host
>ssc delete history -path resource:/MachineGroup/Machine-A
```

4.3.3 マシンステータスの更新

マシンのステータスを指定内容で更新します。

[構文]

```
ssc set-machine-status mode <-name Machine... | -path Path... | -uuid UUID... | -mac MAC...>
```

[引数/オプション]

mode (必須)	設定するステータスを指定します。 複数を組み合わせて設定することが可能です。 () 内は直前のパラメータの省略記法です。
--------------	--

	<p>先頭に +, - をつけることで設定と解除を意味します。 省略した場合は、+ の意味となります。 +: 設定します。 -: 解除します。 maint(m) : メンテナンスモード -error(-e) : Job 実行結果のクリア (+は無効) degrade(d) : 故障状態 (一部故障) fault(f) : 故障状態 (故障) resethw(r) : 故障状態 (一部故障、故障) のクリア (+-無効) -notifyhw(-n) : ハードウェアステータス変更通知のクリア (+は無効)</p>
<p><-name Machine... -path Path... -uuid UUID... - mac MAC...> (必須)</p>	<p>設定する対象を指定します。 -name, -path, -uuid, -mac は、いずれか 1 つを指定する必要があります。 指定する対象は複数指定が可能です。 -name : マシンの名称を指定します。 -path : 対象までのパスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 各ビューのマシンまでのパス [運用] ビューの場合: operations:/Category/Group/Machine [リソース] ビューの場合: resource:/Group/Machine Group/Machine [仮想] ビューの場合: virtual:/VC/DC/VMS/VM [リソース] ビューでのグループ、またはラックのパス resource:/Group/Rack Group/Rack [運用] ビューでのグループのパス operations:/Category/Group <p>ビュータイプ (resource:/) は省略可能です。 パスの指定については、「1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ)」を参照してください。 -uuid : マシンの UUID を指定します。 -mac : マシンのプライマリ MAC アドレスを指定します。</p> </p>

[注]

- -degrade は一部故障状態の場合に、-fault は故障の場合に正常にします。
- 状態に関わらず正常にしたい場合は、resethw を指定してください。
- resethw と fault、-maint と +maint など設定 / 解除を同時に指定することはできません。
- -path 指定時、ビューを指定しない場合は、[リソース] ビューのパスとして扱われます。

[構文例]

```

1) メンテナンスモードを設定し、故障状態に設定する。
>ssc set-machine-status +m +f -path resource:/vmgroup/vms001
>ssc set-machine-status +m +f -path
operation:/category1/vmgroup/model1/vms001

```

```
2) メンテナンスモードを解除、ジョブ実行結果を解除と故障状態を解除する。
>ssc set-machine-status -m -e r -name machine1 machine2
```

4.3.4 デバイスステータスの更新

カスタムオブジェクト、ネットワークリソース (物理スイッチ、ロードバランサ)、ストレージリソース (ディスクアレイ、ディスクボリューム、ストレージプール) のステータスを変更します。

[構文]

```
ssc set-object-status Mode <-name Name... | -id Identifier...>
```

```
[-type <networkdevice | diskarray | diskvolume | storagepool | customobject>]
```

[引数 / オプション]

<i>Mode</i> (必須)	<p>設定するステータスを指定します。 複数を組み合わせて設定することが可能です。 () 内は直前のパラメータの省略記法です。 先頭に +, - は設定 (+) と解除 (-) を意味します。 省略した場合は、設定 (+) になります。 +: 設定します。 -: 解除します。 degrade (d): 故障状態 (一部故障) fault (f): 故障状態 (故障) resethw (r): 故障状態 (一部故障、故障) のクリア (+-無効)</p>
<-name <i>Name...</i> -id <i>Identifier...</i> >	<p>設定する対象を指定します。 -name, -id は、いずれか1つを指定する必要があります。 指定する対象は複数指定が可能です。 -name: 対象の名称、または IP アドレスを指定します。 -id: カスタムオブジェクトの識別子を指定します。</p>
[-type <networkdevice diskarray diskvolume storagepool customobject>]	<p>対象の種別を指定します。 省略した場合は、customobject になります。 networkdevice: 物理スイッチ、ロードバランサ diskarray: ディスクアレイ diskvolume: ディスクボリューム storagepool: ストレージプール customobject: カスタムオブジェクト</p>

[構文例]

```
>ssc set-object-status +fault -name FcSwitch01
>ssc set-object-status -fault -name 192.168.11.101 -type switch
>ssc set-object-status resethw -id 192.168.11.101
```

4.3.5 DPM 上の情報を削除

DeploymentManager 上の情報を削除します。

[構文]

```
ssc dpminformation delete -machine <MachineName... | UUID... | MAC... | Path...> [-force]
```

[引数/オプション]

-machine <MachineName... UUID... MAC... Path...> (必須)	指定したマシン (複数指定可) の DeploymentManager 上にある固有情報を削除します。 対象マシン名、UUID、プライマリ MAC アドレス、あるいはフルパスで指定します。 フルパス指定時にビュータイプ (resource:/) は省略可能です。 ビュータイプを省略した場合、[リソース] ビューのパスとして扱われます。 例: マシン名指定の場合 Machine1 フルパス指定の場合 resource:/rack1/Group1/Machine1 operation:/Category1/Group1/Model1/Machine1 virtual:/VC1/DataCenterA/ESX01/VM1 -force オプション指定がない場合 稼動中マシンは削除できません。 仮想マシンは削除できません。 パスの指定については、「 1.1.5 Path、および GroupPath 指定について (11 ページ) 」を参照してください。
[-force]	強制的に情報削除します。

[構文例]

```
>ssc dpminformation delete -machine machine1 machine2
>ssc dpminformation delete -machine AFFBAA22-5BC0-46dd-9777-AD268A366589
>ssc dpminformation delete -machine FF-A0-B0-5A-35-FF
>ssc dpminformation delete -machine resource:/rack1/Group1/Machine1
>ssc dpminformation delete -machine machine1 -force
```

4.3.6 データの符号化

指定データを符号化します。

[構文]

```
ssc encrypt-string Data
```

[引数/オプション]

Data (必須)	符号化するデータを指定します。
--------------	-----------------

[構文例]

```
>ssc encrypt-string "Encode data"
```

4.4 マシン操作履歴

4.4.1 マシン操作履歴の詳細情報出力

マシン操作履歴の詳細情報を出力します。

[構文]

```
ssc changehistory show [GroupName | -name MachineName | -uuid UUID] [-ghost]
[-rev <REV | REV-REV>] [-latest] [-profile [Type]] [-vertical]
```

[引数/オプション]

[<i>GroupName</i>]	運用グループのグループ名を指定します。 指定した運用グループ配下で稼動しているマシンの履歴を出力します。
[-name <i>MachineName</i>]	マシン名を指定します。
[-uuid <i>UUID</i>]	マシンの UUID を指定します。
[-ghost]	削除済みマシンの履歴を表示します。
[-rev < <i>REV</i> <i>REV-REV</i> >]	出力する履歴の版を指定します。 0 のように特定の版数を単独指定するか、 0-5 のように版数を範囲指定することができます。
[-latest]	履歴の最新版のみを出力します。
[-profile [<i>Type</i>]]	プロファイル情報を取得します。 <i>Type</i> には以下を指定可能です。 standard : CPU とメモリ情報を表示します。 network : ネットワーク情報を表示します。 storage : ストレージ情報を表示します。 all : standard, network, storage すべての内容を表示します。 <i>Type</i> を省略した場合は、Standard と同一の内容を表示します。 複数指定可能です。
[-vertical]	出力形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV 形式で出力します。

[構文例]

```
>ssc changehistory show
>ssc changehistory show -name MachineA -latest
>ssc changehistory show -ghost
>ssc changehistory show -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -profile
```

[注]

- ・ 本コマンドの内容については次期バージョンにて変更の可能性があります。

4.4.2 マシン操作履歴の削除

マシン操作履歴を削除します。

[構文]

```
ssc changehistory delete <-charged | -old Days | -ghost>
```

[引数/オプション]

-charged	課金済みと設定された履歴をすべて削除します。
-old <i>Days</i>	指定した日数以上前の履歴をすべて削除します。 -ghost と多重指定した場合には、いずれかの条件に合致する履歴はすべて削除されます。
-ghost	既に削除されたマシンの履歴をすべて削除します。 -old <i>Days</i> と多重指定した場合には、いずれかの条件に合致する履歴はすべて削除されます。

[構文例]

```
>ssc changehistory delete -charged
>ssc changehistory delete -old 3
>ssc changehistory delete -ghost
```

4.4.3 マシン操作履歴の運用設定を設定

マシン操作履歴の運用設定を設定します。

[構文]

```
ssc changehistory set [-manual | -disabled | -auto [-keepdays Day]]
```

[引数/オプション]

-manual	マシン操作履歴は指示されない限り、削除されない運用にします。
-disabled	マシン操作履歴は最低限しか、保存しない運用にします。
-auto	マシン操作履歴は、使われていないものは一定期間後に、自動的に削除する運用にします。
[-keepdays <i>Day</i>]	マシン操作履歴で、使われなくなっても自動では削除せずに残しておく日数を指定します。

[注]

- ・ 何も指定しない場合は、現在の状況を表示します。

[構文例]

```
>ssc changehistory set
>ssc changehistory set -manual
>ssc changehistory set -disabled
>ssc changehistory set -auto
```

4.5 SSC 設定情報バックアップ/リストア

4.5.1 SSC 設定情報バックアップ

SSC 設定情報をエクスポート (バックアップ) します。

[構文]

ssc config-export *ComponentName* [-f *filename*]

[-d *directory*] [-o *option*] [-s]

[引数/オプション]

<i>ComponentName</i> (必須)	コンポーネント名を指定します。 pvm : SystemProvisioning dpm : DeploymentManager sysmon : SystemMonitor 性能監視 (例 : ssc config-export pvm dpm) すべてのコンポーネントをエクスポートする場合、all を指定します。 (例 : ssc config-export all)
[-f <i>filename</i>]	ファイル名を指定します (zip ファイルのみ対応)。 <i>filename</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。 指定したファイル名がすでに存在する場合、上書きします。 <i>filename</i> にディレクトリを含めることはできません。 ファイル名を指定しない場合、 「マシン名_コンポーネント名_年月日_時分秒.zip」を生成します。 (例 : Computer1_PVM_20130625_013015.zip)
[-d <i>directory</i>]	ファイルのディレクトリを指定します。 <i>directory</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。 -d オプションを利用しない場合、カレントディレクトリに ファイルを格納します。 (例 : ssc config-export pvm -d c:\tmp)
[-o <i>option</i>]	各コンポーネントにおける設定情報の種類を指定します。 db : データベース reg : レジストリ file : 設定ファイル (例 : ssc config-export pvm -o db file)
[-s]	サービスの起動確認を行わずに処理を行います。 このオプションを利用すると、 サービス起動中のコンポーネントをエクスポートできます。 (例 : ssc config-export pvm -s)

[注]

- 対象コンポーネントのサービスはすべて停止してください。-s オプションを付加すると、サービス起動中に処理を行うことができますが、整合性の取れないファイルをエクスポートする可能性があります。

- クラスタ環境はサポートしていません。
- 本コマンドは、データベースに関する以下の制約があります。
 - リモート接続におけるデータベースのエクスポートはサポートしていません。
 - SQL Server 認証はサポートしていません (Windows 認証のみサポートします)。
 - SystemMonitor 性能監視と SystemProvisioning におけるインストール時のデータベース設定が異なる場合、SystemMonitor 性能監視データベースのエクスポートはサポートしていません。

[構文例]

```
>ssc config-export pvm
>ssc config-export pvm -s
>ssc config-export all -f all.zip
>ssc config-export all -d c:¥temp
>ssc config-export all -f all.zip -d c:¥temp
>ssc config-export all -o db file
```

4.5.2 SSC 設定情報リストア

SSC 設定情報をインポート (リストア) します。

[構文]

ssc config-import *ComponentName FileName*

[-d *directory*] [-o *option*] [-b]

[引数/オプション]

<i>ComponentName</i> (必須)	<p>コンポーネント名を指定します。</p> <p>pvm : SystemProvisioning dpm : DeploymentManager sysmon : SystemMonitor 性能監視 (例 : ssc config-import pvm dpm import.zip)</p> <p>すべてのコンポーネントをインポートしたい場合、all を指定します。 (例 : ssc config-import all import.zip)</p>
<i>FileName</i> (必須)	<p>ファイル名を指定します (zip ファイルのみ対応)。</p> <p><i>FileName</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。</p>
[-d <i>directory</i>]	<p>ファイルのディレクトリを指定します。</p> <p><i>directory</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。</p> <p>-d オプションを利用しない場合、カレントディレクトリにファイルを格納します。 (例 : ssc config-import pvm import.zip -d c:¥tmp)</p>
[-o <i>option</i>]	<p>各コンポーネントにおける設定情報の種類を指定します。</p> <p>db : データベース reg : レジストリ file : 設定ファイル</p>

	(例 : ssc config-import pvm import.zip -o db file)
[b]	復元用のエクスポートファイルを取得しません。 インポートの失敗時に設定ファイルの復元を行わないため、 推奨オプションではありません。

[注]

- 同じマシン環境におけるエクスポートファイルのインポートをサポートしております。マシン環境が異なる場合 (インストール先ディレクトリや SQL Server のバージョンが異なる場合など) は、サポートしていません。
- 対象コンポーネントのサービスはすべて停止してください。
- クラスタ環境はサポートしていません。
- インポート処理に失敗した場合、あらかじめ取得していた復元用ファイルをインポートして、インポート前の状態に自動で戻します。
 - 復元用ファイルはエクスポートファイル名に「Backup_」を付加したファイル名になります。同じファイル名が存在する場合、復元用ファイルは上書きされます。
 - 復元用ファイルは、指定したエクスポートファイルと同じディレクトリに生成されます。
 - 再インポートを行っても元に戻らない場合は、復元用ファイル内のデータベース、レジストリ、および設定ファイルを手動でインポートしてください。
 - * 各設定情報における手動インポート(リストア)は「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「10. バックアップ・リストア」を参考にしてください。
 - * 本コマンドは 32bit アプリケーションです。レジストリの手動インポートは、C:\Windows\SysWOW64 配下のユーティリティを使用してください。
 - インポートに失敗した場合、インポート前に存在しなかった定義ファイルが残る場合があります。
- 本コマンドは、データベースに関する以下の制約があります。
 - リモート接続におけるデータベースのインポートはサポートしていません。
 - SQL Server 認証はサポートしていません (Windows 認証のみサポートします)。
 - SystemMonitor 性能監視と SystemProvisioning におけるインストール時のデータベース設定が異なる場合、SystemMonitor 性能監視データベースのインポートはサポートしていません。

[構文例]

```
>ssc config-import all import.zip
>ssc config-import pvm dpm import.zip
>ssc config-import all import.zip -b
>ssc config-import all import.zip -d c:\temp
```

```
>ssc config-import all import.zip -o db file
>ssc config-import all import.zip -o db file -d c:\temp
```

4.6 レポート出力

4.6.1 レポートファイルを生成

レポートファイルを生成します。

[構文]

```
ssc create report TargetPath [-definition ReportDefinitionFile] [-output ReportFile] [-start PerformanceStartTime] [-period PerformancePeriod] [-interval PerformanceInterval]
```

[引数/オプション]

<i>TargetPath</i> (必須)	対象グループ/テナント/カテゴリ/ホストのパスを指定します。
[-definition <i>ReportDefinitionFile</i>]	レポート定義ファイルの名前または ID を指定します。
[-output <i>ReportFile</i>]	出力先のレポートファイル名を指定します。
[-start <i>PerformanceStartTime</i>]	性能情報取得開始日時を指定します。 省略した場合は、現在の時刻から性能情報取得期間を引いた時刻となります。 入力形式： [yyyy/mm/dd] hh:mm[:ss]
[-period <i>PerformancePeriod</i>]	性能情報取得期間を指定します。 省略した場合は、性能情報取得開始日時から現在の時刻までとなります。 性能情報取得期間と性能情報取得開始日時のいずれも省略した場合は、7 日前から現在の時刻までとなります。 入力形式： d [d.]hh:mm[:ss]
[-interval <i>PerformanceInterval</i>]	性能情報取得間隔を指定します。 省略した場合は、15 分となります。 入力形式： d [d.]hh:mm[:ss]

[構文例]

```
>ssc create report category/vmsgroup
>ssc create report category/vmsgroup -period 10.00:00:00 -interval 00:30
>ssc create report category/vmsgroup -definition rd1.xml -start "2016/1/1 0 0:00" -interval 00:30
```

索引

A

add ipaddress.....	84
add lb.....	145
add license.....	21
add manager.....	29
add-relate object.....	199
add software.....	86
add storage.....	91
add vmserver.....	203
apikey create.....	190
apikey delete.....	191
apikey show.....	191
apikey update.....	191
assign diskvolume.....	107
assign machine.....	33

C

change-passwd.....	24,205
changehistory delete.....	284
changehistory set.....	284
changehistory show.....	283
clone machine.....	223
collect.....	30
config-export.....	285
config-import.....	286
create datastore.....	255
create diskvolume.....	100
create group.....	55
create host.....	76
create machine.....	208
create object.....	197
create report.....	288
create smartgroup.....	158
create template.....	228
create user.....	22
customproperty add.....	192
customproperty delete.....	193
customproperty show.....	195

D

datacenter add.....	203
datastorefile show.....	259
delete datastore.....	256
delete diskvolume.....	106
delete group.....	63
delete history.....	279
delete host.....	79
delete ipaddress.....	85
delete lb.....	145
delete license.....	21
delete machine.....	221
delete object.....	198
delete-relate object.....	200
delete smartgroup.....	165
delete software.....	90
delete storage.....	93
delete template.....	233
delete user.....	23
delete vmserver.....	204
dependency add.....	83
dependency create-setting.....	81
dependency delete.....	83
dependency delete-setting.....	81
dependency show.....	84
dependency show-setting.....	82
dependency update-setting.....	81
deploy software.....	87
dpm-location notify.....	76
dpminformation delete.....	282

E

encrypt-string.....	282
evacuate host.....	226
evacuate machine.....	206
export policy.....	273
export smartgroup.....	166
export template.....	234
export vm.....	227

F

firewallprofile add.....	132
firewallprofile create.....	131
firewallprofile delete.....	132
firewallprofile show.....	132

G

group delete-network.....	144
group set-network.....	143

H

hostprofile create.....	175
-------------------------	-----

I

image add.....	235
image delete.....	236
image show.....	237
image update.....	236
import policy.....	274
import smartgroup.....	167
import template.....	234
import vm.....	228
indication register.....	196
indication unregister.....	196
iso mount.....	242
iso show.....	241
iso unmount.....	242

L

lbgroup create.....	146
lbgroup delete.....	148
logicalmachine assign.....	149
logicalmachine create-account.....	153
logicalmachine create-profile.....	156
logicalmachine delete-account.....	154
logicalmachine delete-profile.....	157
logicalmachine release.....	149
logicalmachine show.....	150
logicalmachine show-account.....	155
logicalmachine update-account.....	154
logicalmachine update-profile.....	157

M

machine-account create.....	51
machine-account delete.....	53
machine-account show.....	53
machine-account update.....	52
machine backup.....	46
machine chcfg.....	49
machine restore.....	46
maintenance cmdb.....	275
maintenance machine.....	48
migrate machine.....	224
monitoringprofile create.....	168
monitoringprofile delete.....	171
monitoringprofile export.....	189
monitoringprofile import.....	189
monitoringprofile set.....	174
monitoringprofile show.....	171
monitoringprofile update.....	169
mount datastore.....	259
move machine.....	225

N

network add-addresspool.....	137
network add-firewallsetting.....	138
network add-router.....	140
network add-router-if.....	141
network add-router-rt.....	142
network add-virtualbridge.....	139
network add-vlan.....	135
network apply.....	134
network create.....	133
network delete.....	134
network delete-addresspool.....	138
network delete-firewallsetting.....	139
network delete-router.....	141
network delete-router-if.....	142
network delete-router-rt.....	143
network delete-virtualbridge.....	140
network delete-vlan.....	136
network show.....	135

P	
portgroup create.....	123
power-control machine.....	44
profile create.....	179
profile show.....	184
R	
rdmstorage show.....	120
rdmstorage update.....	119
reconfigure machine.....	240
recover machine.....	206
register hardware.....	47
register machine.....	32
release diskvolume.....	109
release hba.....	99
release machine.....	35
replace machine.....	74
resourcepool create.....	260
resourcepool delete.....	263
resourcepool set-monitor-setting.....	263
resourcepool show.....	261
resourcepool show-monitor-setting.....	265
S	
scalein.....	75
scaleout.....	75
scan datastore.....	257
search machine.....	50
set datastore-setting.....	258
set hba.....	99
set hostprofile.....	70
set-machine-status.....	279
set-object-status.....	281
set profile.....	65
show datastore.....	251
show diskarray.....	98
show diskarraypath.....	94
show diskvolume.....	110
show group.....	64
show host.....	80
show lb.....	146
show license.....	22
show log.....	272
show machine.....	38
show object.....	198
show osservice.....	269
show smartgroup.....	165
show software.....	91
show storagetopology.....	120
show user.....	23
show vlan.....	123
snapshot create.....	237
snapshot delete.....	239
snapshot revert.....	239
snapshot show.....	240
snapshot update.....	238
startup-collect-mode.....	28
sync ldapuser.....	25
T	
template update.....	231
U	
unregister machine.....	33
update datastore.....	257
update diskarray.....	94
update diskvolume.....	104
update environment.....	26
update group.....	58
update host.....	78
update machine.....	42
update object.....	197
update osservice.....	270
update storagepool.....	113
update vmproperty.....	215
update vmserver.....	204
V	
virtualnetwork delete.....	145
vlan create.....	122
vlan delete.....	123
vm create.....	211
vmop add-member.....	249

vmop apply-position.....	268
vmop apply-rule.....	246
vmop create-group.....	248
vmop delete-group.....	249
vmop delete-position.....	267
vmop delete-rule.....	244
vmop disable-rule.....	245
vmop enable-rule.....	245
vmop remove-member.....	250
vmop set-position.....	266
vmop set-rule.....	243
vmop show-group.....	250
vmop show-position.....	267
vmop show-rule.....	246
vmop verify-rule.....	248
vtn show.....	131
vxlan show.....	131

SigmaSystemCenter 3.5
コマンドリファレンス

SSC0305-doc-0012-2

2016 年 12 月 2 版 発行

日本電気株式会社

©NEC Corporation 2003-2016